

土 木 研 究 所 報 告

第 111 号

アーチダム余水吐設計に関する実験的研究

——湯田ダム模型水理実験について——

..... 村 幸雄, 永田二生, 藤崎利雄, 山本民堂...(1)

アロファン質粘土の消石灰—石膏による化学的安定処理方法に関する研究(3)

..... 有泉 昌, 和田茂治...(95)

アロファン質粘土の消石灰—石膏による化学的安定処理方法に関する研究(4)

..... 有泉 昌...(105)

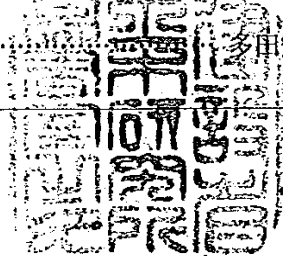
有限振幅波について

——高次級数解による進行波の碎波限界——..... 首藤伸夫...(111)

プレストレスト合成ゲタの研究とその設計(3)

——大石橋の模型実験と設計に関する報告アプレストレスト部分合成連続ゲタ橋——

..... 多田安夫, 中村正平, 青木忠宗...(121)



昭和 37 年 9 月

建 設 省 土 木 研 究 所

アーチダム余水吐設計に関する実験的研究

—— 湯田ダム模型水理実験について ——

村 幸 雄*・永 田 二 生**
藤 崎 利 雄***・山 本 民 堂****

(昭和 36 年 3 月)

要 旨

アーチダム余水吐設計において、理論計算および経験によつて選んだ種々の形状について、大型模型で比較検討をおこない、最終案形状を決定し、ダム維持管理に必要な各種水理資料を得た。

目	次
1. 緒 言.....(1)	6. 最終案形状の選定.....(19)
〔1〕 概 要.....(1)	〔1〕 越流部形状.....(19)
〔2〕 余水吐について.....(1)	〔2〕 フリップバケット形状.....(19)
2. 実験目的.....(3)	〔3〕 水叩形状.....(19)
〔1〕 越流部.....(3)	〔4〕 放水管形状.....(20)
〔2〕 放水管.....(3)	7. 最終案による実験結果.....(21)
〔3〕 水叩部.....(3)	〔1〕 越流部2型の水位—流量曲線.....(21)
3. 実験計画.....(4)	〔2〕 越流部とフリップバケットの
4. 模型および相似律.....(4)	圧力分布および水面形状.....(23)
〔1〕 模 型.....(4)	〔3〕 水叩内の圧力分布と側壁面
〔2〕 相 似 律.....(4)	沿いの水面形.....(23)
5. 実験結果.....(4)	〔4〕 放 水 管.....(25)
〔1〕 越流部1型実験.....(4)	〔5〕 放水管導水樋の形状.....(30)
〔2〕 フリップバケットについての実験.....(5)	〔6〕 移動床による洗掘実験結果.....(30)
〔3〕 水叩実験.....(10)	8. 越流部門扉操作別放射水脈落下
〔4〕 放 水 管(形状選定と1型実験).....(14)	位置について.....(30)
〔5〕 放水管々内圧力計算.....(18)	9. 余水吐門扉操作について.....(31)
〔6〕 1型放水管実験.....(18)	10. 結 論.....(31)

1. 緒 言

〔1〕 概 要

北上川流域の総合開発計画は、岩手、宮城両県に跨り、種々の事業目標を有しているが、治水および利水を目的とする多目的ダム群の建設は、洪水調節を計り、その貯水を、水力発電、灌漑等に利用するもので、湯田ダムはその計画の一環として、図-1に示めすように北上川右支川、和賀川に計画されたものである。

和賀川は岩手県、奥羽山脈と賀岳より発し、大小多数の支川を合せ、37km南下し川尻町地先から東に転じ、北上市内において、北上川本川に合流する流域面積852km²の北上川有数の大支川である。

湯田ダム建設地点は、岩手県和賀郡湯田村大荒沢地内

* ダム部長 ** ダム部ダム水理研究室長

*** ダム水理研究室研究員 **** 東北地建湯田ダム工事事務所

に位し、ダムの高さ87.5mで、総貯水量114,000,000m³の貯水池を建設し、和賀川流域の70%を占める集水域からの洪水を貯留し、計画洪水流量2,200m³/secを1,800m³/sec調節して、400m³/secを下流に流して、本川に合流前の計画洪水流量3,000m³/secを1,500m³/secにする計画である。

ダムサイトは兩岸屹立し、花崗岩より形成されたV字形の峡谷をなし、当初重力式コンクリートダムとして計画されたが、種々検討の結果、図-2のようなアーチ作用を含む、アーチ重力式コンクリートダムに決定し、その諸元ならびに造成される貯水池に関する資料は、表-1に示すとおりである。

〔2〕 余水吐について

余水吐は計画洪水流量2,200m³/secの20%増である2,640m³/secの処理を行なうものとして、流量配分を放水管で600m³/sec、越流部で2,040m³/secとし、洪水は

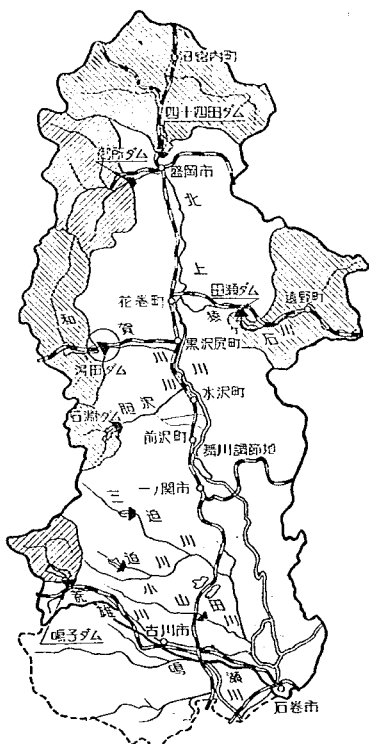


図-1 北上川総合開発計画図

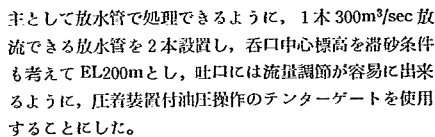


図-2 (1) 湯田ダム付近平面図

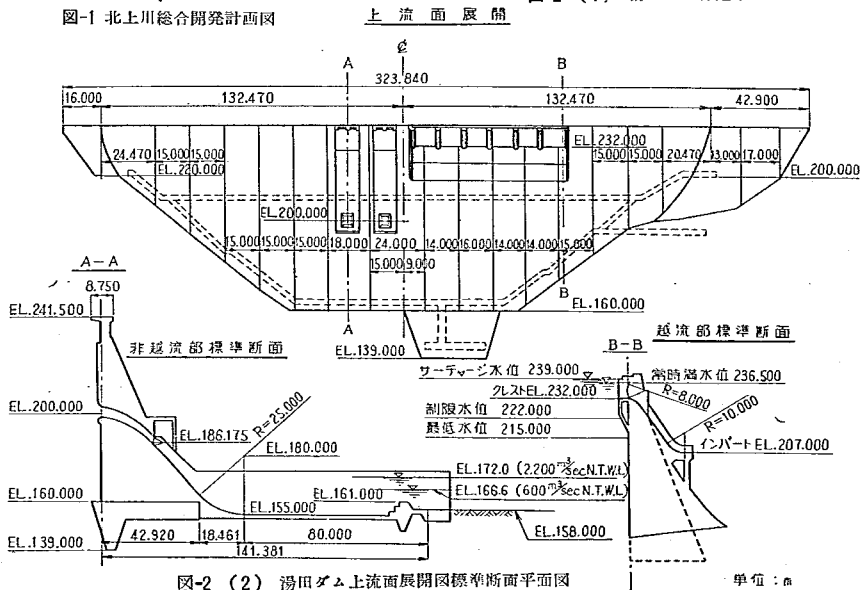


図-2 (2) 湯田ダム上流面展開図標準断面平面図

表-1 ダムおよび貯水池諸元

河 川 名		北上川右支川和賀川		位 置		岩手県和賀郡陽田村	
貯 水		池 概 要		ダ ム 概 要			
流 域 面 積		598 km ²		型 式		アーチ重力式コンクリートダム	
湛 水 面 積		6.3km ²		堤 頂 標 高		241.5m	
湛 水 延 長		13.0km		堤 頂 高		87.5m	
常時満水位標高		236.5m		堤 頂 巾		4.5m (基準断面1.0m)	
洪水時満水位標高		239.0m		堤 頂 長		265.0m	
制限水位標高		222.0m		半径および中心角		R=138m θ=110°	
低 水 位 標 高		215.0m		クラウン上流勾配		0%	
洪水調節水深		17.0m		クラウン下流勾配		40%	
発電利用水深		21.5m		堤 底 巾		35.4m	
総貯水容量		114,160,000 m ³		堤 体 積		410,000m ³	
有効貯水容量		93,710,000 m ³		地 質		花 崗 岩	
堆砂および死水容量		20,450,000 m ³					
洪水調節容量		77,810,000 m ³		余 水 吐 概 要			
(内サーチャージ)		(15,150,000 m ³)		放水 管	流 寸	量	600m ³ /sec
利 水 容 量		78,560,000 m ³			門	法 扉	呑口3.4×3.85吐口4.6×2.46 テンターゲート2門
発 電 概 要				越流部	流 寸	量	2,040m ³ /sec
総 落 差		112.2 m			門	法 扉	9.0×7.0m テンターゲート6門
最大使用水量		60.0 m ³ /sec		灌 漑 概 要			
常時使用水量		14.83m ³ /sec		計 画 最 大 水 量		8m ³ /sec	
最大出力(内新規分)		53,100kw(37,600kw)		年間計画給水量		43,800m ³	
常 時 出 力		10,300kw		平 均 水 量		4.48m ³ /sec	
年間発生電力量(内新規)		227,400MWH(131,000MWH)					
水 理				資 料			
計画洪水流量		2,200m ³ /sec		異常洪水流量		2,640m ³ /sec	
計画放流量		400m ³ /sec				600m ³ /sec	
調節流量		1,800m ³ /sec				2,040m ³ /sec	

2. 実験目的

〔1〕越流部

越流部余水吐は、洪水を放水管だけで処理しきれないときに使用するもので、越流水深7.0m、有効越流巾54m(1門9m×6門)で、2,040m³/sec(1門当り340m³/sec×6門)放流出来るものとし、各門にはテンターゲートを設置し、流量調節ができるように計画し、越流水は堤体斜面に沿わせて流下させ、フリップバケットによって空中放射をおこない、水叩内に落下させ水じよく作用によりエネルギーの減勢をする計画である。

i 越流係数の測定(水位一流量曲線の作図)

ii フリップバケット形状寸法の決定(放射水脈を水叩内に収容すること)

〔2〕放水管

本ダムのように重力式アーチダムにおいて、放水管放流水を空中放出することは、あまり得策とは考えられないので、放水管に曲管部を設け、放流水を堤体下流面に

沿わせ、水叩に導入するように計画した。

放水管入口中心標高を200m 吐口中心標高を187mとし、全管長を曲管としたため、空洞現象の発生について、最も注意を要するものと考えられる。さらに、管途中から吐口にかけて平面的に抜出し、吐口と水叩始端の堤体斜面を利用して、放流水を薄く拡げて流下させ、水叩部での跳水を促進するように計画した。

以上のような方針で設計を進めていくのに、水理実験により検討を要する事項は次のようなものである。

i 放水管の合理的形状の決定

ii 流量係数の測定(水位一流量曲線の作図)

iii 放水管導水樋形状の決定

〔3〕水叩部

放水管流量600m³/sec流下時に、自然下流水位で、水叩内において跳水を起し、常流になってから流下するように、また下流水位が将来2m程度低下しても、水叩内で跳水を完了するように計画する。さらに跳水の安定を計るとともに、フリップバケットからの放射水の影響も

考え、水叩端末部にシルを設けるが、これで副ダムの役目を兼ねさせ、放水管流量は完全跳水し、フリップバケット放射水に対しては、充分な水じょく水深を得ることのできるような、形状、高さ、位置を決定する。

i 端末シルの位置および高さ等形状寸法の決定

ii 副ダムの必要性の検討

以上のほかに、ダム設計に必要な細部形状寸法、維持管理に必要な各種水理資料の測定をする。

3. 実験計画

(1) フリップバケット形状の大略形状を知るために、縮尺1/80 模型と比較検討する。

(2) 放水管の試験は、縮尺1/30抽出模型と比較検討する。

(3) (1),(2)の結果により、最終案候補を選び、縮尺1/40全体模型を製作し、最終案を決定する。

(4) 最終案模型により、ダム維持管理用の各種水理資料を測定する。

4. 模型および相似律

〔1〕 模型

模型は、当所篠崎分室ダム水理研究室第1実験場* に製作した。

i 縮尺1/80 模型は、ダムサイト下流約500mまでの地形を模型化し、模型の周辺および上流水槽、下流導水路などは、コンクリートブロック (20×20×40cm) 積みで、ダム模型は木材を使用し表面はモルタル仕上げとした。また橋脚、越流部、水叩および導流壁などは、木材を使用し、ビニール塗料を塗装し、河床はモルタル刷毛引き仕上げとした。

ii 縮尺1/30 抽出模型は、市1.0m×奥行3.6m×高4.0mの鋼製実験装置を使用し、放水管模型は、木製と金属製の2種類を製作し、管内周辺圧力は、測定孔φ1.5mmの圧力測定パイプを使用し、ビニール管で目盛付硝子管に導き測定した。

iii 縮尺1/40模型は、第1実験場に製作し、その配置は、図-3に示す。全体模型のダム上流部の河形を地形図により判断すると、放水管の流量係数に若干の影響があるほか無視できると考えられるので省略し、堤体は木骨板張りラス網を張り、モルタル塗りとし、砥石で磨いて仕上げた。越流部およびフリップバケット、放水管、水叩等主要部分は、改造の便を考へて木製とし、ビニール塗料を塗装し、吸湿乾燥による変形を防ぎ、水叩の両側壁は硝子板をはめ込み、水叩内の流況観察を容易にするように製作した。

水叩より下流の河床は、水叩終端より下流約300mをモルタル刷毛引き仕上げで模型化した。量水装置は1号量水槽 (巾2.5m鋭縁矩形びき) を使用し、流速はピトー管、回転式流速計を使用し、圧力分布の測定は、測定孔φ1.5mmの圧力測定パイプよりビニール管で目盛付硝子管に導き測定した。

以上各模型共、流量は鋭縁矩形びきの越流水深を測定し、沖公式**により算出した。

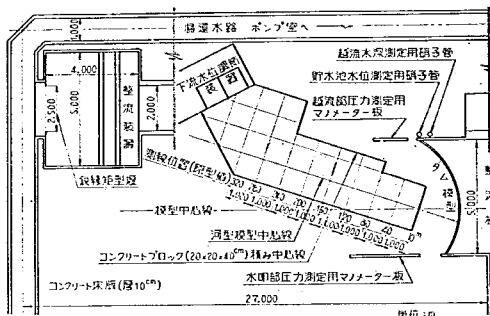


図-3 全体模型配置図

〔2〕 相似律

模型は幾何学的に相似に製作されているから、実験値から実物値を知るには、フルードの相似律にしたがうのが妥当であるので、幾何縮率1/80 1/30 1/40に対する諸量の換算縮率は、表-2のとおりである。

表-2 模型値と原型値の換算率

基本諸量	次元	縮率	1/80模型	1/30模型	1/40模型
長さ又は水深	L	1/n	1/80	1/30	1/40
面積	L ²	1/n ²	1/6,400	1/900	1/1,600
体積	L ³	1/n ³	1/512,000	1/27,000	1/64,000
時間	T	1/n ^{1/2}	1/8,944	1/5,477	1/6,325
流速	LT ⁻¹	1/n ^{1/2}	1/8,944	1/5,477	1/6,325
流量	L ³ T ⁻¹	1/n ^{5/2}	1/57,243.3	1/4,929.5	1/10,119.3
水頭換算 圧力強度 (m)	ML ⁻¹ T ⁻²	1/n	1/80	1/30	1/40
越流係数	L ^{1/2} T ⁻¹	1	1	1	1

5. 実験結果

〔1〕 越流部1型実験

越流部1型形状は、設計水頭7.0mのランドルフ曲線***を採用し、その断面形は、図-4に平面形は図-5に示す。有効越流巾は、51mで越流水深7.0mにおいて2,040m³/secを越流させる計画で、流量調節用にテナ

* 建設省土木研究所大型水理試験施設について 土木研究所報告89号

** 土木学会水理公式第8頁

*** 村 荒木 ダム溢流部形状に関する実験的研究 土木研究所報告93号

Richard R. Randolph; Hydraulic Tests on the Spillway of the Madden Dam, Trans. A.S.C.E., Vol. 103, 1938

ゲートを設置した。図-4によると門扉当り部分が越流頂より相当下流にあるが、これは門扉操作時に堤体面に発生する負圧および水脈分離現象を防止する効果をねらったものである。

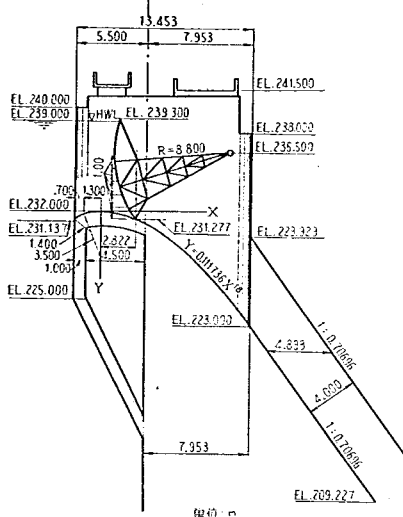


図-4 1型越流部断面図

実験の結果、貯水位と流量の関係は、図-6 表-3に示めすとおり計画越流量 $2,040 \text{ m}^3/\text{sec}$ を越流させることが可能である。

水位—流量の関係から、式-1によって越流係数 C を算出し、これを最少自乗法により、 C と H の関係を求め式-2を得た。越流係数 C および越流水深 H との関係は、図-7に示めす。

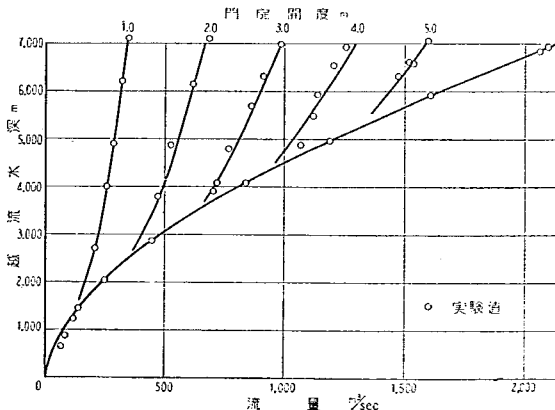


図-6 1型越流部水位—流量曲線

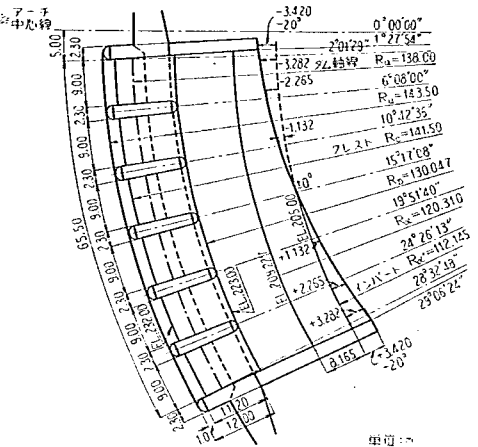


図-5 1型越流部平面図

$$Q = CBH^{3/2} \text{ より } C = \frac{Q}{BH^{3/2}} \dots\dots\dots (1)$$

$$C = 0.10912H + 1.41011 \dots\dots\dots (2)$$

式中 Q = 越流量 m^3/sec

B = 越流巾 m

H = 越流水深 m

C = 越流係数

越流部堤体面の圧力分布は、越流径間の中心線において、測定した結果、自由越流時は、図-8に、開扉操作時は、図-9に実験値を表-4に示めす。

この結果、開扉操作時に心配された負圧の発生は見受けられなかった。

[2] フリップバケットについての実験

i フリップバケット形状の選定

フリップバケット形状は、越流水が水叩内にうまく入るかどうかを支配する重要な要素となるが、その点を検討するために、縮尺1/80模型において、4種類のフリップバケットについて、流量500, 1,000, 1,500, 2,040 m^3/sec の4種について実験をおこなった。

以上の実験結果のうち、流量1,500 m^3/sec 越流時の水脈落下位置を、図-10に示めす。

a 1型フリップバケット 図-11

バケットインバートの左岸側標高218.773m, 右岸側標高195.0mとし、リップ角度を、0°, 15°, 30°とした。この場合放射水の水平偏向が大きく、

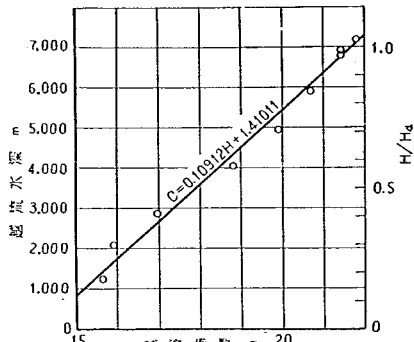


図-7 1型越流部水位—越流係数図

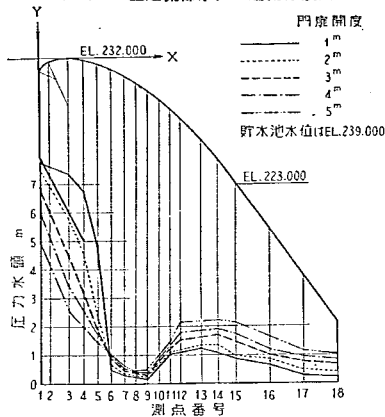


図-9 1型越流部 門扉操作時圧力分布

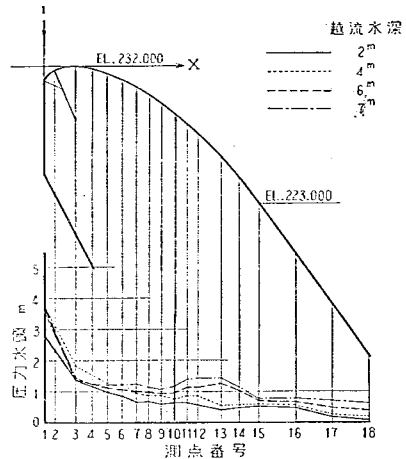


図-8 1型越流部 自由越流時圧力分布

水叩内に収容することが不可能であることが判明した。その原因はバケットの傾斜が過大なためと考えられる。

b 2型フリップバケット 図-12

バケットインバートを標高205.0mで水平とし、リップ角度を、0° 5° 30°とした。この場合水叩内流況は、非対称となり、相当に乱れ、水叩左岸導流壁に落下水脈が衝突し、激しい水面隆起が目立っている。

c 3型フリップバケット 図-13

バケットインバートを標高205.0mで水平とし、左岸側リップ角を-20°、右岸側リップ角を30°に変化させた形状で実験した結果、放射水を水叩内に収容すること

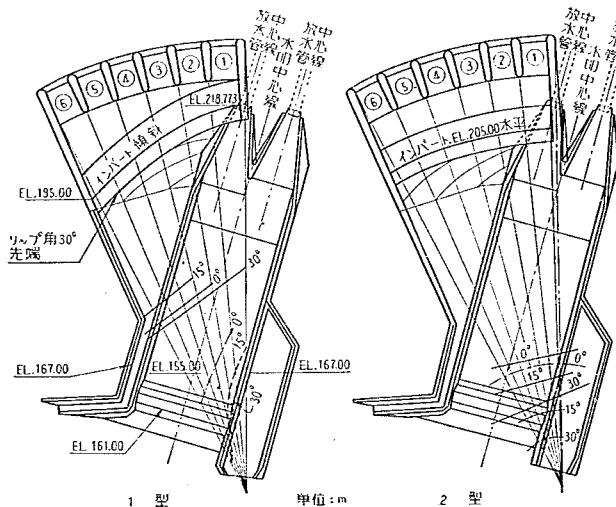


図-10 (1) フリップバケット形状別放射水落下位置比較図

が出来たが、水叩内流況はあまり良好ではないので、リップ角または、インバート標高を変えて改良する必要がある。

d 4型フリップバケット 図-14

バケットを6段階にし、各段のバケットインバートを水平とし、左岸側最上段のインバート標高を218.0mとし、以下3.0m 差の階段で右岸側最下段のインバート標高を203.0mとした。この場合も放射水が水叩内に収容

可能であるが、流況は3型と同程度であり、リップ角度またはインバート標高を改造する必要がある。

以上の実験結果より、3型または4型を基本型とした改良型を採用するのが望ましく、3型では放射水脈が水平偏向することはないが、4型の階段式においては、上段のバケットから下段に移行する傾向にあり、水脈の偏向により、バケット側面に負圧が生じるのでわなないかと思われる。

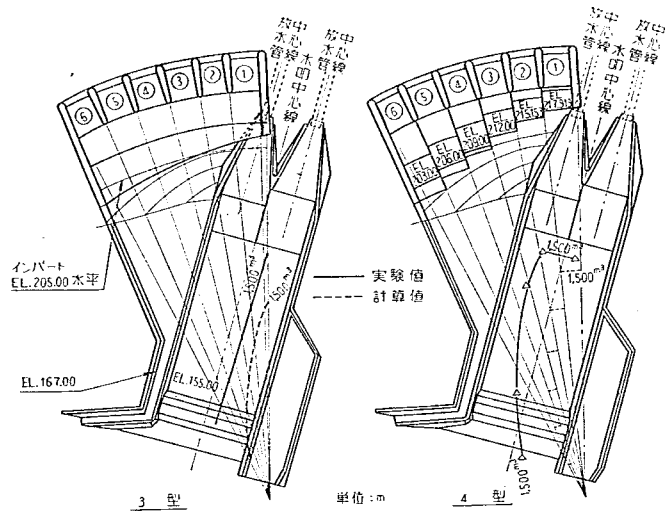


図-10 (2)

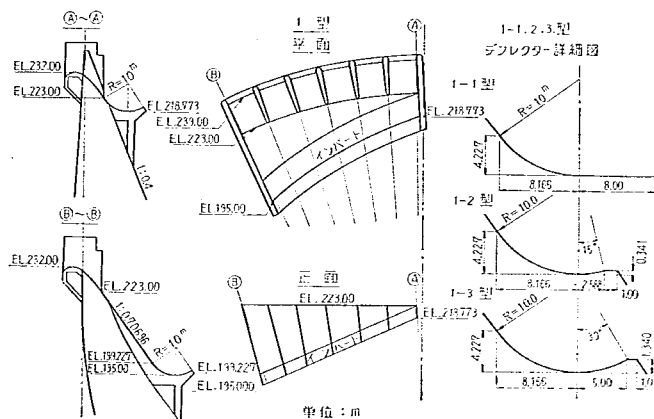
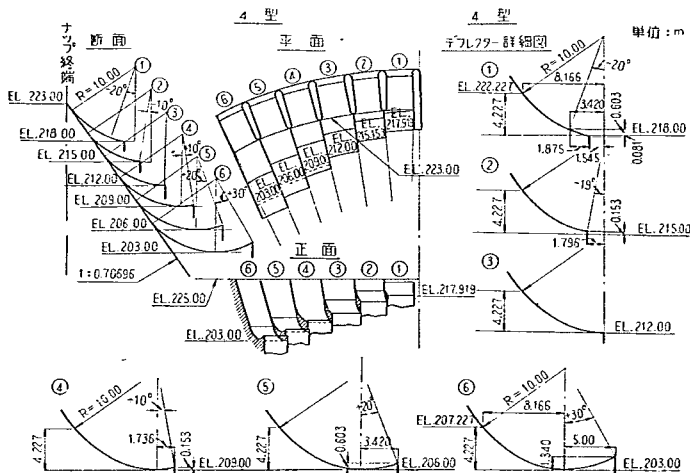
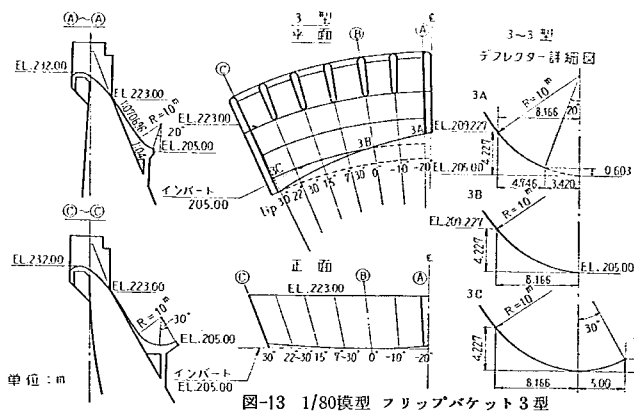
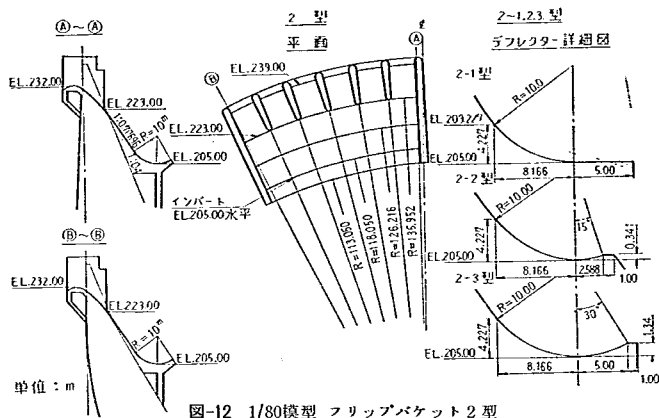


図-11 1/80模型 フリップバケット1型



以上の結果に基づき、種々検討の結果3型を採用することに決定したが、判定基準として、次の事項を考慮した。

- a 水叩中心線方向に対し、越流部が、図-2 に示められるような関係にあるので、放射水脈は水叩へ斜め方向より飛込むことになるので、水叩内流況は、左右非対称となることはまぬかれないが、出来るだけ対称にする。
- b 越流部門扉操作をどのようにおこなつても、放射水が直接山腹に当たらないようにする。
- c 副ダムは設置しない予定なので、これにかわる端末シルを設置し、ダム自然下流水位（図-20）が2m程度変動しても、水叩内流況に大きな変化を生じさせない

ような形状とする。

以上の事項を基にし、前記1/80模型において選定された3型フリップバケット型式を、全体模型1/40において1型とし、実験の結果、放射水脈は、水叩左岸側壁面に大きな動水圧を生じさせ、放射水脈の落下位置が不適当なので、リップ角を、図-15 に示めすように、左岸側を -20° 、右岸側を $+20^\circ$ に改造し、これを2型とした。

実験の結果、放射水脈の落下位置は、やや水叩中心部になったが、いぜんとして水叩左岸壁面に大きな動水圧が生じている。水叩内流況は1型に比較して相当改善された。

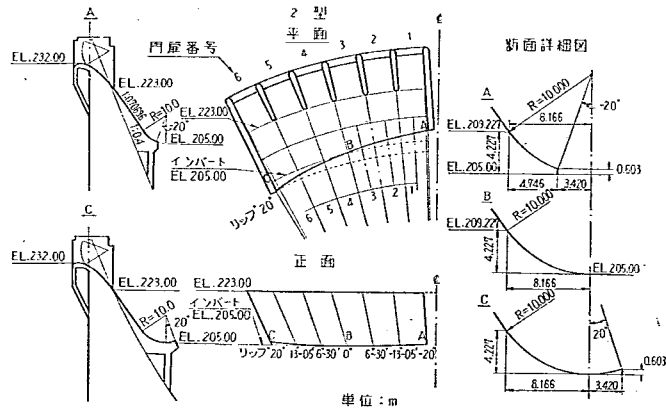


図-15 1/40全体模型 フリップバケット2型

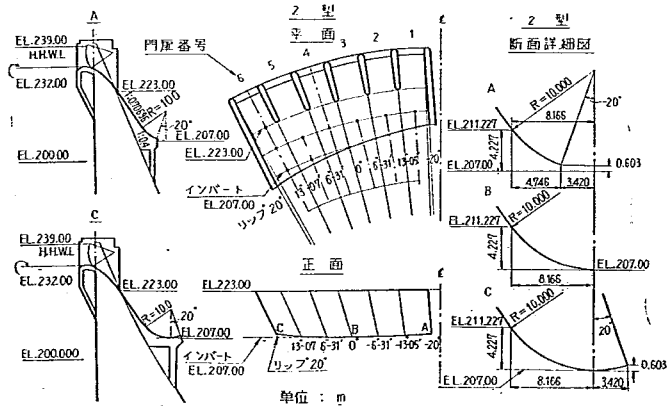


図-16 1/40全体模型 フリップバケット3型

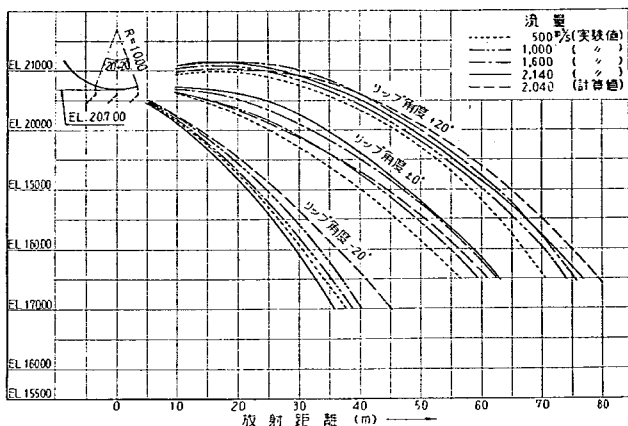


図-17 3型フリップバケット 放射水脈水面形

以上の結果、フリップバケットのインバート標高を、205.0m から 207.0m にし、3 型として形状は、図-16 に示めす。この場合の放射水脈落下位置は水叩中心部にあり、水叩左岸側壁面の動水圧と、水叩内流況は、2 型に比較して相当に改善された。

3 型フリップバケット放射水の形状は、図-17 に示めす。

〔3〕 水叩実験

水叩実験の優劣判定基準として、下記の事項を考慮した。

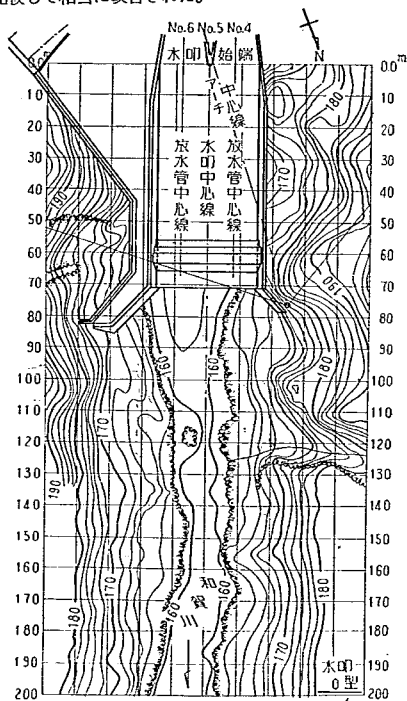


図-18 水叩および河床、流速、水面形測定位置図

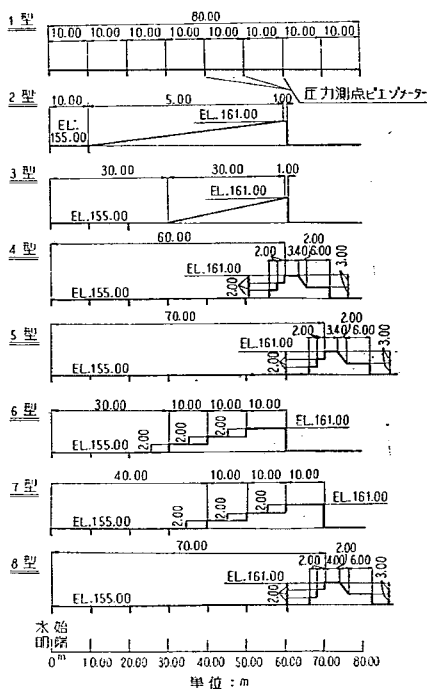


図-19 水叩比較縦断面図

i 放水管流量 $600\text{m}^3/\text{sec}$ は、自然下流水位において水叩内で跳水を起し、常流になってから流下するようにする。

ii 副ダムは設置しないで、これに代るシルを水端端末付近に設置し、下流水位が 2.0m 程度変動しても、水叩内で跳水を完了するように、その位置、高さ、形状等も考慮する。

水叩平面図は、図-18に、水叩比較案縦断面図を、図-19に示す。

i の目的を達するために、1型 2型 3型の跳水に必要な下流水位を測定し、その結果を、図-20に示す。このほか、4. 5. 6. 7 型は、模型の構造上、下流水位を下げる事が出来ないため、跳水々は測定出来なかった。

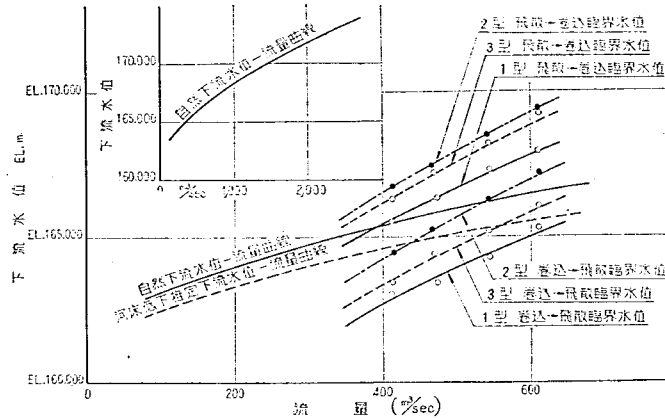


図-20 水叩別跳水々位と自然下流水位の関係

図-20 によると、1型以外は副ダム等の下流水位を維持する構造物を設置しない限り、飛散してしまうことを示めているが、一応水叩内と下流河床の流速分布および水面形状を、図-18に示す測線において、跳水臨界水位で測定した結果は、図-21に示めされ、水叩内において跳水を完了し、常流になって流下することが判った。

しかし、自然下流水位と跳水臨界水位との関係は、

図-20 のように、ダム下流河床が低下して自然下流水位が図中の破線以下に低下すると、2型 3型等の逆傾斜水叩に属するものは、跳水を起さずに飛散状態になると考えられる。またフリップバケット放射水のエネルギー減勢のために必要な水じく水深も浅くなるので、水叩内の圧力分布の状態は悪化する。

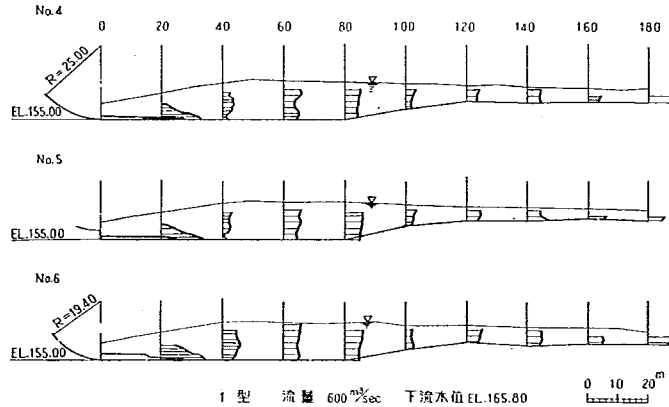
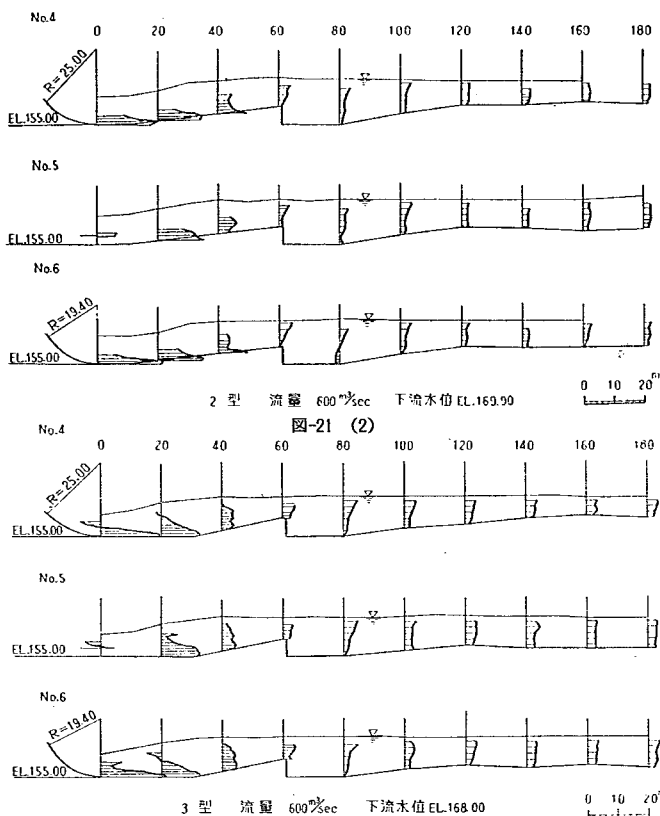


図-21 (1) 水叩流速分布図



以上より、1 型の水平水叩終端部に、副ダム兼用のシルを設けた 4 型について、水叩内と河床の流速分布、水面形状を測定した結果を、図-22 に示す。

このように端末シルを設けた場合、自然下流水位が、2 m 程度低下しても、水叩内の流況にいちじるしい影響がないことが、流況観察よりわかった。

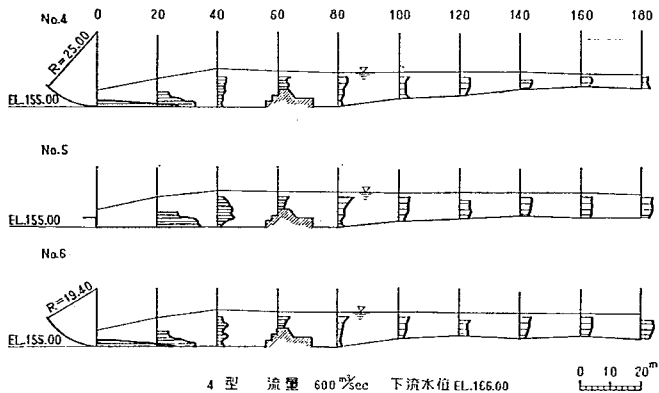


図-22 水叩流速分布図

また水叩の岩盤掘削の関係から提案された逆傾斜水叩の代案として、6型、7型の実験をした結果、自然下流水位に関しては、4型と同様であるが、フリップバケット放射水のエネルギー減勢のために必要な、水じょうく水深は浅く、水叩内の流況は悪化する。

5型は4型において、フリップバケットの放射水脈の一部がシルにかかるので、端末シルを下流へ10m移したもので、放水管だけ放流した場合は、4型と大差ないも

のと考えられるので、流速分布、水面形状は測定しなかった。

8型は、水叩左右岸側壁部の変更にによるもので、シルの位置と形状は5型と同じである。

水叩8型 フリップバケットは3型を採用した場合の、全門自由越流、門扉全門等高操作時の圧力分布を、図-23に、実験値を、表-5,6に示す。なお水叩内および河床の流速分布、水面形状、圧力分布測定点位置は、

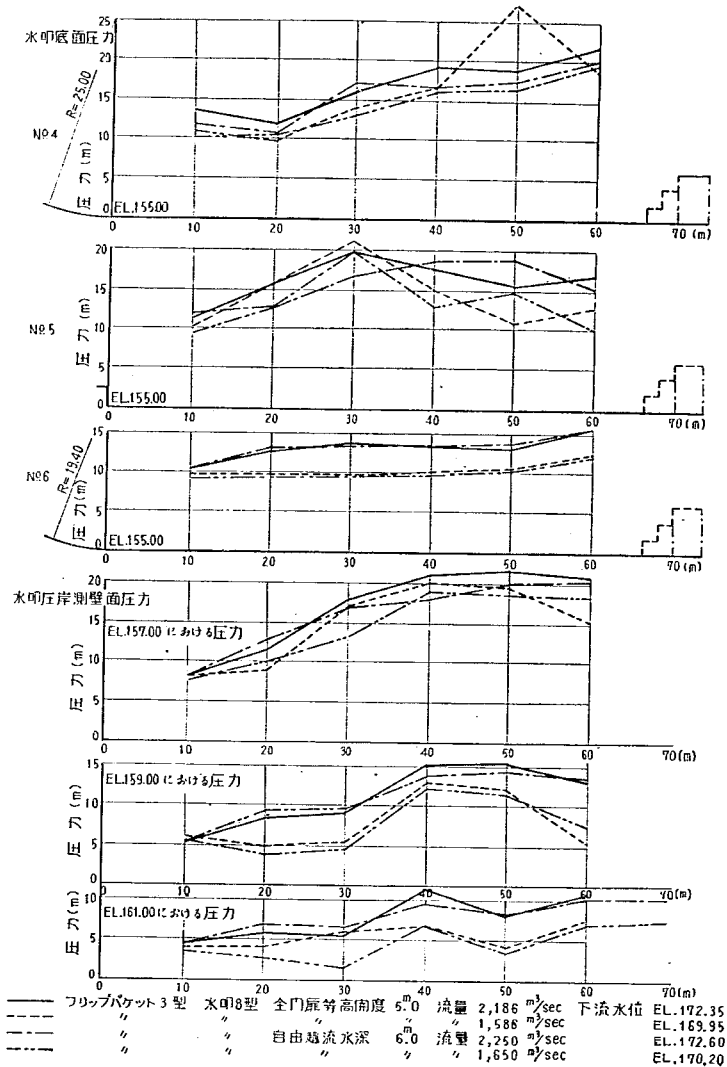


図-23 水叩 8 型 圧 力 分 布

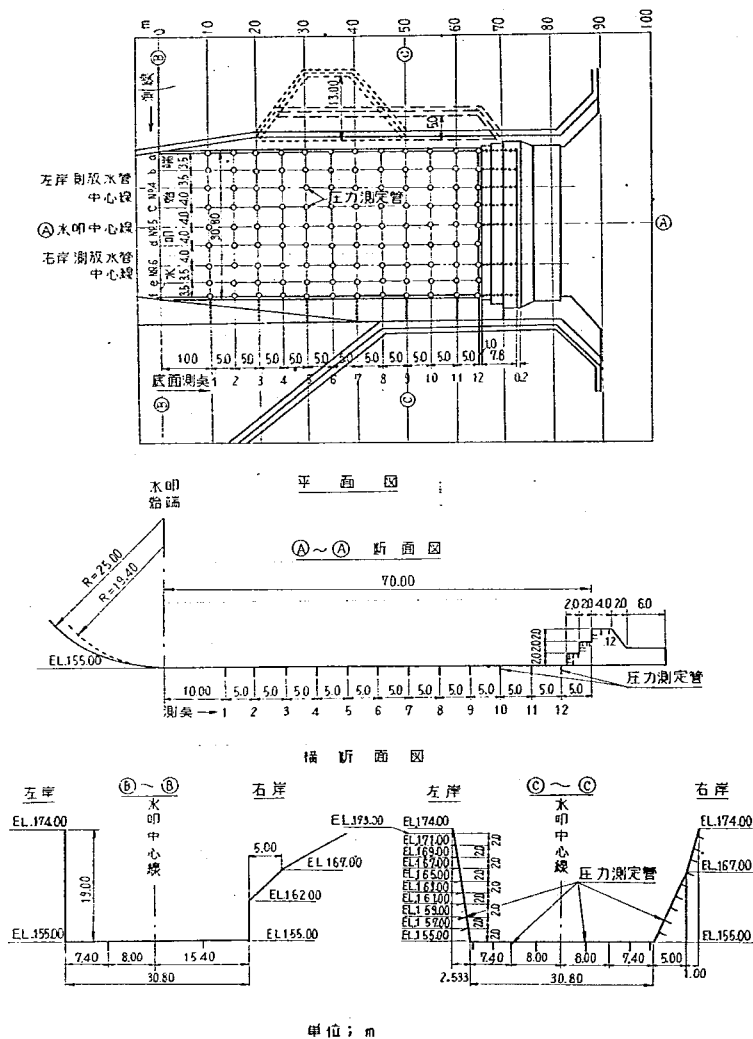


図-24 水門 8 型圧力測点位置図

図-24 に示す。

種々の流量を放流した場合の、流速分布および水面形状は、図-25 に示す。

〔4〕放水管 (形状選定と 1 型実験)

最大放流量 $600\text{m}^3/\text{sec}$ を 2 本の放水管で、処理するようにに計画する。

計画された放水管と堤体との関係は、図-26 に示めされるように、アーチ中心線に対し、放水管中心線は、 $17^\circ\sim 30^\circ$ で交っている。管入口中心標高を 200.0m に設け、ベル

マウスは 10° 傾けて設置し、管途中から吐口部において平面的に拡巾して、放流水を堤体下面に沿わせ、水脈を薄くして水門内の跳水が容易になるように計画した。

管吐口部には、流量調節用高圧テンターゲートを採用し、吐口中心標高は、 187.0m で、呑口部に予備門扉を装着する計画である。

放水管 1 型の形状は、図-27 に示めされるように、直管部はなく、全長曲管で構成され、断面の設計は、式-3 によって計算した。

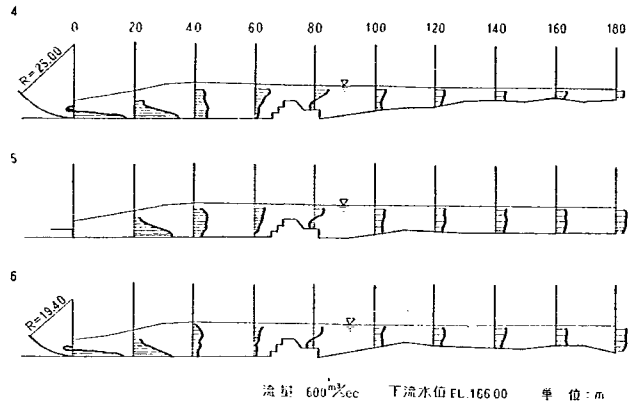


図-25 (1) 流速分布図

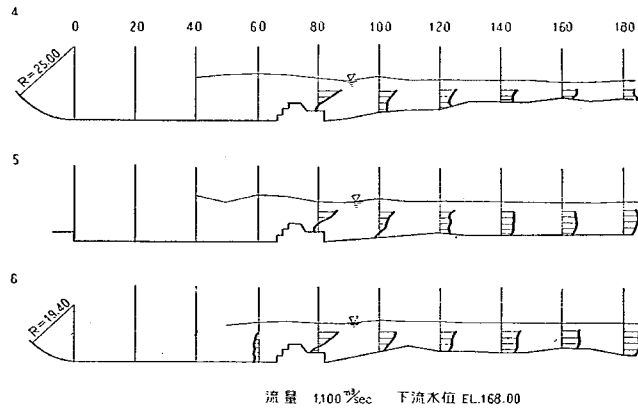


図-25 (2)

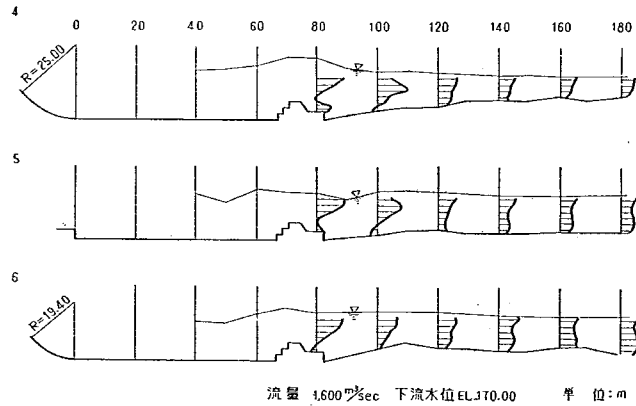


図-25 (3)

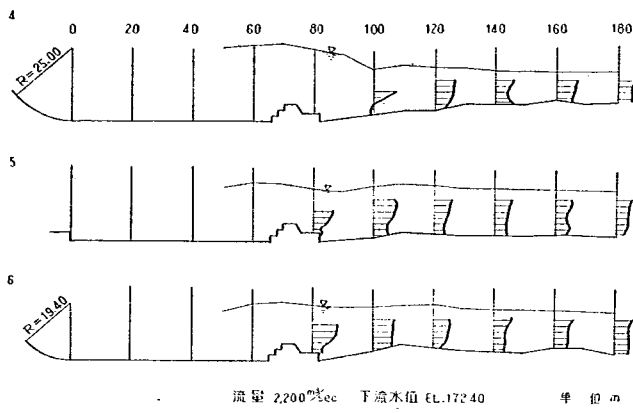


図-25 (4)

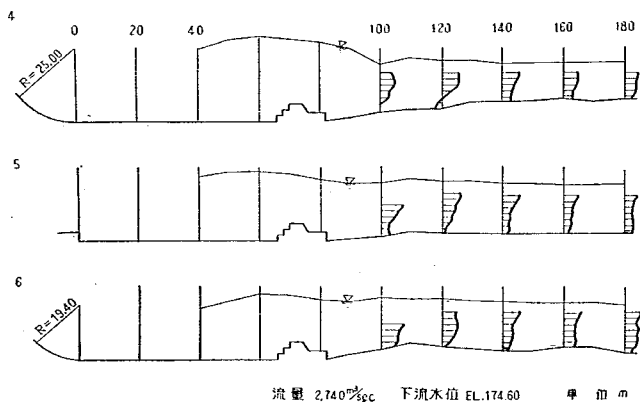


図-25 (5)

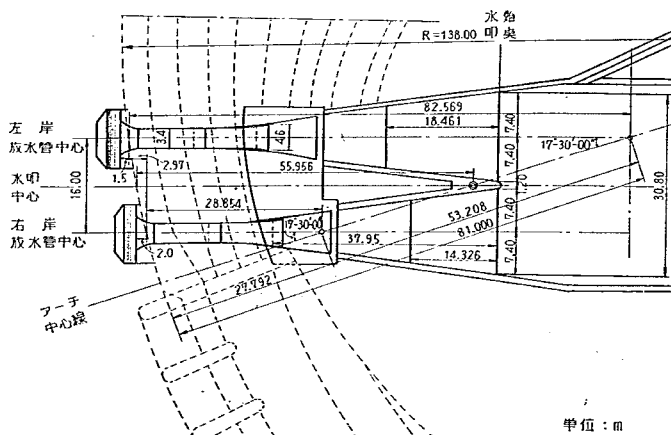


図-26 (1) 放水管配置図

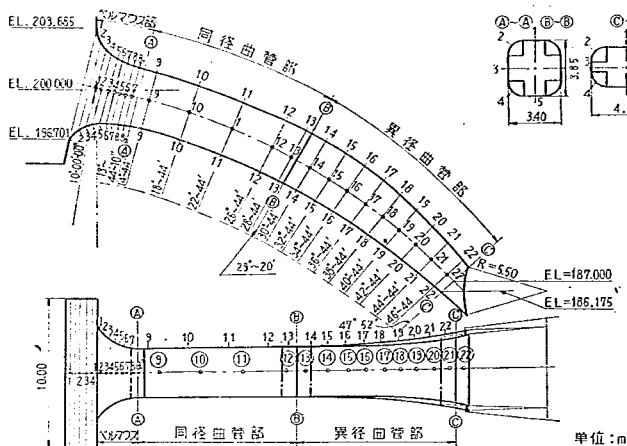


図-27 1 型放水管

圧力測定点は、図-27に示めすように、ベルマウス部は9断面に分割し、同径曲管部は、9～13に、異径曲管部は14～22とした。

〔5〕放水管々内圧力計算*

実験に先立ち、管内圧力分布を同径曲管部から、異径曲管部末端迄の上下面の圧力を、式-10により計算した結果を、図-28に、計算値を、表-7に示めす。

$$\eta = \left(\frac{A_n}{A_0} \right)^2 \cdot \left(f_c + \lambda \frac{L_0}{D} \right) + \frac{\lambda A_n^2}{8} \sum_{i=1}^n \frac{L_i}{R_{i-1} + K_i} \left(\frac{1}{A_{i-1}} + \frac{1}{A_i} \right)^2$$

$$h_c = H + Z_0 - \frac{V_n^2}{2g} \left\{ \left(\frac{A_n}{A_s} \right)^2 + \left(\frac{A_n}{A_0} \right)^2 \cdot \left(f_c + \lambda \frac{L_0}{D} \right) + \frac{\lambda A_n^2}{8} \sum_{i=1}^n \frac{L_i}{R_{i-1} + K_i} \left(\frac{1}{A_{i-1}} + \frac{1}{A_i} \right)^2 \right\}$$

$$P_s = H + Z_0 - Z_s - \frac{V_n^2}{2g} \left\{ \left(\frac{A_n}{A_s} \right)^2 + \left(\frac{A_n}{A_0} \right)^2 \cdot \left(f_c + \lambda \frac{L_0}{D} \right) + \frac{\lambda A_n^2}{8} \sum_{i=1}^n \frac{L_i}{R_{i-1} + K_i} \left(\frac{1}{A_{i-1}} + \frac{1}{A_i} \right)^2 \right\}$$

$$\mp b_s \cos \theta \pm F \cdot \frac{b_s Q^2}{g A_s^2 R_0}$$

$$F = \sqrt{\frac{\theta}{\theta_0} \left(2 - \frac{\theta}{\theta_0} \right)}$$

$$\lambda = 0.025$$

$$f = 0.05$$

〔6〕1型放水管実験

実験は、最初木製模型でこない、実験の結果により、最終的に検証するために、金属製模型を製作し、実験をおこなった結果を、水位・流量の関係については、図-29に、管内圧力分布状態を、図-28に、管内周辺圧

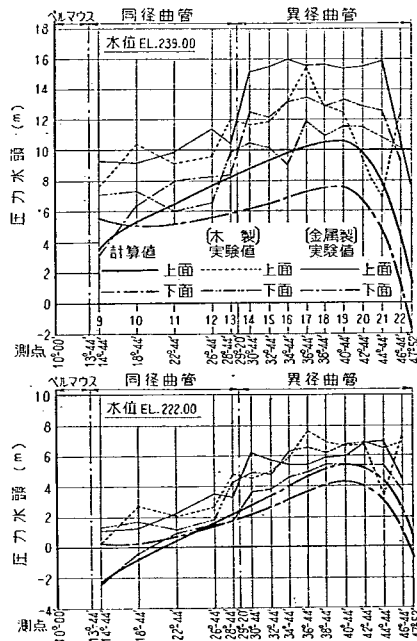


図-28 (1) 1 型放水管圧力分布図

力の実験値を、表-8に示めす。

この結果より、放水管1本の計画放流量、300m³/secの放流は可能である。また管内の圧力実験値によると、門扉を全開放流したときは、貯水池水位 239m (サーチャーシ水位) 222.0m (洪水期制限水位) の場合は、空洞現

* 村・荒木・飯田 堰堤放水管に関する研究(2) 土木研究所報告 第89号

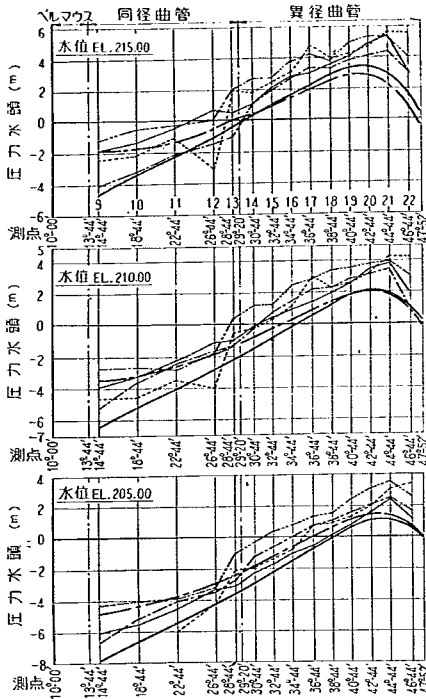


図-28 (2)

象に対する許容圧力水頭値(-3.0m)内である。しかし最低水位 215.0m において、木製模型は許容値内であるが、金属製模型の場合、ベルマウス部分において、許容値を越えている。また実際には操作しないはずであるが、貯水位が210.0mおよび205.0mのときはいずれも許容値を大巾に越えている。

また放水管放流水の跳水を容易にするために、側面を拭巾したことにより、管内圧力低下が心配されたが、実験の結果許容値内であった。

管吐口において、導流壁とのすりつけに円弧を挿入しているが、(図-50参照)放流水が円弧部分に、ぶっかり側壁面沿いに盛り上がりまたは飛散し、この状態は門扉支点付近までつづいているので、この部分の変更が必要である。

6. 最終案形状の選定

最終案実験にききだち、前述5の実験結果による形状を基本とし、越流部の平面半径変更および放水管ベルマウス、吐口等の変更により、最終案水理試験に採用された形状について説明する。

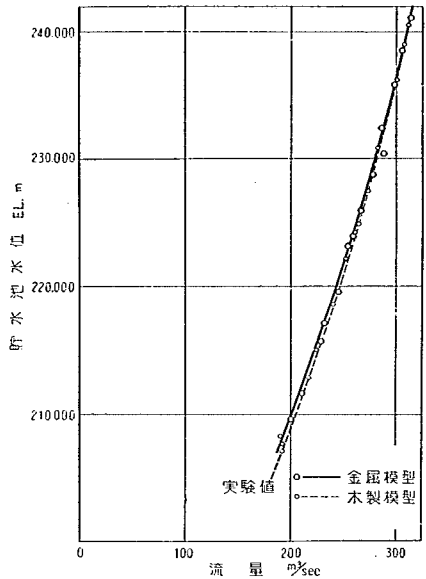


図-29 1型放水管水位—流量曲線

〔1〕越流部形状

1型形状 図-4.5において、構造および経済的見地から、越流頂における平面半径を、1.5m 短縮したほか、図-30のように変更し、門扉半径は、8.8mを8.0mに、橋脚下流端取付け部標高223.0mを224.0mとし、左右端の橋台部の流況の向上を計るために、60°の角度で堤体上流面に接続した。その他、径間1型と同様で、この形状を越流部2型とした。

〔2〕フリップバケット形状

3型を基にして、インバートにおける平面半径112.145mを113.428mに、バケット取付け部標高211.227mを212.297mとして、インバート標高とリップ角度は3型と同様である。このフリップバケットを4型として、図-31に示す。

〔3〕水叩形状

水叩は、8型を最終案として採用した。この場合放水管だけ放流するときには、水叩始点より下流30m付近で下流水位166.0mにおいて、跳水を起し常流となって流下するから、放水管だけの減勢を考えるならば、シルの位置、水叩の長さはその付近までよいが、越流部放射水脈は、水叩始点から65mの区間に落下するので、この区間内にシルを設けることは、水理的にも構造的にもあまり好ましくないもので、放射水脈の影響の少ないように、水叩始点より70mの位置にシルを設置した。

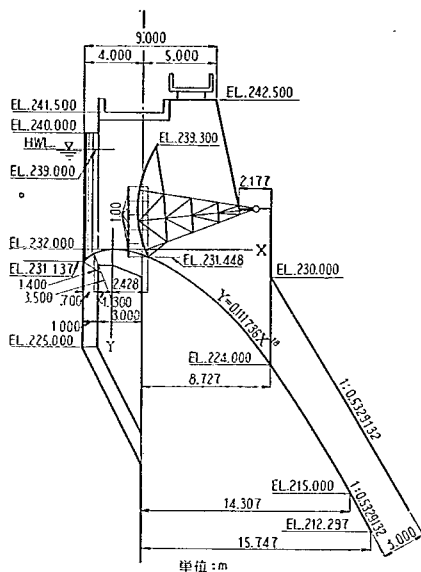


図-30 (1) 2型越流部断面図

〔4〕放水管形状

放水管形状について、最終的検討の結果、次のような問題が起った。

- i 呑口部に予備門扉を装着するさいに、下面が突出しているため、この曲線上で水密を保つことが非常に困難な状態にある。
- ii 予備門扉を操作する場合、呑口面が鉛直に対し若干の傾斜があった方が容易である。

以上のことを考慮して、呑口部の変更を行なうこと、また吐口部において、門扉操作機械の構造等の関係もあって、門扉半径5.50mを5.00mとし、ゲートピン取り付け部標高186.132mを185.800mとして、この形状を2型とし、図-32.33に示す。

ベルマウスの形状は、楕円曲線を用い、式-11.12.13に示めす式にしたがい、開取半径は、入口部で全断面積の0.2%とし、終端には半径1.0m(6.4%)の開取をして、途中の変化は直線変化とし、その断面形状は、図-34に示す。

同径曲管部始点は、鉛直に対し、 $13^{\circ}-44'-19''$ を $15^{\circ}-06'-29''$ とし、そのほかは1型と同様で、異径曲管部の断面形状と、吐口部の変更による形状ならびに門扉開度と標高の関係は、図-35に示す。

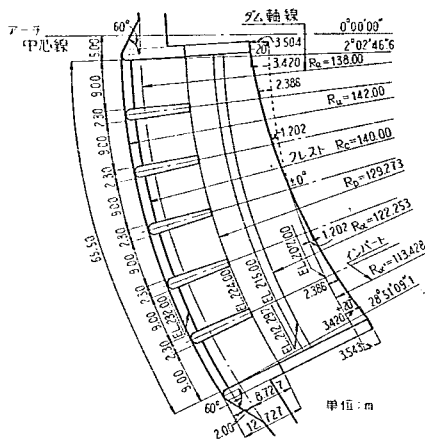


図-30 (2)

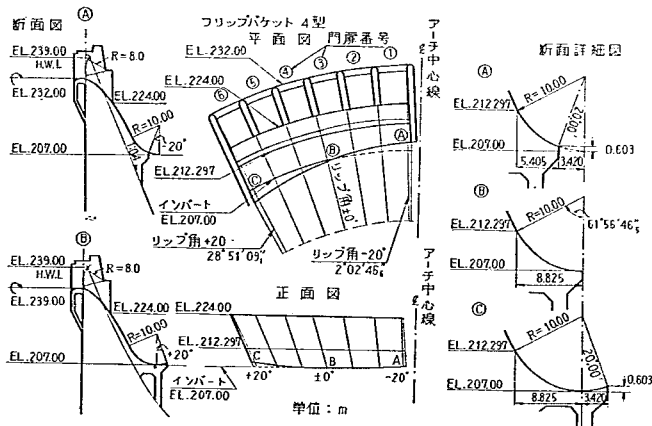


図-31 フリップバケット4型

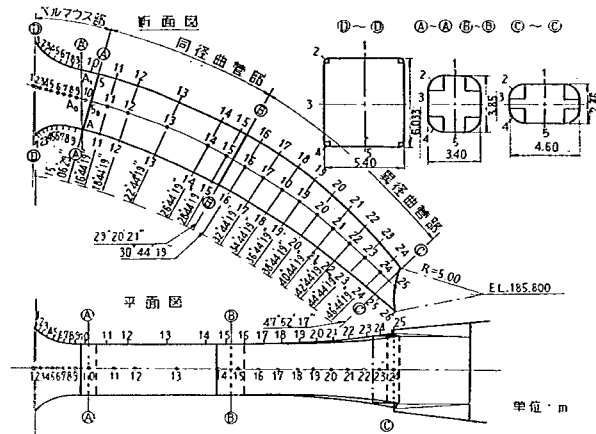


図-32 2 型放水管

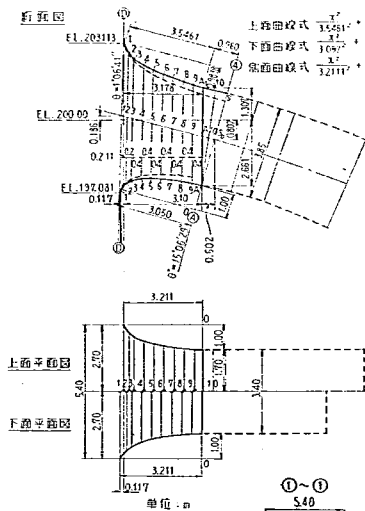


図-33 2 型放水管ベルマウス詳細図

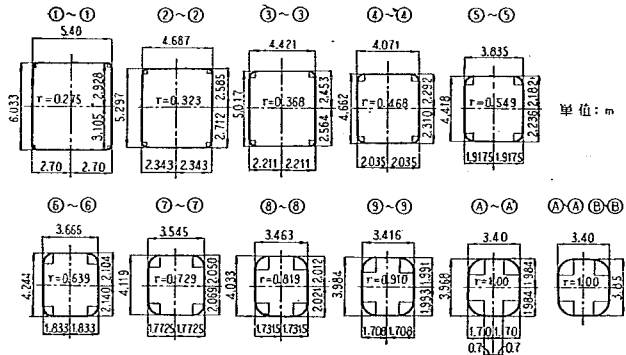


図-34 (1) 2 型放水管断面図

$$\text{上面曲線式 } \frac{X^2}{3.5461^2} + \frac{Y^2}{0.9838^2} = 1 \quad \text{.....(1)}$$

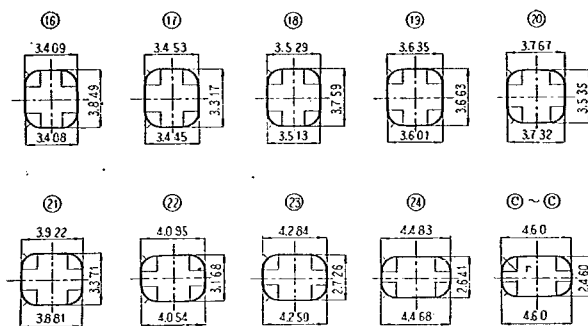
$$\text{下面曲線式 } \frac{\lambda^2}{3.05^2} + \frac{Y^2}{1.00^2} = 1 \quad \text{.....(2)}$$

$$\text{側面曲線式 } \frac{\lambda^2}{3.211^2} + \frac{Y^2}{1.00^2} = 1 \quad \text{.....(3)}$$

7. 最終案による実験結果

〔1〕 越流部 2 型の水位—流量曲線

自由越流量は、2,080m³/secの越流が記録され、計画越流量2,040m³/secは放流可能である。門扉操作は全門等高開度とし、門扉開度は門扉戸部標高231.448mを基準とし、門扉操作時における門扉下縁との差をもってあらわす。越流部に関する貯水池水位—流量曲線と、水位—越流係数の関係を、図-36、表-9に示す。越流係



註：隅取半径は⑬より④-④断面47'1.00^m（ある）

单位:m

图-34 (2)

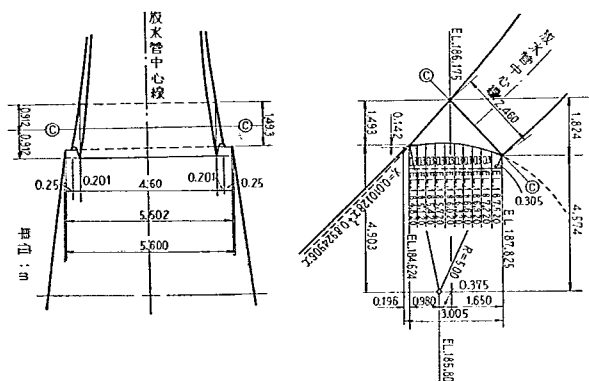


圖-35 2 型放水管吐口詳細圖

数 C は、水位—流量の実験値から、式-1によって算出し、これを最少自乗法により、 C と H の関係を求めたところ、式-14を得た。

$$C=0.08184H+1.56033 \quad \dots\dots\dots(14)$$

式中 H = 越流頂を基準とした越流水深 m

C = 越流係數

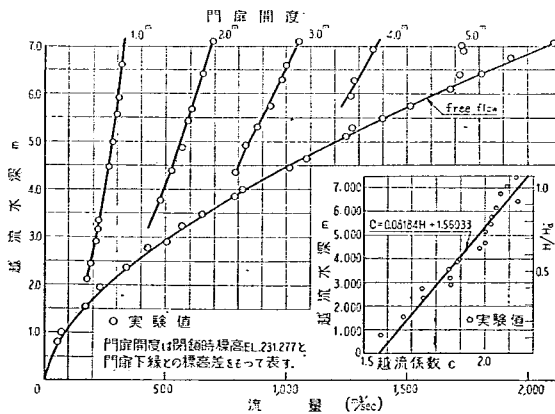


図-36 2型越流部水位—流量曲線および水位—越流係数図

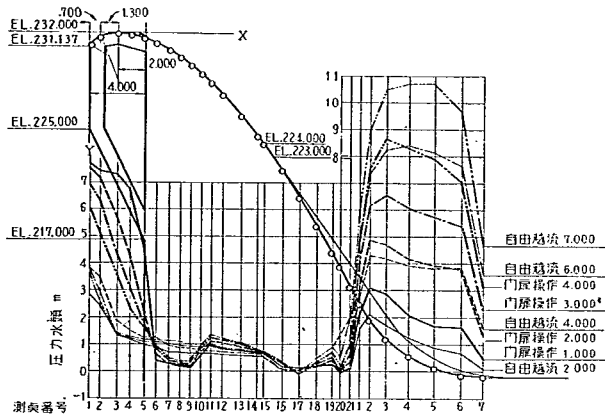


図-37 越流部とフリップバケットの圧力分布

〔2〕 越流部とフリップバケットの圧力分布および水面形状

越流部圧力分布およびフリップバケット圧力分布は、金網製圧力帯により、図-37に示めす位置で、門扉4番の越流径間中心線上において測定した結果を、同図に、実験値を、表-10に示めす。

越流部の水面形状は、門扉1,4,6番の径間中心線上および橋脚、導流壁面沿いに、貯水池水位239.0mで、自由越流時に測定した結果を、図-38に示めす。

越流量500, 1,000, 1,600, 2,040m³/secの放射水脈の落下位置を図-39に示めす。

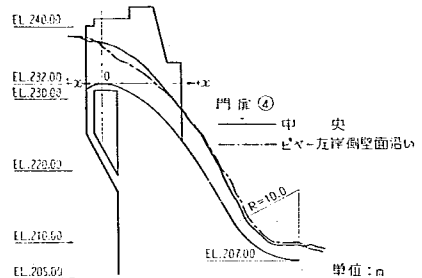


図-38 (2)

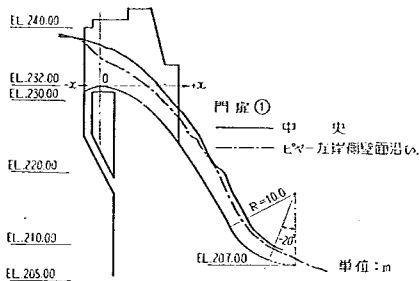


図-38 (1) 越流部水面形

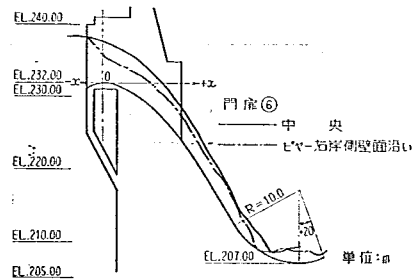


図-38 (3)

〔3〕 水叩内の圧力分布と側壁面沿いの水面形

水叩内の圧力分布は、図-24に示めす位置で、流量は1,100 1,600 2,200 2,680m³/secとし、おのおのの下の

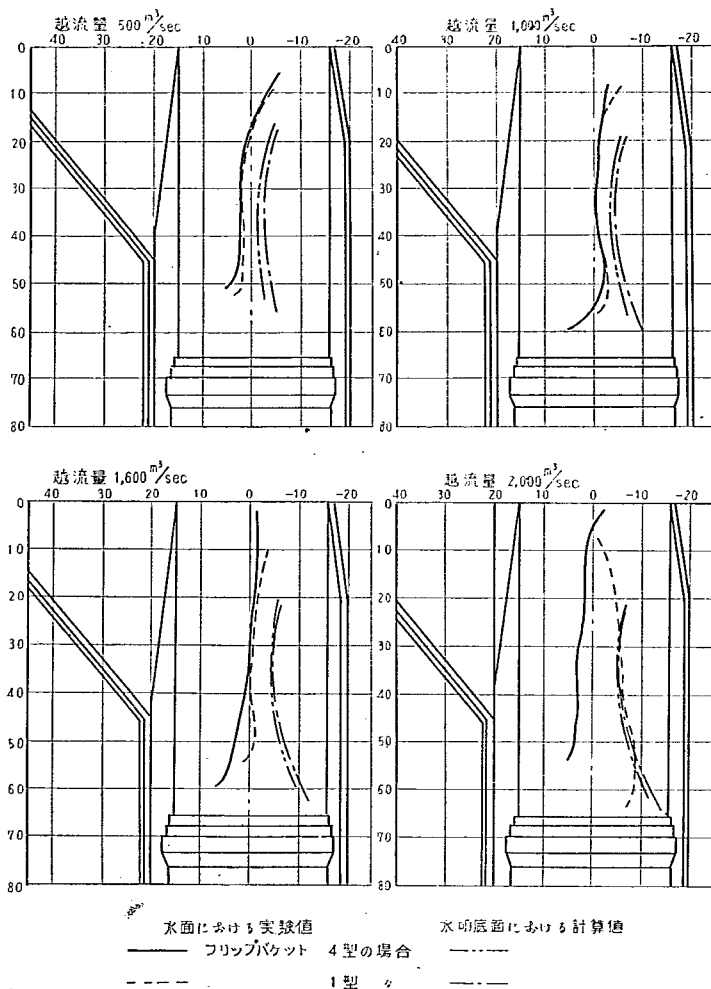


図-39 放射水脈落下位置図

流水位は 168.0 170.0 172.4 174.4m の時の、圧力分布状態を、図-40 に、実験値を 表-11 に示めす。

水叩底面および側壁部の最大圧力水頭は、最大放流時 (2,680m³/sec) に、測線 a の 12 に 30.6m、左岸側壁部は、標高 157.0m の 11 に 24.5m、右岸側壁部は、標高 157.0m の 9 に 17.4m の値が記録された。

門扉操作時の流量 2,200m³/sec において、下流水位を

170.4 172.4 174.4m に変えて、下流水位の変化がどの程度圧力分布に影響を及ぼすかを検討した結果、図-41 に示されるように、下流水位が 2m 程度変化しても、水叩内の圧力分布には大きな影響がないようである。また流量 2,200m³/sec において、自由越流の場合と門扉操作の場合の圧力分布を、比較するために、下流水位 172.4m で測定した結果を、図-42 に示めす。

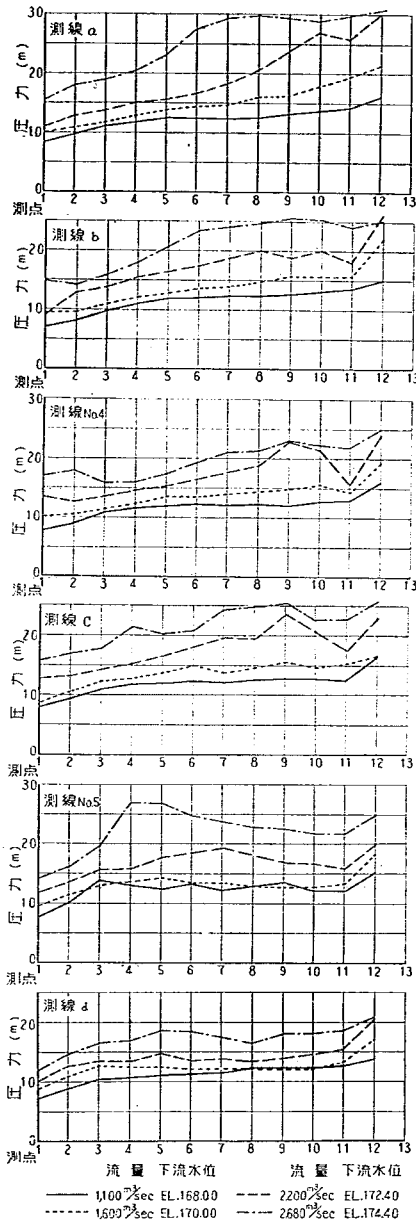


図-40-1 (1) 水叩底面圧力分布図

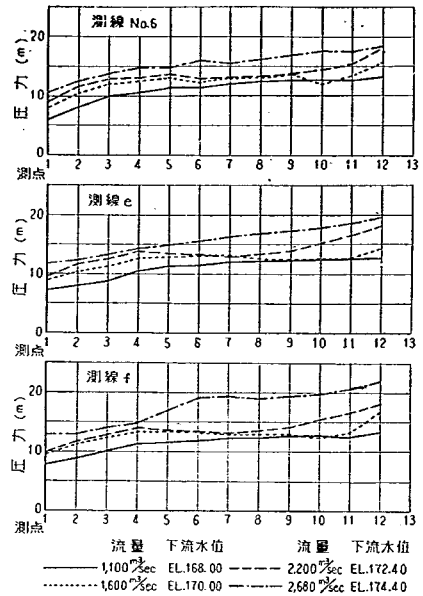


図-40-1 (2)

以上の実験値を種々検討すると、水叩中心部の圧力集中は、水脈落下の影響によるもので、落下後の水流は水叩底面を高流速のまま左岸側壁部に衝突しているために、壁面沿いの水面隆起を生じ、壁下部に高い動水圧を生じさせる原因となっている。

水叩末端に設置されたシルの圧力分布は、図-43に、実験値を、表-12に示す。

側壁面沿いの水面形状は、越流部から放流量が増加すると共に水面隆起が大きくなり、異常洪水量 $2,680\text{m}^3/\text{sec}$ で最大になるのは当然であるが、この水面隆起を出来るだけ少なくする目的で、現地の地形を考慮の上、図-24に点線および破点線で示す形状について、比較実験をおこなったが、水面隆起が若干低くなる程度であって、水叩内の流況を大巾に改善することは出来なかった。

〔4〕放水管

縮尺1/30金属模型を製作して実験をおこなった結果、水位-流量の関係は、計画放流量 $300\text{m}^3/\text{sec}$ に対し、貯水位 239.0m で $313\text{m}^3/\text{sec}$ が記録された。

管内圧力分布の実験結果は、図-44、表-13に示す。この実験値によると、貯水池水位 239.0m で、下面側取部に -3.97m の負圧が生じ、貯水池水位 222.0m では、 -6.06m の負圧が測定された。

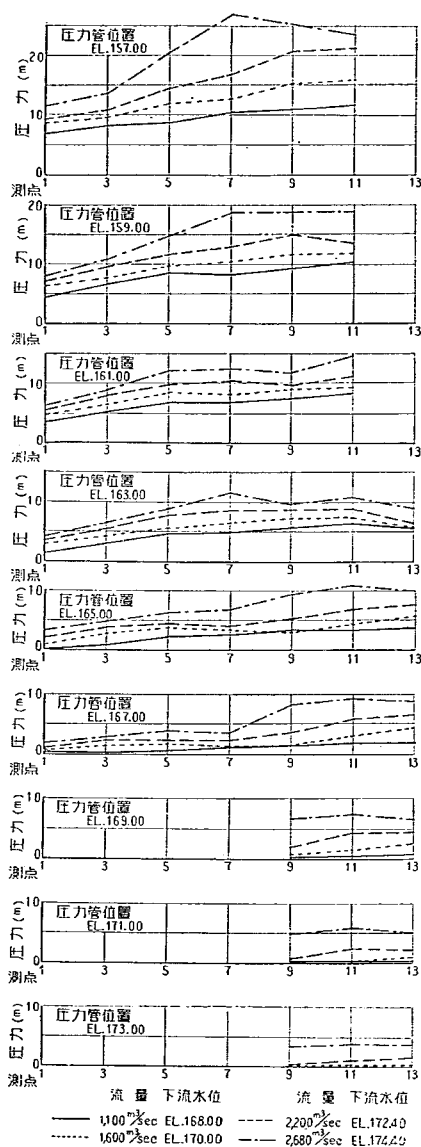


圖-40-2 水叩左岸側壁面壓力分布圖

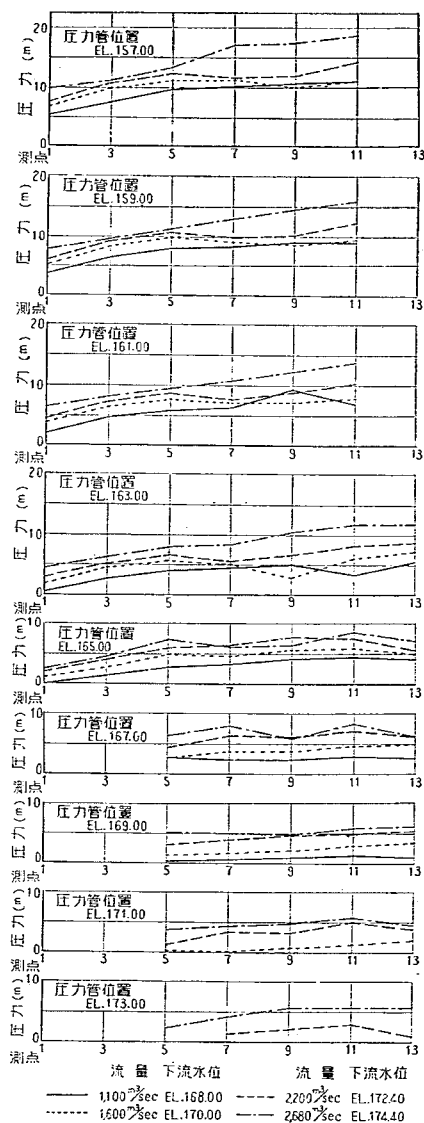


圖-40-3 水叩右岸側壁面壓力分布圖

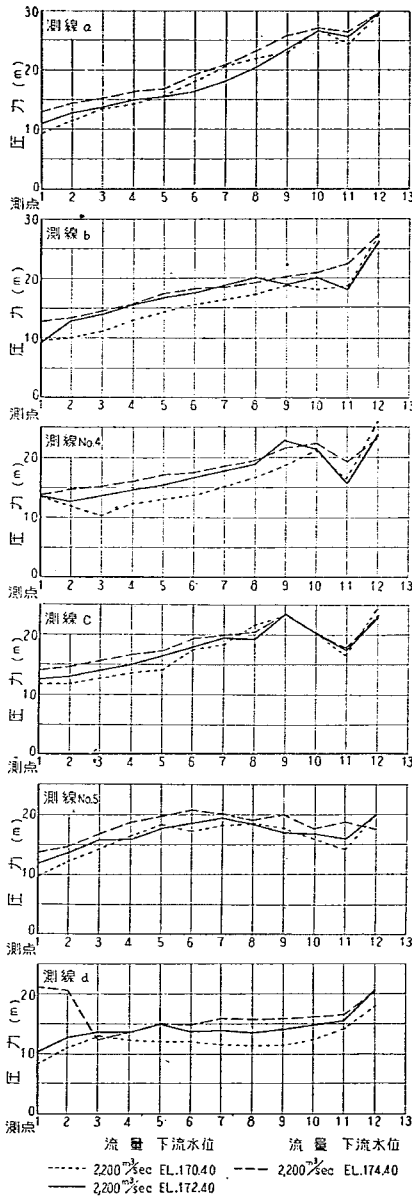


図-41-1 (1) 水叩底面圧力分布図
門扉操作時 下流水位変化による圧力

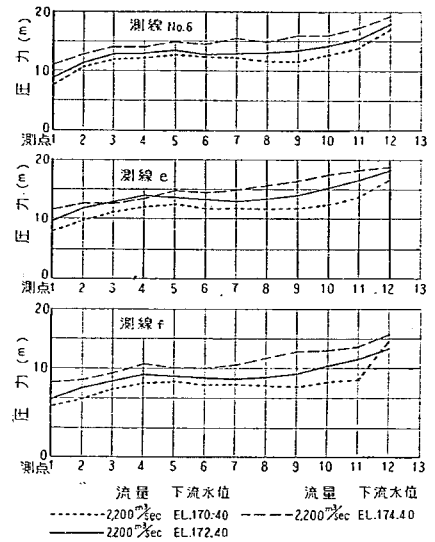


図-41-1 (2)

貯水池水位 222.0m (洪水期制限水位) で全開放流した場合に、空洞現象に対する許容圧力水頭 (-3.0m) 内であればよいが、これを大巾に越える結果となり、管形状が不適当なものとなった。したがってこの対策として、次の事項について検討することにした。

- i ベルマウス下面隅取部の改良
- ii ベルマウスの全体変更
- iii 放水管全体の変更

以上について検討することにしたが、iii は時期的に余裕がないこと、またその必要があるかどうかについて、検討することにして、最初 i, ii について検討をおこなうことにした。i について実験の結果は、図-45 に示めされるように、貯水池水位 239.0m において測点 9 の圧力水頭 -6.06m が -0.24m に、222.0m において -6.06m が -3.43m となり、隅取部の改良により、相当改善されることがわかったが、これ以上改良することは困難であると思われる。改良前の隅取半径は直線変化であったが、改良の結果によれば曲線変化となり、式-15 が得られた。

$$\frac{X^2}{3.3396^2} + \frac{Y^2}{0.2929^2} = 1 \quad \text{.....(15)}$$

式-15 により隅取半径を求め、ベルマウス改良形状の横断面を、図-46 に示す。

以上の実験結果について検討した結果、ベルマウス部の負圧発生については、放流時の土砂巻込み防止、予備門扉取付工事等を考慮して、塵除格子取付台のようなも

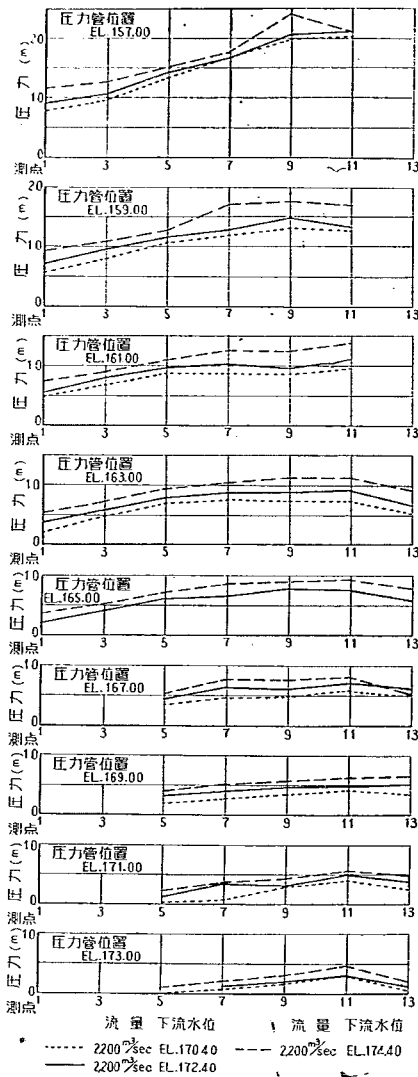


図-41-2 水甲左岸側壁面圧力分布図
 門扉操作時 下流水位変化による圧力

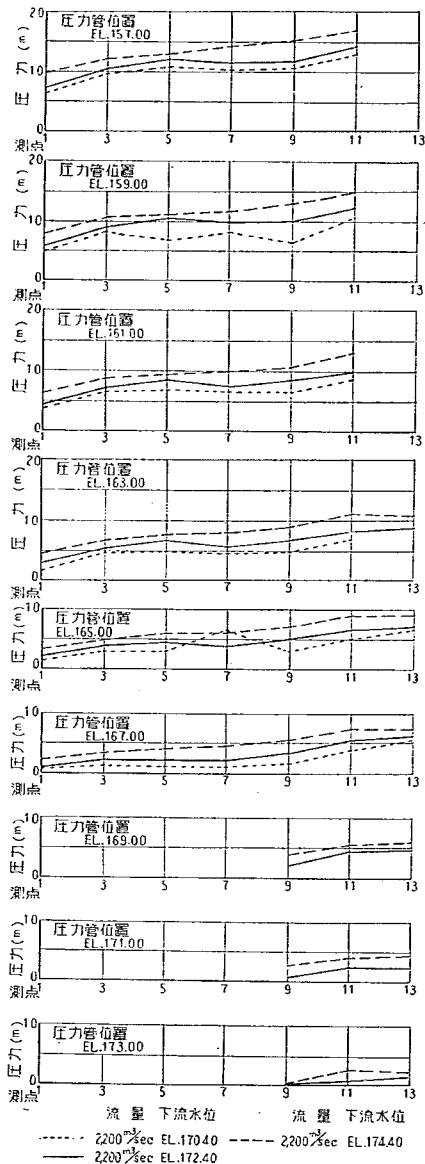


図-41-3 水甲右岸側面圧力分布図
 門扉操作時 下流水位変化による圧力

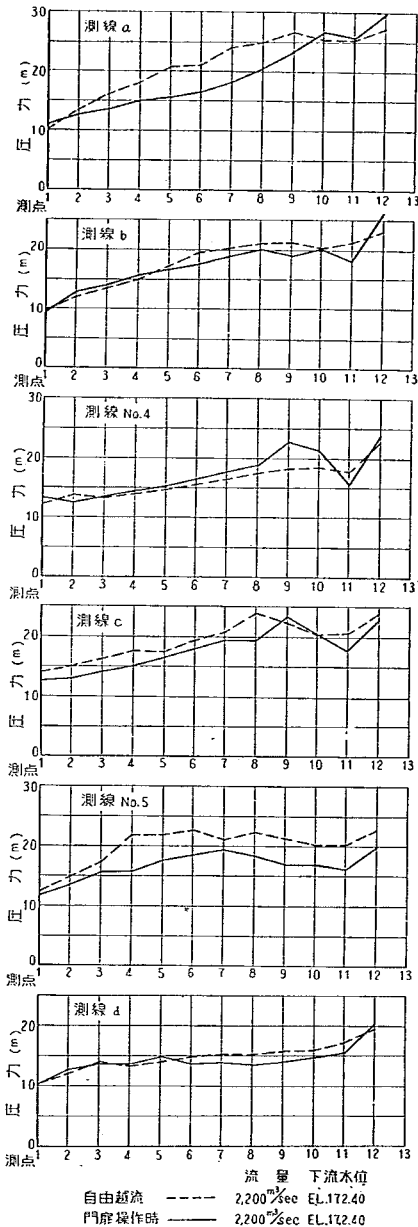


図-42-1 (1) 水叩底面圧力分布図
門扉操作時と自由越流時の比較

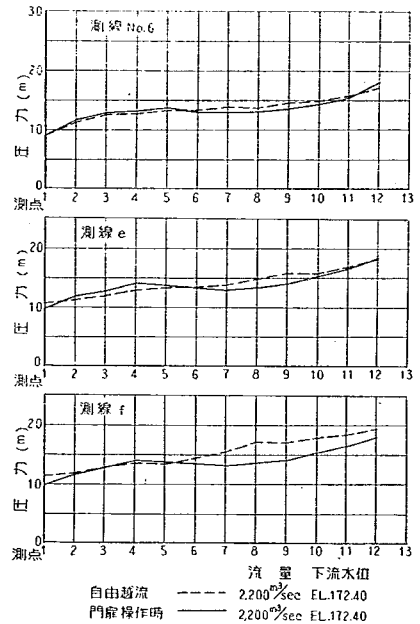


図-42-1 (2)

のを取付けることにより解決するものとして、(現在の所、塵除格子は取付けない計画である) 各種の形状について実験した結果は、図-47 に示す。このうち 1 の形状を最終案として、実験をおこなった結果、貯水池水位と流量の関係は、図-48 に、実験値は、表-14 に示めされるように、貯水池水位 239.0m で、307m³/sec 放流できることを示めし、計画放流量は十分に放流できることが判った。

管内圧力分布および実験値は、図-44、表-15 に示めす。この実験結果によると、管内圧力分布は貯水池水位 239.0m ならびに 222.0m の場合、門扉全開放流時に空洞現象に対する許容圧力水頭値内であるから、計画を満足するものである。しかし、最低水位 215.0m ではベルマウス終端部分に許容値を越える部分があるのと、実際にはこのような操作はないはずであるが、210.0m、205.0m の貯水位で全門放流した場合は、許容値を大中に越えるため、貯水池水位を 222.0m 以下で放流するような場合は、門扉を半開操作で放流しなければならない。この場合の参考資料として貯水池水位 215.0m、210.0m、205.0m で実験した結果得られた水位と、門扉開度-圧力水頭の関係を、図-49 に示めす。

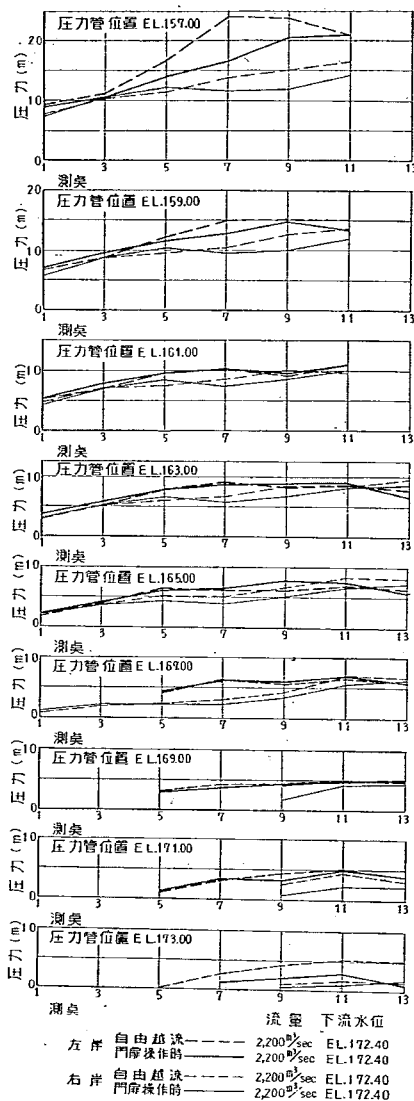


図-42-2 水叩左右岸側壁面圧力分布図
門扉操作時と自由越流時の比較

〔5〕 放水管導水樋の形状

図-50 に示す 1 型形状は導流壁に沿って水面が盛り上がり、あまり良い形状とは考えられないので、2 型のように改造した結果、水面の盛り上がりは解消され良好な流況を示めた。実際の施工にあたっては門扉戸当部に給気孔を設け、吐口以下の導水路底面は出来るだけ平滑に上げるとともに、鋼鉄製部分とコンクリート部分との接合部の仕上げは入念に仕上げなければならない。

〔6〕 移動床による洗掘実験結果

移動床実験は、放流水が水叩下流河床にどのような影響をおよぼすか、その洗掘、堆積の傾向を知るためのもので、定量的な値は知ることは出来ない。

実験結果は、図-51 に示す。図中の等高線 0 は、移動床の成形高、すなわち実物値は標高 158.0m で、これより堆積した部分には + を、洗掘部分には - をつけ、数字は 2.5cm 実物値 1m 毎につけた。

試験用の砂利は、10m/m 通過 8m/m 止りを使用し、通水時間は 2 時間である。

放水管 600m³/sec 放流のときは、水叩始点より下流 90m 付近に 1m から 2m 程度の堆積が現れ、越流部の越流量が増加するのにしたがいその形態は変るが、1,600 m³/sec から 2,680 m³/sec の場合、右岸側 140m より 160m 付近に見られる深い洗掘状態は、模型の製作上の影響を多分に含んでいるものと考えられる。

以上の結果、水叩内に土砂巻込みの可能性が一番強いときは、流量 1,600 m³/sec のときであり、シル下流端の洗掘は、2,680 m³/sec のときに、右岸側に最大値を示めている。さらに越流部門扉操作を変えた場合を比較するために、流量 2,200 m³/sec について実験した結果、図-52 に示めされるような状態となり、これより判断すると、越流量が増大するにしたがい、門扉を不等高に操作することにより河床に与える影響を少なくすることが出来るようである。

8. 越流部門扉操作別放射水脈落下位置について

最終案形状で、越流量 350 700 1,050 1,600 2,080 m³/sec の 5 流量について、種々門扉操作をおこない、おのおのについて落下位置をスケッチした結果を、図-53 に示す。

門扉番号は、左岸側より右岸側へ 1 番から 6 番とし、任意の門扉を全開放流して、隣接門扉は閉鎖した場合の水脈飛散状況は、落下位置から判断して、好ましい状態ではない。したがってこのような門扉操作は絶対にしてはならない。

しからは、全門等高操作による放流が望ましいようであるが、越流量 1,600 m³/sec を放流する場合に、門扉 1. 3. 4. 6. は全開、2. 5 を 1.82m 開度にした場合は、全

門等高操作よりも、水叩左岸側壁面沿いの水面隆起は少ないことと水叩下流の河床洗掘の状況が良好なことがわかったので、すべての流量に対して全門等高操作で放流する必要はなく、600 から 1,000 m³/sec 位までは全門等高操作とし、それ以上の流量については門扉を不等高に操作して放流するのが適当と考えられる。

9. 余水吐門扉操作について

洪水流量は、おもに放水管により処理されるのであるが、放水管により処理できないときは、越流部余水吐により放流をしなければならない。

放水管門扉操作は、2 門連動操作するのが原則であり、流況も良好であるが、門扉故障などにより片門操作で放流する場合は、水叩内に露出射流と共に大きな回転流が生じ、流況が悪化することは当然である。また洪水期制限水位 222.0m 以下の貯水池水位で放流するときは、図-49 を参考にし、空洞現象に対する許容圧力水頭値内で放流するように門扉を操作しなければならない。

越流部門扉操作は任意の門扉を全開放流し、隣接門扉は閉鎖したような場合には、越流水がフリップバケットにおいて拡がるので、このような門扉操作は水脈落下位置などから判断して絶対にしてはならない。したがって、小流量の場合は左岸側（または右岸側）門扉から操作を始めることが望ましく、中央部からの開放はしない方がよい。

10. 結 論

本実験は、昭和33年7月より昭和35年12月迄の2年有るの歳月に費して実施されたものであり、実験内容および資料は多種多様になり、本報告書では最終案の理解と管理上必要と思われる資料だけを掲載した。

最終案形状は、下記の型式形状を推奨する。

越 流 部	2 型	図-30
フリップバケット	4 型	図-31
放 水 管	2 型	図-32
放水管導水樋	2 型	図-50
水 叩 部	8 型	図-24
シル形状	1 型	図-43

この最終案は、適正に操作するかぎり満足できる流況を示めすが、実際の設計施工または管理等については、下記の事項に充分の考慮を払って慎重を期すべきである。

(1) 放水設備操作に要する貯水池水位標の位置は、ダム上流部の河形を模型に取り入れてなかったので、模型の水位は接近流速水頭を考へないものとなっているが、水位標をダムより少なくとも 50 m 以上上流に設置すれば、その差を実用上無視出来るものと考えられる。

(2) 放水管呑口部に給気孔を設けるにあたって、ベルマウス面に不規則な凹凸を生じないように充分注意すること。

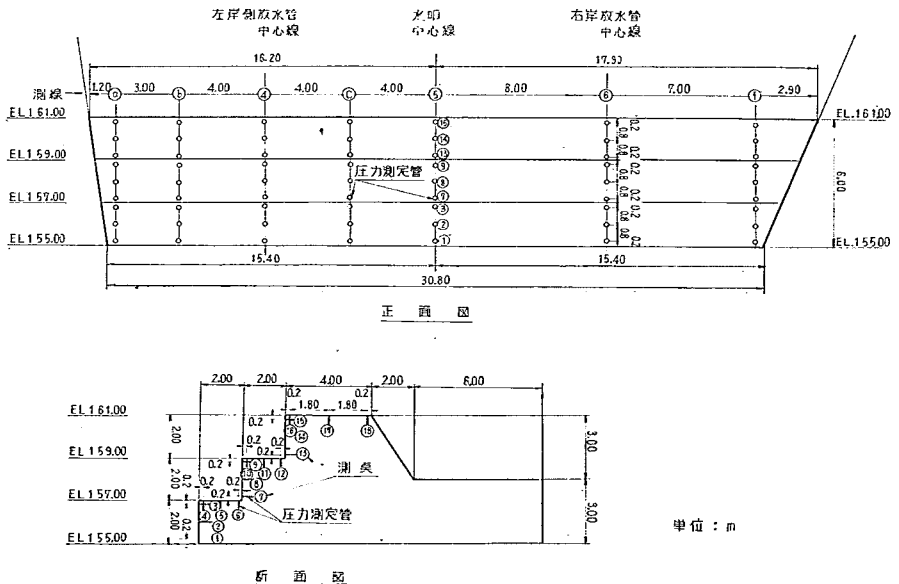


図-43 1 型シル形状および圧力測点位置図

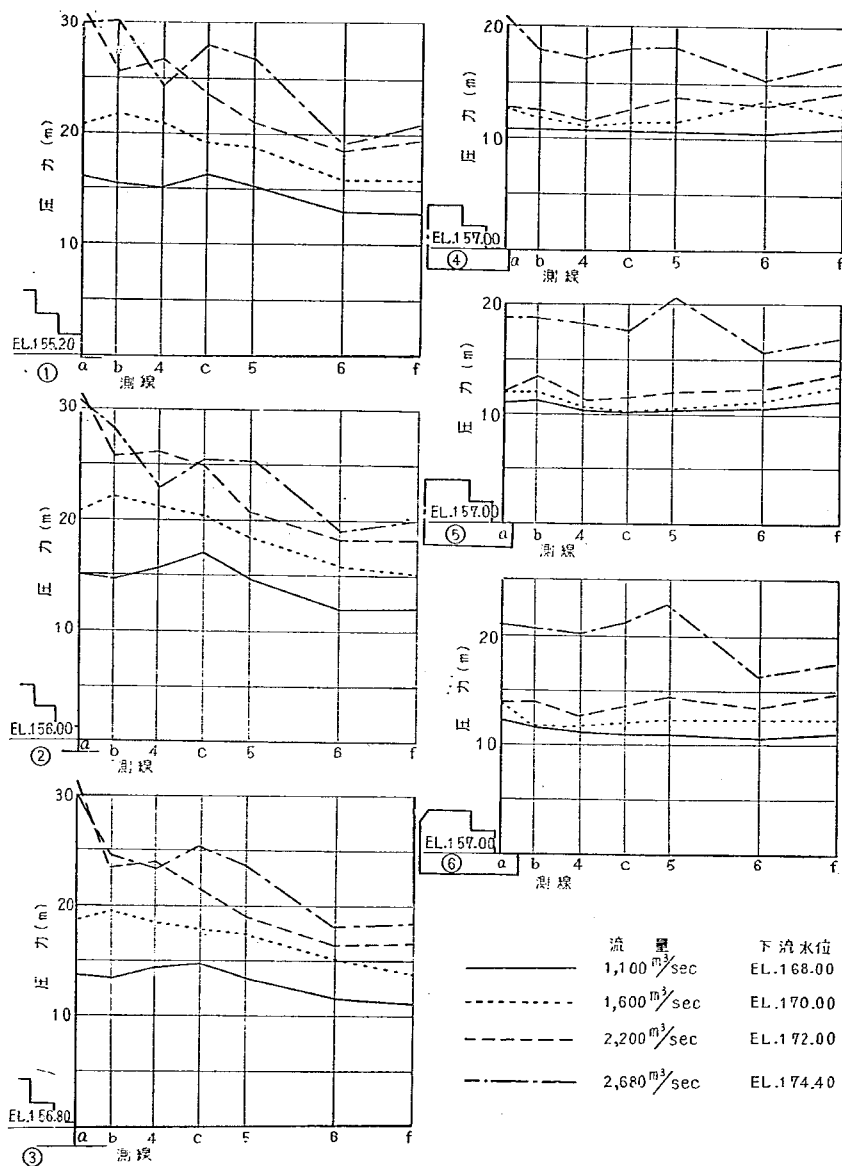


図-43-1 (I) シル圧力分布図 門扉操作時

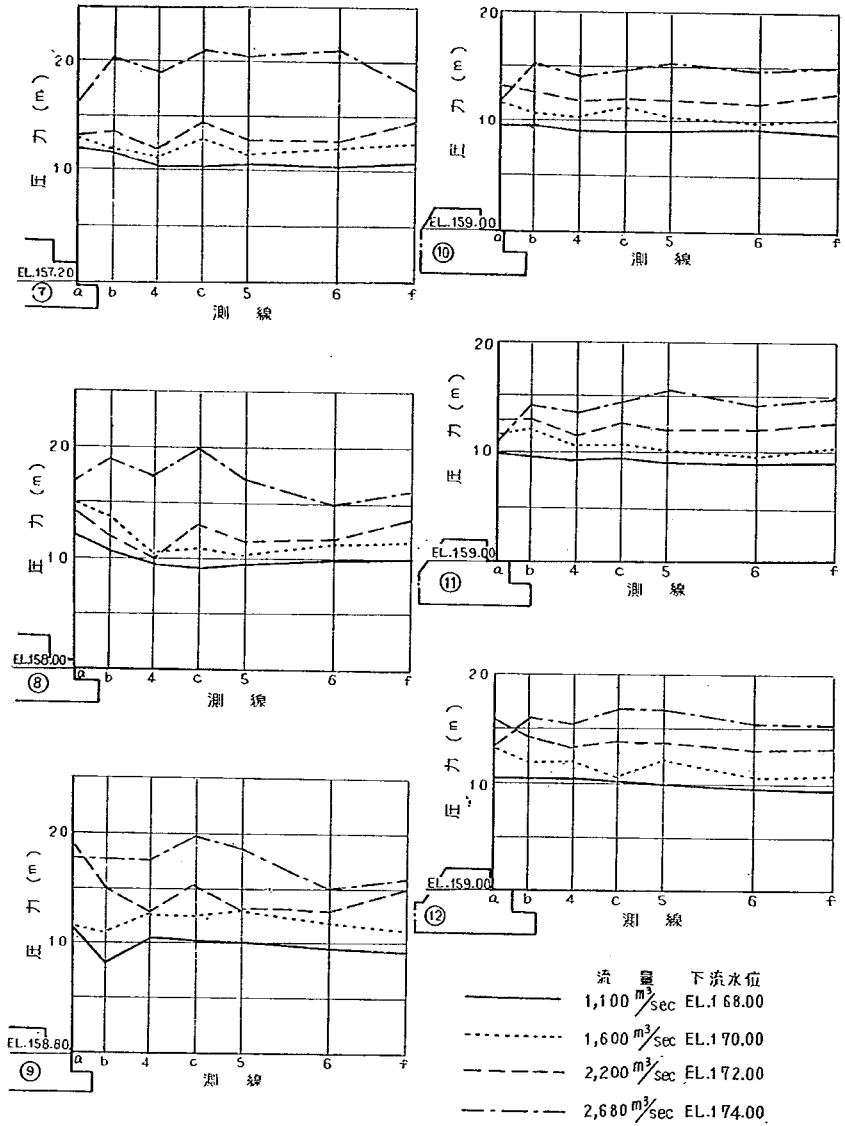


図-43-1 (2)

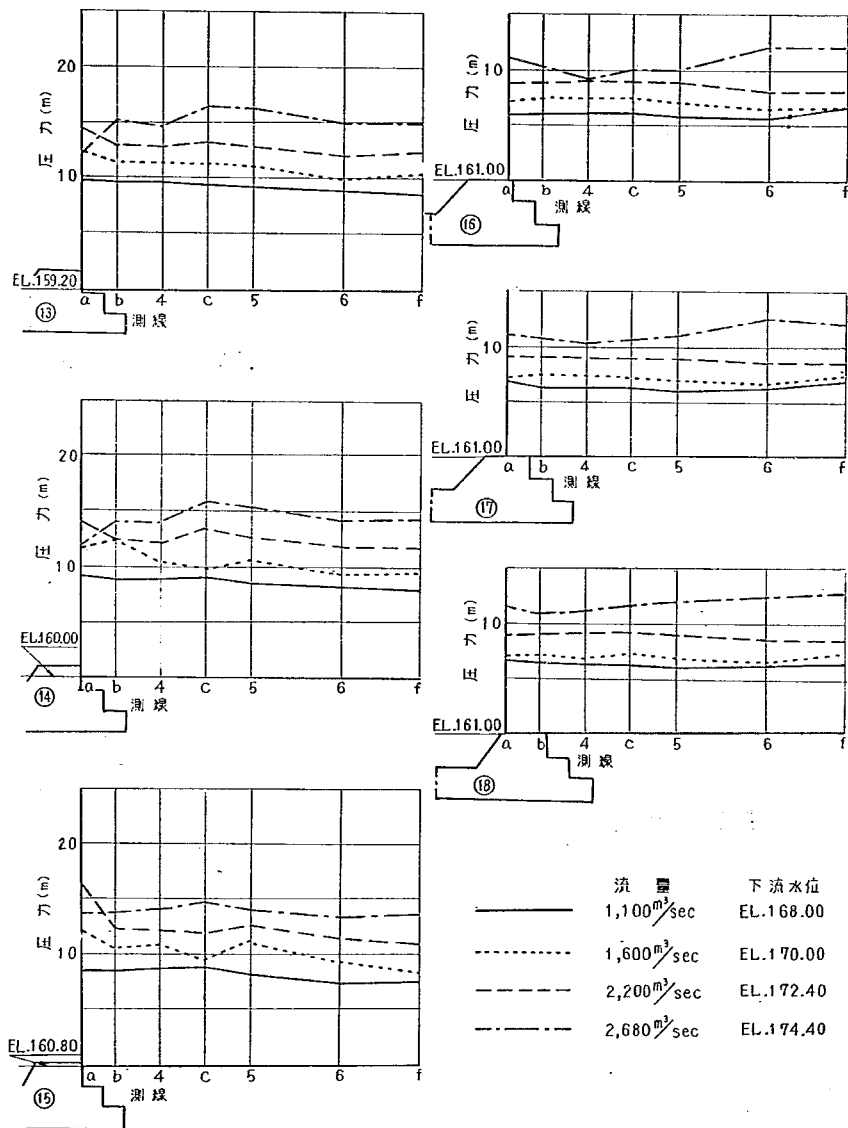


図-43-1 (3)

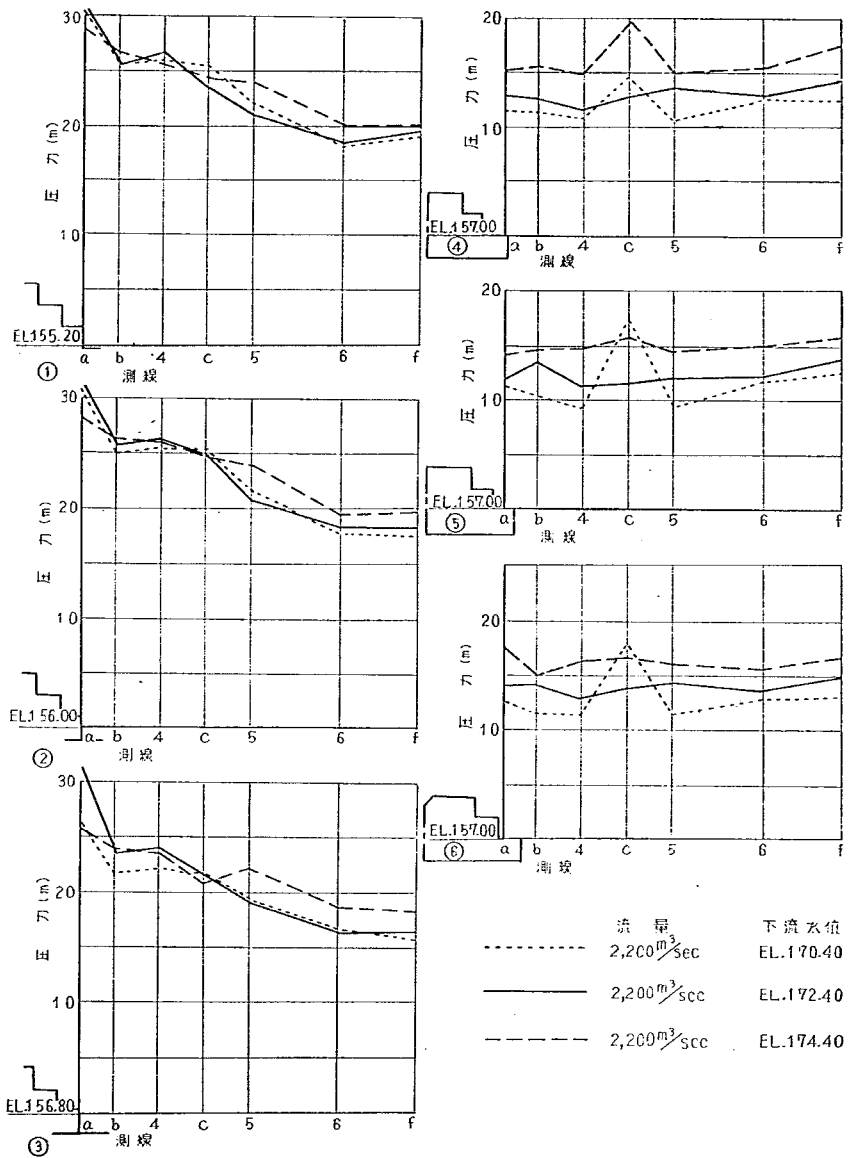


図-43-2 (1) シル圧力分布図 門作操作時 下流水位変化による圧力

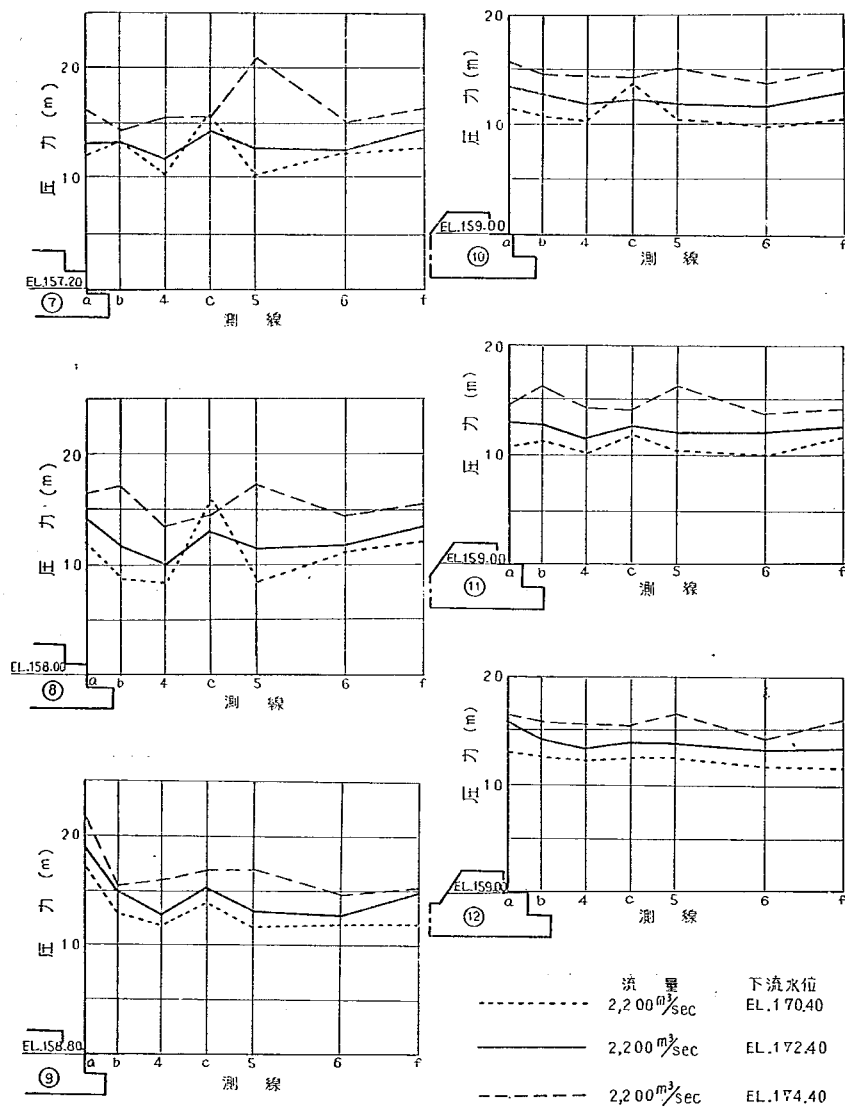


圖-43-2 (2)

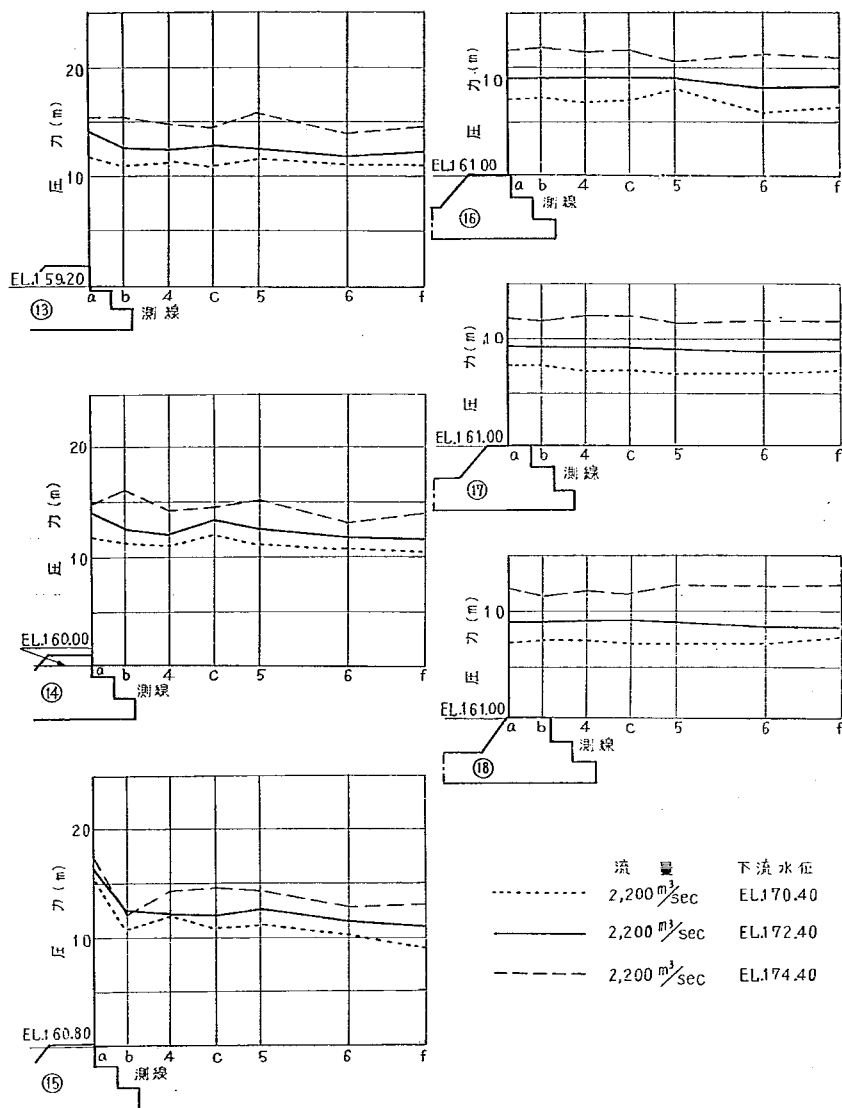


図-43-2 (3)

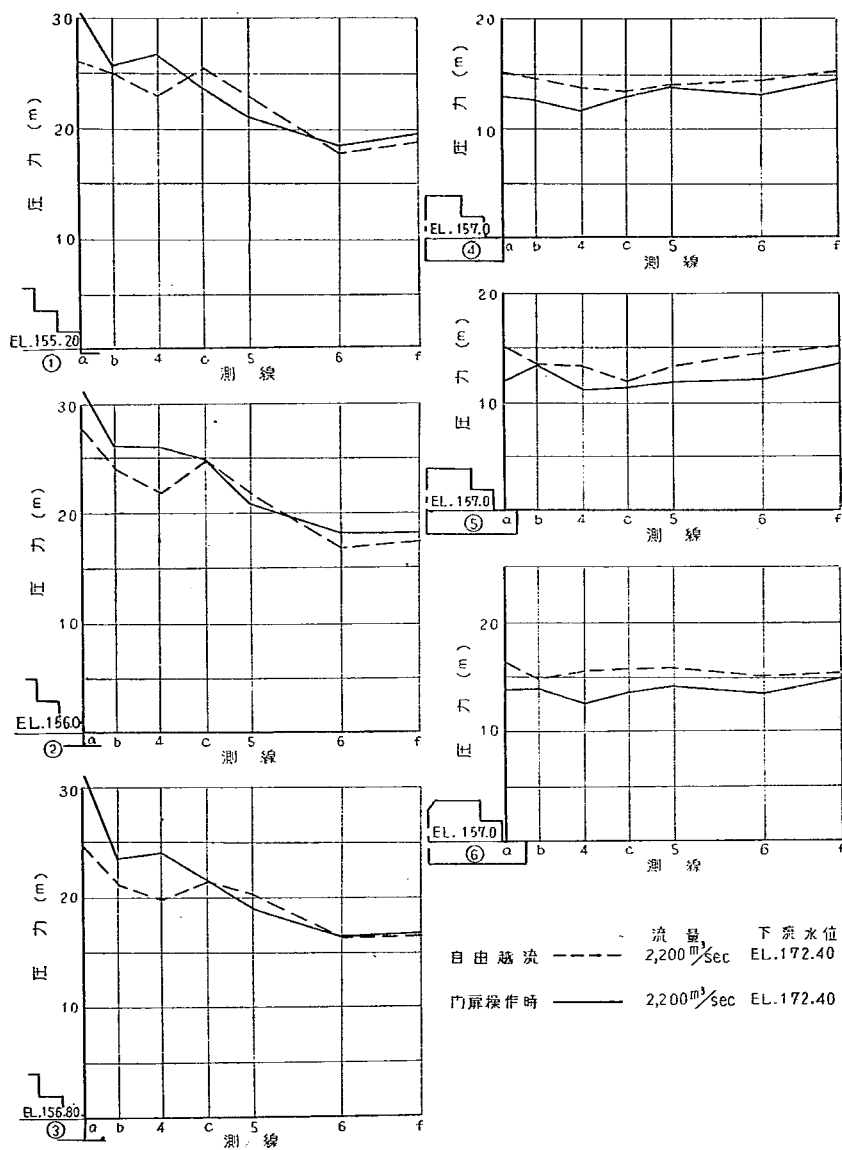


図-43-3 (1) シル圧力分布図 門扉操作時と自由越流時の比較

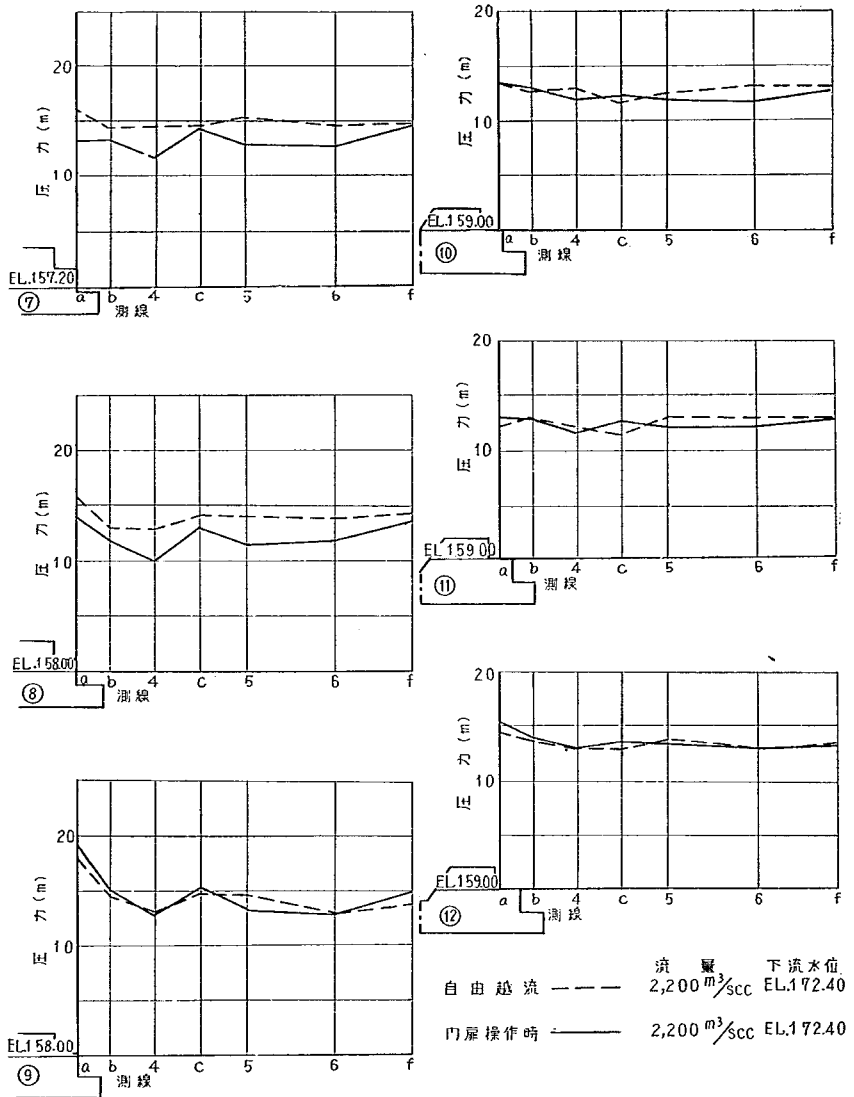


図-43-3 (2)

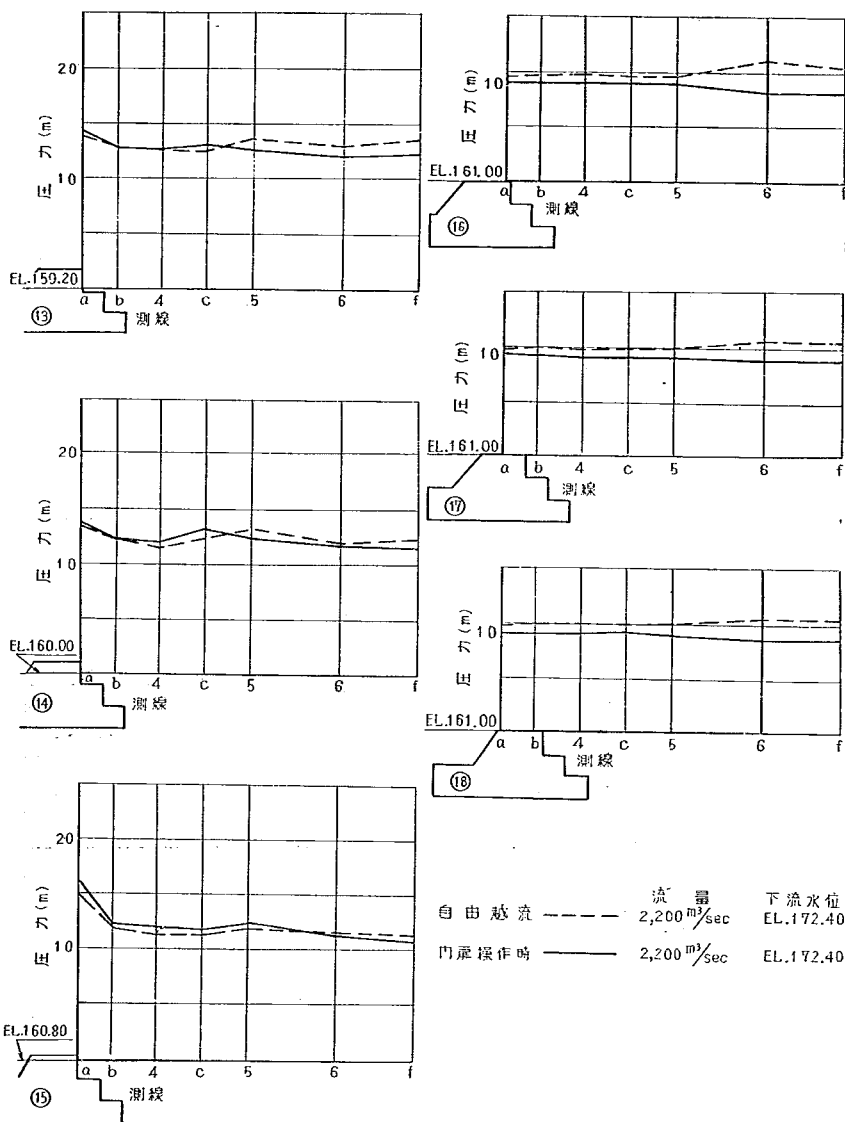


圖-43-3 (3)

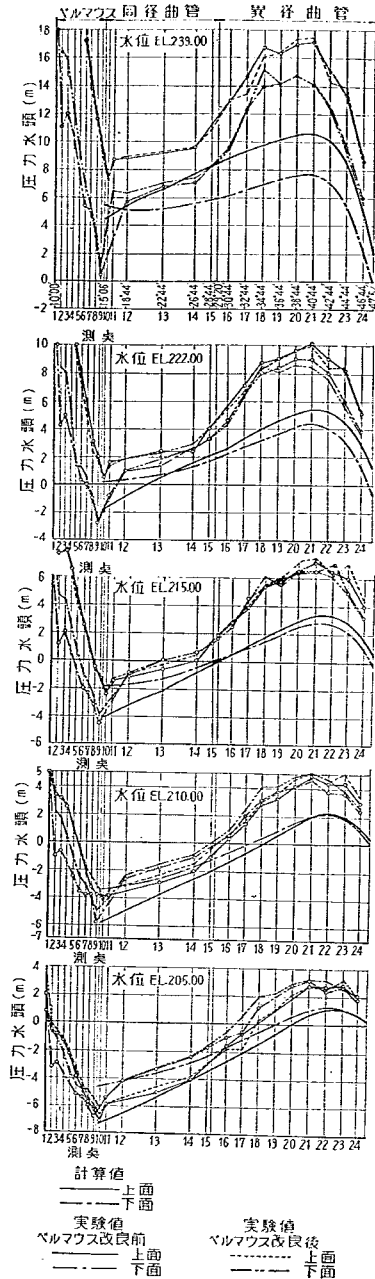


図-44 2型放水管圧力分布図

(3) 放水管吐口門扉戸当部と戸溝部分には、給気孔を設けること。

(4) 施工残屑や岩屑等が、完成後の水叩内に残っていないように気をつけ、また山腹等から落ちないように充分に保護対策をほどこすこと。

(5) 将来ダム下流河床の低下により、ダム下流水位が実験の範囲を下まわるようなことも考えられるが、このような場合は、副ダムまたは床止工等の構造物を作り、ダム下流水位の保持につとめなければならない。

(6) 水叩側壁は、標高 167.0m までは、8型とし、それ以上は、現地の地形、経済上の理由により、比較実験の結果を参考にして設計されたい。

(7) 放水管門扉操作は、原則として 2 門連動で操作するが、片門が故障したようなときは、充分の注意を払いながら放流するようにしなければならない。

(8) 越流部門扉は操作順序を間違えると、放射水是水叩内に落下しないばかりか、山腹または水叩側壁に直接当たる恐れがあるので、注意しながら操作し、現場の経験も織りまぜて操作順序を習得する必要がある。

貯水位	下面	下面隅取部
239.0	————	-----
222.0	-----	-----

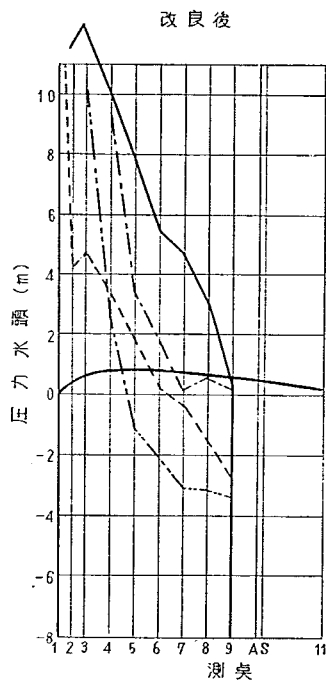
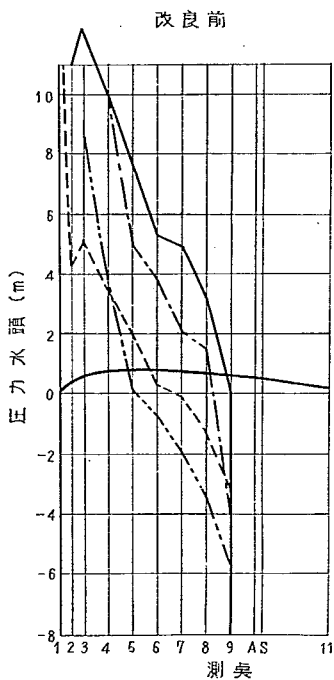
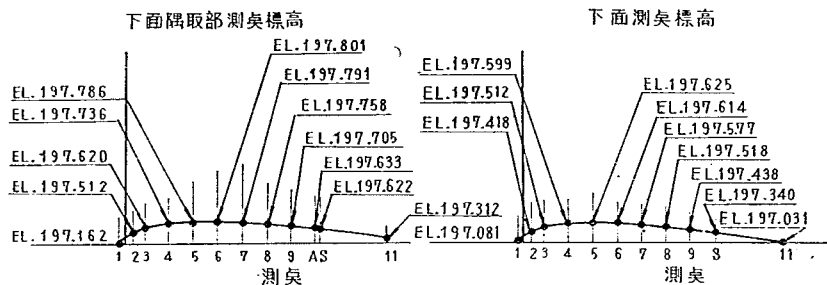


図-45 放水管ベルマウス改良案実験値

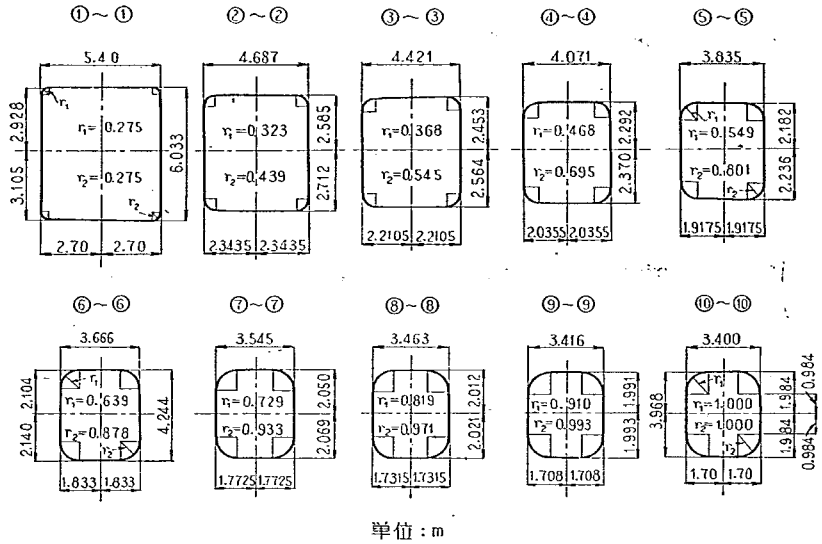


図-46 2型放水管ベルマウス改良断面

表-3 1型越流部水位—流量関係実験値

番号	自由越流時			門扉開度 1 m 等		門扉開度 2 m 等		門扉開度 3 m 等		門扉開度 4 m 等		門扉開度 5 m 等	
	H	Q	C	H	Q	H	Q	H	Q	H	Q	H	Q
1	0.64	63.8	—	2.69	209.5	3.78	470.6	3.90	703.3	4.88	1,067.6	6.30	1,472.4
2	0.86	81.0	—	4.00	258.0	4.86	526.2	4.07	718.5	5.49	1,118.2	6.57	1,538.0
3	1.24	116.4	1.568	4.88	283.3	6.15	617.3	4.78	764.0	5.91	1,138.4	6.60	1,519.9
4	1.45	136.6	—	6.20	318.8	7.10	683.1	5.67	860.1	6.53	1,204.2	7.06	1,598.9
5	2.04	250.0	1.593	7.10	344.0	—	—	6.30	910.7	6.91	1,254.8	—	—
6	2.87	445.3	1.698	—	—	—	—	6.98	981.6	—	—	—	—
7	4.09	839.9	1.881	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	4.96	1,189.0	1.991	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	5.91	1,609.0	2.073	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	6.82	2,062.3	2.146	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11	6.90	2,099.8	2.145	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12	7.18	2,266.7	2.180	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

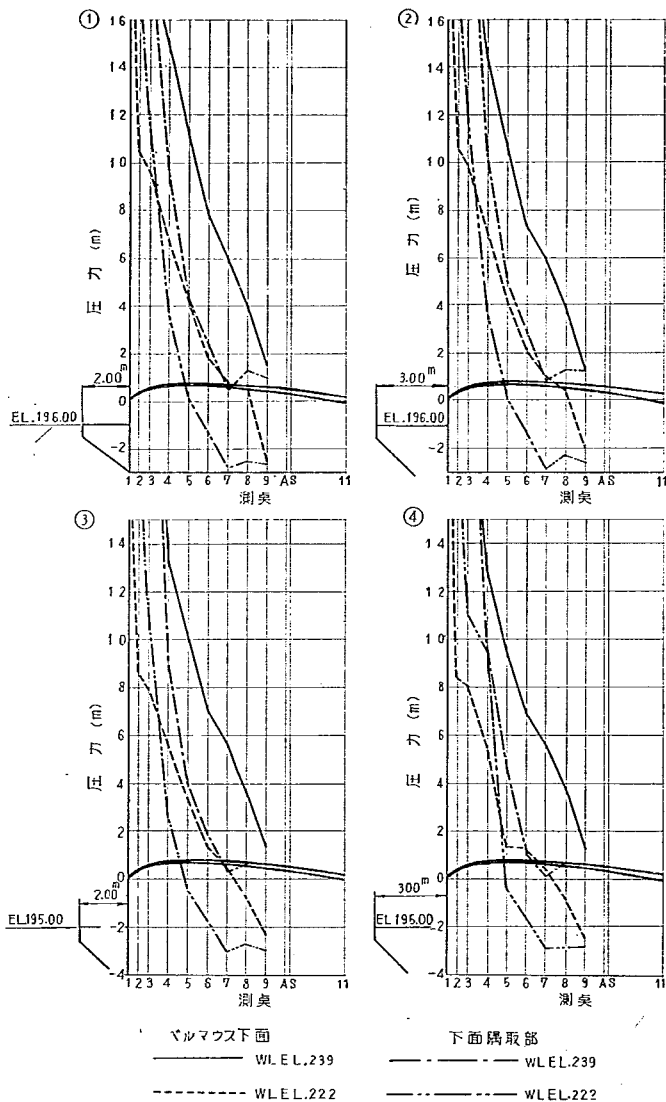


図-47 放水管ベルマウス改良案比較

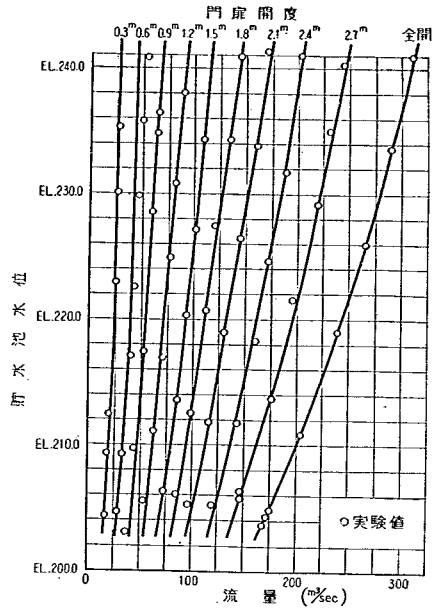


図-48 2型放水管の水位-流量曲線

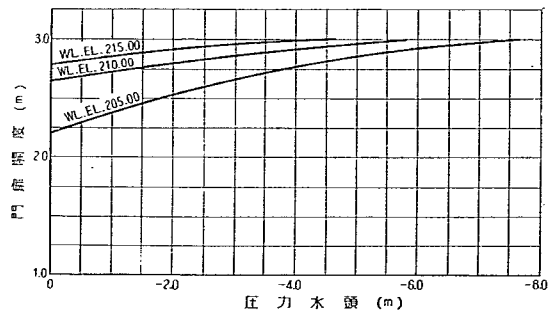


図-49 貯水位と門扉開度-圧力水頭の関係

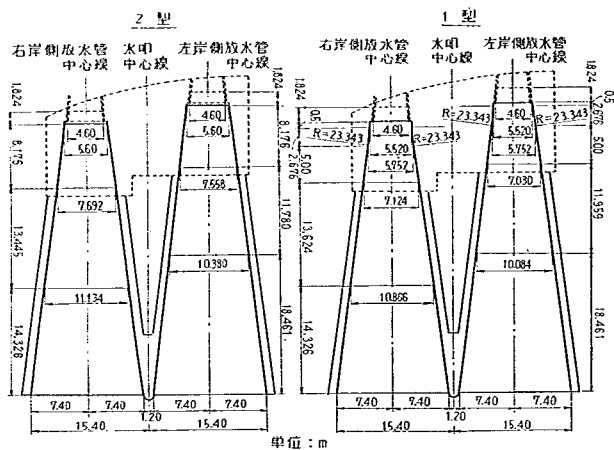


圖-50 放水管理水穩改良案

表-4 1型越流部压力分布实验值

番 号	测 点 座 標		自由越流時越流深				門扉等高操作時 貯水位 239.0				
	X	Y	2.00	4.00	6.00	7.00	1.00	2.00	3.00	4.00	5.00
1	0	0.863	2.82	3.82	3.78	3.66	7.74	7.54	6.86	6.06	4.98
2	0.700	0.250	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	2.000	0	1.36	1.84	1.36	1.40	7.32	5.76	4.40	3.36	2.52
4	3.000	0.123	1.20	1.50	1.24	1.20	6.72	4.48	3.16	2.50	1.96
5	4.000	0.389	0.99	1.27	1.11	1.19	4.47	2.31	1.79	1.67	1.39
6	4.900	0.760	0.88	1.24	1.04	1.20	0.48	0.64	0.84	0.96	0.99
7	5.800	1.236	0.66	0.96	0.99	1.24	0.28	0.32	0.40	0.52	0.56
8	6.600	1.740	0.70	0.86	0.98	1.12	0.22	0.28	0.30	0.35	0.35
9	7.400	2.325	0.61	0.89	0.93	1.05	0.17	0.18	0.25	0.35	0.51
10	8.200	2.982	0.66	0.74	0.94	1.16	0.66	0.76	0.83	0.96	0.99
11	8.900	3.615	0.66	0.86	1.14	1.38	1.10	1.14	1.30	1.40	1.42
12	9.700	4.415	0.58	0.86	1.14	1.41	1.14	1.20	1.55	1.80	2.14
13	11.100	5.949	0.43	0.55	1.27	1.31	1.27	1.43	1.63	1.86	2.15
14	12.300	7.435	0.52	0.56	1.05	1.13	1.05	1.35	1.71	1.94	2.20
15	13.453	9.000	0.56	0.60	0.72	0.80	0.86	0.95	1.42	1.69	2.12
16	15.762	12.266	0.51	0.55	0.67	0.78	0.68	0.85	1.03	1.17	1.65
17	18.071	15.532	0.19	0.25	0.49	0.70	0.23	0.45	0.77	0.92	1.13
18	20.380	18.797	0.09	0.21	0.42	0.64	0.20	0.42	0.64	0.80	1.00

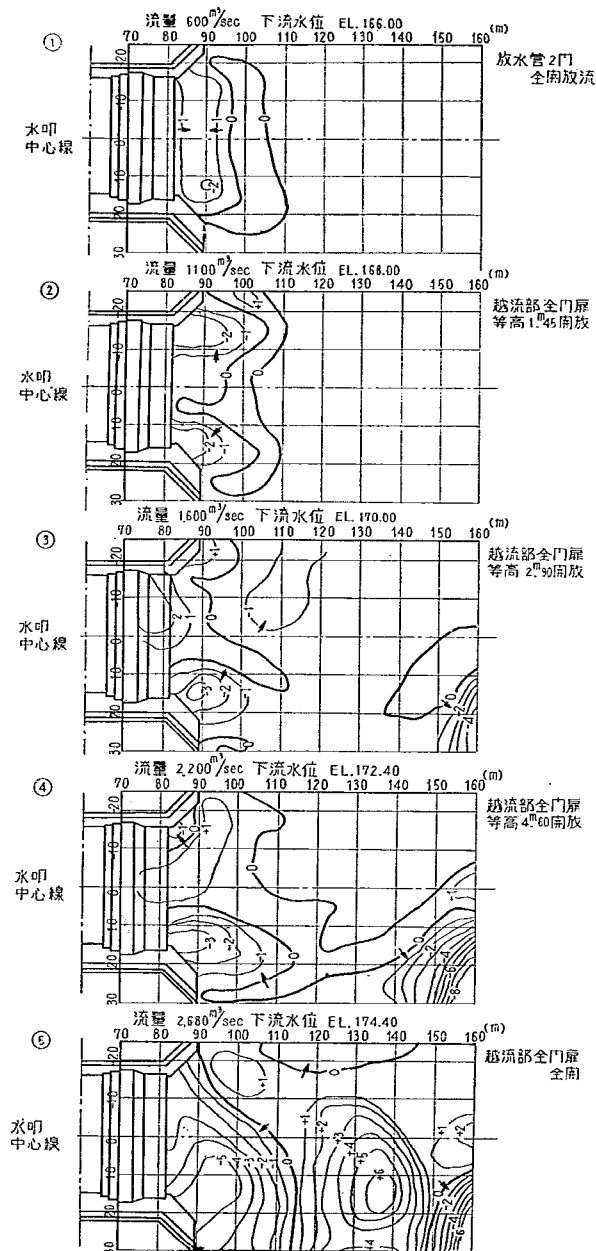


図-51 最終案形状による洗掘実験の結果

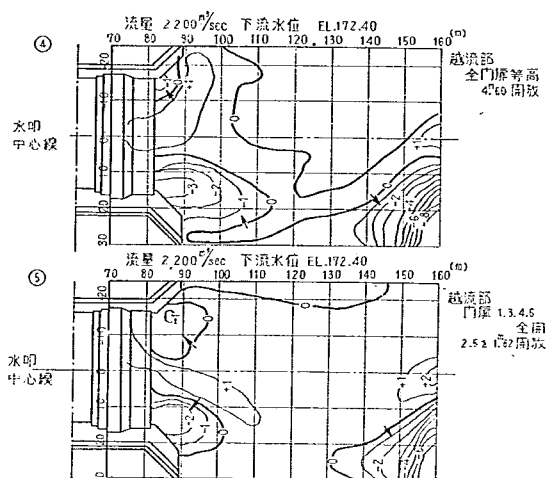


図-52 門扉操作別洗掘実験結果の比較

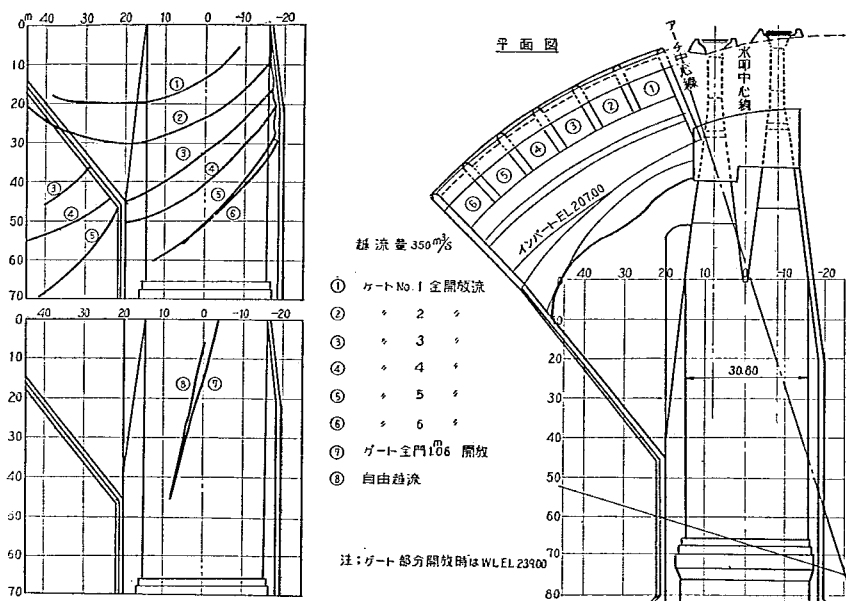


図-53(1) 越流部門扉操作別放水脈落下位置比較図

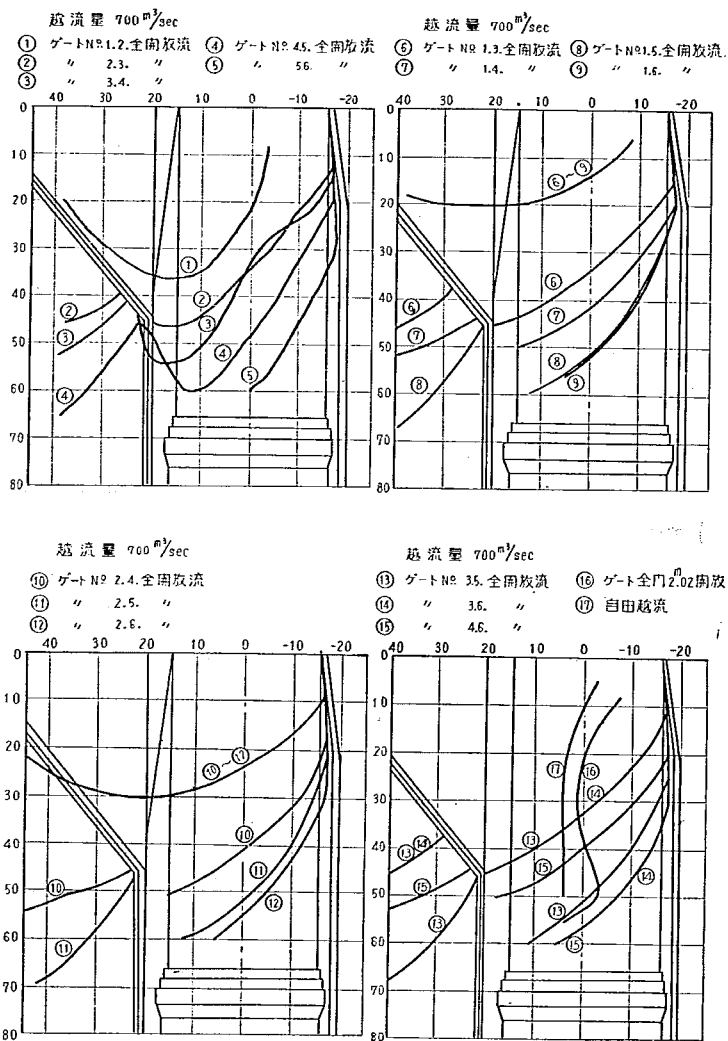


図-53 (2)

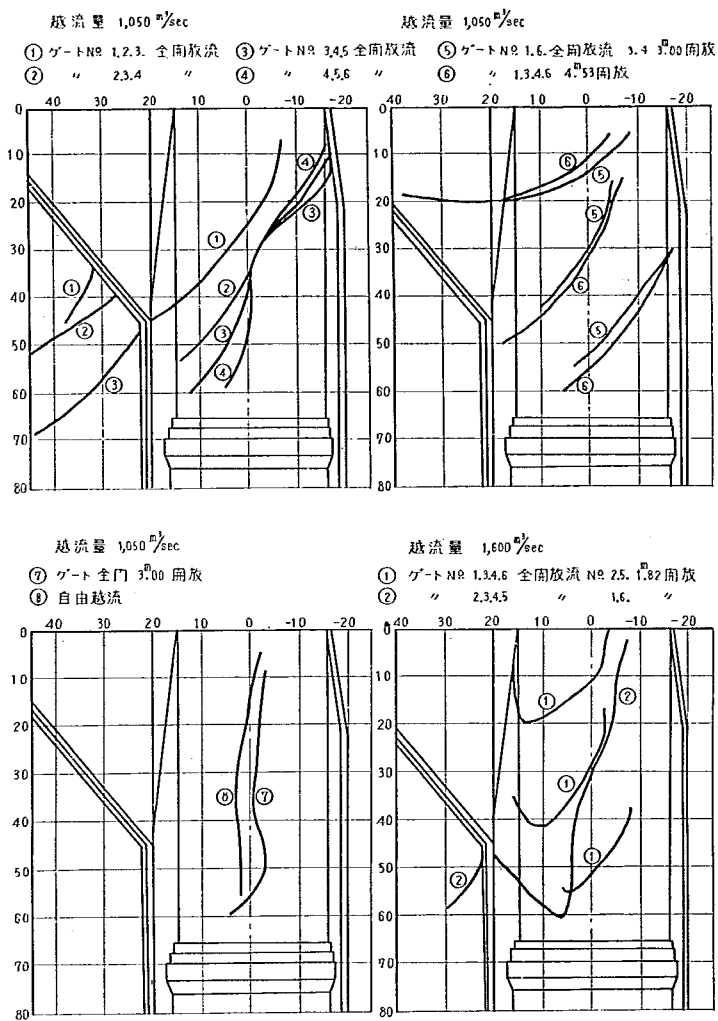


図-53 (3)

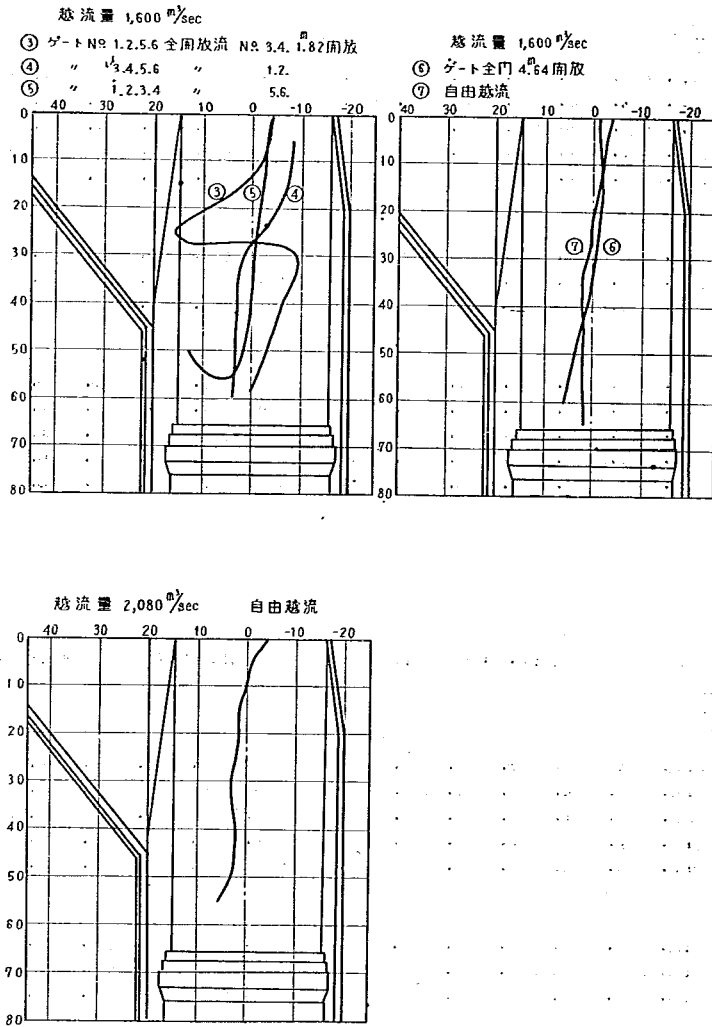


図-53 (4)

表-5 8型水叩压力分布実験値(自由越流時)

(1)

位置	種別 測點 管標高	越流水深 2.0m 流量=240m ³ /sec							越流水深 4.0m 流量=805m ³ /sec							
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	
		EL														
左岸側壁面壓力		165.00	0.44	1.08	2.40	3.00	3.08	3.04	—	0.44	1.72	3.84	4.84	3.08	3.04	—
		163.00	0.80	2.60	4.00	4.64	4.60	4.88	—	0.48	3.00	5.44	6.56	4.60	4.88	—
		161.00	2.80	4.36	5.96	6.40	6.60	6.72	—	2.92	4.52	6.60	7.96	6.60	6.72	—
		159.00	3.96	6.20	7.84	8.40	8.36	8.76	—	4.16	6.28	8.60	10.72	8.36	8.76	—
		157.00	5.96	8.20	9.84	10.28	10.36	10.76	—	5.50	9.00	12.56	13.60	10.36	10.76	—
底面壓力	No.4	155.00	8.36	9.32	11.24	11.88	12.20	12.52	—	8.88	9.96	12.52	12.68	12.20	12.52	—
	No.5	155.00	10.20	9.88	11.40	12.08	12.20	12.24	—	9.56	11.12	13.40	14.12	12.20	12.24	—
	No.6	155.00	7.88	10.12	11.24	12.12	12.04	12.48	—	8.76	9.00	12.40	11.72	12.04	12.48	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
右岸側壁面壓力		157.00	4.84	7.52	9.20	9.92	10.20	10.40	—	6.00	8.60	10.28	9.56	10.20	10.40	—
		159.00	3.00	5.96	7.56	7.96	8.20	8.40	—	4.08	7.00	8.60	7.20	8.20	8.40	—
		161.00	1.96	4.20	5.68	6.00	6.44	6.48	—	3.32	5.56	6.80	5.56	6.44	6.48	—
		163.00	0.32	2.52	3.72	4.04	4.60	4.44	—	1.00	3.88	4.80	3.56	4.60	4.44	—
		165.00	—	1.12	2.00	2.20	2.60	2.60	—	0.16	2.24	2.96	2.12	2.60	2.60	—

(2)

位置	種別 測点 管標高 測線	越流水深 6.0m 流量=1,650m ³ /sec							越流水深 7.0m 流量=2,140m ³ /sec							
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	
		EL														
左岸側壁面压力		165.00	0.56	3.80	3.92	4.24	5.80	6.72	—	2.32	4.64	4.92	4.92	4.56	7.36	—
		163.00	2.16	4.92	6.12	7.40	6.40	8.00	—	4.24	6.28	6.96	10.00	7.48	9.80	—
		161.00	4.48	7.12	6.88	9.88	8.68	11.00	—	6.32	8.68	8.44	13.68	10.96	13.84	—
		159.00	5.60	9.20	9.80	14.24	14.60	13.40	—	7.64	10.76	11.36	17.36	19.28	16.76	—
		157.00	8.32	13.00	17.12	18.08	20.20	20.48	—	10.56	15.56	18.20	23.32	25.48	22.34	—
底面压力		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	No.4	155.00	11.84	10.80	17.28	16.80	17.52	20.00	—	15.72	15.96	19.92	21.72	21.88	22.88	—
	No.5	155.00	12.00	12.80	17.00	18.92	19.00	15.20	—	14.16	15.52	20.36	20.48	20.68	16.88	—
	No.6	155.00	10.44	12.92	13.60	13.56	13.80	15.80	—	12.08	13.16	14.48	15.88	16.24	17.32	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
右岸側壁面压力		157.00	7.56	9.72	11.68	11.40	13.68	15.60	—	8.84	12.12	12.36	14.44	16.52	16.92	—
		159.00	5.64	8.80	9.96	9.52	10.40	12.72	—	6.88	8.48	10.68	12.20	12.44	14.52	—
		161.00	4.44	7.12	8.60	7.80	9.24	10.48	—	5.00	7.08	9.00	10.08	12.36	12.32	—
		163.00	2.52	4.84	6.00	5.60	7.60	8.88	—	4.08	5.40	7.04	8.04	9.96	10.84	—
		165.00	1.28	3.24	4.32	4.00	5.80	7.40	—	2.20	3.68	5.40	6.00	8.04	9.28	—

表-6 (1) 8型水叩圧力分布実験値 (門扉操作時)

位置	測線	種別 測点 管標高	門扉開度 1.0m 流量=340m³/sec							門扉開度 2.0m 流量=665m³/sec							門扉開度 3.0m 流量=983m³/sec						
			1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
			EL																				
左岸側壁面圧力		165.00	0.12	0.92	2.48	3.40	3.48	3.44	—	0.52	1.40	3.40	4.24	4.60	5.56	—	0.52	2.40	4.36	5.16	5.36	6.08	—
		163.00	0.28	2.48	4.00	5.12	5.24	5.24	—	0.76	2.88	4.92	6.08	5.84	6.84	—	1.23	3.68	5.92	7.00	6.00	6.96	—
		161.00	2.12	4.20	5.80	6.68	7.16	7.20	—	2.68	4.36	6.60	7.90	7.56	8.40	—	3.40	5.32	7.44	9.12	7.96	8.88	—
		159.00	3.44	5.96	7.72	8.44	8.76	9.08	—	3.80	6.00	8.12	9.72	10.20	9.68	—	4.84	7.08	9.32	11.24	13.20	10.24	—
		157.00	5.40	7.68	9.68	10.36	10.60	11.00	—	6.16	8.20	10.44	12.20	12.80	13.40	—	7.04	9.36	12.32	14.48	16.04	15.84	—
底面 圧力	No.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		155.00	7.88	8.72	11.24	12.00	12.36	12.76	—	10.00	9.20	12.24	12.80	12.60	12.68	—	11.40	10.12	14.48	14.32	17.00	14.92	—
		155.00	7.96	10.68	11.00	12.36	12.00	12.40	—	8.04	13.48	14.60	12.48	12.04	11.92	—	9.08	13.20	15.24	13.68	12.92	12.92	—
		155.00	7.52	9.56	11.00	11.56	11.96	12.24	—	8.20	10.76	11.80	11.64	10.60	11.72	—	9.00	11.80	12.64	12.00	11.60	13.00	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
右岸側壁面圧力		157.00	4.12	6.60	9.16	9.72	10.00	10.20	—	5.12	7.60	10.00	9.96	9.60	9.80	—	5.96	8.68	10.88	11.32	9.96	10.68	—
		159.00	2.56	5.44	7.40	7.56	7.84	8.20	—	3.44	6.32	8.00	7.84	7.80	8.08	—	4.20	7.24	9.08	7.96	7.76	9.08	—
		161.00	1.72	3.44	5.60	5.64	6.20	6.36	—	2.48	4.76	6.12	6.00	6.48	6.72	—	3.20	5.68	7.12	6.08	6.28	7.80	—
		163.00	0.16	2.12	3.56	3.72	4.32	4.60	—	0.52	2.84	4.40	4.20	4.44	4.88	—	1.08	3.80	5.08	3.92	4.52	6.24	—
		165.00	—	0.68	1.72	1.92	2.72	2.84	—	0.08	1.48	2.60	2.48	2.32	3.40	—	0.32	2.28	3.24	2.12	2.56	4.72	—

7-チダム余水吐設計に関する実験的所見

表-6 (2)

種別 測點 位置		門扉開度 4.0m 流量=1,295m³/sec							門扉開度 5.0m 流量=1,586m³/sec							
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	
左岸側壁面壓力	EL	165.00	0.56	2.52	4.36	3.60	4.88	5.48	—	0.52	3.00	3.12	3.28	4.92	5.84	—
		163.00	1.72	4.20	5.92	7.44	5.12	6.60	—	2.08	4.60	5.64	8.52	5.88	7.64	—
		161.00	3.80	6.16	7.44	10.18	7.00	9.40	—	4.52	6.36	5.88	11.92	8.44	11.20	—
		159.00	5.04	7.48	9.32	12.92	12.40	10.32	—	5.52	8.52	9.00	15.32	15.88	13.24	—
		157.00	8.08	10.16	12.32	16.96	17.60	18.28	—	8.24	11.88	18.12	21.40	22.00	20.92	—
底面壓力	No.4	155.00	12.72	10.80	14.48	15.60	18.88	16.72	—	13.56	12.20	16.16	19.40	18.92	21.84	—
	No.5	155.00	10.00	14.88	15.24	15.60	14.08	14.76	—	11.40	15.84	20.24	17.72	15.88	17.00	—
	No.6	155.00	9.80	12.20	12.64	12.64	12.60	14.56	—	10.64	12.84	13.72	13.40	13.24	16.00	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
右岸側壁面壓力		157.00	6.60	8.92	10.88	10.68	10.16	11.44	—	7.40	9.72	11.80	11.64	11.60	17.52	—
		159.00	4.84	7.48	9.08	8.52	8.16	10.08	—	5.60	8.40	10.04	9.72	9.96	12.60	—
		161.00	4.04	6.28	7.12	6.60	6.68	8.88	—	4.60	6.76	8.00	7.68	8.60	9.88	—
		163.00	2.12	4.24	5.08	4.36	4.96	7.52	—	2.84	5.00	6.00	5.40	6.40	8.20	—
		165.00	0.96	2.64	3.24	2.68	3.24	6.28	—	1.48	3.56	4.20	3.40	4.76	6.68	—

註：貯水位239.0m

表-7 放水管壓力計算值表

部 分	番 号	EL 239.0m		EL 222.0m		EL 215.0m		EL 210.0m		EL 205.0m	
		上 面	下 面	上 面	下 面	上 面	下 面	上 面	下 面	上 面	下 面
同 徑 曲 管 部	9	3.54	5.50	-2.22	0.32	-4.69	-1.90	-6.44	-3.48	-7.81	-4.72
	10	5.26	5.13	-0.78	0.33	-3.36	-1.73	-5.20	-3.19	-6.64	-4.34
	11	6.38	5.11	0.32	0.63	-0.26	-1.29	-4.11	-2.65	-5.55	-3.72
	12	7.66	5.61	1.59	1.34	-0.99	-0.48	-2.83	-1.78	-4.28	-2.90
	13	8.17	5.82	2.18	1.70	-0.39	-0.08	-2.21	-1.33	-3.64	-2.32
異 徑 曲 管 部	14	8.69	6.11	2.78	2.11	0.25	0.39	-1.56	-0.82	-2.97	-1.78
	15	9.29	6.51	3.44	2.62	0.93	0.94	-0.85	-0.24	-2.24	-1.18
	16	9.79	6.89	4.06	3.12	1.61	1.49	-0.14	0.34	-1.50	-0.57
	17	10.14	7.17	4.60	3.55	2.22	1.99	0.54	0.90	-0.78	0.02
	18	10.44	7.45	5.12	4.00	2.84	2.51	1.22	1.47	-0.06	0.63
	19	10.47	7.48	5.47	4.29	3.33	2.91	1.81	1.94	0.62	1.17
	20	9.69	6.66	5.30	4.02	3.42	2.87	2.08	2.07	1.03	1.43
	21	7.99	4.91	4.53	3.13	3.03	2.34	1.98	1.80	1.14	1.36
	22	4.65	1.44	2.67	1.08	1.79	0.91	1.19	0.80	0.69	0.70
	23	1.64	-1.68	0.85	-0.84	0.49	-0.51	0.26	-0.24	0.06	-0.06

表-8 (1) 1型放水管圧力分布実験値

上 面 圧 力 水 頭 (m)											
	番 号	EL 239.0		EL 222.0		EL 215.0		EL 210.0		EL 205.0	
		木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製
ベルマウス部	1	34.22	33.72	17.02	19.13	10.46	10.38	5.30	5.97	1.61	1.38
	2	32.61	31.96	19.44	17.16	9.60	9.04	4.80	4.96	1.38	0.88
	3	30.08	29.29	14.84	13.51	8.21	7.78	3.74	3.99	0.59	0.01
	4	28.05	25.68	13.65	11.56	7.29	6.37	3.03	2.71	0.03	-0.98
	5	25.19	22.35	11.72	9.37	6.76	4.57	1.71	1.42	-1.05	-2.00
	6	21.54	18.03	9.42	6.67	4.08	2.34	0.42	0.38	-2.13	-3.47
	7	18.63	14.30	7.29	4.23	2.13	0.60	-0.93	-1.89	-3.36	-4.68
	8	9.87	11.39	1.98	2.40	-2.01	-0.87	-4.17	-3.06	-6.12	-5.61
同径曲管部	9	7.58	9.31	0.35	1.01	-2.53	-1.81	-4.66	-3.94	-6.04	-6.10
	10	10.43	9.16	2.75	1.34	-2.23	-1.33	-4.57	-3.31	-6.01	-5.50
	11	9.14	9.81	1.97	2.20	-1.07	-0.56	-3.55	-2.42	-5.98	-4.55
	12	9.62	11.23	2.72	3.50	-3.13	0.74	-3.97	-1.15	-4.12	-3.31
	13	12.17	10.25	4.88	3.18	-1.85	0.63	-0.55	-1.08	-2.05	-3.09
異径曲管部	14	11.59	14.93	4.48	6.12	1.78	1.43	-0.31	-0.23	-1.87	-2.27
	15	11.82	15.29	4.98	4.57	2.45	2.11	0.35	0.34	-1.33	-1.67
	16	13.20	15.77	6.09	5.29	3.14	2.77	1.22	1.03	-0.70	-0.95
	17	15.17	15.43	7.76	5.43	4.73	3.06	2.96	1.41	0.86	-0.45
	18	12.93	15.53	6.75	5.89	3.95	3.41	2.26	1.99	0.83	0.22
	19	12.28	15.26	6.70	5.99	4.25	3.92	2.63	2.42	1.25	0.80
	20	9.21	15.84	6.75	6.80	4.70	4.79	3.23	3.38	2.00	1.76
	21	6.78	15.67	3.23	7.05	5.57	5.25	4.34	3.89	3.11	2.40
	22	12.04	10.33	7.42	4.14	4.37	3.09	4.37	2.12	3.32	1.43

表-8 (2)

下 面 圧 力 水 頭 (m)											
	番 号	EL 239.0		EL 222.0		EL 215.0		EL 210.0		EL 205.0	
		木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製
ベルマウス部	1	38.89	40.83	23.35	25.01	16.69	16.80	11.59	12.50	5.81	7.52
	2	33.49	36.10	21.73	22.14	15.61	14.35	10.15	10.41	6.55	5.76
	3	31.57	34.13	20.44	20.41	14.61	13.09	9.84	8.90	6.33	4.84
	4	29.05	29.62	20.02	18.15	13.09	11.07	8.65	7.62	5.23	3.54
	5	26.68	26.38	19.68	13.38	12.02	10.29	7.20	6.93	4.06	3.25
	6	22.57	21.52	14.02	10.04	8.35	8.03	4.72	5.09	2.02	1.31
	7	21.73	16.39	10.57	6.87	6.55	3.60	3.40	1.26	0.82	1.59
	8	11.11	11.19	3.82	3.52	1.18	0.88	1.72	-1.01	-2.69	-3.08
同径曲管部	9	7.10	3.03	1.31	-2.44	-1.21	-4.12	-2.83	-5.32	-4.21	-6.76
	10	7.20	6.29	1.67	-0.41	-0.49	-3.23	-2.68	-3.70	-4.00	-5.21
	11	6.08	7.89	1.10	0.89	-0.25	-2.12	-2.83	-2.50	-3.94	-4.09
	12	6.62	8.21	1.79	1.51	0.11	-1.38	1.81	-1.73	-3.07	-3.36
	13	9.86	8.28	4.25	1.79	2.06	-1.01	0.38	-1.30	-1.09	-2.74
異径曲管部	14	10.53	12.36	4.98	3.59	2.66	1.03	1.10	-0.19	-0.36	-1.30
	15	10.12	12.15	4.75	3.71	2.72	1.97	1.25	0.77	0.31	-0.64
	16	8.94	13.01	6.39	4.51	3.80	2.74	2.51	1.54	0.77	0.10
	17	11.80	13.42	6.61	4.98	4.19	3.33	2.78	2.13	1.25	0.69
	18	10.82	12.80	6.14	5.41	3.80	3.31	3.29	2.26	1.49	1.01
	19	11.47	13.14	6.79	5.27	4.91	3.83	3.56	2.81	2.51	1.58
	20	11.34	12.85	6.90	5.43	5.27	4.11	3.83	3.18	3.08	2.03
	21	10.83	12.47	6.51	5.41	5.36	4.30	4.07	3.46	3.47	2.41
	22	10.04	9.26	6.95	3.67	4.10	2.97	3.20	0.99	2.54	1.80
	23	—	6.84	—	2.05	—	1.72	—	1.51	—	1.21

表-8 (3)

側 面 圧 力 水 頭 (m)											
	番 号	EL 239.0		EL 222.0		EL 215.0		EL 210.0		EL 205.0	
		木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製
ベル マウス部	1	34.31	28.27	18.20	18.67	11.67	8.66	4.01	5.09	3.53	1.09
	2	23.29	22.20	10.37	9.91	5.57	5.59	2.29	2.53	-0.71	-0.87
	3	20.58	21.03	9.06	9.01	4.35	4.93	1.28	2.08	-1.50	-1.22
	4	17.30	17.32	7.07	6.77	2.96	3.08	0.17	0.53	-2.35	-2.39
	5	14.74	13.86	5.53	4.66	1.39	1.36	-1.04	-0.92	-3.32	-3.47
	6	10.94	11.17	3.05	2.90	-0.49	-2.20	-2.56	-2.15	-4.30	-4.37
	7	7.22	7.12	0.47	-0.35	-2.53	-2.20	-4.18	-3.88	-4.37	-5.68
	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 径曲 管部	9	9.41	6.66	2.36	-1.18	-2.92	-3.52	-5.50	-5.14	-6.97	-6.94
	10	8.51	8.79	1.85	0.44	-0.28	-1.99	-1.90	-3.77	-3.43	-5.72
	11	8.27	9.21	2.03	1.10	-0.49	-1.24	-2.66	-2.95	-4.15	-4.81
	12	9.23	10.30	3.14	2.28	0.26	-0.09	-1.15	-1.74	-3.28	-3.63
	13	11.72	9.35	4.88	1.90	1.92	-0.46	0.47	-1.79	-1.48	-3.50
異 径 曲 管 部	14	12.55	13.53	5.35	3.80	2.69	1.61	1.56	0.11	-0.82	-1.81
	15	11.44	13.57	5.29	4.05	2.30	1.95	1.38	0.54	-0.85	-1.26
	16	10.00	13.56	4.45	4.34	1.64	2.36	1.14	0.92	-0.94	-0.23
	17	10.27	13.62	4.84	4.67	2.27	2.81	1.14	1.43	-0.25	-0.13
	18	10.21	13.82	5.11	5.08	2.84	3.28	1.14	1.99	0.38	0.43
	19	11.56	12.70	5.55	4.74	3.68	3.15	1.11	1.98	1.19	0.69
	20	17.95	12.89	7.15	5.20	4.34	3.64	1.02	2.61	1.88	1.35
	21	10.42	11.96	6.25	4.90	4.16	3.61	0.93	2.94	2.15	0.29
	22	8.89	8.89	5.59	3.30	3.83	0.52	0.81	1.95	2.24	1.29
	23	—	5.32	—	0.30	—	0.24	—	0.09	—	0.24

表-8 (4)

上 隅 部 圧 力 水 頭 (m)											
	番 号	EL 239.0		EL 222.0		EL 215.0		EL 210.0		EL 205.0	
		木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製
ベル マウス部	1	35.33	36.45	18.23	19.58	—	11.07	5.24	6.57	2.27	1.56
	2	33.25	32.22	16.75	18.52	—	10.37	5.72	6.17	2.42	1.52
	3	28.79	31.63	15.77	14.86	—	9.16	5.72	5.20	1.37	0.88
	4	27.66	27.61	13.17	12.46	7.50	7.24	7.27	3.61	0.15	-0.26
	5	20.09	22.05	8.42	12.13	3.73	4.51	0.35	1.42	-2.21	-1.94
	6	14.15	17.11	4.73	6.08	1.10	2.12	-2.27	-0.64	-4.37	-3.46
	7	7.07	12.74	-0.11	3.30	-0.80	0.09	-3.44	-2.43	-4.64	-4.89
	8	—	8.07	—	0.40	—	-2.48	—	-4.43	—	-6.38
同 径曲 管部	9	7.09	8.56	1.02	0.80	-2.50	-2.05	-4.42	-3.55	-5.89	-5.86
	10	7.18	8.45	0.43	1.08	-2.50	-1.53	-4.39	-3.18	-5.86	-5.40
	11	8.21	9.78	1.46	2.17	-1.12	-0.50	-3.46	-2.12	-5.47	-4.34
	12	10.14	11.30	3.39	2.44	0.26	-0.29	-1.75	-2.15	-3.43	-3.92
	13	12.11	10.86	4.97	2.39	1.58	-0.16	-0.46	-1.93	-2.05	-3.91
異 径 曲 管 部	14	11.25	11.51	4.23	4.03	1.89	1.45	0.09	-0.38	-1.56	-2.39
	15	11.17	11.49	4.54	4.40	1.98	1.85	0.27	0.11	-1.29	-1.87
	16	12.63	12.16	5.82	5.01	3.21	2.57	1.56	0.83	-0.09	-1.12
	17	12.61	11.86	6.01	4.98	3.12	3.20	1.41	1.20	-0.03	-0.60
	18	14.29	11.64	2.60	5.30	4.82	3.23	3.06	1.79	1.56	0.05
	19	12.25	12.20	5.58	5.34	4.95	3.39	3.27	2.11	1.92	0.51
	20	12.18	12.38	6.78	5.82	4.44	3.96	3.00	2.76	1.89	1.35
	21	11.07	12.88	6.36	6.47	4.32	4.67	3.06	3.59	2.22	2.15
	22	9.79	8.05	5.92	2.64	4.59	1.86	3.42	1.41	2.73	0.81

表-8 (5)

下 開 部 圧 力 水 頭 (m)											
	番 号	EL 239.0		EL 222.0		EL 215.0		EL 210.0		EL 205.0	
		木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製	木 製	金属製
ベル マウス 部	1	22.82	28.16	13.97	14.43	9.02	9.53	5.24	6.26	-0.64	2.57
	2	22.40	21.04	11.45	9.65	6.62	5.93	3.08	3.20	-2.20	0.17
	3	16.94	15.25	7.58	6.08	4.31	3.05	1.64	0.74	-3.88	-0.81
	4	10.66	12.64	3.35	4.31	0.43	1.55	-1.94	-0.49	-3.61	-1.86
	5	5.51	7.77	-0.10	1.18	-2.11	-1.01	-2.20	-2.63	-3.53	-4.46
	6	3.17	2.93	-1.45	1.77	-2.17	-2.40	-3.59	-3.65	-3.82	-5.91
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 径 曲 管 部	9	4.04	2.22	-0.91	-2.74	-2.83	-2.87	-3.94	-3.34	-5.20	-5.69
	10	5.81	6.91	0.56	-0.09	2.14	-2.17	-3.76	-3.63	-4.96	-5.25
	11	4.97	7.89	0.36	0.89	-1.46	-1.24	-4.06	-2.65	-5.11	-4.27
	12	6.92	9.12	2.00	2.09	0.20	-0.01	-1.15	-1.45	-3.46	-3.10
	13	8.30	7.63	3.17	3.35	0.84	-0.48	-0.52	-1.71	-1.90	-2.12
異 径 曲 管 部	14	8.54	9.69	3.65	3.65	-1.17	-1.15	-2.55	-2.50	-3.81	-4.09
	15	9.39	9.89	4.50	4.09	-0.18	-0.71	-1.83	-2.00	-3.09	-3.53
	16	10.16	10.11	5.27	4.52	0.78	-0.10	-0.63	-1.48	-2.28	-2.95
	17	10.03	10.48	5.26	4.95	0.87	0.27	-0.30	-0.96	-1.68	-2.40
	18	9.68	9.92	5.21	4.84	1.02	0.31	-0.03	-0.77	-1.26	-2.09
	19	9.47	9.68	5.30	4.99	1.32	0.76	0.27	-0.23	0.24	-1.60
	20	9.46	9.78	5.68	5.32	2.73	1.12	0.93	0.18	-0.03	-1.04
	21	10.93	9.11	6.64	5.14	3.18	1.15	2.25	0.25	1.26	-0.80
	22	9.07	7.44	5.98	3.81	3.45	0.21	2.67	-0.36	1.86	-1.08

表-9 2型越流部水位—流量関係実験値

番 号	自 由 越 流 時			門扉開度 1 m 等		門扉開度 2 m 等		門扉開度 3 m 等		門扉開度 4 m 等		門扉開度 5 m 等	
	H	Q	C	H	Q	H	Q	H	Q	H	Q	H	Q
1	0.80	60.7	1.571	2.11	172.0	3.78	476.6	4.36	794.4	5.96	1,269.9	6.40	1,722.3
2	1.02	70.8	—	2.47	189.7	4.39	526.2	4.91	839.9	6.06	1,290.2	7.18	1,722.8
3	1.55	172.0	1.654	2.92	207.4	4.40	523.7	5.29	880.4	6.25	1,270.0	7.30	1,725.0
4	1.98	232.7	—	3.15	217.6	4.87	556.7	5.74	931.0	6.26	1,290.2	7.64	1,801.2
5	2.37	334.1	1.749	3.34	222.6	5.46	584.9	6.28	981.6	6.31	1,295.2	7.74	1,816.4
6	2.76	430.1	1.741	4.47	263.1	5.68	607.2	6.59	1,006.9	6.94	1,366.1	—	—
7	2.94	506.0	1.859	4.98	283.3	6.43	657.8	7.07	1,057.5	7.38	1,452.1	—	—
8	3.20	571.7	1.853	5.55	298.5	7.11	698.2	7.58	1,107.6	7.44	1,442.0	—	—
9	3.59	652.7	1.849	5.92	308.6	7.52	723.5	—	—	—	—	—	—
10	3.90	784.2	1.886	6.60	317.7	—	—	—	—	—	—	—	—
11	4.00	819.7	1.897	7.34	336.0	—	—	—	—	—	—	—	—
12	4.48	1,011.9	1.979	7.96	349.1	—	—	—	—	—	—	—	—
13	4.68	1,087.8	1.990	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	5.11	1,249.7	2.002	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	5.49	1,404.5	2.023	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16	5.77	1,517.9	2.029	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17	6.14	1,684.9	2.049	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18	6.43	1,812.4	2.133	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19	6.73	1,942.9	2.062	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	7.05	2,120.0	2.096	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	7.48	2,352.7	2.130	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表-10 2型越流部と4型フリップバケットの圧力分布実験値

部分	番号	測点座標		自由越流時, 越流深				門扉等高操作時, 貯水位 239.0			
		X	Y	2.00	4.00	6.00	7.00	1.00	2.00	3.00	4.00
越流部	1	0	0.863	2.82	3.80	3.80	3.60	7.74	7.56	6.86	6.00
	2	0.700	0.250	2.48	3.52	3.00	2.60	7.44	7.20	6.40	5.22
	3	2.000	0	1.36	1.86	1.32	1.40	7.32	5.76	4.40	3.60
	4	3.000	0.123	1.20	1.52	1.22	1.20	6.74	4.40	3.16	2.40
	5	4.000	0.389	1.00	1.24	1.10	1.18	4.40	2.20	1.80	1.60
	6	4.900	0.760	0.88	1.24	1.08	1.18	0.40	0.64	0.84	0.96
	7	5.800	1.236	0.68	0.96	1.00	1.14	0.28	0.30	0.40	0.52
	8	6.600	1.740	0.70	0.86	0.94	1.10	0.20	0.24	0.30	0.36
	9	7.400	2.325	0.64	0.84	0.92	1.00	0.16	0.20	0.26	0.38
	10	8.200	2.982	0.66	0.74	0.90	1.00	0.60	0.72	0.84	0.96
	11	8.900	3.615	0.64	0.74	0.94	0.98	1.00	1.10	1.24	1.36
	12	9.700	4.115	0.58	0.72	0.84	0.90	0.88	1.08	1.16	1.20
	13	11.100	5.949	0.56	0.68	0.76	0.78	0.76	0.90	0.98	1.00
	14	12.300	7.435	0.54	0.66	0.70	0.72	0.70	0.72	0.76	0.80
	15	12.727	8.000	0.52	0.60	0.64	0.64	0.60	0.56	0.66	0.72
	16	14.143	10.000	0.04	0.04	0.04	0.00	0.18	0.10	0.28	0.28
	17	15.438	12.000	0.00	0.04	0.00	0.00	0.12	0.08	-0.12	-0.08
	18	16.640	14.000	0.24	0.32	0.44	0.48	0.24	0.28	0.32	0.36
	19	17.766	16.000	0.28	0.48	0.76	0.92	0.36	0.44	0.56	0.68
	20	18.307	17.000	0.08	0.08	0.28	0.56	-0.04	0.00	0.00	0.20
	21	19.084	18.500	0.00	0.28	1.12	2.00	0.08	0.32	0.64	1.16
フリップバケット	1	19.747	19.703	1.56	2.76	4.80	5.92	2.12	3.04	4.16	4.76
	2	20.406	20.773	2.12	4.32	7.36	8.96	3.12	4.84	6.16	7.48
	3	21.718	22.282	1.72	4.20	8.24	10.48	2.88	4.76	6.56	8.60
	4	23.312	23.505	1.24	3.96	8.40	10.72	2.12	4.20	6.08	8.28
	5	25.108	24.381	0.88	3.84	8.16	10.72	1.72	3.92	5.76	7.88
	6	27.042	24.882	0.68	3.88	7.68	9.72	1.68	3.80	5.44	7.04
	7	28.572	25.000	0.12	1.60	3.60	4.68	0.52	1.44	2.32	3.12

表-11 (1) 水叩内圧力分布実験値 水叩8型フリップバケット4型

実験種別		門 扉 操 作 時 流量 1,100 m ³ /sec 下流水位 EL 166.0m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	EL													
左 岸 側 壁 面 圧 力	1 173	—	—	—	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
	2 171	—	—	—	—	0	—	0	—	0.08	—	0	—	0
	3 169	—	—	—	—	0.08	—	0.16	—	0.40	—	0.60	—	0.40
	4 167	—	—	—	—	1.32	—	1.68	—	1.88	—	2.12	—	2.28
	5 165	0.08	—	0.44	—	2.08	—	2.44	—	3.08	—	3.38	—	3.40
	6 163	0.16	—	1.88	—	4.00	—	4.08	—	4.72	—	5.48	—	4.52
	7 161	1.28	—	3.44 (5.48)	—	5.72	—	5.76	—	6.16	—	7.32	—	—
	8 159	3.32	—	5.20	—	7.48	—	7.40	—	7.08	—	9.16	—	—
	9 157	5.48	—	6.92	—	9.36	—	9.40	—	9.88	—	11.12	—	—
水 叩 底 面 圧 力	a EL 155	6.80	8.24	9.64	10.80	11.16	11.64	11.72	11.80	12.44	13.20	13.64	15.04	—
	b “	6.20	6.72	8.16	10.12	10.84	11.32	11.32	11.60	12.28	12.52	12.80	14.36	—
	4 “	6.12	7.08	8.60	9.96	10.72	10.92	11.04	11.20	11.32	11.96	12.08	15.56	—
	c “	6.76	7.40	9.72	10.24	10.72	11.40	11.08	11.84	12.00	12.20	11.76	15.00	—
	5 “	5.88	8.92	10.40	12.40	12.20	12.40	11.16	12.92	12.68	11.32	11.56	14.28	—
	d “	5.40	7.04	8.60	9.12	19.32	10.20	10.52	10.96	11.00	11.04	11.56	12.60	—
	6 “	4.20	7.48	8.20	9.12	10.36	10.52	11.08	11.12	11.16	11.16	11.40	11.96	—
	e “	6.24	6.52	7.24	8.60	9.48	10.40	10.92	11.24	11.72	11.80	11.84	11.88	—
f “	6.44	7.32	8.24	9.32	10.00	10.60	11.00	11.24	11.56	11.72	11.76	12.92	—	
右 岸 側 壁 面 圧 力	10 EL 157	3.48	—	6.20	—	8.04	—	8.82	—	9.60	—	9.04	—	—
	11 159	2.20	—	5.00	—	6.28	—	7.00	—	7.72	—	7.64	—	—
	12 161	1.08	—	3.08	—	4.48	—	5.28	—	5.52	—	5.88	—	—
	13 163	0.12	—	1.20	—	2.92	—	3.44	—	3.84	—	4.08	—	4.60
	14 165	0.20	—	0.40	—	1.32	—	1.72	—	2.00	—	2.40	—	3.04
	15 167	0.08	—	0.20	—	0.28	—	0.44	—	0.52	—	0.80	—	1.40
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	0.12	—	0.16	—	0.28
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.28	—	0.16	—	0.32
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.12	—	0.12	—	0

表-11 (2)

実験種別		門 扉 操 作 時 流量 1,100 m ³ /sec 下流水位 EL 168.0m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左 岸 側 壁 面 圧 力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
	2 171	—	—	—	—	0.04	—	0.04	—	0.12	—	0.08	—	0
	3 169	—	—	—	—	0.28	—	0.40	—	0.84	—	1.20	—	0.92
	4 167	—	—	—	—	2.52	—	2.44	—	2.40	—	2.72	—	2.60
	5 165	0.08	—	1.44	—	2.76	—	3.32	—	4.12	—	4.60	—	4.12
	6 163	1.32	—	3.04	—	4.76	—	5.04	—	5.76	—	6.44	—	5.56
	7 161	3.40	—	5.12	—	6.72	—	6.80	—	7.40	—	8.20	—	—
	8 159	4.52	—	6.60	—	8.52	—	8.44	—	9.32	—	10.12	—	—
	9 157	6.68	—	8.12	—	8.68	—	10.52	—	11.16	—	11.80	—	—
水 叩 底 面 圧 力	EL													
	a 155	8.40	9.72	11.20	12.04	12.60	12.64	12.44	12.72	13.24	13.88	14.20	16.00	—
	b ♢	7.44	8.40	10.00	11.44	12.12	12.40	12.60	12.64	12.92	13.40	13.84	15.20	—
	4 ♢	7.80	9.04	10.84	11.56	12.04	12.32	12.20	12.36	12.24	12.92	13.00	16.28	—
	c ♢	7.92	9.12	11.04	11.72	11.92	12.44	12.12	12.64	13.00	13.04	12.80	16.36	—
	5 ♢	7.72	10.24	13.56	13.08	12.64	13.24	12.20	12.92	13.52	12.44	12.20	15.52	—
	d ♢	7.16	8.80	10.20	10.76	11.00	11.04	11.52	12.12	12.24	12.32	12.68	13.80	—
	6 ♢	5.92	8.00	9.72	10.44	11.32	11.20	11.80	12.20	12.40	12.60	12.76	13.12	—
右 岸 側 壁 面 圧 力	e ♢	7.32	7.96	8.92	10.60	11.32	11.64	12.24	12.24	12.28	12.60	12.76	12.92	—
	f ♢	7.72	8.64	10.00	11.04	11.32	11.84	12.12	12.20	12.52	12.76	12.60	13.44	—
	EL													
	10 157	5.32	—	7.64	—	9.68	—	10.28	—	10.68	—	10.80	—	—
	11 159	3.56	—	6.28	—	7.80	—	8.12	—	8.88	—	8.88	—	—
	12 161	1.92	—	4.56	—	5.72	—	6.16	—	9.12	—	6.92	—	—
	13 163	0.44	—	2.52	—	4.00	—	4.52	—	5.12	—	5.44	—	5.52
	14 165	0.28	—	0.96	—	2.20	—	2.64	—	3.16	—	3.44	—	3.64
	15 167	0.36	—	0.36	—	0.48	—	1.12	—	1.48	—	1.80	—	1.88
右 岸 側 壁 面 圧 力	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	0.28	—	0.32	—	0.56
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.32	—	0.24	—	0.28
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.16	—	0.12	—	0.04

表-11 (3)

実験種別		門 扉 操 作 時 流量 1,100 m ³ /sec 下流水位 EL 170.0m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左 岸 側 壁 面 圧 力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
	2 171	—	—	—	—	0.28	—	0.32	—	0.48	—	0.52	—	0.60
	3 169	—	—	—	—	1.00	—	1.60	—	2.00	—	2.20	—	2.00
	4 167	—	—	—	—	3.16	—	3.28	—	3.64	—	3.80	—	3.52
	5 165	1.04	—	2.48	—	4.28	—	5.12	—	5.40	—	5.68	—	5.40
	6 163	3.00	—	4.24	—	6.24	—	6.84	—	7.20	—	7.60	—	7.04
	7 161	4.68	—	5.92	—	8.20	—	8.72	—	8.92	—	9.24	—	—
	8 159	6.36	—	7.88	—	10.12	—	10.40	—	10.88	—	11.00	—	—
9 157	8.72	—	10.00	—	11.96	—	12.00	—	12.64	—	12.56	—	—	
水 叩 底 面 圧 力	a EL	(10.20)	(11.40)	(12.60)	(13.40)	(13.88)								
	155	10.02	11.26	12.21	13.24	13.80	14.40	14.60	14.80	15.00	15.20	15.24	16.48	—
	b ♡	9.40	10.12	11.60	12.72	13.80	14.08	14.28	14.32	14.48	14.60	14.48	15.20	—
	4 ♡	9.40	10.40	11.68	12.68	13.32	13.44	13.82	13.36	14.40	14.64	14.88	15.92	—
	c ♡	9.40	10.96	12.48	12.92	13.04	13.56	13.58	14.24	14.44	14.36	14.40	16.28	—
	5 ♡	9.44	11.88	12.60	13.90	13.68	14.08	13.40	13.68	14.00	13.80	14.00	15.28	—
	d ♡	9.00	10.52	11.96	12.28	12.48	13.04	13.20	13.64	13.80	13.80	14.12	15.04	—
	6 ♡	7.88	10.00	11.68	12.48	13.08	12.96	13.48	13.52	13.60	13.80	13.80	14.08	—
右 岸 側 壁 面 圧 力	e ♡	9.48	10.20	11.28	12.48	12.88	13.40	13.68	13.80	14.04	14.40	14.44	14.48	—
	f ♡	10.60	10.96	12.28	13.00	13.44	13.52	13.76	13.96	14.00	14.20	14.40	14.88	—
	10 EL	157	7.12	—	9.36	—	11.52	—	11.80	—	12.44	—	12.20	—
	11 159	5.48	—	7.40	—	9.68	—	9.68	—	10.40	—	10.20	—	—
	12 161	4.00	—	6.26	—	9.00	—	7.84	—	8.24	—	8.32	—	—
	13 163	1.60	—	4.08	—	5.84	—	5.96	—	6.40	—	6.40	—	7.08
	14 165	0.88	—	2.80	—	3.80	—	4.16	—	4.48	—	4.76	—	5.62
	15 167	0.40	—	1.40	—	1.88	—	2.40	—	2.80	—	3.16	—	3.44
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00	—	1.40	—	1.80
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.28	—	0.24	—	0.72
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.20	—	0.20	—	0.12

表-11 (4)

実験種別		門 扉 操 作 時 流量 1,600 m ³ /sec 下流水位 EL 168.0m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左 岸 側 壁 面 圧 力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0.12	—	0.60	—	0.08	—	0.20	—	0
	2 171	—	—	—	—	0.08	—	0.08	—	0.36	—	1.20	—	1.60
	3 169	—	—	—	—	0.04	—	0.68	—	1.48	—	2.72	—	3.20
	4 167	—	—	—	—	1.36	—	3.12	—	3.20	—	4.28	—	4.20
	5 165	0.32	—	1.48	—	2.72	—	3.40	—	4.68	—	5.40	—	3.52
	6 163	2.00	—	2.88	—	4.40	—	5.36	—	6.32	—	6.40	—	4.08
	7 161	4.40	—	4.80	—	6.48	—	7.00	—	8.00	—	8.36	—	—
	8 159	2.40	—	6.60	—	8.20	—	8.92	—	10.88	—	10.60	—	—
	9 157	8.00	—	8.20	—	10.00	—	11.80	—	14.80	—	15.64	—	—
水 叩 底 面 圧 力	a EL													
	155	8.76	9.84	10.24	11.16	12.20	12.64	12.96	14.92	17.04	17.40	18.24	20.92	—
	b 〃	8.00	8.48	10.24	11.12	12.20	12.56	12.80	13.48	15.40	15.44	15.60	20.20	—
	4 〃	8.80	9.20	9.84	10.72	11.64	12.16	12.84	13.48	13.96	15.72	13.88	20.60	—
	c 〃	8.40	9.36	11.08	11.08	12.32	12.92	12.48	13.40	13.76	14.36	13.08	18.72	—
	5 〃	7.40	10.00	13.56	13.40	13.72	11.96	12.60	12.24	11.88	11.80	12.56	17.60	—
	d 〃	6.92	9.40	10.96	10.92	10.84	11.12	10.80	11.20	11.20	11.36	12.40	15.32	—
	6 〃	5.80	8.28	10.36	10.88	11.64	11.40	11.44	11.12	11.00	10.92	11.60	13.44	—
右 岸 側 壁 面 圧 力	e 〃	7.40	8.20	9.52	11.08	11.44	11.72	11.44	11.20	11.00	11.24	11.20	12.24	—
	f 〃	8.08	8.80	10.60	11.56	11.64	11.48	11.44	11.64	11.32	11.36	11.20	15.00	—
	10 EL													
	157	7.52	—	8.00	—	9.40	—	9.24	—	8.88	—	9.48	—	—
	11 159	4.52	—	6.04	—	7.48	—	7.24	—	7.20	—	7.60	—	—
	12 161	2.02	—	4.56	—	5.60	—	5.32	—	5.08	—	5.92	—	—
	13 163	0.40	—	2.88	—	3.84	—	3.60	—	3.56	—	4.84	—	6.04
	14 165	0.08	—	1.24	—	2.00	—	1.88	—	1.80	—	3.08	—	4.28
	15 167	0.24	—	0.40	—	0.48	—	1.72	—	0.60	—	1.92	—	3.08
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	0.20	—	0.20	—	1.64
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.32	—	0.20	—	0.32
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.20	—	0.24	—	0.16

表-11 (5)

実験種別		門 扉 操 作 時 流量 1,600 m³/sec 下流水位 EL 170.0m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左 岸 側 壁 面 圧 力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
	2 171	—	—	—	—	0.20	—	0.20	—	0.56	—	11.60	—	1.88
	3 169	—	—	—	—	1.16	—	1.60	—	2.00	—	2.84	—	3.32
	4 167	—	—	—	—	2.40	—	3.72	—	3.72	—	4.60	—	4.80
	5 165	(1.24) 1.06	—	2.72	—	(4.80) 4.50	—	4.72	—	5.56	—	5.88	—	5.00
	6 163	(3.00) 2.76	—	4.44	—	5.60	—	6.68	—	7.32	—	7.44	—	5.72
	7 161	(4.80) 4.60	—	6.36	—	8.20	—	8.00	—	8.96	—	9.24	—	—
	8 159	(6.40) 6.18	—	7.60	—	9.64	—	(10.40) 10.18	—	11.60	—	11.72	—	—
9 157	(8.68) 8.34	—	9.40	—	11.60	—	(12.40) 12.10	—	15.16	—	15.84	—	—	
水 叩 底 面 圧 力	a EL													
	155	10.20	10.88	11.80	12.80	(13.88) 13.56	(14.44) 14.20	(14.72) 14.40	(15.96) 15.20	(16.28) 15.98	(17.80) 17.30	(19.52) 18.86	(22.28) 21.80	—
	b "	9.80	9.88	11.12	12.32	13.08	13.68	14.12	14.88	(15.96) 15.54	(15.84) 15.28	(15.88) 15.58	(21.92) 21.22	—
	4 "	(10.20) 9.92	(10.52) 10.28	(11.32) 11.08	(12.36) 12.04	(13.48) 13.04	13.60	14.08	14.36	14.92	15.60	14.52	(19.52) 18.12	—
	c "	8.72	10.40	12.20	12.92	13.48	14.92	13.72	14.72	15.48	14.76	(15.12) 15.00	(16.68) 16.20	—
	5 "	9.60	(14.56) 11.40	13.12	13.48	14.20	13.32	13.48	13.08	12.84	12.88	13.60	(18.20) 17.34	—
	d "	8.84	10.92	12.60	12.40	12.40	12.08	12.20	12.00	12.00	12.20	13.32	(17.08) 16.64	—
	6 "	7.80	10.12	11.80	12.28	12.76	12.08	12.92	(13.08) 12.58	(12.68) 12.40	(12.04) 12.00	(13.32) 12.92	(15.48) 15.20	—
e "	9.10	10.40	11.40	12.68	(12.84) 12.00	(13.00) 12.74	(13.08) 12.80	12.52	12.40	12.40	12.68	(14.28) 13.40	—	
f "	(11.82) 9.80	11.08	12.28	(13.28) 12.98	(13.40) 12.92	(13.08) 12.80	(12.88) 12.58	12.76	12.68	12.60	13.08	(16.72) 16.21	—	
右 岸 側 壁 面 圧 力	EL													
	10 157	6.64	—	9.72	—	11.00	—	11.20	—	10.04	—	10.92	—	—
	11 159	5.08	—	8.00	—	9.56	—	8.88	—	8.40	—	9.12	—	—
	12 161	3.92	—	6.40	—	7.52	—	7.00	—	7.00	—	7.60	—	—
	13 163	1.68	—	4.40	—	5.56	—	5.12	—	4.92	—	6.20	—	7.40
	14 165	1.00	—	2.88	—	3.60	—	3.28	—	3.00	—	4.16	—	5.68
	15 167	0.52	—	1.28	—	1.68	—	1.32	—	1.28	—	3.00	—	4.12
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	0.60	—	1.44	—	2.48
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.32	—	0.40	—	0.84
18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.28	—	0.28	—	0.20	

表-11 (6)

実験種別		門 扉 操 作 時 流量 1,600 m ³ /sec 下流水位 EL 172.00m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左岸 側壁 面圧 力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0	—	0.40	—	0.40	—	0.40	—	0
	2 171	—	—	—	—	0.2 (2.84) 2.28	—	1.36	—	1.80	—	1.92	—	2.72
	3 169	—	—	—	—	—	—	3.52	—	3.51	—	3.92	—	4.40
	4 167	—	—	—	—	4.60 (6.28)	—	5.16	—	5.28	—	5.64	—	5.96
	5 165	(3.08) 2.76	—	4.80 (6.08) 5.74	—	5.70 (7.72) 7.32	—	6.80	—	7.20	—	7.72	—	6.72
	6 163	(4.92) 4.60	—	(6.08) 5.74	—	(7.72) 7.32	—	8.60	—	9.00	—	9.40	—	8.12
	7 161	(6.68) 6.38	—	(7.92) 7.56	—	(9.96) 9.54	—	10.40	—	10.96	—	11.40	—	—
	8 159	(8.60) 8.14	—	(9.56) 9.24	—	10.92	—	12.20	—	12.20	—	13.60	—	—
	9 157	(10.88) 10.58	—	(11.12) 10.86	—	13.12	—	14.40	—	15.00	—	15.80	—	—
水 叩 底 面 圧 力	a 155	12.20	12.88	13.40	14.40	15.32	15.96	16.20	16.80	17.36	18.28	19.32	21.68 (22.08) 21.14	—
	b 〃	11.72	11.80	12.48	13.60	14.80	15.56	16.08	16.44	17.20	17.20	18.08	(21.44) 20.92	—
	c 〃	11.60	12.00	12.68	13.60	13.80	15.24	15.80	16.36	16.96	17.40	16.92 (16.00) 20.16	(20.72) 20.16	—
	d 〃	10.32	12.40	13.88	15.08	15.16	15.12	15.40	16.36	16.80	16.92	15.44 (20.08) 19.24	(17.28) 17.00	—
	e 〃	10.52	12.64	14.20	14.00	13.72	13.60	13.48	13.40	13.52	14.20	15.60	16.36	—
	f 〃	9.68	12.08	13.68	14.04	14.40	13.80	13.28	13.32	13.40	13.68	14.96	16.36	—
	10 157	10.88	12.20	13.32	14.20	14.68	14.20	14.48	13.12	13.20	14.08	15.24	16.20	—
右岸 側壁 面圧 力	11 159	11.00	12.08	13.24	15.00	15.80	14.60	14.20	14.00	13.60	14.20	15.36	17.92	—
	12 161	8.28	—	11.00	—	12.40	—	11.96	—	11.92	—	13.56	—	—
	13 163	6.60	—	9.56	—	10.60	—	9.64	—	10.12	—	11.32	—	—
	14 165	5.32	—	7.80	—	8.52	—	8.12	—	8.08	—	9.36	—	—
	15 167	3.04	—	5.72	—	6.76	—	6.24	—	6.12	—	7.80	—	9.20
	16 168	2.20	—	4.00	—	4.64	—	4.28	—	4.20	—	6.20	—	7.48
	17 171	1.12	—	2.44	—	2.60	—	2.88	—	3.08	—	4.80	—	5.72
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	1.60	—	3.24	—	4.04
		—	—	—	—	—	—	—	—	0.40	—	1.72	—	2.40
		—	—	—	—	—	—	—	—	0.20	—	0.60	—	0.92

表-11 (7)

実験種別		門 扉 操 作 時 流量 2,200 m³/sec 下流水位 EL 170.40m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左 岸 側 壁 面 圧 力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0	—	0	—	1.56	—	3.00	—	0.68
	2 171	—	—	—	—	0.12 (1.80)	—	0.76	—	3.08	—	4.00	—	2.48
	3 169	—	—	—	—	1.46	—	2.60	—	3.40	—	4.28	—	3.48
	4 167	—	—	—	—	3.32	—	4.52	—	4.76	—	5.80	—	5.24
	5 165	0.88	—	3.24	—	5.28	—	5.60	—	5.28	—	6.00	—	4.00
	6 163	1.88 (4.60)	—	4.60	—	6.92	—	7.48	—	7.32	—	7.16	—	5.08
	7 161	3.96 (5.72)	—	6.76	—	8.56	—	8.80	—	8.68	—	9.92	—	—
	8 159	5.24 (7.96)	—	8.04	—	10.52	—	11.92 (16.80)	—	13.16 (20.00)	—	12.92	—	—
9 157	7.40	—	9.56	—	13.28	—	16.30	—	19.14	—	20.44	—	—	
水 叩 底 面 圧 力	a 155	(9.02) 9.00	11.20	(12.64) 12.60	(14.04) 13.88	(15.48) 15.02	(17.80) 17.54	(20.60) 19.96	(22.04) 21.56	(22.92) 22.64	(26.64) 25.56	(24.30) 24.24	(29.44) 28.92	—
	b ♀	9.60 (13.44)	10.00 (11.96)	11.00	12.80	14.24	15.48	16.44	17.28	18.84 (18.72)	18.20 (21.28)	18.26 (16.40)	(26.80) (26.12)	—
	4 ♀	12.50	11.54	10.44	12.20	13.04	13.72	15.04	16.76	18.22 (23.08)	20.32	16.00	24.14	—
	c ♀	11.92	11.80	12.52	13.60	14.00	(17.32) 16.70	(18.40) 17.54	(21.60) 20.46	(23.08) 22.12	20.40	16.52	24.68	—
	5 ♀	9.60	12.00	14.12	16.24	14.28	(17.28) 16.60	(18.12) 17.48	(18.52) 17.36	(17.72) 17.00	(15.92) 15.16	14.20	19.80	—
	d ♀	8.12	10.80	12.80	12.16	11.84	11.80	11.44	11.00	11.16	12.28	13.96	18.00	—
	6 ♀	7.32	10.52	11.80	12.00	12.56	12.28	12.20	11.56	11.48	12.60	13.88	17.00	—
	e ♀	7.90	9.88	11.16	12.04	12.60	11.88	11.96	11.80	12.00	12.60	13.88	16.84	—
f ♀	8.52	9.88	11.40	12.52	12.80	12.20	12.28	12.12	12.00	12.84	13.20	19.40	—	
右 岸 側 壁 面 圧 力	10 157	6.36	—	9.60	—	10.84	—	10.20	—	10.48	—	12.88	—	—
	11 159	4.80	—	8.20	—	6.92	—	8.20	—	6.60	—	10.64	—	—
	12 161	3.68	—	6.52	—	6.92	—	6.48	—	6.60	—	8.60	—	—
	13 163	1.68	—	4.52	—	5.04	—	4.48	—	4.80	—	6.80	—	8.20
	14 165	1.12	—	2.88	—	3.12	—	2.80	—	3.20	—	5.24	—	6.80
	15 167	0.46	—	1.20	—	1.20	—	1.12	—	1.84	—	4.04	—	5.80
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	0.44	—	3.60	—	3.72
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.32	—	1.20	—	2.24
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.24	—	0.32	—	0.44

表-11 (8)

実験種別		門 扉 操 作 時 流量 2,200 m³/sec 下水水位 EL 172.40m													
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
左岸側壁面圧力	EL														
	1 173	—	—	—	—	0.08 (1.12)	—	(1.16) 0.72 (3.32)	—	2.08	—	2.92	—	1.00	
	2 171	—	—	—	—	6.80 (3.00)	—	2.76 (3.32)	—	3.32	—	4.08	—	3.88	
	3 169	—	—	—	—	2.56 (4.28)	—	4.00	—	4.60	—	5.00	—	5.20	
	4 167	—	—	—	—	3.80	—	6.12	—	6.04	—	7.00	—	6.16	
	5 165	(1.96) 1.72 (3.40)	—	4.08	—	5.80 (7.72)	—	6.40	—	7.56	—	7.56	—	5.76	
	6 163	3.16 (5.44)	—	5.56 (7.96)	—	7.40	—	8.64	—	8.68	—	8.80	—	6.60	
	7 161	4.86 (7.00)	—	7.44 (9.40)	—	9.48	—	10.20	—	9.64 (14.92)	—	10.92	—	—	
	8 159	6.48 (9.16)	—	9.14 (10.72)	—	11.56	—	12.92 (16.60)	—	14.50 (20.76)	—	13.40	—	—	
9 157	8.68	—	10.52	—	14.20	—	16.16	—	20.02	—	21.16	—	—		
水叩底面圧力	a 155	(11.12) 10.68	(12.80) 12.64	(13.80) 13.70	(15.04) 14.76	15.60	16.72	18.24	20.60	(23.72) 23.30	(26.72) 26.36	(25.60) 24.46	(29.88) 28.54	—	
	b ♀	9.20	12.92	14.00	15.60	16.92	17.60	18.92	20.00	19.00	20.12	18.20	(25.80) 24.64	—	
	4 ♀	13.20	12.52	13.40	14.48	15.20	16.48	17.60	(18.88) 18.04	(22.80) 21.66	(21.52) 20.06	(15.68) 16.00	(23.88) 22.78	—	
	c ♀	12.72	13.08	14.00	15.04	16.48	18.00	(19.52) 8.96	(19.48) 19.10	(23.60) 22.60	(20.48) 20.24	(17.40) 17.20	(23.00) 22.76	—	
	5 ♀	11.60 (10.20)	13.40 (12.52)	15.48 (13.44)	15.80 (13.44)	17.68 (14.64)	(18.60) (13.72)	(19.40) 17.20	(18.32) 18.34	(17.08) 17.62	(16.60) 16.50	(16.08) 16.10	(20.08) 15.66	(20.12) 18.12	—
	d ♀	9.90	12.06	13.18	13.32	14.12	13.40	13.80	13.20	13.92	14.48	15.40	19.06	—	
	6 ♀	8.80	11.32	12.76	13.00	13.40	12.80	12.88	12.80	13.44	14.28	15.40	18.00	—	
	e ♀	9.60	11.56	12.48	13.80	13.52	13.12	12.92	13.44	14.08	15.32	16.60	18.20	—	
	f ♀	10.48	11.34	12.88	13.20	12.80	12.72	13.28	14.20	15.20	16.08	(16.52) 16.06	(19.52) 18.96	—	
右岸側壁面圧力	EL														
	10 157	7.64	—	10.60	—	12.12	—	11.52	—	12.08	—	14.28	—	—	
	11 159	6.04	—	9.08	—	10.44	—	9.56	—	10.02	—	12.12	—	—	
	12 161	4.48	—	1.32	—	8.52	—	7.48	—	8.60	—	10.00	—	—	
	13 163	2.80	—	5.24	—	6.56	—	5.72	—	6.68	—	8.24	—	8.96	
	14 165	2.12	—	3.80	—	4.40	—	4.00	—	5.12	—	6.84	—	7.72	
	15 167	1.04	—	2.12	—	2.36	—	2.28	—	3.40	—	5.60	—	6.64	
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	1.96	—	4.12	—	4.64	
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.52	—	2.28	—	2.88	
18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.20	—	0.80	—	1.48		

表-11 (9)

実験種別		門 扉 操 作 時 流量 2,200 m ³ /sec 下流水位 EL 174.40m												
位置	測点 測線 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左岸側壁面圧力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0.76	—	2.00	—	3.00	—	4.64	—	1.92
	2 171	—	—	—	—	2.20	—	3.56	—	4.24	—	5.44	—	4.92
	3 169	—	—	—	—	3.72	—	5.04	—	5.48	—	6.04	—	6.40
	4 167	—	—	—	—	5.00	—	7.48	—	7.44	—	8.08	—	5.16
	5 165	3.48	—	5.12	—	7.08	—	8.52	—	8.96	—	9.20	—	7.84
	6 163	5.04 (7.40)	—	6.76	—	9.00	—	10.22	—	10.96	—	11.00	—	9.16
	7 161	7.20 (9.20)	—	9.08	—	11.04	—	12.32	—	12.52	—	13.88	—	—
	8 159	9.00	—	10.76	—	12.76	—	16.92	—	17.48	—	17.00	—	—
9 157	11.60	—	12.56	—	15.00	—	17.60	—	23.96	—	21.24	—	—	
水叩底面圧力	EL													
	a 155	13.00	14.20	15.16	16.28	(16.92) 16.76	(19.16) 18.84	(20.88) 20.46	(23.28) 23.54	(25.56) 24.84	(27.08) 26.58	26.44	—	—
	b "	12.72	13.28	14.32 (15.12)	15.68 (16.04)	17.24	18.20	18.60	19.32	20.40	21.28	22.60	—	—
	c "	13.64	14.52	14.86 (15.12)	15.72 (16.04)	17.08	17.64 (18.12)	18.52 (19.96)	19.40 19.52	21.48 21.42	23.16	20.20	17.76	—
	d "	14.08	14.60	15.56 (16.76)	16.60 (18.60)	17.28	18.70 (20.76)	19.52 (20.12)	21.48 (19.16)	23.16 (19.92)	20.20 (18.20)	17.76	18.68	—
	e "	13.56	14.68	16.42 (16.76)	18.04 (18.60)	19.56	20.02 (20.76)	19.62 (20.12)	18.82 (19.16)	19.80 (19.92)	17.72 (18.20)	18.68	—	—
	f "	12.50	14.50	12.00	13.24	14.60	14.68	15.72	15.68	15.72	16.08	16.76	—	—
	g "	11.12	12.80	14.08	14.28	14.88	14.52	15.20	15.08	15.80	16.04	17.32	—	—
右岸側壁面圧力	h "	11.72	12.56	12.92	13.72	14.76	14.48	15.08	15.60	16.60	17.48	18.32	—	—
	EL													
	10 157	9.72	—	12.00	—	13.12	—	14.16	—	15.32	—	17.08	—	—
	11 159	7.92	—	10.52	—	11.16	—	11.64	—	13.00	—	14.92	—	—
	12 161	6.40	—	8.72	—	9.32	—	9.88	—	10.72	—	12.92	—	—
	13 163	4.52	—	6.48	—	7.80	—	8.04	—	9.00	—	11.16	—	11.20
	14 165	3.44	—	4.84	—	6.12	—	6.20	—	7.32	—	9.32	—	9.40
	15 167	2.20	—	3.28	—	4.08	—	4.68	—	5.68	—	7.60	—	7.80
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	3.88	—	5.68	—	6.12
17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	2.60	—	4.00	—	4.48	
18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	1.28	—	2.60	—	2.68	

表-11 (10)

実験種別		自 由 越 流 時 流量 2,680 m ³ /sec 下流水位 EL 172.40m													
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
左岸 側 壁 面 圧 力	EL														
	1 173	—	—	—	—	1.36	—	3.56	—	4.44	—	4.92	—	4.60	
	2 171	—	—	—	—	2.92	—	4.00	—	4.00	—	5.12	—	2.68	
	3 169	—	—	—	—	4.36	—	5.04	—	3.68	—	4.60	—	4.60	
	4 167	—	—	—	—	5.80	—	7.08	—	4.92	—	6.84	—	5.72	
	5 165	0.80	—	4.12	—	5.32	—	5.56	—	5.28	—	7.08	—	5.44	
	6 163	2.52	—	5.28	—	2.08	—	9.84	—	8.28	—	9.00	—	7.00	
	7 161	4.20	—	8.20	—	9.40	—	11.00	—	9.72	—	12.40	—	—	
	8 159	5.88 (10.00)	—	(9.92) 9.72 (12.80)	—	12.68	—	16.92	—	17.80	—	17.00	—	—	
9 157	9.46	—	12.60	—	18.64	—	—	—	—	—	—	—	—		
水 叩 底 面 圧 力	a EL	(10.60) 10.30	(14.40) 14.32	(17.60) 17.30	(20.56) 20.30	(22.80) 21.92	(26.32) 25.36	(27.12) 26.06	(29.00) 28.74	(29.12) 28.86	(27.88) 27.70	(28.64) 28.16	(31.16) 30.84	—	
	b ♀	(12.60) 12.30	(11.80) 10.66	(14.28) 14.14	(16.48) 16.34	(19.52) 18.86	(21.68) 21.60	(22.28) 22.22	(23.12) 22.50	(24.12) 23.96	(24.92) 24.40	(26.24) 25.52	(29.92) 27.94	—	
	4 ♀	(16.32) 15.40	(16.32) 15.06	(13.68) 13.44	(14.56) 14.22	(14.88) 14.66	(16.32) 16.10	(18.32) 17.86	(20.40) 19.94	21.36	21.20	19.68	24.20	—	
	c ♀	13.60	17.28	16.72	18.48	21.00	24.72	22.92	(26.52) 26.10	(27.12) 25.86	(21.72) 21.42	(22.60) 22.14	(27.72) 25.44	—	
	5 ♀	11.60	14.32	18.28	(26.32) 23.56	(26.52) 25.82	(24.84) 22.42	(23.72) 23.10	(21.72) 20.91	(20.92) 20.26	(21.52) 20.56	(18.80) 18.40	(23.04) 22.48	—	
	d ♀	(9.92) 9.56	(12.20) 12.20	(13.52) 13.36	(12.60) 12.34	(12.86) 12.82	(14.40) 14.06	(15.68) 15.42	(15.40) 15.26	(15.24) 15.20	(16.84) 16.02	(17.40) 16.76	(20.00) 19.66	—	
	6 ♀	(9.12) 8.90	(11.12) 11.08	(12.00) 11.90	(12.60) 12.33	(13.52) 13.36	(12.72) 12.60	(14.00) 13.40	(14.80) 13.94	(13.44) 13.72	(15.04) 14.92	(16.20) 16.10	(18.00) 17.90	—	
	e ♀	(10.40) 10.20	(10.92) 10.80	(11.68) 11.55	(12.72) 12.56	(13.20) 13.00	(13.12) 12.94	(14.48) 14.04	(15.00) 14.70	(16.00) 15.80	(17.32) 17.20	(18.80) 18.20	(19.80) 19.50	—	
	f ♀	(11.52) 11.16	(11.72) 11.46	(12.80) 12.60	(13.32) 13.22	(13.80) 13.40	(13.80) 13.46	(16.72) 16.36	(17.40) 17.20	(17.83) 17.50	(18.60) 18.26	(20.08) 19.94	(21.28) 21.10	—	
	右岸 側 壁 面 圧 力	EL													
		10 157	7.88	—	9.80	—	11.48	—	15.24	—	15.68	—	17.40	—	—
		11 159	6.24	—	8.52	—	9.68	—	10.88	—	12.72	—	14.00	—	—
12 161		4.68	—	6.88	—	7.92	—	8.60	—	10.12	—	10.72	—	—	
13 163		2.80	—	5.08	—	6.08	—	6.48	—	8.36	—	10.04	—	10.04	
14 165		1.80	—	3.60	—	4.36	—	4.92	—	7.08	—	8.68	—	8.28	
15 167		0.88	—	1.84	—	2.48	—	2.92	—	5.92	—	7.72	—	7.72	
16 168		—	—	—	—	—	—	—	—	4.28	—	5.80	—	5.64	
17 171		—	—	—	—	—	—	—	—	2.72	—	4.08	—	4.40	
18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.84	—	2.28	—	2.92		

表-11 (11)

実験種別		自由越流時 流量 2,680m ³ /sec 下流水位 EL 174.40m												
位置	測線 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左岸側壁面圧力	EL													
	1 173	—	—	—	—	2.28	—	4.12	—	5.60	—	5.60	—	5.60
	2 171	—	—	—	—	3.64	—	4.48	—	4.80	—	5.80	—	4.60
	3 169	—	—	—	—	5.16	—	5.12	—	4.72	—	5.88	—	6.12
	4 167	—	—	—	—	6.44	—	8.00	—	5.88	—	8.20	—	6.48
	5 165	2.56	—	10.56	—	7.48	—	6.12	—	6.52	—	8.76	—	7.40
	6 163	4.16	—	11.64	—	8.68	—	11.48	—	9.68	—	10.92	—	9.00
	7 161	6.12	—	14.88	—	11.72	—	12.48	—	11.64	—	14.40	—	—
	8 159	8.08	—	16.64	—	14.68	—	18.52	—	18.72	—	18.76	—	—
	9 157	11.48	—	19.92	—	20.36	—	—	—	—	—	24.48	—	—
水叩底面圧力	a EL 155	(15.08) 13.86	(18.08) 16.70	(19.04) 17.98	(20.52) 19.94	(23.16) 22.44	(27.56) 26.80	(29.28) 28.46	(29.80) 28.88	(29.40) 28.18	(28.96) 27.78	(29.72) 27.12	(30.60) 29.70	—
	b 〃	14.60 (16.92)	14.24 (17.80)	15.68 17.36	17.80 15.84	20.52 17.20	23.28 19.16	23.80 20.80	24.52 21.32	25.40 (22.80)	(25.28) 24.50	(24.00) 23.00	(24.92) 24.16	—
	c 〃	15.68	16.84	17.92	21.48 (26.88)	20.20 26.36	20.80 23.66	22.50 23.28	24.92 (24.40)	25.40	22.52	22.60	(25.68) 25.54	—
	d 〃	14.28	16.20	19.72	(26.90) 25.70	(26.90) 26.36	(24.80) 23.28	(23.76) 22.50	(22.92) 21.56	(22.60) 21.80	(21.80) 21.48	(21.68) 21.26	(24.60) 24.20	—
	e 〃	11.88	14.68	16.64	(18.08) 17.90	(18.52) 17.72	(17.56) 17.20	(16.68) 16.58	(18.12) 17.70	(18.36) 18.02	(18.92) 18.88	(21.20) 20.82	—	—
	f 〃	10.56	12.36	13.84	13.88	14.76	14.60	15.88	15.48	16.04	16.84	17.52	18.40	—
	10 157	9.60	—	11.00	—	13.20	—	17.00	—	17.40	—	8.68	—	—
	11 159	7.80	—	9.40	—	11.20	—	12.84	—	10.52	—	15.88	—	—
右岸側壁面圧力	12 161	6.32	—	8.00	—	9.40	—	10.68	—	12.20	—	13.60	—	—
	13 163	4.40	—	6.20	—	7.92	—	8.52	—	10.40	—	11.92	—	11.92
	14 165	3.32	—	4.80	—	6.28	—	6.88	—	9.12	—	10.60	—	9.80
	15 167	2.00	—	3.00	—	4.08	—	3.60	—	8.40	—	9.24	—	8.84
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	6.64	—	7.32	—	6.60
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	4.84	—	5.60	—	(5.12) 4.86
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	3.40	—	3.88	—	3.80

表-11 (12)

実験種別		自 山 越 流 時 流量 2,680m³/sec 下流水位 EL 176.40m													
位置	測線	測点													
	標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
左岸 側壁面 圧力	EL														
	1 173	—	—	—	—	3.80	—	5.48	—	7.20	—	6.92	—	7.16	
	2 171	—	—	—	—	5.04	—	6.24	—	6.68	—	7.32	—	6.40	
	3 169	—	—	—	—	6.52	—	6.80	—	6.48	—	7.64	—	7.88	
	4 167	—	—	—	—	8.00	—	9.44	—	7.68	—	9.72	—	7.76	
	5 165	5.12	—	7.44	—	9.24	—	9.00	—	8.68	—	10.80	—	9.60	
	6 163	7.00	—	8.48	—	11.08	—	13.84	—	12.12	—	13.04	—	11.00	
	7 161	9.04	—	11.80	—	13.72	—	15.48	—	15.00	—	16.52	—	—	
	8 159	10.92	—	14.00	—	16.80	—	20.92	—	21.28	—	22.12	—	—	
	9 157	14.20	—	16.90	—	23.20	—	24.80	—	26.00	—	26.80	—	—	
水 叩 底 面 圧力	a EL	155	16.28	18.00	19.08	21.22	23.12	26.12	(28.36) 27.84	(30.20) 29.74	(29.16) 28.72	(29.96) 29.76	29.72	31.48	—
	b ◇	13.68	16.48	18.20	20.20	21.40	24.16	24.08	24.92	25.76	25.48	25.96	27.72	—	
	4 ◇	15.80	18.08	17.72	18.68	20.20	21.48	22.56	23.12	23.40	22.48	22.60	23.88	—	
	c ◇	17.32	18.20	19.72	21.28	21.68	22.68	(25.00) 24.36	(27.32) 26.60	(24.60) 24.32	22.52	22.88	(24.76) 24.48	—	
	5 ◇	(16.88) 16.64	(19.00) 18.74	(22.60) 22.04	(25.32) 24.64	(25.03) 22.92	(22.92) 22.30	(24.12) 23.24	(23.56) 23.48	(23.16) 22.92	22.23	22.28	23.00	—	
	d ◇	14.44	16.28	18.52	19.52	20.68	19.60	19.68	18.76	19.72	20.20	20.28	21.48	—	
	6 ◇	13.20	14.76	16.28	18.12	16.84	16.60	17.80	17.60	18.00	17.92	18.68	20.00	—	
	e ◇	13.56	14.40	15.12	16.28	17.16	17.32	17.88	18.60	18.92	18.88	19.72	20.56	—	
f ◇	14.12	14.60	(17.72) 16.90	(18.68) 17.78	20.20	20.12	20.28	20.56	20.84	31.00	21.00	22.60	—		
右岸 側壁面 圧力	10 EL	157	11.56	—	13.12	—	(16.52) 16.01	—	18.60	—	18.56	—	19.80	—	—
	11 159	9.68	—	11.36	—	—	(13.80) 12.70	—	14.60	—	14.12	—	17.20	—	—
	12 161	8.36	—	9.68	—	—	(11.60) 11.82	—	12.60	—	14.24	—	14.92	—	—
	13 163	6.00	—	7.92	—	—	(9.56) 9.42	—	10.60	—	12.52	—	13.16	—	13.20
	14 165	4.96	—	7.04	—	7.68	—	9.00	—	11.00	—	11.68	—	11.00	
	15 167	3.72	—	5.00	—	5.80	—	5.72	—	9.68	—	10.60	—	10.00	
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	7.92	—	8.80	—	7.80	
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	6.00	—	6.84	—	6.32	
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	4.52	—	5.20	—	4.60	

表-11 (13)

実験種別		自由越流時 流量 1,100m³/sec 下流水位 EL 166.00m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左 岸 側 壁 面 圧 力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0.08	—	0.20	—	0	—	0	—	0.32
	2 171	—	—	—	—	0	—	0	—	0.04	—	0	—	0
	3 169	—	—	—	—	0.04	—	0.72	—	0.44	—	0.84	—	0.28
	4 167	—	—	—	—	0.48	—	1.64	—	2.12	—	2.48	—	1.40
	5 165	-0.44	—	0.28	—	2.12	—	3.52	—	3.80	—	4.04	—	3.08
	6 163	0.40	—	1.64	—	4.04	—	4.92	—	5.48	—	5.64	—	4.08
	7 161	1.24	—	3.44	—	5.32	—	6.64	—	7.04	—	7.20	—	—
	8 159	2.88	—	4.84	—	7.00	—	8.44	—	9.24	—	9.20	—	—
9 157	5.28	—	6.60	—	8.84	—	10.68	—	11.44	—	11.64	—	—	
水 叩 底 面 圧 力	a EL 155	(5.80) 5.42	(7.28) 7.10	(8.72) 8.40	(9.48) 9.46	(10.88) 10.81	(12.20) 11.90	(13.00) 12.72	(14.40) 14.22	(14.84) 14.68	(14.88) 14.40	(15.72) 15.60	(15.88) 15.00	—
	b ♢	5.12	5.88	8.24	9.12	11.56	11.72	(12.28) 12.14	(12.84) 12.48	(13.36) 13.32	12.60	12.68	12.96	—
	c ♢	4.92	6.76	7.80	9.00	10.24	10.48	10.92	10.32	10.28	10.32	10.44	(13.24) 12.92	—
	d ♢	7.00	7.96	8.32	9.24	9.32	10.20	10.08	11.16	10.48	10.44	10.52	10.60	—
	e ♢	7.40	8.60	13.24	(12.92) 12.60	(12.16) 11.90	(11.44) 12.20	(14.68) 14.28	(14.84) 14.54	(15.72) 14.92	12.08	10.52	12.68	—
	f ♢	5.28	6.76	9.18	9.08	9.72	10.68	10.92	11.28	11.32	10.60	10.60	(12.44) 13.00	—
	g ♢	4.44	6.60	8.60	9.64	10.28	10.52	10.20	10.28	10.12	10.68	11.16	11.92	—
	h ♢	6.24	6.80	7.68	9.80 (10.68)	10.68	10.52	10.48	10.60	10.52	11.08	11.68	11.88	—
	i ♢	7.60	7.32	8.64	10.20	10.52	10.68	10.84	10.64	11.04	11.52	11.72	12.16	—
右 岸 側 壁 面 圧 力	EL													
	10 157	5.78	—	6.44	—	8.60	—	8.92	—	9.68	—	9.80	—	—
	11 159	3.84	—	(4.84) 4.72	—	7.08	—	7.00	—	7.40	—	7.76	—	—
	12 161	1.90	—	3.40	—	5.20	—	5.24	—	5.56	—	6.16	—	—
	13 163	0.12	—	1.76	—	3.16	—	3.40	—	3.96	—	4.56	—	4.52
	14 165	0.60	—	0.76	—	2.04	—	1.72	—	2.40	—	3.08	—	2.76
	15 167	0.20	—	0.56	—	0.28	—	0.40	—	0.84	—	1.52	—	1.20
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	0.12	—	0.60	—	0.20
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.24	—	0.12	—	0.04
18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.04	—	0.08	—	0.00	

表-11 (14)

実験種別		自 山 越 流 時 流量 1,100m³/sec 下流水位 EL 168.00m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左 岸 側 壁 面 圧 力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0.00	—	0.00	—	0.00	—	—	—	0.12
	2 171	—	—	—	—	0.00	—	0.04	—	0.40	—	0.00	—	0.04
	3 169	—	—	—	—	0.36	—	0.48	—	1.00	—	1.28	—	0.72
	4 167	—	—	—	—	1.28	—	2.12	—	2.60	—	3.00	—	1.92
	5 165	—	—	1.64	—	3.08	—	3.88	—	4.88	—	4.72	—	3.88
	6 163	0.68 (3.02)	—	3.24	—	5.00	—	5.80	—	6.32	—	6.48	—	5.08
	7 161	2.68 (5.12)	—	4.12	—	6.76 (8.80)	—	7.56	—	7.92	—	8.20	—	—
	8 159	4.62	—	6.68	—	8.66	—	9.36	—	10.20 (12.92)	—	10.24	—	—
9 157	6.64	—	8.32	—	10.36	—	11.44	—	12.52	—	12.44	—	—	
水 叩 底 面 圧 力	EL													
	a 155	(7.80) 7.68	(9.40) 9.32	(10.80) 10.72	11.60	(12.68) 12.60	12.92	13.28	13.80	14.36	14.84	14.96	(15.72) 15.58	—
	b ♡	7.56	8.44	10.60	11.28	12.20	12.64	13.24	13.56	13.96	13.72	13.92	14.60	—
	4 ♡	7.36	8.96	10.28	11.04	12.04	12.28	12.56	12.20	12.24	12.40	12.44	13.52	—
	c ♡	9.20	9.92	10.48	11.04	11.00	11.72	(11.60) 11.48	12.08	(11.80) 11.72	11.68	11.80	13.40	—
	5 ♡	(10.08) 9.88	11.00	13.96	(12.36) 12.24	12.56	(13.40) 13.06	(13.96) 13.80	(14.04) 13.98	(15.40) 15.12	12.52	12.00	(13.96) 13.74	—
	d ♡	7.56	9.36	10.76	10.60	11.60	12.60	(13.20) 13.04	(13.28) 13.18	(13.24) 13.18	12.04	12.32	13.80	—
	6 ♡	6.40	8.60	10.40	11.00	11.72	12.36	12.20	12.24	12.64	12.08	12.60	13.16	—
	e ♡	7.84	8.48	9.72	11.32	11.96	12.18	12.12	12.20	12.44	12.60	12.80	13.04	—
f ♡	9.04	9.00	10.92	11.64	12.28	12.24	12.32	12.44	12.60	13.08	13.00	13.36	—	
右 岸 側 壁 面 圧 力	EL													
	10 157	5.52	—	8.32	—	9.64	—	10.40	—	10.80	—	11.20	—	—
	11 159	4.01	—	6.60	—	8.16	—	8.20	—	8.76	—	9.00	—	—
	12 161	2.84	—	5.12	—	6.32	—	6.28	—	6.64	—	7.04	—	—
	13 163	0.80	—	3.24	—	4.48	—	4.60	—	5.00	—	5.40	—	5.40
	14 165	0.40	—	1.68	—	3.12	—	2.84	—	3.36	—	3.96	—	3.68
	15 167	0.20	—	0.44	—	0.64	—	1.04	—	1.76	—	2.36	—	2.08
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	0.40	—	0.68	—	0.44
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.24	—	0.12	—	0.04
18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.12	—	0.16	—	0.00	

表-11 (15)

実験種別			自由越流時 流量 1,100m ³ /sec 下流水位 EL 170.00m												
位置	測線	測点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左岸側壁面圧力	EL														
	1	173	—	—	—	—	0	—	-0.16	—	0.04	—	—	—	0
	2	171	—	—	—	—	0.36 (1.56)	—	0.60	—	0.92	—	0.64	—	0.44
	3	169	—	—	—	—	1.34	—	2.28	—	2.44	—	2.36	—	2.00
	4	167	—	—	—	—	2.68	—	3.96	—	4.24	—	4.12	—	3.00
	5	165	(0.68) 0.60	—	3.00	—	5.16	—	5.48	—	6.20	—	6.04	—	5.56
	6	163	(2.92) 2.82	—	4.60	—	(7.00) 6.68	—	7.48	—	8.04	—	7.96	—	6.88
	7	161	(4.88) 4.60	—	(6.88) 6.66	—	8.04	—	9.12	—	9.72	—	9.72	—	—
	8	159	(6.28) 6.14	—	8.52	—	10.08	—	11.00	—	11.96	—	11.92	—	—
9	157	8.48	—	10.16	—	12.04	—	13.04	—	13.64	—	14.00	—	—	
水即底面圧力	EL						(14.32) 14.24	14.68	14.96	15.40	15.84	16.00	16.28	16.88	—
	a	155	9.96	11.40	12.44	13.36	13.96	14.36	14.68	14.96	15.28	15.24	15.52	16.48	—
	b	〃	9.44	10.48	12.44	13.00	13.96	14.36	14.68	14.96	15.28	15.24	15.52	16.48	—
	4	〃	9.44	10.96	11.92	12.84	13.84	14.36	14.52	14.48	14.24	14.44	15.16	15.00	—
	c	〃	11.00	11.56	12.24	12.80	13.08	13.64	13.60	14.04	13.72	13.48	13.64	15.32	—
	5	〃	11.40	12.80	14.64	13.56	14.08	(14.60) 14.38	(15.48) 15.36	(15.60) 15.50	13.88	13.96	(15.16) 15.06	—	—
	d	〃	9.60	11.32	12.80	12.60	13.12	13.96	14.52	15.20	15.00	13.96	14.32	15.50	—
右岸側壁面圧力	e	〃	8.64	10.48	12.00	12.40	12.28	13.36	13.80	14.08	14.32	14.60	14.68	14.84	—
	f	〃	9.76	11.12	12.00	13.12	12.88	13.40	13.68	14.08	14.56	13.76	14.68	15.00	—
	10	157	7.64	—	9.68	—	10.92	—	11.72	—	12.72	—	13.00	—	—
	11	159	5.92	—	8.44	—	9.24	—	9.68	—	10.60	—	10.92	—	—
右岸側壁面圧力	12	161	4.16	—	6.64	—	7.40	—	7.92	—	8.68	—	9.00	—	—
	13	163	2.12	—	4.68	—	5.52	—	5.28	—	6.92	—	7.08	—	7.32
	14	165	1.04	—	3.00	—	4.20	—	4.52	—	5.24	—	5.40	—	5.60
	15	167	0.28	—	1.04	—	1.80	—	2.72	—	3.72	—	4.00	—	3.96
	16	168	—	—	—	—	—	—	—	—	2.04	—	2.32	—	2.08
	17	171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.52	—	0.64	—	0.44
	18	173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.08	—	0.16	—	0.00

表-11 (16)

実験種別		自由越流時 流量 1,600m ³ /sec 下流水位 EL 168.00m												
位置	測線 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左岸 側壁 面圧力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0.04	—	0.52	—	0.24	—	0.52	—	0.84
	2 171	—	—	—	—	0.24	—	0.68	—	1.00	—	1.96	—	1.88
	3 169	—	—	—	—	1.00	—	2.04	—	2.68	—	3.32	—	3.40
	4 167	—	—	—	—	2.28	—	3.48	—	4.28	—	4.76	—	3.72
	5 165	0.00	—	-0.62	—	3.32	—	3.56	—	4.80	—	5.40	—	3.60
	6 163	0.28	—	2.00	—	4.60	—	6.04	—	5.60	—	5.80	—	4.56
	7 161	1.24	—	3.60	—	6.28	—	7.00	—	6.00	—	6.84	—	—
	8 159	(3.08) 2.94	—	5.08	—	8.56	—	10.52 (16.12)	—	10.04	—	8.44	—	—
	9 157	5.00	—	7.24	—	11.96	—	15.68	—	15.56	—	13.60	—	—
水 叩 底 面 圧 力	a EL 155	(6.64) 6.36	(8.16) 8.08	(10.20) 9.96	(12.32) 13.80	(14.48) 13.72	(16.20) 15.92	(16.64) 16.32	(17.32) 17.10	17.92	17.80	17.68	20.40 (18.08) 17.64	—
	b "	5.40	6.84	9.60	11.00	12.88	14.40	14.28	14.32	14.44	13.20	12.84	—	—
	c "	5.60	8.80 (12.40)	9.12	9.80	10.64	10.88	10.84 (14.68)	10.28 (18.88)	10.20 (19.32)	11.00 (14.48)	10.04 (12.92)	17.40 18.08	—
	d "	8.60	11.40	12.20	11.60	11.48 (15.28)	13.60 (13.68)	15.98 (14.72)	18.44 (17.92)	17.56 (17.04)	14.32 (16.84)	12.56 (12.64)	17.08 (17.24)	—
	e "	7.60	9.32	12.04	14.50	13.44	13.14	14.52	17.50	16.34	16.60	12.36	(15.64) 15.26	—
	f "	6.60	8.44	10.24	10.72	11.00	11.08	11.12	10.44	10.48	10.80	11.40	14.20 (13.92) 13.70	—
	g "	5.92	8.40	10.52	11.16	11.48	11.60	11.24	10.24	10.00	10.08	11.60	—	—
	h "	6.80	8.40	10.20	11.20	11.52	11.48	10.92	10.44	10.12	10.40	11.28 (12.04)	15.04	—
右岸 側壁 面圧力	10 EL 157	5.24	—	7.88	—	9.16	—	9.08	—	8.88	—	10.84 (9.08) 8.70	—	—
	11 159	3.84	—	6.24	—	7.52	—	6.92	—	6.76 (5.00) (4.84)	—	(7.28) 7.02	—	—
	12 161	2.48	—	4.88	—	5.80	—	5.20	—	—	—	(5.48) 5.24	—	6.60
	13 163	0.60	—	3.04	—	3.76	—	3.28	—	5.32	—	(3.96) 3.84	—	5.08
	14 165	0.24	—	1.36	—	2.44	—	1.48	—	1.80	—	—	—	3.72
	15 167	0.20	—	0.28	—	0.48	—	0.40	—	0.60	—	2.44	—	1.80
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	0.12	—	0.92	—	0.40
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.24	—	0.16	—	0.12
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.08	—	0.12	—	—

表-11 (17)

実験種別		自由越流時 流量1,600m ³ /sec 下流水位 EL 170.00m													
位置	測点 標高 EL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
左岸 側壁 面圧 力	1	173	—	—	—	0.04	—	0.00	—	0.40	—	1.04	—	1.32	
	2	171	—	—	—	0.12	—	1.48	—	1.88	—	2.44	—	2.56	
	3	169	—	—	—	0.88	—	3.24	—	3.60	—	4.32	—	4.32	
	4	167	—	—	—	2.44	—	4.76	—	5.12	—	5.80	—	4.48	
	5	165	0.28 (1.52)	—	2.28	—	3.40	—	4.96	—	5.88	—	7.16	—	5.44
	6	163	1.20 (3.56)	—	3.68 (5.72)	—	5.88	—	7.28	—	6.84	—	7.28	—	6.28
	7	161	3.40	—	5.38	—	7.96	—	8.52	—	7.72	—	8.68	—	—
	8	159	4.68	—	6.92	—	10.08	—	11.76	—	11.60	—	11.24	—	—
	9	157	7.16	—	9.28	—	13.40	—	16.68	—	16.20	—	16.04	—	—
水叩 底面 圧力	a	EL 155	8.20	10.28	12.16	14.04	(15.64) 15.26	(16.52) 16.36	(17.60) 16.92	17.64	18.40	19.20	19.40	21.08	—
	b	◇	7.80	9.32	11.72	12.72	14.08	14.84	15.04	15.20	15.44	15.08	15.72	19.56	—
	4	◇	8.12	10.76	10.84	11.56	12.20	12.48	12.76	12.40	12.12	12.36	12.80	17.76	—
	c	◇	10.84	12.80	13.24	13.08	13.12	14.92	14.60	17.44	17.72	14.68	13.72	17.96	—
	5	◇	9.72	11.40	14.20	(16.48) 15.94	14.60	(14.60) 14.20	15.60	(18.40) 18.02	(19.80) 19.50	17.44	14.44	17.22	—
	d	◇	8.20	9.88	11.36	(11.96) 11.40	12.20	12.40	12.56	12.68	13.40	13.20	12.96	(16.76) 16.38	—
	6	◇	7.56	10.12 (10.00)	11.16	12.24	12.40	13.00	12.40	12.00	11.80	12.08	12.92	15.56	—
	e	◇	9.24	9.60	11.60	12.60	12.92	12.40	12.00	11.88	12.20	12.76	13.88	15.60	—
f	◇	10.12	10.40	11.81	(13.20) 12.90	(13.60) 13.18	(12.80) 12.60	(12.28) 12.24	13.00	14.04	14.04	14.76	(16.40) 16.20	—	
右岸 側壁 面圧 力	10	EL 157	6.76	—	9.48	—	11.00	—	10.52	—	11.00	—	13.00	—	—
	11	159	5.00	—	7.80	—	9.48	—	8.40	—	8.88	—	10.24	—	—
	12	161	3.44	—	6.20	—	7.28	—	6.52	—	6.80	—	8.48	—	—
	13	163	1.60	—	4.28	—	5.40	—	5.00	—	5.28	—	7.00	—	7.80
	14	165	1.12	—	2.84	—	4.20	—	3.20	—	3.60	—	5.20	—	6.22
	15	167	0.40	—	1.40	—	1.68	—	1.88	—	2.36	—	3.80	—	4.80
	16	168	—	—	—	—	—	—	—	—	0.72	—	2.20	—	2.88
	17	171	—	—	—	—	—	—	—	—	0.28	—	0.80	—	1.24
	18	173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.20	—	0.20	—	0.52

表-11 (18)

実験種別		自由越流時 流量 1,600m³/sec 下流水位 EL 172.00m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左岸側壁面圧力	EL													
	1 173	—	—	—	—	(0.08) 0.04	—	(0.88) 0.72	—	1.72	—	2.63	—	2.00
	2 171	—	—	—	—	(1.00) 0.76	—	(3.00) 2.52	—	2.24	—	4.48	—	3.44
	3 169	—	—	—	—	(3.40) 2.86	—	4.40	—	4.80	—	5.00	—	5.00
	4 167	—	—	—	—	(4.20) 3.96	—	5.84	—	6.20	—	7.00	—	5.00
	5 165	(1.40) 1.30	—	4.60	—	(5.20) 5.06	—	6.68	—	7.44	—	7.84	—	7.00
	6 163	(3.60) 3.28	—	5.60	—	(8.32) 7.94	—	9.00	—	8.04	—	7.48	—	7.32
	7 161	(5.56) 5.22	—	7.44	—	14.04	—	10.64	—	10.20	—	10.56	—	—
	8 159	(7.68) 7.34	—	9.12	—	11.92	—	14.80	—	(14.00) 13.80	—	13.00	—	—
9 157	9.48	—	11.16	—	14.42	—	17.40	—	(18.48) 18.22	—	17.12	—	—	
水叩底面圧力	a 155	10.88	12.32	13.56	15.24	16.48	(18.24) 18.10	(19.32) 19.10	(19.64) 19.50	20.08	20.20	20.12	21.08 (19.56) 19.34	—
	b 〃	10.44	11.40	12.92	14.40	15.88	17.32	17.88	17.72	18.12	17.12	17.68	—	—
	c 〃	10.68	12.48	12.68	13.60	14.56	15.04	15.64	15.12	14.68	15.28	15.48	19.64	—
	d 〃	12.28	14.52	14.44	14.32	14.48	16.52	16.88	18.12	17.28	18.16	16.68	19.04	—
	e 〃	12.48	14.72	16.72	(17.80) 17.20	(18.48) 18.02	17.54	18.04	18.20	18.84	17.72	15.64	17.40 (18.08)	—
	f 〃	10.40	12.28	13.88	13.80	14.44	14.72	15.00	15.80	(16.20) 16.04	15.40	15.08	17.64	—
	g 〃	9.32	11.36	12.64	13.12	13.16	13.32	14.16	14.44	14.92	15.04	15.48	16.76	—
	h 〃	10.52	11.12	11.94	12.94	(12.12) (13.16) 13.60	(13.92) (13.96) 13.74	14.68	15.20	15.64	16.08	16.40	16.68	—
i 〃	11.48	11.64	13.00	13.92	13.84	13.88	15.04	15.92	16.36	16.52	16.60	17.08	—	
右岸側壁面圧力	EL													
	10 157	8.20	—	10.80 (10.24) 9.62	—	12.00	—	12.80	—	14.48	—	14.76	—	—
	11 159	6.68	—	—	—	10.08	—	11.04	—	12.40	—	12.92	—	—
	12 161	5.36	—	7.80	—	8.12	—	8.80	—	10.20	—	11.04	—	—
	13 163	3.28	—	5.68	—	6.40	—	6.92	—	8.36	—	9.16	—	9.40
	14 165	2.20	—	2.28	—	5.12	—	5.32	—	6.72	—	7.24	—	7.48
	15 167	0.88	—	2.28	—	2.92	—	3.64	—	5.00	—	5.84	—	5.80
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	3.28	—	4.12	—	4.64
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	1.80	—	2.76	—	3.20
18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.52	—	1.32	—	1.56	

表-11 (19)

実験種別		自 山 越 流 時 流量 2,200m ³ /sec 下流水位 EL 170.40m												
位置	測線 測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左岸 側壁面 圧力	EL					(-0.60)								
	1 173	—	—	—	—	-0.92	—	0.92	—	3.12	—	4.24	—	4.20
	2 171	—	—	—	—	(1.00) 0.60	—	3.08	—	3.68	—	4.80	—	3.72
	3 169	—	—	—	—	1.56	—	4.04	—	4.04	—	4.68	—	4.52
	4 167	—	—	—	—	2.80	—	5.64 (5.16) 4.74	—	4.76	—	6.08	—	5.60
	5 165	0.28 (1.16)	—	2.20	—	4.04	—	—	—	4.80	—	10.36	—	4.64
	6 163	0.88 (3.60)	—	3.52	—	6.20	—	8.28	—	6.68	—	7.44	—	5.72
	7 161	3.26 (4.68)	—	5.64	—	8.76	—	9.00	—	7.40	—	9.80	—	—
	8 159	4.40 (7.40)	—	7.68	—	14.04	—	13.76	—	13.12	—	13.12	—	—
	9 157	7.04	—	11.32	—	15.40	—	21.56	—	21.24	—	20.36	—	—
水 叩 底 面 圧 力	a EL	(8.60) 8.30	11.16	(15.08) 14.78	16.40	(19.84) 19.04	(21.88) 21.04	(21.80) 21.50	23.40	24.28	24.64	25.04	27.16	—
	b	7.44	10.40	11.56	13.44	15.16	17.60	(18.00) 17.40	18.04	18.68	19.28	20.04	(24.80) 23.42	—
	4	9.40	9.32	11.36	11.84	12.52	13.36	14.04	15.20	(16.80) 16.40	(18.20) 16.80	(18.80) 18.20	25.60	—
	c	12.20	13.40	14.96	15.80 (23.32)	17.20	19.92 (21.84) (22.20)	20.20 (21.20) 21.70	23.50 (24.60)	22.64 (25.20)	19.80	19.60	25.20	—
	5	9.80	11.48	14.96	21.86	21.40	21.80	20.68	20.52	20.00	23.36	22.36	—	—
	d	8.68	10.12	11.44	11.20	12.04	12.52	12.60	12.56	13.48	13.84	14.36	18.28	—
	6	7.56	9.84	11.32	11.76	12.44	12.00	12.48	12.00	12.24	13.04	14.20	16.28	—
右岸 側壁面 圧力	e	8.92	9.76	11.00	11.84	11.96	11.88	11.92	12.40	13.56	14.68	15.80	17.64	—
	f	10.52	10.76	11.84	12.52	12.40	12.60	13.04	13.76	14.68	16.12	17.00	18.68	—
	10 157	6.60	—	9.20	—	10.40	—	12.20	—	14.00	—	14.92	—	—
	11 159	5.00	—	8.20	—	8.60	—	9.00	—	11.36	—	12.32	—	—
	12 161	3.68	—	6.20	—	6.80	—	7.12	—	8.80	—	10.40	—	—
	13 163	1.52	—	4.20	—	5.00	—	5.32	—	7.00	—	8.84	—	9.00
	14 165	1.04	—	2.44	—	4.20	—	3.68	—	5.44	—	7.20	—	7.20
	15 167	0.04	—	0.88	—	1.40	—	2.76	—	4.00	—	6.04	—	6.20
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	2.48	—	4.20	—	4.32
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00	—	2.40	—	3.00
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	0.24	—	1.56	—	1.28

表-11 (20)

実験種別		自由越流時 流量2,200m ³ /sec 下流水位 EL 172.40m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左岸 側壁面 圧力	EL													
	1 173	—	—	—	—	0.28	—	(2.60) 2.12	—	4.20	—	5.16	—	5.04
	2 171	—	—	—	—	1.04	—	3.32	—	4.68	—	5.24	—	4.04
	3 169	—	—	—	—	3.24	—	4.44	—	4.60	—	5.08	—	5.20
	4 167	—	—	—	—	4.24	—	6.60	—	5.72	—	6.80	—	6.16
	5 165	(1.36) 1.14	—	3.80	—	6.40	—	6.16	—	6.04	—	7.04	—	6.40
	6 163	(2.92) 2.66	—	5.08	—	7.80	—	9.20	—	8.12	—	8.60	—	7.76
	7 161	(5.32) 4.70	—	7.00	—	9.64	—	10.45	—	9.16	—	11.36	—	—
	8 159	(6.76) 6.16	—	8.80	—	12.12	—	15.04	—	(15.20) 15.06	—	15.20	—	—
9 157	(9.48) 9.14	—	11.28	—	16.60	—	(24.00) 22.18	—	(23.88) 23.54	—	21.00	—	—	
水叩底面 圧力	a EL	(10.48) 10.06	(13.40) 13.14	(16.12) 15.80	18.00	(20.64) 19.80	(21.04) 20.88	(24.08) 23.44	(24.92) 24.46	(26.52) 26.40	(25.32) 25.22	(25.24) 25.06	(27.36) 26.98	—
	b "	9.80 (12.20)	12.08 (13.68)	13.40 (13.24)	14.92 (13.92)	17.28 (14.60)	19.36 (15.56)	20.12 (16.32)	21.00 (17.52)	21.20 (18.24)	20.20 (18.48)	20.20 (17.72)	23.00 (22.76)	—
	4 "	12.02 (12.20)	13.58 (13.68)	13.12 (13.24)	13.86 (13.92)	14.50 (14.60)	15.40 (15.56)	16.16 (16.32)	17.26 (17.52)	18.10 (18.24)	18.34 (18.48)	17.46 (17.72)	21.94 (22.76)	—
	c "	13.88 (12.44)	14.96 (14.72)	16.08 (17.28)	17.52 (21.68)	17.40 (21.80)	19.06 (22.60)	19.50 (21.12)	23.46 (22.32)	21.84 (21.40)	20.06 (20.32)	19.74 (20.24)	23.72 (22.72)	—
	5 "	12.26 (10.40)	14.72 (12.00)	17.28 (13.80)	20.48 (13.36)	21.16 (13.84)	21.74 (14.72)	20.54 (15.24)	21.86 (15.40)	20.66 (15.68)	20.18 (15.80)	19.82 (17.12)	22.08 (19.56)	—
	d "	10.10 (10.40)	11.64 (12.00)	13.60 (13.80)	13.12 (13.36)	13.66 (13.84)	14.40 (14.72)	15.12 (15.24)	15.20 (15.40)	15.58 (15.68)	15.74 (15.80)	19.96 (17.12)	19.06 (19.56)	—
	6 "	9.20	11.28	12.52	12.72	13.28	13.40	13.80	13.68	14.52	14.88	15.68	17.40	—
	e "	10.60	11.12	11.80	12.84	13.32	13.40	13.80	14.92	15.76	16.04	17.16	18.32	—
	f "	11.20	11.64	17.76	13.40	13.24	14.10 (14.32)	15.30 (15.40)	16.66 (17.00)	16.74 (17.00)	17.40 (17.80)	18.26 (18.40)	19.20 (19.40)	—
右岸 側壁面 圧力	10 EL	157	7.72	—	10.12	—	11.48	—	13.72	—	15.08	—	16.44	—
	11 159	6.08	—	8.88	—	9.68	—	10.56	—	12.72	—	13.72	—	—
	12 161	4.88	—	7.24	—	7.64	—	8.68	—	10.44	—	11.56	—	—
	13 163	2.84	—	5.24	—	6.04	—	6.76	—	8.52	—	9.88	—	9.80
	14 165	2.00	—	3.72	—	5.32	—	5.08	—	6.72	—	8.48	—	8.20
	15 167	0.92	—	1.88	—	2.56	—	3.12	—	5.44	—	7.24	—	6.96
	16 168	—	—	—	—	—	—	—	—	4.20	—	5.40	—	5.08
	17 171	—	—	—	—	—	—	—	—	2.68	—	4.60	—	3.28
	18 173	—	—	—	—	—	—	—	—	1.08	—	1.72	—	1.56

表-11 (21)

実験種別		自 山 越 流 時 流量2,200m ³ /sec 下流水位 EL 174.40m												
位置	測点 標高	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
左 岸 側 壁 面 圧 力	EL					(0.60)								
	1 173	—	—	—	—	0.40	—	3.60	—	5.24	—	5.72	—	5.80
	2 171	—	—	—	—	(3.00)	—	5.00	—	5.28	—	6.20	—	5.32
	3 169	—	—	—	—	2.38	—	5.80	—	5.60	—	6.68	—	6.60
	4 167	—	—	—	—	(5.20)	—	7.88	—	7.00	—	8.36	—	7.40
	5 165	(3.56)	—	5.40	—	4.44	—	7.28	—	7.56	—	9.00	—	8.24
	6 163	3.16	—	7.78	—	7.72	—	11.20	—	10.12	—	10.80	—	9.64
	7 161	(5.52)	—	9.64	—	9.64	—	13.20	—	12.12	—	13.60	—	—
	8 159	7.10	—	11.65	—	11.66	—	(18.20)	—	(18.00)	—	17.00	—	—
水 叩 底 面 圧 力	9 157	(8.72)	—	14.12	—	14.60	—	17.96	—	17.84	—	21.40	—	—
	a 155	(11.40)	—	14.12	—	19.00	—	(24.24)	—	23.54	—	21.40	—	—
	b	14.04	16.04	16.48	17.88	19.00	20.28	(20.92)	(24.50)	(21.72)	20.48	19.80	21.88	—
	4	12.04	13.88	(19.00)	(21.16)	(24.12)	(21.72)	20.44	24.20	21.52	(20.64)	20.84	(22.76)	—
	c	12.96	14.84	18.32	18.40	22.20	21.20	21.28	21.00	20.60	20.50	20.84	22.28	—
	5	12.68	13.92	15.64	15.48	16.08	16.68	16.84	16.52	16.48	17.80	17.60	18.84	—
	d	13.48	15.80	(20.28)	(23.32)	(24.92)	20.56	23.00	24.72	25.72	26.60	25.24	24.28	26.64
	6	11.08	12.76	20.56	23.00	24.72	25.72	26.60	25.24	24.28	26.64	(23.20)	22.66	—
	e	12.04	12.08	15.36	17.00	18.88	20.80	21.88	22.48	22.80	21.72	21.76	22.66	—
右 岸 側 壁 面 圧 力	f	12.72	12.88	15.48	15.96	16.84	18.52	19.24	19.56	19.52	19.08	18.60	22.12	—
	10 157	10.04	—	14.24	15.08	15.00	16.04	16.08	16.56	16.68	17.00	18.46	—	—
	11 159	8.24	—	14.28	14.92	15.40	16.08	16.40	17.08	17.68	18.24	18.64	—	—
	12 161	6.68	—	17.78	17.44	18.16	18.44	18.52	18.96	19.00	19.84	—	—	—
	13 163	4.76	—	18.16	18.44	18.52	18.96	19.00	19.84	—	—	—	—	—
	14 165	3.56	—	13.76	14.68	17.78	17.44	18.16	18.44	18.52	18.96	19.00	19.84	—
	15 167	2.00	—	14.68	17.78	17.44	18.16	18.44	18.52	18.96	19.00	19.84	—	—
	16 168	—	—	13.76	14.68	17.78	17.44	18.16	18.44	18.52	18.96	19.00	19.84	—
	17 171	—	—	13.76	14.68	17.78	17.44	18.16	18.44	18.52	18.96	19.00	19.84	—
右 岸 側 壁 面 圧 力	18 173	—	—	13.76	14.68	17.78	17.44	18.16	18.44	18.52	18.96	19.00	19.84	—
	18 173	—	—	13.76	14.68	17.78	17.44	18.16	18.44	18.52	18.96	19.00	19.84	—

表-12 (1) シル圧力分布実験値

測点 標高 測線	実験種別		門扉操作時 流量 1,100 m ³ /sec 下流水位 EL 166.0m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	14.64	13.72 (14.84)	12.80 (13.52)	10.68	10.60	11.76	11.52	(11.72) 11.38	10.72	8.96	(8.76) 8.48	9.52	8.92	8.40	7.84	4.40	5.00	5.32
b	14.76	13.60 (14.72)	13.00	10.80	9.80	10.44	10.12	9.36	9.80	8.68	8.64	9.28	8.76	8.20	7.32	4.04	4.48	5.00
4	14.32 (19.32)	14.30	13.76	9.08	9.60	10.60	9.36	8.92	9.84	8.56	8.48	9.40	9.00	8.28	8.00	4.40	4.84	4.60
c	16.14	14.20	10.04	9.12	10.20	9.96	9.28	10.12	9.68	8.52	9.08	8.80	8.96	8.16	4.84	4.96	5.24	5.20
5	14.76	14.60	13.08	9.60	9.12	9.96	9.44	8.36	9.08	8.32	8.32	9.04	8.64	8.04	7.44	4.60	4.68	5.12
6	11.92	11.08	11.04	9.64	9.56	0.08	9.72	9.00	8.52	7.92	7.96	8.36	8.04	7.24	6.40	4.52	5.08	5.20
f	12.28	11.20	10.32	10.16	10.24	10.20	10.12	9.12	8.12	7.60	8.00	8.32	8.08	7.08	6.12	5.48	5.64	5.12

測点 標高 測線	実験種別		門扉操作時 流量 1,100 m ³ /sec 下流水位 EL 168.0m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	16.00	15.24	13.91	11.00	11.20	12.52	12.20	12.16	11.71	9.72	9.80	10.20	9.80	9.24	8.48	5.96	6.52	6.68
b	15.60	14.92 (16.08)	13.60	10.84	11.40	11.84	11.80	10.72	8.24	9.68	9.56	10.24	9.72	8.96	8.48	6.04	6.20	6.36
4	15.20 (16.52)	15.74 (17.20)	14.64	10.68	10.28	11.24	10.80	9.52	10.60	9.32	9.16	10.20	9.72	9.08	8.88	5.96	6.20	6.24
c	16.02	16.76	14.76	10.80	10.04	11.12	10.48	9.32	10.24	9.28	9.36	10.08	9.56	9.08	8.64	6.32	6.32	6.28
5	15.32	15.12	13.68	10.64	10.40	11.00	10.56	9.52	9.88	9.20	8.96	9.72	9.32	8.56	8.20	6.00	6.12	6.20
6	13.12	12.12	11.64	10.68	10.68	11.08	10.84	9.92	9.48	8.96	8.92	9.28	9.00	8.32	7.32	5.88	6.32	6.40
f	13.12	12.12	11.16	11.08	11.20	11.16	11.12	10.12	9.28	9.08	9.04	9.32	8.96	8.04	7.72	6.80	6.80	6.40

表-12 (2)

測点 標高 測線	実験種別		門 扉 操 作 一 時 流 量 1,100 m ³ /sec 下流水位 EL 170.0m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.00	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(16.62) 16.28	(15.32) 15.06	(14.32) 14.16	13.28	13.36	13.72	13.48	13.04	11.96	11.08	11.24	11.64	11.24	10.44	9.60	8.00	8.48	8.56
b	15.80	15.32	14.28	11.32	13.00	13.44	13.20	12.20	11.68	11.00	10.88	11.60	11.00	10.16	9.40	8.08	8.24	8.44
4	16.80	15.52	15.08	12.68	12.24	13.36	12.92	11.96	12.40	10.88	10.80	11.76	11.28	10.56	10.28	7.72	7.92	8.36
c	(16.80) 16.50	(17.44) 17.12	15.60	12.80	12.12	13.60	13.04	11.88	12.60	11.08	10.88	11.80	11.20	10.80	10.56	8.48	8.62	8.40
5	16.20	15.84	14.96	12.60	12.32	13.00	12.60	11.64	11.40	11.36	10.88	11.40	11.00	10.16	10.00	8.28	8.24	8.28
6	(14.68) 14.50	(13.92) 13.76	13.20	12.48	12.52	12.72	12.60	11.76	11.00	10.64	10.68	10.92	10.60	9.76	9.00	8.32	8.40	8.44
f	14.24	13.60	12.64	12.64	12.80	12.72	12.68	11.60	10.64	10.60	10.72	10.84	10.68	9.56	8.44	8.60	8.64	8.48

測点 標高 測線	実験種別		門 扉 操 作 時 流 量 1,600 m ³ /sec 下流水位 EL 168.0m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.00	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(23.60) 22.54	(23.72) 22.96	(21.20) 20.66	(10.32) 9.94	(9.04) 9.50	(11.28) 11.14	(7.20) 6.90	(7.72) 6.76	(11.32) 10.96	6.20	6.28	7.24	6.92	6.04	7.88	5.44	5.60	5.60
b	(20.52) 20.16	(19.80) 19.30	(18.12) 17.16	10.00	9.00	10.20	10.04	8.40	12.00	9.64	9.60	10.72	10.08	9.48	8.92	5.20	5.60	5.48
4	(20.28) 19.84	(20.40) 19.70	(17.80) 17.20	(10.00) 9.96	11.40	10.60	9.88	8.16	(12.08) 10.94	9.48	9.32	10.44	10.20	9.40	10.12	5.44	5.68	5.60
c	(19.38) 19.08	(21.48) 20.50	(17.68) 17.50	9.84	8.88	10.92	9.88	8.40	10.48	9.32	9.40	10.24	9.56	9.36	8.64	5.48	5.60	5.72
5	18.08	18.24	17.52	9.76	8.40	10.48	9.52	7.96	10.44	10.00	9.20	10.68	10.12	9.68	9.40	5.12	5.04	5.20
6	14.32	14.12	13.76	10.28	9.52	10.92	10.48	9.64	10.60	8.60	8.16	9.44	9.00	8.72	8.40	4.44	4.64	5.00
f	14.84	13.92	12.48	10.92	11.12	11.48	11.12	10.32	9.60	9.08	8.88	9.40	9.12	8.12	7.00	4.84	5.80	5.08

表-12 (3)

82

測 點 標 高	實驗種別		門 扉 操 作 時 流 量 1,600 m ³ /sec 下 流 水 位 EL 170.0m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
測 線	EL 155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(20.96) 20.60	(20.88) 20.52	(18.92) 18.80	12.84	11.92	13.96	13.04	(15.00) 14.00	(16.60) 16.30	11.64	11.44	12.92	12.40	11.92	(12.20) 12.10	7.16	7.28	9.24
b	21.84	22.20	19.52	12.00	12.04	11.88	11.80	14.00	11.04	10.60	11.88	11.44	11.36	12.40	7.56	7.48	7.28	7.28
4	(20.80) 20.60	(21.36) 20.58	18.72	11.08	10.52	11.96	11.36	10.40	12.40	10.52	10.72	11.88	11.30	10.60	11.00	7.28	7.44	7.00
c	(19.20) 18.96	(20.40) 19.48	(18.00) 17.78	9.60	10.24	12.12	(13.00) 12.34	11.24	(10.00) 9.54	11.40	10.48	10.40	11.80	9.80	9.36	9.84	7.28	7.40
5	(18.84) 18.42	(18.52) 18.10	(17.48) 16.27	11.64	10.52	12.50	11.88	10.48	(13.20) 12.74	10.52	10.16	11.80	11.20	10.60	10.96	7.00	7.00	6.96
6	(16.04) 15.84	(15.80) 15.21	(15.28) 15.10	13.84	11.20	12.60	12.20	11.48	12.00	9.80	9.40	10.40	10.00	9.32	9.48	6.52	6.64	6.48
f	(16.20) 15.98	(15.20) 15.00	(13.92) 13.82	12.28	12.56	12.68	12.60	11.84	11.36	10.48	10.28	10.68	10.40	9.60	8.40	6.88	7.60	7.12

土 木 研 究 所 報 告

測 點 標 高	實驗種別		門 扉 操 作 時 流 量 1,600 m ³ /sec 下 流 水 位 EL 172.0m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
測 線	EL 155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(21.88) 21.64	(22.16) 21.16	(20.52) 19.78	(14.88) 14.36	(13.96) 13.94	(16.40) 16.14	(16.64) 15.81	(16.00) 15.56	(16.88) 16.40	(13.32) 12.90	(13.00) 13.74	(14.72) 14.30	(14.12) 13.80	13.28	14.08	9.40	9.60	9.60
b	(20.40) 20.30	(20.12) 19.60	(20.00) 19.14	14.40	(17.42) 13.92	(16.32) 15.00	(14.88) 14.56	(14.40) 14.04	(16.12) 15.60	14.92	12.40	14.04	13.28	12.32	13.60	9.40	9.72	9.40
4	(20.72) 20.12	(20.24) 19.86	(19.68) 19.04	17.88	14.00	15.80	15.00	14.00	15.08	12.60	12.12	13.52	13.12	12.40	(13.32) 13.20	9.48	9.22	9.56
c	20.20	(20.60) 20.20	(19.20) 18.80	11.72	12.48	14.00	13.24	12.32	13.44	12.08	12.04	12.80	12.28	11.80	11.72	9.72	9.80	9.60
5	18.60	18.00	17.00	13.28	12.52	13.96	13.12	11.68	13.60	12.12	12.00	13.00	12.44	11.80	11.96	9.04	9.08	9.12
6	16.20	15.92	15.60	13.40	13.08	14.00	13.64	12.80	13.24	11.64	11.40	12.40	12.00	11.32	11.12	8.80	8.84	8.64
f	17.52	16.80	15.48	14.12	14.36	14.44	14.12	13.32	12.72	12.00	12.00	12.36	12.04	11.32	10.32	8.64	9.16	9.08

表-12 (4)

測点 標高 線	実験種別		門扉操作時 流量 2,200 m ³ /sec 下流水位 EL 170.4m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(30.40) 29.00	(31.00) 28.90	(26.52) 25.50	11.16	11.20 (10.20) 9.80	12.60	12.40	12.08	18.00 (13.00) 12.50	11.56	10.92	12.92	12.00	11.72	16.00	6.92	7.40	7.08
b	25.36	25.08	22.08	11.16	9.80	11.40	13.60	8.72	12.50	10.92	11.12	12.20	11.30	11.32	10.64	7.20	7.60	7.16
4	(25.76) 24.28	(25.40) 24.22	(23.32) 21.32	10.72	9.40	11.44	10.68	8.32	11.88 (8.86) 8.44	10.64 (11.92) 10.50	10.28	12.08	11.52	10.96	11.92	6.84	7.24	7.12
c	22.00	21.96	19.10	10.60	9.20	11.60	10.64	11.88	11.86	10.72	12.28	11.84	11.16	11.24	8.00	6.64	7.00	
5	(18.00) 17.76	(18.12) 17.72	(16.80) 16.60	12.32	11.60	12.84	12.40	11.40	12.24	10.32	10.12	11.60	11.16	10.60	10.20	6.00	6.84	6.92
6	(19.00) 18.70	17.72	(15.68) 15.50	(12.72) 12.56	12.72	13.24	13.08	12.20	12.20	11.00	11.80	11.56	11.24	10.40	9.20	6.40	7.08	7.48
f	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

測点 標高 線	実験種別		門扉操作時 流量 2,200 m ³ /sec 下流水位 EL 172.4m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(30.80) 29.76	(31.28) 29.60	(31.40) 28.58	(12.68) 12.24	(12.04) 11.66	13.92	13.40	(14.28) 13.54	19.40	13.44	12.84	15.36	14.44	13.96	16.96	9.08	9.28	8.92
b	(25.32) 24.92	(25.68) 24.96	(23.36) 22.94	(13.56) 12.68	(14.12) 13.22	(13.60) 13.80	(11.92) 13.12	(14.96) 11.56	14.68	12.88	12.84	13.88	13.00	12.40	12.60	9.00	9.40	9.08
4	(26.48) 24.98	(26.24) 25.16	(24.00) 23.34	11.12	11.16	12.80	11.92	9.92	12.48	11.80	11.68	13.24	12.60	11.96	12.16	8.92	9.20	9.12
c	(23.60) 23.14	(25.00) 24.26	21.52	12.88	11.56	13.76	14.56	13.12	15.20 (11.52) 10.86	12.24	12.40	13.80	13.12	13.36	12.08	8.96	9.04	9.12
5	21.24	20.76	18.80	13.64	12.12	14.28	12.80	13.20	12.00	12.02	13.48	13.08	12.40	12.44	8.92	9.00	9.04	
6	18.60	18.20	16.60	13.12	12.28	13.48	12.84	11.92	12.84	11.84	11.88	12.80	12.22	11.72	11.40	8.24	8.76	8.52
f	19.60	18.84	16.60	14.28	14.04	14.80	14.52	13.64	14.92	12.68	12.48	12.96	12.56	11.92	11.00	8.24	8.56	8.76

表-12 (5)

測 標 點 測 線	測 高 線 EL	實驗種別		門 扉 操 作 時 流 量 2,200 m ³ /sec 下 流 水 位 EL 174.4m																	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
		155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0	161.0		
a		(28.80) 28.10	(28.56) 27.20	(25.76) 25.12	15.16	14.24	17.72	16.28	(16.64) 15.64	(22.44) 22.21	15.60	14.60	16.68	15.64	14.88	18.40	11.60	11.72	11.56		
b		(26.80) 25.86	(26.20) 24.60	(24.00) 22.94	15.36	14.68	15.12	14.48	17.36	15.12	14.64	16.28	15.60	15.40	16.28	12.00	11.96	11.52	11.12		
4		(25.60) 25.10	(26.00) 25.32	(23.68) 22.94	15.00	14.68	16.20	15.36	13.60	15.76	14.28	14.36	15.44	14.88	14.32	14.22	11.64	11.88	11.80		
c		(24.40) 23.76	(24.92) 23.14	(20.80) 20.66	19.80	(15.68) 14.28	(16.72) 16.46	(15.72) 15.36	(14.40) 14.10	(16.80) 16.48	14.08	14.12	15.40	14.68	14.52	14.56	11.60	11.80	11.68		
5		(24.00) 22.94	(24.12) 23.34	(22.04) 20.86	15.00	14.52	16.20	(21.12) 18.76	(17.32) 15.56	(16.92) 16.56	15.00	16.32	16.60	16.08	15.36	14.20	10.48	11.24	11.80		
6		(20.16) 19.68	(19.52) 19.30	(18.72) 18.46	15.40	15.04	15.68	15.20	14.40	14.52	13.84	13.84	14.40	14.20	13.44	12.72	11.40	11.40	11.84		
f		20.28 19.92	(19.72) 19.42	(18.16) 17.98	(17.80) 17.20	16.00	16.72	16.56	15.60	15.40	14.40	14.44	15.84	14.76	14.00	13.16	11.12	11.68	11.80		

測 標 點	測 高 線	突 破 種 別		自 由 越 流 時 流 量 2,680 m ³ /sec 下 流 水 位 EL 172.4m																	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
		EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0		
a		(33.32) 26.00	(27.32) 24.72	(29.88) 29.64	(19.60) 18.30	(10.20) 17.44	(25.20) 24.20	(21.40) 20.40	21.20	14.40	13.36	15.44	14.96	14.83	16.32	13.08	9.40	9.56	9.80		
b		(27.60) 26.56	(26.28) 25.70	(23.68) 23.18	16.08	(14.52) 14.06	(15.84) 15.56	(15.60) 15.30	(14.12) 13.96	(14.08) 13.92	13.00	12.64	13.72	13.08	12.20	12.48	9.00	9.12	9.04		
4		(25.20) 24.24	(24.80) 23.40	23.12	14.80	14.68	16.32	15.92	14.84	15.08	12.52	11.68	13.44	13.04	12.28	12.12	6.80	8.00	9.56		
c		(25.44) 24.18	(26.28) 22.82	(23.60) 23.32	16.24	15.32	(20.36) 20.02	(20.32) 19.82	(20.16) 19.42	18.28	12.44	12.76	12.20	14.68	14.96	13.72	7.28	9.12	9.66		
5		(26.00) 25.56	(25.08) 24.64	21.20	14.36	12.88	15.64	14.88	(15.12) 14.10	17.84	15.16	(16.08) 15.74	17.08	16.00	15.84	14.08	10.36	12.08	11.20		
6		17.40	16.28	16.32	13.64	14.08	14.52	14.24	13.68	12.72	12.36	12.32	13.00	12.84	11.52	10.72	10.20	10.64	10.56		
f		20.80	19.80	18.00	18.12	16.40	16.20	16.00	15.22	14.48	13.48	13.68	13.80	13.92	13.36	12.28	13.36	10.76	10.60		

表-12 (6)

測 標 高	測 点 線	実 験 種 別		自 由 越 流 時 流 量 2,680 m ³ /sec										下 流 水 位 EL 174.4m					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0	161.0
a		(30.00) 29.08	(31.08) 29.30	(30.28) 29.44	(21.00) 19.94	(18.60) 18.60	20.88	(16.32) 15.76	(17.20) 16.34	(17.88) 17.50	11.88	11.00	13.28	12.20	11.92	13.64	10.88	11.00	11.08
b		(30.40) 29.14	(28.32) 27.36	(24.42) 23.74	18.00	18.60	20.28	20.16	19.12	17.68	15.16	14.36	15.92	15.28	14.08	13.64	10.08	10.52	11.00
4		24.32	23.08	23.20	17.40	18.28	19.96	19.20	17.60	17.28	14.32	13.72	15.40	14.84	14.00	14.08	9.08	9.96	10.88
c		(28.12) 26.40	(25.52) 24.80	(25.30) 24.20	18.20	17.48	(21.12) 20.76	(21.04) 20.42	(20.04) 19.52	(19.60) 19.46	(14.72) 14.66	14.72	16.84	16.64	16.00	14.80	9.80	10.60	11.32
5		(26.96) 25.74	(25.88) 25.70	(23.60) 21.00	18.42	20.60	(22.48) 21.10	(20.52) 18.56	(17.32) 16.60	(18.92) 18.30	(15.20) 15.10	(15.76) 15.48	(16.92) 16.86	16.28	15.40	14.12	9.96	11.08	11.60
6		19.40	18.90	18.20	15.60	15.40	16.28	16.00	15.00	14.96	14.60	14.64	15.40	15.04	14.00	13.24	11.80	12.44	12.20
f		21.08	20.12	18.60	17.12	16.88	17.32	17.36	16.28	15.80	15.00	15.00	15.56	15.28	14.40	13.60	12.00	12.00	12.40

測 標 高	測 点 線	実験種別		自由越流時 流量 2,680 m ³ /sec 下流水位 EL 176.4m															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a		(33.00) 28.16	(31.80) 31.00	(33.40) 31.80	(23.12) 21.36	(23.20) 21.20	(21.60) 20.66	17.20	17.00	20.40	18.00	13.80	13.16	15.52	13.92	13.76	15.32	13.20	(13.40) 13.32
b		(27.40) 26.90	(27.00) 26.66	(25.48) 23.90	19.44	18.12	20.08	(20.60) 20.00	18.96	19.76	17.72	17.52	18.60	17.68	16.44	16.32	13.16	13.72	13.40
4		(27.60) 27.10	(28.40) 27.64	(26.88) 25.80	18.88	17.80	21.04	20.16	18.48	20.72	17.08	16.52	18.24	18.24	17.24	17.20	12.92	13.04	13.00
c		(26.12) 25.56	(27.12) 25.36	(25.20) 24.54	(20.52) 20.46	(21.56) 21.18	(23.80) 23.54	(23.00) 22.08	(22.12) 21.26	(20.48) 19.92	17.00	17.12	18.76	26.00	17.96	16.04	12.00	13.00	13.36
5		(24.60) 23.40	(24.00) 23.70	(21.88) 21.74	17.60	17.00	18.08	18.00	15.92	16.68	15.80	14.32	17.00	17.20	15.60	15.12	10.60	13.32	13.20
6		(21.20) 21.02	(20.32) 20.07	(19.48) 19.40	17.64	17.60	18.08	7.72	16.76	16.20	16.08	16.20	17.12	16.88	15.80	14.60	14.08	14.04	13.80
f		(22.28) 22.12	(21.24) 21.01	(20.64) 19.64	18.76	19.12	19.24	19.40	18.24	17.28	16.72	16.68	17.00	16.84	15.80	14.80	14.52	14.72	13.96

フーチム余水吐設計に関する実験的研究

表-12 (7)

98

測 標 高 線	実験種別		自由越流時 流量 1,100 m ³ /sec 下流水位 EL 166.0m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(16.32) 15.92	(15.84) 15.24	(14.32) 14.40	(10.60) 10.32	(9.92) 9.72	(12.04) 11.86	11.68 (10.68) 10.40	11.04	10.92	8.44	8.12	9.52	8.84	8.56	8.20	3.32 (4.00) 3.90	4.40	5.16
b	13.84	13.20	12.16	10.20	10.00	10.48	9.20	9.24	8.40	8.08	8.80	8.32	7.60	7.20			4.40	5.12
4	12.88 (12.68) 12.60	12.40 (12.40) 12.10	11.32	9.88	9.52	9.84	9.52	8.68	8.60	5.60	7.72	8.40	8.00	7.12	5.88	3.96	4.84	5.40
c			10.96	9.60	9.48	9.72	9.48	8.64	8.00	7.76	7.84	8.08	7.76	6.96	5.96	5.04	5.48	5.56
5	12.80 (12.08) 11.96	12.16 (11.16) 11.00	11.04 (10.28) 10.24	9.64	9.48	9.68	9.36	8.48	7.92	7.68	7.80	8.04	7.76	6.88	5.92	5.16	5.32	5.48
6				9.44	9.44	9.76	9.52	8.68	8.28	7.80	7.88	8.08	7.85	7.28	6.20	5.00	5.32	5.56
f	12.20	11.28	10.32	10.08	10.28	10.36	10.44	9.12	8.12	8.08	8.12	8.36	8.04	7.12	6.00	5.48	5.56	4.96

土木研究所報告

測 標 高 線	実験種別		自由越流時 流量 1,100 m ³ /sec 下流水位 EL 168.0m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(16.00) 15.80	(15.76) 15.40	(14.76) 14.52	(11.32) 11.00	(19.40) 11.32	(12.76) 11.86	(12.64) 12.38	(13.04) 12.54	12.28	9.64	9.08	10.64	10.08	9.68	9.92	6.04	6.32	6.60
b	14.80	(14.40) 14.00	13.12	11.28	10.84	11.32	11.24	9.92	(10.36) 8.14	9.44	9.08	9.88	9.60	8.72	(8.60) 8.36	(6.12) 5.80	6.28	6.44
4	(14.32) 13.96	13.48	12.56	10.68	10.84	11.08	10.72	10.00	9.68	9.80	9.04	9.40	9.04	7.80	9.96	6.60	6.84	6.76
c	(14.00) 13.84	(13.88) 13.48	12.36	10.84	10.80	10.92	10.68	9.84	9.12	8.88	9.00	9.24	9.00	8.28	7.40	6.60	6.88	6.84
5	13.84	13.16	12.12	10.88	10.80	11.00	10.60	9.72	9.28	9.00	9.12	9.24	9.20	8.16	7.32	6.64	6.80	6.84
6	13.32	12.48	11.64	10.84	10.80	11.08	11.32	9.92	9.24	8.88	8.84	9.04	8.80	8.16	7.20	6.56	6.80	6.80
f	13.24	12.20	11.20	11.28	11.40	11.44	11.30	10.28	9.16	9.28	9.28	9.64	9.36	8.60	7.44	6.88	7.00	6.56

表-12 (8)

測 標 高	測 點	実験種別		自 由 越 流 時 流 量 1,100 m ³ /sec 下 流 水 位 EL 170.0m															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0	161.0
a		(17.52) 17.20	(16.00) 15.56	(15.32) 15.18	(13.56) 13.40	(13.36) 13.28	(14.48) 14.84	14.24	13.60	11.68	11.28	11.32	12.00	11.56	10.92	11.00	8.00	8.40	8.80
b		15.00	15.60	14.68	13.20	13.00	13.52	13.12	11.88	11.60	11.20	11.00	11.40	11.00	10.24	10.00	8.20	8.44	8.76
4		16.22	15.80	15.00	12.30	12.72	12.92	12.80	11.96	12.08	9.22	10.84	11.80	11.40	10.52	9.84	8.08	8.36	8.40
c		15.60	15.28	14.00	12.84	12.88	12.88	12.72	11.84	11.28	10.96	11.04	11.24	10.88	10.04	9.24	8.72	8.88	8.84
5		15.64	14.96	14.04	12.80	12.72	12.84	12.52	11.56	11.08	10.80	10.68	11.00	10.76	9.92	9.16	8.68	8.84	8.76
6		14.72	13.88	13.20	12.72	12.80	12.92	12.64	11.88	11.12	10.76	10.76	10.88	10.64	9.92	9.12	8.64	8.64	8.72
f		15.08	14.00	13.04	13.12	13.24	13.28	13.22	12.12	11.04	11.12	11.12	11.28	11.04	9.92	9.08	8.92	9.00	8.76

測 標 高	測 點	実験種別		自 由 越 流 時 流 量 1,600 m ³ /sec 下 流 水 位 EL 168.0m															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a		(21.36) 21.20	(20.60) 20.43	(18.20) 18.06	(9.60) 9.38	8.56	10.92	(10.52) 6.52	6.00	(13.68) 9.68	(9.00) 5.00	(8.36) 4.36	(11.32) 7.32	(10.40) 6.40	(10.08) 6.08	(12.40) 8.40	(9.76) 5.76	6.04	6.00
b		(20.40) 20.00	(18.80) 17.70	8.64	7.60	8.04	8.04	8.76	7.12	11.00	8.16	8.20	9.08	8.32	7.56	7.24	6.00	6.20	6.16
4		(20.40) 19.08	(18.72) 18.48	14.72	7.28	7.32	8.00	7.52	6.24	5.92	7.36	7.44	8.28	8.00	7.12	6.40	5.76	6.12	6.16
c		(20.24) 19.98	15.12	8.00	7.16	8.16	7.88	7.20	7.16	7.48	7.56	8.64	8.32	8.64	7.80	5.72	6.08	6.20	5.80
5		(19.88) 19.62	(18.76) 17.52	13.92	8.12	7.16	8.84	8.08	6.28	7.48	8.08	8.52	9.16	8.84	8.12	7.36	5.04	5.68	6.12
6		(15.16) 14.90	(15.08) 14.68	13.28	9.28	8.44	10.04	8.28	8.28	9.52	8.84	9.08	9.64	9.28	8.72	7.80	5.48	5.64	6.08
f		16.08	15.08	13.20	10.64	10.52	11.28	10.84	9.84	10.12	9.36	9.40	9.88	9.64	9.04	7.88	6.12	6.52	6.96

7-チタム余水吐設計に関する実験的研究

表-12 (9)

測 標 點	突 險 種 別		自 由 越 流 時 流 量 1,600 m ³ /sec 下 流 水 位 EL 170.0m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	21.32	20.24 (20.28)	18.24	11.00	10.08	12.52	11.88	(13.20) 11.36	15.28	10.60	10.20	12.72	11.92	11.48	12.88 (9.76)	7.60	7.84	7.68
b	20.28	19.82	16.88	10.16	9.68	10.12	10.00	8.48	9.92	9.48	9.56	10.24	10.04	9.28	9.30	8.12	8.20	8.04
4	18.68	18.04	15.76	10.32	10.28	10.60	10.24	9.28	8.72	8.00	9.80	10.08	9.96	8.88	7.72	7.84	7.88	7.88
c	(20.04) 19.24	(19.20) 18.70	15.68	9.92	9.60	10.00	9.72	8.60	8.12	8.92	9.32	9.88	9.60	8.84	8.48	7.80	8.08	8.00
5	(19.08) 18.74	(18.64) 18.46	(15.32) 15.16	10.00	9.28	10.12	9.40	7.76	8.48	9.20	10.52	11.00	8.92	9.20	8.88	7.76	7.92	7.92
6	(16.04) 15.72	(16.00) 15.50	13.88	11.24	10.60	11.60	11.08	9.84	10.92	10.00	10.72	10.60	10.40	9.88	9.00	7.48	7.80	8.00
f	(16.52) 16.36	(15.72) 15.48	14.00	12.04	11.72	12.60	12.32	11.20	11.44	10.60	10.84	11.52	11.28	10.44	9.20	7.52	8.20	7.84

測 標 點	突 險 種 別		自 由 越 流 時 流 量 1,600 m ³ /sec 下 流 水 位 EL 172.0m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(21.28) 21.64	(20.88) 20.44	(19.48) 19.40	(13.56) 13.42	(13.12) 13.06	14.72	14.12	13.08	15.88	12.52	11.92	13.64	12.96	11.56	13.80	18.08	18.32	18.28
b	(20.48) 19.88	(19.60) 19.04	(17.48) 15.90	13.24	12.88	13.12	12.68	11.44	12.40	11.80	11.96	12.40	12.00	11.28	11.12	11.80	10.40	10.32
4	(19.48) 19.10	(18.68) 18.58	(17.20) 17.02	12.88	13.00	13.36	13.00	12.16	11.48	13.12	12.08	12.40	12.12	11.20	10.00	10.20	10.40	10.40
c	(19.60) 19.46	(18.80) 18.48	16.60	13.16	13.00	13.28	13.04	(12.44) 12.14	11.40	11.68	11.96	12.40	12.00	11.24	10.60	10.32	10.48	10.36
5	(18.68) 18.40	(18.20) 17.90	16.08	13.40	12.92	13.40	12.76	11.68	11.76	11.84	12.12	12.44	12.12	11.36	10.68	10.24	10.28	10.32
6	(17.20) 16.92	(16.48) 16.26	15.40	13.80	13.84	14.36	14.12	13.36	12.80	12.40	12.40	12.60	12.32	11.44	10.60	9.72	10.04	10.16
f	16.88	15.72	14.80	14.80	15.00	15.08	14.92	13.12	12.80	12.72	12.80	13.24	13.00	12.08	10.84	9.96	10.20	9.48

表-12 (10)

測 標 高	測 点 線	実験種別		自由越流時 流量 2,200 m ³ /sec 下流水位 EL 170.4m																	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
	EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0	161.0		
	a	(28.32) 26.52	(27.48) 25.78	(24.40) 23.94	(13.40) 12.94	12.28	13.88	(13.32) 12.92	12.56	15.68	11.56	12.44	12.76	12.08	11.92	14.00	7.48	7.92	7.80		
	b	23.24	22.32	19.68	12.20	12.60	13.24	13.16	11.96	12.84	11.28	11.44	11.88	11.44	11.04	10.60	8.04	8.24	8.08		
	4	22.32	21.60	19.40	11.56	10.56	12.04	11.60	9.88	11.56	12.48	10.00	11.04	10.68	9.92	9.72	7.32	7.72	7.96		
	c	(27.08) 26.34	(26.68) 24.68	(21.44) 21.22	11.40	9.20	13.24	12.28	11.28	13.20	10.08	10.24	11.48	10.80	10.60	9.92	7.80	8.00	8.20		
	5	(25.28) 25.02	(23.80) 23.42	(20.00) 19.66	12.80	11.28	14.44	13.12	10.92	12.88	11.60	12.48	13.00	12.32	12.08	10.72	7.20	9.12	8.80		
	6	(17.28) 17.12	(16.68) 16.54	15.72	12.60	12.08	13.00	12.44	11.32	11.48	11.12	11.32	12.00	11.60	10.72	9.80	7.88	8.72	8.92		
	f	(19.00) 18.64	(18.00) 17.64	(16.00) 14.84	13.56	13.20	13.96	14.00	12.92	12.08	11.96	12.52	12.56	12.28	11.40	10.24	8.80	9.28	9.40		

測 標 高	突 験 種 別		自 由 越 流 時 流 量 2,200 m ³ /sec 下 流 水 位 EL 172.4m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
測 線	EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(27.72) 27.30	(28.28) 27.21	(25.04) 24.84	(15.24) 14.84	(15.04) 14.90	(18.28) 16.00	(16.00) 16.00	15.52	18.04	13.20	12.88	14.24	13.68	13.76	15.00	9.40	9.72	9.64
b	(25.12) 24.28	(24.08) 23.34	(21.52) 21.14	14.52	13.44	14.68	14.52	13.12	14.56	12.68	12.92	13.44	12.80	12.24	11.80	9.76	9.96	9.72
4	(22.88) 22.44	(22.12) 21.54	19.92	13.88	13.20	15.32	14.40	13.00	13.80	12.92	11.96	12.80	12.40	11.52	11.36	9.56	9.72	9.76
c	(25.52) 24.16	(25.08) 24.80	21.52	13.76	11.88	15.72	14.88	14.04	14.56	11.48	11.56	12.80	12.28	12.32	11.28	9.52	9.84	9.84
5	23.24	21.92	20.60	14.08	13.44	15.68	15.32	14.08	14.56	12.44	13.08	13.88	13.48	13.20	11.76	9.80	9.80	10.08
6	17.96	17.08	16.36	14.52	14.48	15.04	14.88	13.76	12.96	12.92	12.84	12.92	12.88	12.04	11.48	11.20	10.32	10.40
f	18.88	17.52	16.72	15.24	15.04	15.32	14.96	14.32	13.68	13.12	13.16	13.48	13.44	12.32	11.28	10.40	10.72	10.68

フーチング余水吐設計に関する実験的研究

表-12 (11)

測 點 標 高	実験種別		自由越流時 流量 2,200 m ³ /sec 下流水位 EL 174.4m															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
EL	155.2	156.0	156.8	157.0	157.0	157.0	157.2	158.0	158.8	159.0	159.0	159.0	159.2	160.0	160.8	161.0	161.0	161.0
a	(28.00) 27.00	(29.12) 28.00	(25.08) 24.50	(17.44) 16.20	(16.40) 16.24	(18.24) 17.16	(13.60) 13.20	(14.32) 13.20	(15.64) 15.34	(10.92) 12.54	(12.54) 10.20	(11.76) 12.66	(11.88) 11.66	(11.08) 11.00	(13.00) 12.80	11.60	11.80	11.64
b	(24.28) 23.74	(23.48) 22.84	(21.92) 21.60	16.32	15.64	16.60	(16.68) 16.52	(15.20) 14.94	(16.00) 15.88	(14.40) 14.30	14.44	15.12	14.28	14.00	13.72	11.72	11.92	11.72
4	(25.00) 23.74	(24.28) 22.94	(24.56) 22.36	16.08	15.72	16.84	16.40	15.32	(15.80) 15.66	12.72	13.56	14.52	14.24	13.48	13.60	11.60	11.88	11.80
c	(25.20) 24.60	(24.08) 24.00	22.08	18.48	14.80	17.80	16.88	15.72	16.80	14.40	14.52	15.76	15.12	12.80	13.68	11.72	11.80	11.38
5	22.92	21.96	20.00	15.88	15.24	17.00	15.00	14.56	15.12	14.08	13.84	15.08	14.96	13.84	13.24	11.32	11.80	12.00
6	18.56	17.72	17.24	15.80	15.76	16.12	15.64	14.80	14.18	13.92	14.04	14.60	14.36	13.52	12.84	11.72	12.04	12.00
f	19.36	18.60	17.60	16.64	16.64	16.88	16.72	15.92	15.20	14.72	14.84	15.16	14.84	13.92	13.00	12.20	12.52	12.40

表-13 2 型放水管管内圧力分布実験値 単位;m

注: 太字は許容値超過部分を示す。

個所 番 号	1. 上面圧力水頭					5. 下面圧力水頭					3. 中心圧力水頭					2. 上面側圧力水頭					4. 下面側圧力水頭				
	EL 205.00	EL 210.00	EL 215.00	EL 222.00	EL 239.00	EL 205.00	EL 210.00	EL 215.00	EL 222.00	EL 239.00	EL 205.00	EL 210.00	EL 215.00	EL 222.00	EL 239.00	EL 205.00	EL 210.00	EL 215.00	EL 222.00	EL 239.00	EL 205.00	EL 210.00	EL 215.00	EL 222.00	EL 239.00
1	1.04	5.45	10.30	16.87	29.17	2.67	6.45	10.17	15.12	25.23	-1.11	2.22	11.39	17.53	31.31	1.57	6.31	12.26	18.54	30.03	6.51	11.23	16.34	22.79	34.94
2	-0.45	3.33	7.67	13.58	27.42	-3.28	-0.99	1.19	4.19	10.88	1.92	6.42	9.92	11.81	23.36	0.63	4.89	10.16	16.37	30.26	1.54	7.96	8.85	13.65	24.24
3	0.69	3.09	7.97	13.37	26.85	-2.86	-0.52	1.97	5.03	12.20	-0.58	2.94	5.54	10.99	22.33	-0.31	3.65	8.35	14.17	28.48	-0.97	1.88	5.05	8.95	17.62
4	-1.20	2.49	6.68	12.20	24.97	-3.55	-1.42	0.74	3.56	10.22	-1.55	1.57	5.22	9.69	20.37	-1.30	2.27	6.67	11.83	24.79	-3.49	-1.39	1.12	3.94	10.45
5	-2.24	1.12	5.02	9.93	17.75	-4.33	-2.44	-0.52	1.96	7.92	-2.67	0.12	3.41	6.40	16.84	-2.56	0.59	4.60	9.19	20.71	-5.34	-3.65	-1.84	0.26	5.18
6	-3.56	-0.50	2.97	7.29	17.94	-5.12	-3.50	-1.91	0.28	5.44	-3.70	-1.18	1.96	5.56	13.96	-4.85	-1.09	2.44	6.49	16.45	-5.71	-4.21	-2.27	-0.65	3.91
7	-4.60	-1.87	1.25	5.06	14.66	-5.36	-3.77	-2.18	-0.08	4.99	-5.01	-2.82	-0.31	2.63	9.74	-4.98	-2.52	0.47	4.07	12.77	-6.33	-5.16	-3.64	-1.99	2.12
8	-5.56	-3.16	-0.32	3.01	11.59	-5.93	-4.46	-3.08	-1.76	3.34	-6.04	-4.12	-2.00	0.73	6.61	-5.98	-3.76	-1.10	2.29	9.91	-6.81	-6.10	-5.35	-3.46	1.58
9	-6.00	-3.75	-1.00	2.15	10.19	-6.78	-6.00	-4.68	-3.15	0.27	-6.53	-4.73	-3.03	-0.48	4.98	-6.79	-4.78	-2.36	0.65	7.55	-8.19	-7.56	-7.11	-6.06	-3.97
10	-6.86	-4.88	-2.54	0.28	7.21	—	—	—	—	—	-5.87	-4.22	-2.10	0.07	6.07	-7.77	-6.18	-4.38	-1.98	3.66	—	—	—	—	—
11	-6.04	-3.91	-1.57	1.49	8.60	-5.53	-4.39	-3.02	-0.94	2.63	-5.58	-3.93	-1.93	0.22	5.92	-5.58	-3.51	-1.17	1.86	9.04	-5.66	-4.46	-3.06	-1.22	3.49
12	-5.70	-3.54	-1.29	1.74	8.70	-4.15	-2.71	-0.92	-0.92	5.78	-4.16	-2.20	0.02	2.76	9.51	-5.57	-3.65	-1.19	1.63	8.53	-4.34	-2.90	0.30	0.82	5.89
13	-4.93	-2.89	-0.67	2.21	9.00	-3.21	-1.82	-0.07	1.35	6.72	-3.96	-2.28	-0.19	2.10	8.01	-4.93	-2.98	-0.85	1.82	8.36	-3.45	-2.01	-0.34	1.59	6.60
14	-3.99	-2.07	0.09	2.88	9.42	-2.35	-1.03	0.64	2.60	7.07	-3.20	-1.61	0.33	2.44	7.93	-3.76	-1.84	0.29	2.93	9.41	-2.68	-1.33	0.23	1.80	6.72
15	-2.96	-1.00	1.15	4.09	10.81	-1.62	-0.27	1.37	3.15	8.04	-2.83	-1.00	0.52	2.51	7.73	-2.91	-0.96	1.05	3.75	10.35	-1.94	-0.50	1.11	3.04	7.89
16	-1.67	0.43	2.70	5.62	12.73	-0.90	0.54	2.37	4.44	9.43	-1.61	0.06	2.10	4.65	10.44	-2.01	0.19	2.65	6.10	13.15	-0.94	0.53	2.42	4.64	9.74
17	-0.68	1.51	3.93	6.97	14.35	-0.51	2.18	4.17	6.51	12.15	-0.05	1.06	4.24	7.15	13.66	-0.66	1.62	4.23	6.60	14.94	0.65	2.42	4.55	7.07	13.01
18	0.07	2.95	5.49	8.65	16.54	1.40	3.23	5.42	7.91	13.85	0.81	2.85	5.13	8.04	14.70	0.53	2.90	5.51	8.66	16.76	1.64	3.41	5.21	7.82	14.06
19	1.17	3.42	5.93	8.91	16.38	2.17	3.88	5.82	8.37	14.13	1.59	3.60	5.79	8.73	15.33	1.12	3.80	5.92	8.92	16.36	2.14	3.88	5.98	8.59	14.53
20	2.05	4.27	6.51	9.55	16.90	2.81	4.19	6.49	9.01	14.73	2.33	4.28	6.56	9.44	15.97	1.87	3.24	6.61	9.52	16.78	2.97	4.71	6.79	9.48	15.48
21	2.75	4.97	7.18	10.01	17.12	3.18	4.74	6.56	8.93	14.09	2.65	4.45	6.70	9.32	15.31	2.65	4.66	7.15	10.00	17.02	3.08	4.67	6.56	8.93	14.36
22	2.69	4.61	6.46	8.96	14.96	2.43	3.78	7.00	8.07	12.48	2.72	4.22	6.26	8.54	13.82	2.82	4.68	6.84	9.30	15.51	3.22	4.60	6.25	8.98	13.09
23	2.88	4.50	6.11	8.22	13.38	2.71	3.76	4.78	6.31	9.52	2.27	3.92	5.27	7.01	10.97	3.01	4.57	6.49	8.50	13.81	2.87	3.92	5.89	7.04	11.63
24	2.01	3.12	3.95	5.04	8.64	1.95	2.37	3.03	3.97	5.85	1.87	2.56	3.70	4.63	6.94	2.13	3.12	9.27	7.56	9.15	2.24	2.90	4.10	4.94	7.55
25	—	—	—	—	—	0.73	0.67	1.67	0.88	0.88	0.05	0.08	0.26	0.26	3.56	—	—	—	—	—	0.74	0.83	1.13	4.73	3.98
26	—	—	—	—	—	-0.37	-0.76	-1.03	-1.39	-2.41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

フーチャム放水試験に関する実験的研究

表-14 2 型放水 管水位一流 量關係實驗值

番 号	門扉開放自由流出時			門扉開度 0.3 m		門扉開度 0.6 m		門扉開度 0.9 m		門扉開度 1.2 m	
	貯水位	流 量	流 係 數	貯水位	流 量	貯水位	流 量	貯水位	流 量	貯水位	流 量
1	203.60	167.60	0.889	204.17	17.25	202.46	27.51	202.82	37.46	205.55	54.23
2	204.25	173.03	0.901	209.22	18.24	209.09	33.03	209.60	44.37	205.58	54.32
3	204.80	175.98	0.900	212.27	19.72	216.95	39.44	217.44	51.76	211.01	62.11
4	210.83	204.57	0.905	218.62	22.18	222.50	41.90	223.50	59.15	211.04	62.85
5	218.99	238.59	0.911	222.83	24.65	229.82	45.84	234.83	63.10	216.86	68.52
6	226.28	265.70	0.916	230.00	24.89	235.82	49.30	236.39	64.08	224.87	75.91
7	233.72	288.87	0.913	235.26	27.11	240.95	51.76	240.35	67.78	230.84	81.34
8	241.07	311.54	0.915	242.63	27.56	—	—	—	—	237.98	88.73

番 号	門扉開度 1.5 m		門扉開度 1.8 m		門扉開度 2.1 m		門扉開度 2.4 m		門扉開度 2.7 m	
	貯水位	流 量	貯水位	流 量	貯水位	流 量	貯水位	流 量	貯水位	流 量
1	206.15	70.99	205.79	85.28	205.10	99.58	205.16	121.27	205.82	147.89
2	213.59	82.82	212.54	98.59	211.79	115.84	211.79	141.97	206.15	147.89
2	220.31	92.18	220.79	112.15	218.90	130.63	218.12	157.74	213.65	176.23
4	227.09	101.05	227.42	122.01	226.46	144.93	224.60	171.55	221.54	197.18
5	234.32	108.45	239.08	133.10	226.58	145.42	231.80	171.55	229.22	219.36
6	240.53	115.84	241.01	142.46	233.84	159.22	240.05	187.32	235.04	231.69
7	—	—	—	—	241.31	170.07	—	203.10	240.26	244.01
8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表-15 2型放水管, ベルマウス改良型, 管内圧力分布実験値

単位; m

注: 太字は許容値超過部分を示す。

個所 水位 番号	1. 上面圧力水頭					5. 下面圧力水頭					3. 中心圧力水頭					2. 上面側圧力水頭					4. 下面側圧力水頭				
	EL 205.00	EL 210.00	EL 215.00	EL 222.00	EL 239.00	EL 205.00	EL 210.00	EL 215.00	EL 222.00	EL 239.00	EL 205.00	EL 210.00	EL 215.00	EL 222.00	EL 239.00	EL 205.00	EL 210.00	EL 215.00	EL 222.00	EL 239.00	EL 205.00	EL 210.00	EL 215.00	EL 222.00	EL 239.00
1	1.26	5.79	9.57	16.59	31.98	4.36	8.52	12.45	17.97	31.36	2.21	6.92	10.97	17.06	30.83	1.64	6.92	11.27	18.29	34.31	6.83	12.19	16.81	23.17	38.59
2	-0.26	3.49	6.91	13.18	26.44	-0.86	2.02	4.72	8.38	16.69	-0.62	3.16	6.31	11.32	22.21	0.64	5.47	9.37	15.73	31.63	3.89	8.39	12.23	18.14	30.74
3	-0.68	3.22	6.67	13.79	25.90	-1.16	1.66	4.54	8.02	15.85	-0.93	2.53	5.59	10.33	20.98	-0.33	4.20	7.74	13.68	27.24	0.57	4.02	6.75	10.98	21.24
4	-1.19	2.53	5.95	11.74	24.25	-2.36	0.70	2.62	6.53	12.46	-1.66	1.73	4.64	9.03	19.52	-1.44	2.67	6.00	11.43	33.70	-3.57	-1.29	4.33	9.52	9.52
5	-2.29	1.01	4.16	9.41	20.66	-3.58	-1.42	0.77	1.31	9.53	-2.75	0.34	2.98	7.00	16.18	-2.58	0.87	3.99	8.67	19.44	-5.39	-3.74	-2.45	-0.44	4.31
6	-3.46	-0.61	2.39	6.89	18.84	-4.56	-2.76	-0.96	1.23	6.82	-3.81	-1.05	1.17	4.92	13.60	-3.93	-0.96	1.83	5.88	15.27	-6.33	-4.80	-3.60	-1.65	0.96
7	-4.55	-1.94	0.73	4.60	13.72	-4.95	-3.30	-1.56	0.43	5.53	-4.31	-2.90	-0.95	1.91	8.66	-5.03	-2.48	-0.08	3.46	11.62	-7.07	-5.54	-4.64	-2.92	0.07
8	-5.40	-2.55	-0.87	2.49	12.24	-5.58	-4.11	-2.64	-0.87	3.66	-6.00	-3.99	-2.28	0.12	6.15	-6.12	-3.60	-1.56	1.62	8.70	-6.85	-5.51	-4.31	-2.87	0.64
9	-5.87	-3.11	-1.19	1.63	9.34	-6.34	-5.14	-3.97	-2.50	1.25	-6.58	-4.54	-2.98	-0.88	4.71	-6.89	-4.55	-2.78	0.06	6.00	-6.66	-5.46	-4.47	-2.85	0.66
10	-6.66	-4.47	-2.61	0.39	7.02	—	—	—	—	—	-5.91	-4.02	-2.07	-0.18	6.24	-7.63	-5.80	-4.03	-1.99	3.56	—	—	—	—	—
11	-5.87	-3.53	-1.37	1.54	8.62	-5.42	-4.04	-2.72	-1.04	6.46	-5.58	-3.72	-1.83	0.36	6.21	-5.32	-2.95	-0.67	2.15	9.14	-5.91	-4.56	-3.30	-1.97	2.07
12	-5.44	-3.16	-0.97	1.88	8.99	-4.16	-2.42	-0.89	1.12	6.28	-4.33	-2.11	0.02	2.57	9.41	-5.34	-3.09	-0.93	1.77	8.70	-4.26	-2.52	-0.93	1.08	6.33
13	-4.64	-2.39	-0.32	2.35	9.26	-3.24	-1.62	-0.06	1.92	6.96	-4.03	-2.08	-0.13	2.03	8.18	-4.73	-2.48	-0.44	2.15	8.84	-3.45	-1.71	-0.21	1.76	6.84
14	-3.76	-1.63	0.47	2.99	9.59	-2.39	-0.69	0.67	2.65	7.30	-3.24	-1.47	0.36	2.43	8.04	-3.62	-1.49	0.49	3.04	9.55	-2.71	-0.85	0.29	2.09	6.83
15	-2.79	-0.52	1.54	4.15	10.93	-1.69	-0.13	1.40	3.29	8.15	-2.84	-1.13	0.55	2.56	7.96	-2.83	-0.64	1.37	3.89	10.43	-1.95	-0.36	1.17	2.04	7.89
16	-1.73	0.58	2.98	5.53	13.03	-0.71	0.91	2.47	4.42	9.52	-1.47	0.42	2.34	4.41	10.53	-1.34	0.64	2.71	5.41	12.61	-1.75	0.87	2.61	4.62	9.87
17	-1.87	1.59	4.02	6.78	13.31	0.63	2.43	4.26	6.36	12.21	0.13	2.38	4.42	6.91	13.81	-0.33	2.11	4.30	7.24	14.95	0.84	2.73	4.74	6.99	13.20
18	0.42	3.00	5.58	8.40	16.02	2.00	4.10	6.14	8.57	15.32	0.97	3.13	5.35	7.81	13.83	0.60	3.06	5.40	8.22	15.93	1.52	3.44	5.42	7.70	13.88
19	1.13	3.39	6.05	9.05	16.49	2.24	4.13	5.43	8.18	14.21	1.72	3.82	5.98	8.47	15.37	1.30	3.76	5.86	8.77	16.33	2.27	4.16	6.14	8.42	14.60
20	2.20	4.63	7.15	9.79	19.43	3.29	4.78	6.55	8.74	14.68	2.49	4.65	6.75	9.21	16.05	2.09	4.46	6.65	9.41	16.76	3.10	4.99	0.97	9.25	15.46
21	2.86	5.17	7.51	10.03	17.45	3.29	5.00	6.68	8.60	14.15	2.93	4.88	6.80	9.08	15.38	2.75	5.12	7.16	9.83	16.95	3.21	4.89	0.66	8.67	14.22
22	2.59	4.51	6.31	8.50	14.20	3.21	4.65	6.12	7.80	12.39	2.93	4.64	6.26	8.63	13.73	3.04	5.02	6.94	9.31	15.55	3.34	4.84	6.34	8.14	13.54
23	3.17	4.97	7.13	8.51	13.91	2.70	3.78	4.89	5.85	9.27	2.70	4.00	5.28	6.84	11.04	3.19	4.81	6.31	8.53	13.72	3.02	4.22	5.45	6.77	10.58
24	2.09	3.29	4.49	5.24	8.45	2.12	2.58	3.15	3.87	5.52	2.48	3.23	3.83	4.55	7.13	2.37	3.27	4.14	5.64	8.91	2.43	3.33	3.93	4.93	7.23
25	—	—	—	—	—	0.79	0.85	0.88	1.12	4.81	0.23	0.48	0.39	0.63	0.90	—	—	—	—	—	0.96	1.26	1.51	1.41	1.77
26	—	—	—	—	—	-0.25	-0.52	-0.85	-1.03	-1.81	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

アロファン質粘土の消石灰-石膏による 化学的安定処理方法に関する研究 (3)

昭和 36 年 8 月

有 泉 昌*
和 田 茂 治**

目 次

V. シリカ-アルミナ共沈ゲルと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応	(1)
〔1〕 試 料	(1)
〔2〕 実験方法	(2)
〔3〕 実験結果とその検討	(2)
(1) 共沈ゲルの性質	(2)
(2) 共沈ゲルと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応 (20°C)	(4)
(3) 共沈ゲルと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応 (80°C)	(5)
(4) 加熱処理した共沈ゲルと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応	(8)
(5) Fe_2O_3 ゲルと SiO_2 ゲルの共沈ゲルについて	(9)
〔4〕 要 約	(10)

V. シリカ-アルミナ共沈ゲルと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応

天然に見られる土壤粘土としてのアロファンが $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液と反応して 20°C では C_2ASH_n を生成し、 80°C では Hydrogarnet を生成すること、その反応機構等の一部についてすでにのべてきた。X線回折および DTA 曲線等よりアロファンの性質に近似しているとされる Al_2O_3 ゲルと SiO_2 ゲルとの共沈ゲルについて $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応を検討する。実験結果からは共沈ゲルは天然アロファンと同様に C_2ASH_n や Hydrogarnet を生成することを認め、適当な組成の共沈ゲルはアロファンと見なせられるとする小坂²³⁾の報告が肯定されることをのべる。天然に存在するアロファンは副成分等を含くみ、その構造自体にも相当の差異が見られるので、アロファンに関する研究においては、合成アロファンを出発点とすることに意義があると考ええる。

〔1〕 試 料

SiO_2 ゲルおよび Al_2O_3 ゲル共沈体の作製のためには化学用最純の $\text{AlCl}_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 、 $\text{Al}_2\text{K}_2(\text{SO}_4)_4 \cdot 24\text{H}_2\text{O}$ 、 NaAlO_2 、水ガラス (Na_2SiO_3 55%) を用いた。これらの薬品を用い、pH、反応温度等を適当な条件を選んで種々の組成の共沈ゲルをえた。それらの作製法を簡単にのべる。

* 地質化学部長

** 地質化学部 化学研究室研究員

No-1:

13% 水ガラス水溶液 1 l を 22% $\text{AlCl}_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 水溶液 1 l に攪拌しながら滴下する。この際 pH 調整は行わず、最終 pH は 3.0 とした。温度は室温であり、ゲル状物質は汙過し水洗後風乾する。

No-2:

5.6% 水ガラス水溶液 500 cc を 70°C に加熱した 9% の $\text{AlCl}_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 水溶液中に攪拌しながら滴下し、NaOH により pH を調整し最終 pH を 6.1 とする。汙過、水洗、風乾する。

No-3:

5% 水ガラス溶液 500 cc を 70°C に加熱した 16% 明ばん水溶液 500 cc に攪拌滴下し、NaOH で最終 pH を 6.1 とする。汙過、水洗、風乾する。

No-4:

5% 水ガラス水溶液 500 cc を 70°C に加熱した 2.8% NaAlO_2 水溶液 500 cc に注加混和後、HCl を攪拌滴下して最終 pH を 6.3 とする。汙過、水洗、風乾する。

No-5:

2.5% 水ガラス水溶液 1 l を室温で 1.4% NaAlO_2 水溶液 1 l に注加混和後、HCl を加えて最終 pH を 6.3 とする。ついで 80°C に 30 分間加熱して汙過、水洗、風乾する。

No-6:

2.5% 水ガラス水溶液 1 l をウトロビンおよび第 4 級アンモニウム塩で pH 4.0 くらいに調整した 8% 明ばん水溶液 1 l に攪拌しながら滴下する。アンモニアに

て最終 pH を 6.0 とする。ついで 80°C で 30 分間加熱し、汙過してアルコールで洗った後に水洗して風乾する。

No-7:

2.5% 水ガラス水溶液 1 l をウトロロビンで pH を 5.0 くらいに調整した 9% 明バン水溶液 1 l に攪拌しながら滴下し、わずかに加熱する。最終 pH はウトロロビンで 6.0 とする。水洗して風乾する。

No-8:

2.5% 水ガラス水溶液 1 l をウトロロビンにて pH 5.0 くらいに調整した 7% $\text{AlCl}_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 水溶液 1 l に攪拌しながら滴下し、アンモニアで最終 pH を 6.0 とする。ついで 90°C で 30 分間加熱し、汙過、水洗、風乾する。

No-9:

1.5% 水ガラス水溶液 1 l を 9% $\text{AlCl}_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 溶液に攪拌滴下し、80°C に加熱しながら NaOH で最終 pH を 6.4 とする。汙過水洗が困難であるので透析を行ない、60°C で 8 時間乾燥器中に放置した後風乾させる。

No-10:

1.0% 水ガラス水溶液 1 l に 9% $\text{AlCl}_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 溶液に 80°C で攪拌しながら滴下し、NaOH で pH を調整しながら最終 pH は 6.4 とする。汙過し、水洗のち透析を行ない、乾燥器で 60°C で 8 時間処理して後に風乾させる。

No-11:

0.5% 水ガラス水溶液 1 l を 9% $\text{AlCl}_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 溶液に攪拌しながら滴下する。80°C に保ち NaOH で最終 pH を 6.4 とする。汙過、水洗、透析、60°C 乾燥、風乾する。

No-12:

1.0% 水ガラス水溶液 1 l を 6% $\text{AlCl}_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 溶液に攪拌しながら滴下する。80°C に保ち NaOH で最終 pH を 6.4 とする。汙過、透析、60°C 乾燥、風乾する。

No-13:

0.5% 水ガラス溶液 1 l を 6% $\text{AlCl}_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 溶液に攪拌しながら滴下する。80°C に保ち NaOH で最終 pH を 6.4 とする。汙過、透析、60°C 乾燥、風乾する。

〔2〕 実験方法

えられた合成ゲルはボルトランドセメントの分析方法に準じて H_2O^- , H_2O^+ , SiO_2 , Al_2O_3 を求め、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ も求めた。X線分析は Geigerflex により、対陰極は Cu とする (Ni でフィルターする)。実験は主として X線回折法を用い、一部の試料については DTA 方法を併用する。DTA 曲線の求め方は既報による。また KBr 錠剤法により、Parkin Elmer 社の赤外線スペクトルメーターにより赤外線吸収スペクトルも求めた。

$\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応では、 CO_2 の混入に注意して造った $\text{Ca}(\text{OH})_2$ の飽和溶液 100 cc に、試料 0.1 g を

加え 20°C の恒温室中で 2 週間養生する。反応後の液相の分析値より試料に吸着固定された CaO の量を求める。同様な実験を 80°C, 2 週間の条件で実施する。また 100°C, 200°C および 500°C で 1 時間処理した一部の試料についても、20°C で 2 週間養生した。

〔3〕 実験結果とその検討

(1) 共沈ゲルの性質

合成した SiO_2 ゲルと Al_2O_3 ゲルの共沈ゲルの化学組成を表-7 に示す。表より明らかなように H_2O^+ と H_2O^- の含量は大きく、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ は 0.2~1.0 の範囲内にある。これらのゲルの DTA 曲線と X線回折図を図-23・24 に示す。

表-7 合成ゲルの化学組成

試料番号	H_2O^-	H_2O^+	SiO_2	Al_2O_3	$\frac{\text{Al}_2\text{O}_3}{\text{SiO}_2}$ (モル比)
No. 1	36.16	10.22	40.94	12.90	0.18
No. 2	18.98	13.92	31.38	35.40	0.66
No. 3	20.04	15.62	30.60	33.66	0.65
No. 4	20.68	15.78	41.60	21.06	0.30
No. 5	30.16	15.16	38.98	15.34	0.23
No. 6	34.76	12.04	25.32	27.84	0.65
No. 7	22.51	15.75	28.55	33.20	0.68
No. 8	17.50	8.80	27.35	46.45	0.999
No. 9	23.12	18.60	14.52	44.72	1.81
No. 10	12.12	24.94	4.16	60.04	8.50
No. 11	20.20	16.50	3.50	59.90	10.12
No. 12	23.84	19.12	12.20	43.88	2.12
No. 13	22.84	14.24	6.56	56.80	5.10

No-1 試料は $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が 0.18 で最も小さく、X線回折では 3.4Å にいちじるしく拡散した回折線を示すのみであるが、DTA 曲線ではアロファンに見られる高温部の発熱ピークを示さない。この試料はアロファンの性質とはいちじるしく異なる。

No-2, No-3, No-6, No-7 はいずれも $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が 0.65~0.68 であり、X線回折では 3.4Å にハローを認めるのみで結晶性物質をふくまない。DTA 曲線はアロファンに近似した形を与える。No-8 は $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が 1.0 であるが No-2 等と同様にアロファンに近い性質を与える。

No-9 は X線回折でも DTA でも Gibbsite を与えるが 1,000°C の発熱ピークもともなう。この発熱ピークは Gibbsite には見られないものであり、アロファン近似の性質を示すものと Gibbsite の共存を示す。

No-10 は No-9 よりも多く Gibbsite をふくみ、1,000°C の発熱ピークが見られないことと、150°C の吸熱ピークも小さいことより、アロファン近似の性質を示すものは存在しても少量であらう。

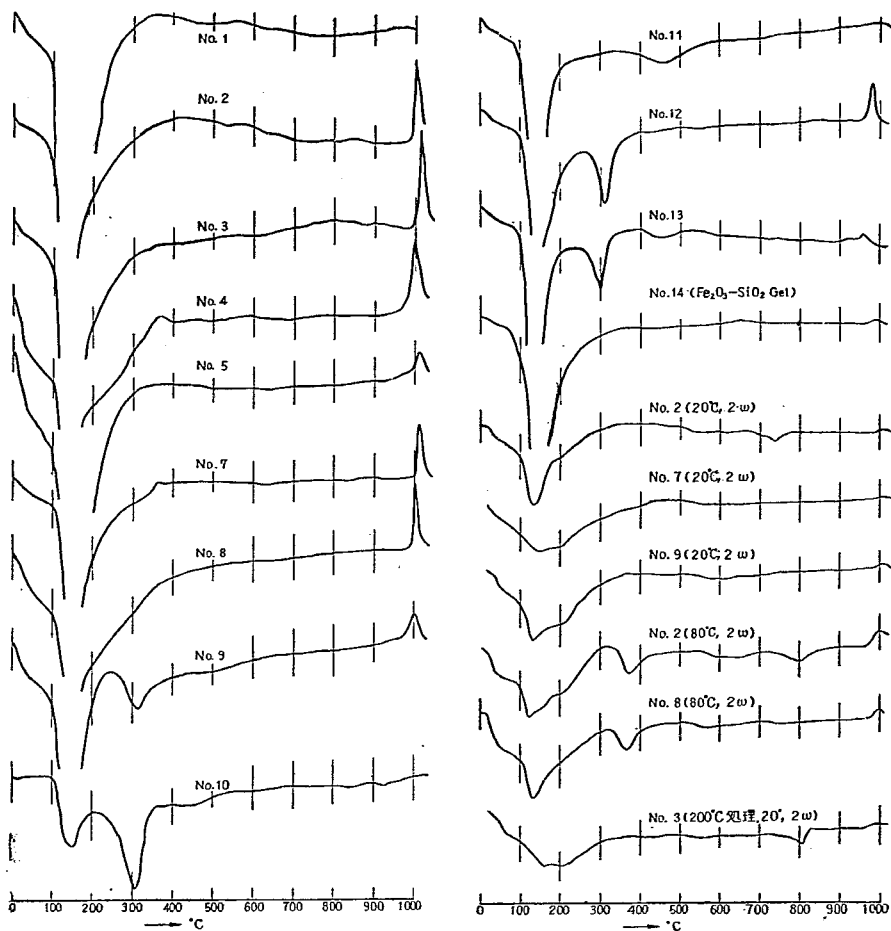


図-23 $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ ゲル, $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ ゲルと飽和 Ca(OH)_2 溶液との反応生成物のDTA曲線

No-11はX線回折ではいちじるしく拡散した線ではあるが Boehmite の粉末線を示し、DTA曲線でもやや低温側にずれているが、Boehmite による吸熱ピークを示す。高温部における発熱ピークを示さない。アロファン近似の性質を示すものは存在しても少量である。

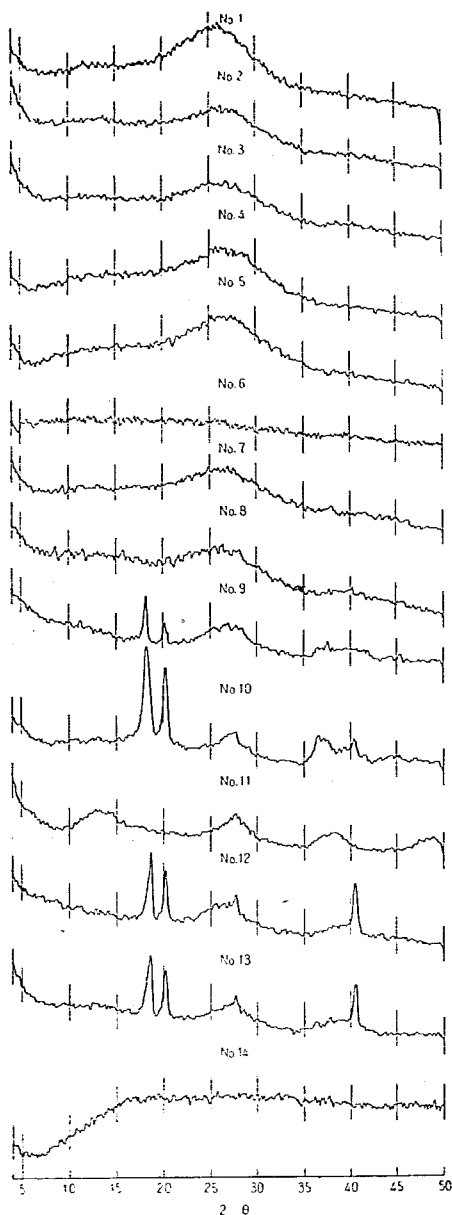
No-12はX線回折では、Bayerite の存在を明瞭に示し、DTA曲線もそれを支持している。1,000°Cの発熱ピークをもち、アロファンに近似の性質を示すものが一部存在することを示す。

No-13はNo-12と同様に Bayerite の存在を示すが、1,000°Cの発熱ピークがNo-12より小さい。

No-4、No-5はX線回折図では3.4Åにハローを示し、DTA曲線はアロファン近似の性質を示すものの存

在を示す。No-4の方がNo-5より1,000°Cの発熱ピークが大きい。

赤外線吸収スペクトルは図-25に示すように、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が0.6~1.0のものではFieldes²⁾がのべているようにアロファンAに該当し、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ がとくに小さいNo-1では803 cm^{-1} にシリカゲルによる吸収をも認め、ほかに1,200 cm^{-1} および900 cm^{-1} にも吸収を認め、アロファンとはやや異なり SiO_2 ゲルの存在量が多いと推定される。No-4およびNo-5は何によるか明らかでないが875 cm^{-1} の吸収を認めるほか、アロファンの吸収曲線に近い。 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の大きいNo-8はアルミナゲルの存在を示し、No-12は950 cm^{-1} に吸収のピークが移りアロファンのほかにアルミナゲルの共存すること

図-24 $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ ゲル X線回折図

を推定させる。No-13 は No-12 がさらに顕著になった状態を示している。No-10 は Gibbsite による吸収を明

瞭に示し、Si-O による吸収は No-11 と同様に弱くなっている。アロパンの存在量は少ないことが推定される。

以上の実験結果よりこの方法が造られたシリカゲル、アルミナゲルの共沈ゲルは $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の比でその構造に差のあることが推定され、同様の組成を持つものは共沈条件によってもそれほど相異のないことを知る。 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ のとくに大きい場合は、Gibbsite, Boehmite, Bayerite 等を混在させ、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ のとくに小さい場合は遊離のシリカゲルを混在させることが認められる。 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が 0.6~1.0 程度の共沈ゲルは X 線回折, DTA 曲線, 化学分析, 赤外線吸収スペクトル等の結果から、天然のアロパンに近似した物質であることが認められる。

(2) 共沈ゲルと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液と反応 (20°C)

共沈ゲルを 20°C で $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液と 2 週間反応させた場合は、図-26 に示すように $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が 0.18 のようにいちじるしく小さい No-1, No-2 を除いて No-3, No-4, No-5, No-6, No-7, No-8 では天然アロパンの場合と同様に C_2ASH_n が生成する。 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の小さい No-5 は C_2ASH_n の粉末線が弱く、この比が No-8 の 1.0 に近づけたがい粉末線は鮮明となる傾向を認める。この比の値が 1.0 を越して大きくなるにしたがい C_2ASH_n の粉末線は鮮明さを欠き、 $1,000^\circ\text{C}$ の発熱ピークの認められる No-9, No-12, No-13 では C_2ASH_n の生成は明瞭である。 SiO_2 ゲルおよび Al_2O_3 ゲルの共沈物でも $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の少なくとも 0.23 より小さいものでは C_2ASH_n は生成せず、また $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が大きい側でも 8.5 を越す場合も C_2ASH_n の生成を認めない。すなわち C_2ASH_n の生成には $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の比についてある限界のあることが認められる。共沈ゲルの生成方法にもよると考えられるが、No-9 No-10 には Gibbsite が共存し、No-12, No-13 には Bayerite が共存し、No-11 には Boehmite が共存する。これらの試料ではいずれも C_3AH_6 が生成することが知られ、 C_2ASH_n も認められるのはアロパンに近似する性質を示すゲル状態が共存するためと考えられる。 C_3AH_6 が存在することは $\text{CaO-Al}_2\text{O}_3\text{-H}_2\text{O}$ 系で最も溶解度が小さく、安定なものが C_3AH_6 であるためと考えてよく、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の大きい場合は $\text{CaO-SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3\text{-H}_2\text{O}$ 系化合物と $\text{CaO-Al}_2\text{O}_3\text{-H}_2\text{O}$ 系化合物が共存することを示し、 $\text{CaO-Al}_2\text{O}_3\text{-(Al}_2\text{O}_3\text{-SiO}_2\text{ Gel)-H}_2\text{O}$ 系のような複雑な平衡関係の存在が推定できる。同様に SiO_2 が遊離の状態が存在する場合は $\text{CaO-SiO}_2\text{-H}_2\text{O}$ 系化合物が生成する

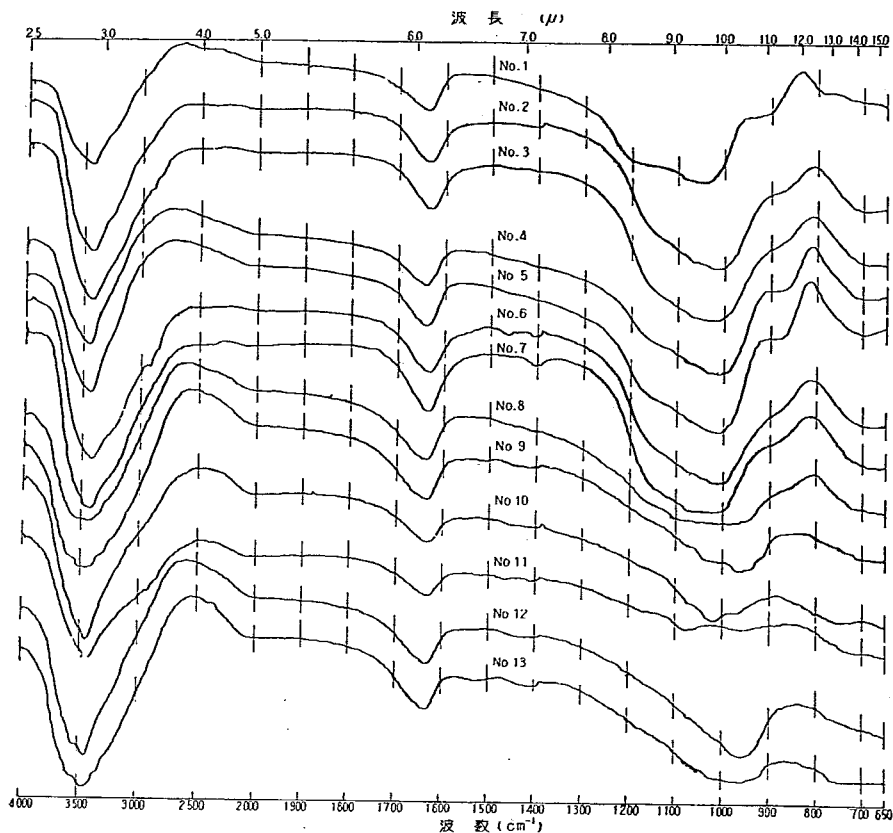


図-25 赤外線吸収スペクトル

と予想されるのであるが、その結晶度が低いことと実験過程で CO_2 の混入をさげなかったので CaCO_3 の粉末線でマスクされることのために、CSH 等は確認しがたいのである。しかし No-2, No-3, No-7 等では $3.05\text{\AA}$ 線は鋭い回折図を与えないことより CSH 等の生成を推定することも可能である。なお一般に C_3AH_6 および C_4AH_3 も共存する。なお DTA 曲線は No-2, No-7, No-9 についてえられているが、いずれも 200°C の吸熱ピークが見られ、 C_2ASH_8 の生成を示している。

CaO の試料への固定量 (1g 試料当りの CaO 量) は No-1 から No-13 について次のような値となる。

0.458, 0.560, 0.520, 0.395, 0.458, 0.618, 0.612, 0.463, 0.554, 0.775, 0.772, 0.571, 0.717

CaO の固定量は $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の大きい合成ゲルほど大きい傾向が認められ、 Al_2O_3 が液中に溶出しないと仮定した場合の反応体中での $\text{CaO}/\text{Al}_2\text{O}_3$ モル比は次のよ

うな値となる。

6.5, 2.9, 2.8, 3.5, 5.5, 4.0, 3.4, 1.8, 2.3, 2.3, 2.3, 2.4, 2.3 この結果より $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の大きいものは $\text{CaO}/\text{Al}_2\text{O}_3$ が比較的小さいことが示され、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の小さいものは $\text{CaO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{H}_2\text{O}$ 系化合物のほか $\text{CaO}-\text{SiO}_2-\text{H}_2\text{O}$ 系化合物の生成を推定させる。

(3) 共沈ゲルと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応 (80°C)

共沈ゲルを 80°C で2週間 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液と反応させたときは、前節で天然アロファンの場合に C_3AH_6 が生成したと同様に、いずれの試料についても C_3AH_6 を生成する。ただし、No-1 については実験を行っていないので明らかでない。回折線の強度は $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の比が大きいほど大きい傾向が認められる。No-3, No-6, No-8 試料では $3.0\text{\AA}$ 線が鋭くなく、 $2.82\text{\AA}$ 線は高角側に二重線化して $2.80\text{\AA}$ 線が推定され、CSH (I) の存在が推定される。No-7 では C_3AH_6 のほかに $10.1\text{\AA}$ 線

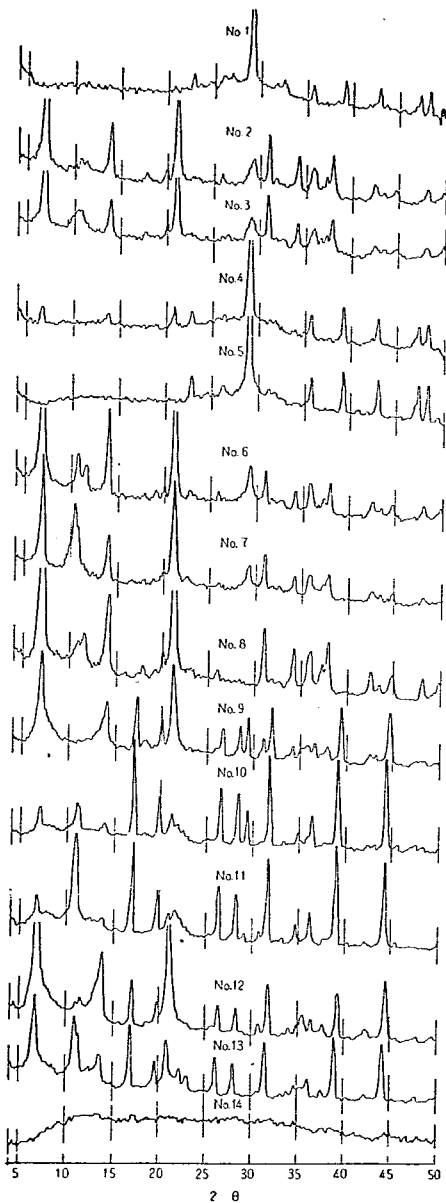


図-26 (a) $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ ゲルと飽和 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応生成物 X 線回折図 (20°C, 14日)

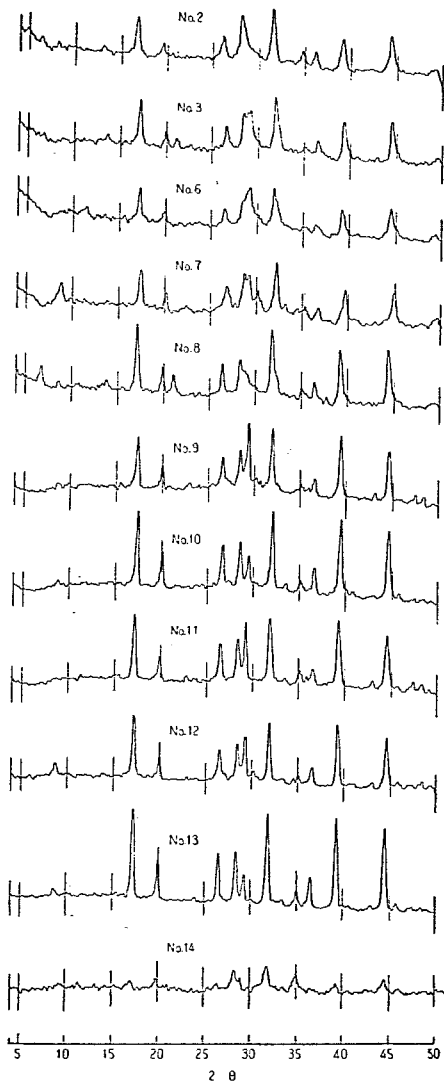


図-26 (b) $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ ゲルと飽和 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応生成物 X 線回折図 (80°C, 14日)

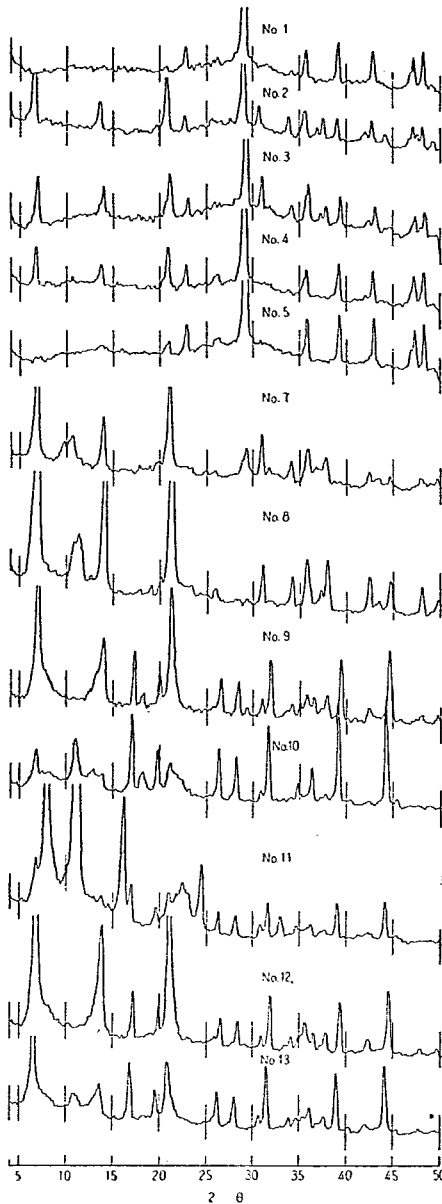


図-27 (a) $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ ゲル (100°C 加熱処理) と飽和 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応生成物 (20°C, 14 日) X線回折図

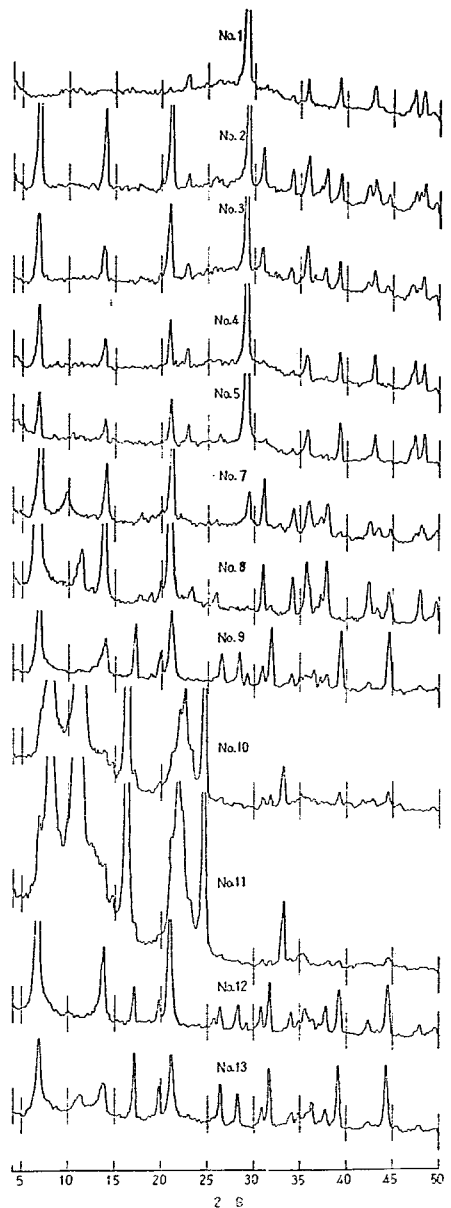


図-27 (b) $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ ゲル (200°C 加熱処理) と飽和 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応生成物 (20°C, 14 日) X線回折図

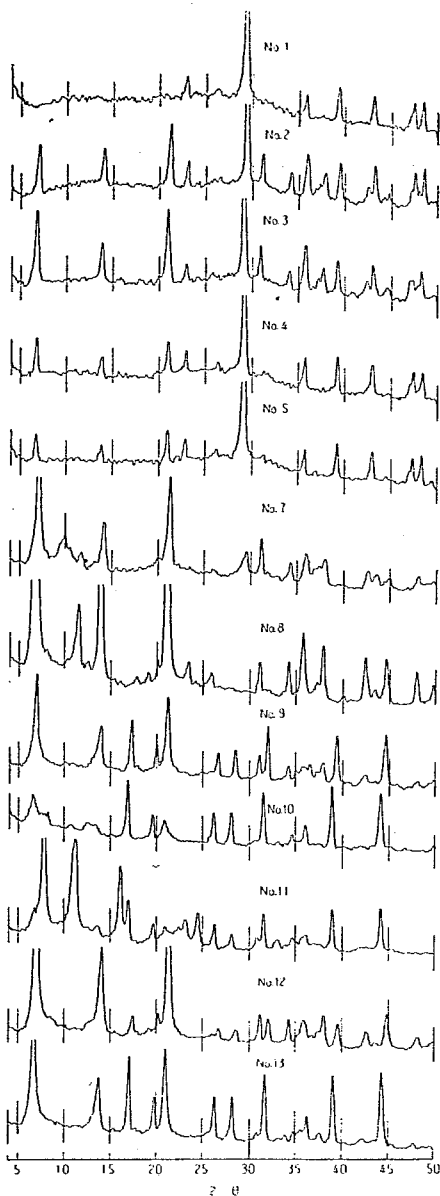


図-27 (c) $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ ゲル (500°C 加熱処理) と飽和 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応生成物 (20°C, 14 日) X線回折図

が見られ、 $\text{CSH}(\text{I})$ によるか否かは明らかでない。No-8 は C_3AH_6 のほかに C_2ASH_n を認める。DTA 曲線は No-2, No-8 について求めたが、360°C の C_3AH_6 による吸熱ピークが明瞭に見られる。

20°C の場合 No-9, No-10, No-11 等は C_3AH_6 を生成したのであるが、すでに固相として試料中に Gibbsite が存在していたから、 $\text{CaO-Al}_2\text{O}_3\text{-H}_2\text{O}$ 系の安定相として C_3AH_6 が生成したのである。したがって 80°C の場合に C_3AH_6 が生成することとはその内容が異なるといえる。 C_3AH_6 の生成機構は天然アロファンの場合と同じと考えることができる。また天然アロファンの場合は材令が長いと SiO_2 が H_2O と置換した Hydrogarnet を一部生成し始めることを認めたのであるが、天然アロファンより反応しやすいこの合成ゲルでは 2 週間の養生では SiO_2 と H_2O の交換は認められていない。

CaO の試料への固定量 (1g 試料当りの CaO 量) は No-2, No-6, No-7, No-8, No-9, No-10, No-11, No-12, No-13 についてそれぞれ 1.02, 0.82, 0.89, 0.81, 0.87, 0.93, 0.92, 0.93, 0.92 であり、この固定量は 20°C の場合のような $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ との関係は明瞭ではない。試料より Al_2O_3 が液中に溶出ししないと仮定し、また $\text{Ca}(\text{OH})_2$ の炭酸화가起らないと仮定すれば、反応体中での $\text{CaO}/\text{Al}_2\text{O}_3$ (モル比) は 5.2, 5.4, 4.9, 3.2, 3.5, 2.9, 2.8, 3.9, 3.0 となり、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の大きいものは $\text{CaO}/\text{Al}_2\text{O}_3$ が約 3 に近く、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が 0.65 程度のもは約 5 程度であり、前者は主として C_3AH_6 の生成に関係があり、後者は C_3AH_6 のほかに $\text{CSH}(\text{I})$ 等の生成を考えねばならない。 CaO の固定量を天然アロファンの場合と比較すると、20°C でも 80°C でも反応体中の CaO 含量はあまり変わらないことが認められる。

以上のべたように合成ゲルは天然アロファンと同じ行動をとることが明らかとなった。

(4) 加熱処理した共沈ゲルと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応

共沈ゲルを 100°C, 200°C, 500°C に加熱処理して、 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液と 20°C, 2 週間反応させた場合の反応生成物の X線回折図を図-27 に示す。

加熱処理した方が結晶度のすぐれた C_2ASH_n を生成することはすでに報告してあるが、合成ゲルの場合も同様なことが云える。No-1 および No-5 は加熱処理しない試料の場合と同様に C_2ASH_n を生成しない。 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の大きい No-9, No-10, No-12, No-13 は同様に C_2ASH_n と C_3AH_6 を生成する。しかし、No-11 は C_3AH_6 と C_2ASH_n の一部は認めるが、現在までに見られなかった新しい強い反射を示す。この反射は 11.1 Å, 5.5 Å, 3.65 Å で特徴づけられ、層格子の底面反射と見

なされる。しかし、この化合物が何であるかは不明である。

200°C で加熱処理した合成ゲルは 100°C 加熱したもののより結晶度の高い C_2ASH_n を与える。No-1 は C_2ASH_n を生成しないが、No-5 は 100°C 加熱では C_2ASH_n を生成しないにもかかわらず 200°C 加熱で生成する。また 100°C で処理した No-11 試料の場合に見られた 11.1 Å 線の特徴づけられた回折線群は、200°C 処理の場合に No-10 試料にも出現した。

500°C で加熱処理した合成ゲルは、No-9 までは 200°C 処理の場合とほとんど変わらない。しかし、No-10 では 11.1 Å 線は出現せず無処理の場合と同じになり、No-11 は依然として 11.1 Å 線が強く見られる。No-12, No-13 は加熱による変化はうけない。

X 線回折の結果からはアロファン類似体をふくむ合成ゲルは、加熱処理しても $Ca(OH)_2$ 溶液との常温反応で、 C_2ASH_n を生成することは確実であり、 Al_2O_3/SiO_2 が 1.0 に近いものの回折線は最も強い。No-8 はこの例であり、炭酸塩を可及的に防止し、また CSH (I) が生成しない場合は、 C_2ASH_n は X 線的には副成分をよくまなす。したがって C_2ASH_n のすべての回折線を確実に知ることができ、この値はすでに第一報でのべた。

加熱処理したものが $Ca(OH)_2$ 溶液との反応で C_2ASH_n を生成せず、11.1 Å 線で代表させる粉末線を与える場合の見られることは、合成ゲル中に共存する Boehmite 等の加熱処理により、 C_2ASH_n と同様な層状格子をもつ化合物が生成しやすいことを示すものであり、今後の研究を要する点である。なお 11.1 Å 線を示す化合物は C_2AH_3 の粉末線に似ているのであるが正確なこととはわからない。

加熱処理試料の $Ca(OH)_2$ 溶液との反応による CaO の固定量については表-8 に示すようであり、反応体中での CaO/Al_2O_3 (モル比) は、加熱しない場合と比較していちじるしい相異はない。また No-10 および No-11 試料のように加熱体では C_2ASH_n のかわりに 11.1 Å

線を与える場合でも、 CaO/Al_2O_3 にいちじるしい変化は認められない。

以上の実験結果より合成ゲルは加熱した場合には、 $Ca(OH)_2$ 溶液との常温での反応で C_2ASH_n を生成し、その結晶度は加熱しないものより良好であり、 Al_2O_3/SiO_2 の値で回折線の強度に差があり、この値が 1.0 に近いものが最も鮮明な回折図を与えた。 Al_2O_3/SiO_2 のとくに大きいものは C_2ASH_n が生成するかわりに C_2AH_3 の回折線に近い結晶性鉱物を生成する。天然のアロファンに近似した組成と性質を示す合成ゲルは、加熱処理をしても C_2ASH_n を生成する等の性質が、天然アロファンと同じであることを認めた。

小坂²⁵⁾の研究によれば合成した共沈ゲルはその組成が Al_2O_3/SiO_2 で 0.26→7.3 の場合はアロファンと同じ行動を示し、これらの合成ゲルはアロファンとみなされるとしている。この研究においても合成ゲルが $Ca(OH)_2$ 溶液に対しては天然アロファンと同じ行動をとることが明らかとなった。

(5) Fe_2O_3 ゲルと SiO_2 ゲルの共沈ゲルについて

Al_2O_3 ゲルと SiO_2 ゲルの共沈ゲルはアロファンと見なしうな性質をもっている。天然には Fe_2O_3 ゲルと SiO_2 ゲルの共沈ゲルと考えられるアロファンに似た Hisingerite が知られており、たとえば浅間山の地獄谷の炭酸泉で小坂²⁵⁾はこの鉱物を見出している。Hisingerite と考えられる鉱物が Fe_2O_3 ゲルと SiO_2 ゲルの共沈体としてえられることが判明しているため、この鉱物の $Ca(OH)_2$ に対する行動がアロファンと似ているか否かを実験した。

2% の水ガラス溶液 1 l を $FeCl_3 \cdot 6H_2O$ (3%) 溶液 1 l に 80°C 加温しながら滴下し、攪拌して NaOH で pH を 6.0 とする。共沈ゲルはろ過洗滌し透析して風乾させた。合成ゲルの分析値は H_2O^- : 22.82%, H_2O^+ : 9.24%, SiO_2 : 31.12%, Fe_2O_3 : 34.82%, SiO_2/Fe_2O_3 : 2.5

この合成ゲルは DTA 曲線ではアロファンと同じであ

表-8 共沈ゲルの $Ca(OH)_2$ 溶液中での反応体中の CaO/Al_2O_3 比

試料番号	No-1	No-2	No-3	No-4	No-5	No-7	No-8	No-9	No-10	No-11	No-12	No-13
H_2O (室温~100°C)	36.8	17.8	17.1	15.0	30.3	22.5	17.5	22.4	11.9	18.8	22.0	21.4
CaO (g)/試料 (g)	0.497	0.606	0.617	0.412	0.554	0.504	0.452	0.627	0.746	0.747	0.695	0.766
CaO/Al_2O_3 (モル比)	7.1	3.1	3.3	3.6	6.5	2.8	1.8	2.5	2.3	2.3	2.9	2.5
H_2O (100°C~200°C)	0.97	7.0	6.3	7.0	0.2	19.8	14.7	12.4	16.9	10.7	13.9	3.6
CaO (g)/試料 (g)	0.509	0.680	0.646	0.429	0.583	0.618	0.544	0.615	0.674	0.649	0.731	0.784
CaO/Al_2O_3 (モル比)	7.2	3.5	3.5	3.8	6.9	3.4	2.1	2.5	2.1	2.0	3.0	2.5
H_2O (200°C~500°C)	0.3	3.0	2.4	1.1	0.2	7.3	8.5	6.8	7.8	9.4	6.9	19.6
CaO (g)/試料 (g)	0.378	0.709	0.692	0.320	0.497	0.618	0.510	0.683	0.709	0.743	0.636	0.928
$CaO(g)/Al_2O_3$ (モル比)	5.4	3.6	3.7	2.8	6.0	3.4	2.0	2.7	2.2	2.3	2.7	3.0
H_2O (加熱処理なし)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
CaO (g)/試料 (g)	0.458	0.560	0.520	0.395	0.458	0.012	0.463	0.554	0.779	0.772	0.571	0.717
CaO/Al_2O_3 (モル比)	6.5	2.9	2.8	3.5	5.5	3.4	1.8	2.3	2.3	2.3	2.4	2.3

るが、1,000°C の発熱ピークは小さい。X 線回折では明瞭な回折線は認められず、2.6Å から 5Å にわたるハローが見られるのみである。この結果からこの合成ゲルは Hisingerite に類似した性質を与えるものと推定される。

この合成ゲルは $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との常温での 2 週間の反応では C_2FSH_n に当る回折線はもちろん、なんらの回折線も認めない。すなわち、この Hisingerite をふくむと推定される合成ゲルには アロファンが C_2ASH_n を生成する機構と同様な機構が見られないと考えられる。また 80°C で 2 週間反応させたときは C_6AH_6 にあたる C_6FH_6 は生成することを認めた。この反応は、おそらく液相を経過して行なわれるものと推定される。

〔4〕 要 約

Al_2O_3 ゲルと SiO_2 ゲルの共沈ゲルを種々の条件で造り、その $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ 比をいろいろと変えた。えられた合成ゲルのうち、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ (モル比) が 0.23 以上で 5.1 以下の合成ゲルは X 線回折、DTA 曲線、赤外線吸収スペクトルでは天然アロファンに類似した性質を与え、 Al_2O_3 がより多くなる場合は Gibbsite, Boehmite, Bayerite 等が生成し、 Al_2O_3 がより少なくなると遊離の SiO_2 ゲルを認めるに至る。

20°C での飽和 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応の結果では、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が 0.3 以上で 8.5 以下のもので C_2ASH_n の生成を認め、この比が大きく Gibbsite, Bayerite, Boehmite 等が存在する場合は同時に C_6AH_6 を生成する。 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ の小さいものでは CSH の生成も推定される。回折線はこの比が 1.0 の場合が最も鮮明であった。また固定される CaO 量は Al_2O_3 の多いゲルほど多い傾向が見

られる。なお 80°C の場合は C_6AH_6 を生成し、CaO の固定量は C_2ASH_n を生成する場合より多く、 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が大きいと $\text{CaO}/\text{Al}_2\text{O}_3$ は 3 に近い値となる。

加熱処理によっても合成ゲルの C_2ASH_n の生成機構は保存され、加熱処理により回折線は鮮明となる。 $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ のとくに大きい合成ゲルでは加熱処理により 11.1Å 線および 5.5Å 線で代表される未知化合物を生じる。

合成ゲルは $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液に対しても天然アロファンとまったく同一な行動をとり、その組成がいちじるしくかけ離れているものは天然アロファンとは異なった行動をとるか、または部分的に似た行動を示す。天然アロファンと同じ行動をとるものの組成は $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ が 0.3 ~ 5.1 の範囲であり、小坂²⁵⁾の報告による 0.23 ~ 7.3 の範囲内にある。また共沈合成ゲルはアロファンと見なされるとの考え方は、 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液に対する行動からも肯定される。共沈合成ゲルはアロファンに存在する構造をもつと考えられるので、合成アロファンと考える。しかしその性質には、ある範囲内で連続的に変わる過程が存するものとする。アロファンに関する研究ではこの合成ゲルを出発点とすることを考えるべきであろう。

アロファンに近い Hisingerite 類似体をうる目的で Fe_2O_3 ゲルと SiO_2 ゲルの共沈ゲルをえたが、常温では $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液に対してはなんら結晶性物質を与えない。今後の研究が必要であろう。

文 献

- 25) 小坂 丈予 粘土化学の進歩 (2) 339, 1958
- 26) 小坂 丈予 日本化学会地球化学討論会講演要旨集 117, 1956

アロファン質粘土の消石灰—石膏による 化学的安定処理方法に関する研究 (4)

(昭和 36 年 8 月)

有 泉 昌*

目 次

VI アロファンと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応に関する考察	(1)
[1] 液相中の Al_2O_3 , CaO の濃度変化について	(1)
[2] 収着体から結晶化について	(3)
[3] 収着量と液相の $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 濃度との関係	(3)
[4] 反応生成物とその安定性	(5)
[5] $\text{CaO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2-\text{H}_2\text{O}$ 系化合物について	(6)

VI アロファンと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応に関する考察

すでに [I] から [V] に亘たりアロファン粘土と $\text{Ca}(\text{OH})_2$ との反応についてのべ、色々の角度からこの反応について検討を加えた。現在までの実験結果からは本反応の機構を十分には説明できないし、今後の解明にまたねばならない点が多い。しかし本反応の重要性にかんがみさらに新たな実験結果をも加えてこの反応について考察する。

[1] 液相中の Al_2O_3 , CaO の濃度変化について

アロファンが $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応中での CaO 濃度についてはすでにのべた所であるが、 Al_2O_3 の行動については触れていない。ここではアロファンとして [V] でのべた合成アロファン No-8 を用いた。この試料は H_2O^- : 17.50%, H_2O^+ : 8.80%, SiO_2 : 27.35%, Al_2O_3 : 46.45%, $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2$ (モル比): 1.00 である。試料 0.100g を $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 飽和溶液 100cc と 20°C で反応させ、反応後液相固相を分離し、液相については Ca^{++} および Al^{+++} を定量し、固相は X 線回折を試みた。 Al^{+++} の分析はクロムアズロール S を指示薬として EDTA による直接滴定法による。反応時間は 0.5, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 13, 16, 18, 24, 48, 72 時間とした。

実験結果は図-28 および図-29 に示す。

CaO は反応 30 分ではほとんど減少しないが、1 時間では著しく減少し、72 時間までの間の減少量の半ばはこの

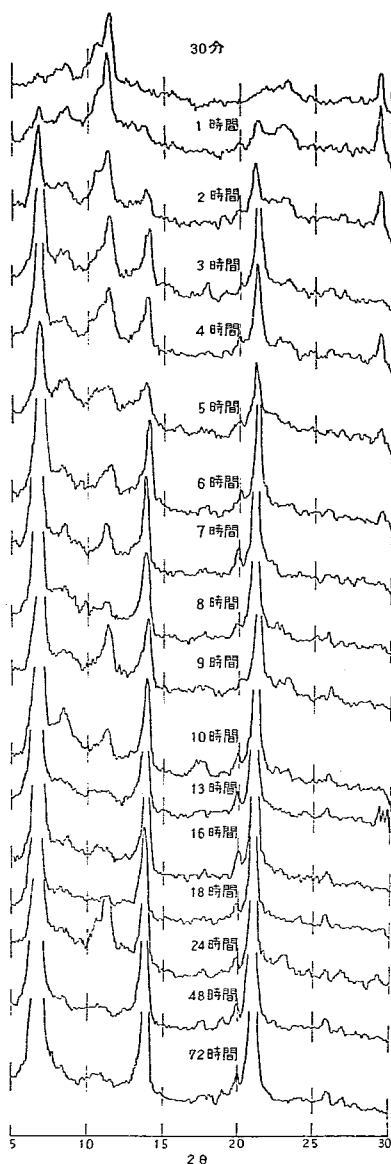
初期の 30 分間に起る。これ以後の CaO の減少はほぼ時間に比例し、10 時間頃より徐々に減少量はさらに小さくなる。しかし Al_2O_3 は特異な行動を示し、30 分でもある程度液相中に見られ、 CaO の減少のはげしい間は Al_2O_3 の濃度は余り増加しない。 CaO の減少が一定割合になる 2 時間頃より、 Al_2O_3 の濃度は増加して約 6 時間目に最高 (0.11g/l) に達し、その後は増加速度と同じ位の速度で減少し始めるが徐々にその速度は小さくなり、18 時間以降は著しい濃度変化は認められない。

固相では 30 分間の反応ですでに C_2AH_3 , C_4AH_{13} の回折線を認めるが、 CaO の収着量は 0.014g で少ない。固相の分離にある程度時間も要することも考慮しておかねばならない。1 時間では C_2AH_3 および C_4AH_{13} のほかに C_2ASH_n の生成が始めて見られ、以後 6 時間までは C_2ASH_n の回折線の強度は増加し、その反面 C_3AH_5 の方は強度が減少し、時には C_3AH_5 を認めるが C_2ASH_n の回折線のみとなる。なお C_2ASH_n , C_2AH_3 , C_4AH_{13} の回折線のほかに 10.5Å の回折線を認めるが、おそらく C_2AH_3 によるものであろう。

上にのべた実験結果はアロファンとしては著しく活性のある合成アロファンを試料とした場合であるので、活性度に種々の段階のある天然アロファンとは、反応の速さ等について多少の差異のあることは十分考えられる所である。しかし同様な過程を取ることと考えてよいので、この実験結果について考察しよう。

反応開始後 30 分間で CaO の収着が僅かしか見られないが、すでに C_2AH_3 を認めるのは、アロファンの構造中に容易に C_3AH_5 を生成する機構が推定される。初期反

* 地質化学部長

図-28 $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ ゲルと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応

応が著しく遅延するのはこの C_3AH_6 等の生成によるのであろう。1時間ですでに収着量は0.23gに達し、 C_2ASH_n も生成し始めており、その後収着量の僅かな増

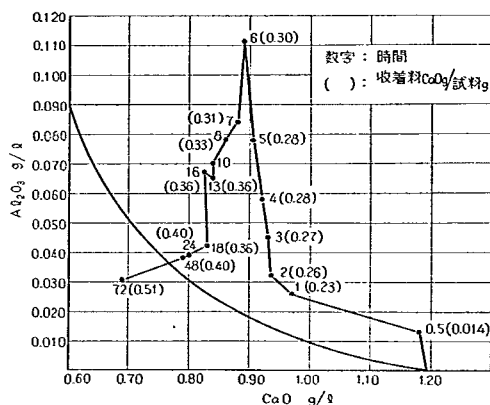


図-29 反応中の液相組成

加にもかかわらず C_2ASH_n の増加が見られる。このことは一部の結晶性物質しか与えない単なる収着体が一応生成し、この収着体より C_2ASH_n の結晶が生成すると思われるべきである。 C_2ASH_n の結晶化にともない共存する C_4AH_3 または C_3AH_6 の回折線強度の減少と、液中への Al_2O_3 の溶出が急に起ることは、 C_2ASH_n の生成のためにアロファン構造中に何等かの変化が起り、反応初期に生成した C_2AH_3 または C_4AH_3 中の Al_2O_3 および収着体中の Al_2O_3 が液相中に溶出しやすくなるためと考える。 Al_2O_3 が液相中に増加すれば、Wells²⁾ 等の研究による $\text{CaO-Al}_2\text{O}_3\text{-H}_2\text{O}$ 平衡系では過飽和溶液となり、 C_4AH_3 、 C_3AH_6 、 C_2AH_3 等が徐々に折出せねばならない。この実験の範囲ではいずれも過飽和領域内にあるが、6時間以降 Al_2O_3 が何等かの形で折出していることが示される。この折出にともない CaO の濃度も低下するであろう。6時間から10時間に亘り CaO の濃度低下速度がやや大きくなり、 C_3AH_6 と C_2AH_3 の比較的鮮明な回折線が見られる（6時間までに見られる回折線は C_3AH_6 とともに C_4AH_3 が見られ、鮮明でない）。したがって Al_2O_3 は C_3AH_6 等として折出したものと考えられる。10時間をすぎると18時間までは CaO の濃度はほとんど変化なく Al_2O_3 の濃度の低下が見られ、固相中からは C_3AH_6 および C_2AH_3 が消失し、 C_2ASH_n の発達が著しい。この関係についての説明は困難であるが、おそらく C_2ASH_n 、 C_3AH_6 、 CaO 収着体および液相濃度の間に平衡関係が存在し、 C_3AH_6 は不安定であり過飽和で存在する Al_2O_3 と共に何等かの形の X 線に対しては無定形物質に変るかまたは何か他の安定化合物に変ると推定する。また一部共存する液相中の SiO_2 と共に C_2ASH_n を生成するかは明らかでない。24時間に至れば $\text{CaO-Al}_2\text{O}_3\text{-H}_2\text{O}$ 系平衡図の C_4AH_3 等の溶解度曲線に近づく。また過飽和溶液の Al_2O_3 濃度

が最高 0.11g/l に達することは、試料中の Al_2O_3 の少くも約25%は液相を経過することを示している。

結局本反応ではその初期に液相中よりの CaO がアロファンの表面層と反応して C_3AH_6 および C_4AH_{13} 等を生成し、一時収着反応をおこなうが、その後急激に CaO を収着し、収着体内で徐々に C_2ASH_4 の結晶が生成してアロファンの構造は変化し、 Al_2O_3 は一部易溶解性となり溶出して過飽和溶液を生成し、始めに生成した C_3AH_6 等も溶解する。過飽和溶液よりはふたたび C_3AH_6 が析出するが、 $CaO-Al_2O_3-H_2O$ 平衡系に近づくに従い C_3AH_6 および液相中の Al_2O_3 は何等かの形のより安定な化合物として固相中に入り、以後 C_2ASH_4 の結晶化が進むとともに液相中より徐々に CaO を収着しつづける。

なお液相中の SiO_2 の行動については明らかでないの上記の考え方はこれ以上発展させることができない。また本実験は合成アロファンについて $20^\circ C$ に行ったものであるから、天然アロファンについては個々の過程で多少の反応の様相の相異は予期されるし、 $80^\circ C$ のような C_3AH_6 を生成する反応について拡張解釈はできない。

[2] 収着体からの結晶化について

アロファンが $Ca(OH)_2$ 溶液におかれると、 Ca^{++} と OH^- は当量的に液相より減少し、アロファンの CaO 収着量が増加し H_3O^+ も増加して、 H_2O^- は減少することはずにのべた。アロファンはイオン交換容量を持つので $Ca(OH)_2$ 溶液との反応が表面荷電にもとづくものか、収着反応によるかを明らかにしておかねばならない。

アロファンの交換基は $Si-OH$ および $Al-OH$ である。もしこの OH 基の H^+ と Ca^{++} が交換すれば液相中の OH^- は消失するので当量的ではある。しかし交換反応としては交換容量が著しく高すぎる。アロファンの陽イオン交換容量は測定者によりかなり広い範囲にわたり異った値が示されているが、高くとも 100meq/100g 程度²⁷⁾であるにもかかわらず、本実験でえられる値は 500~1,000meq/100g 程度の極めて高い値を示す。交換反応としては平衡に達する時間が長すぎ、また $600^\circ C$ に加熱した場合でも $Ca(OH)_2$ とよく反応する。さらに Ca^{++} と H^+ の交換があれば重量の増加は Ca^{++} のみによると考えるべきだが、 H_3O^+ の著しい増加が見られる。

これらの諸点よりアロファンと $Ca(OH)_2$ 溶液との反応は一部のイオン交換反応もあるが、主として $Ca(OH)_2$ の収着反応と考えることができる。この収着反応では液の濃度が高く、温度が高い方が収着速度が大きく早く収着平衡に達することが認められる。しかし収着量と収着平衡に達したときの液相組成との間には定まった関係がない。この反応は収着反応のほかには別の反応が同

時に行なわれると考えるべきであろう。すなわち収着体内で収着された Ca イオンがアロファン構造の内部に拡散して、 C_2ASH_4 を生成するものと考えられ、このことは液相中に変化が見られなくとも固相中での結晶性物質の間に消長が見られることから十分推定できることである。

天然アロファンの間でも、また天然アロファンと合成アロファンの間でも、その構造に多少の差異のあることは $Ca(OH)_2$ に対する反応から推定したのであるが、収着体から結晶化にすすむ速さが構造の差を示すものであろう。結晶化の速さは収着量が多ければ当然速くなり、収着体中での結晶化しない CaO 量の減少とともに結晶化速度は小さくなる。結晶化が進行するときに収着平衡に達するまで収着量は増加するであろう。結晶化速度はしたがって収着速度と収着体内での CaO の配位する速度により支配され、両者は相関性を持ち、さらに液相濃度と温度が収着速度と収着平衡に関係すると考えてよい。

実験結果からは例えば $20^\circ C$ または $40^\circ C$ では、 CaO の収着量が試料に対し20%程度以上でないとし、 C_2ASH_4 は見られないがその生成速度は著しく小さく、 $80^\circ C$ では収着量が40%程度以上でないとし C_3AH_6 の生成速度は著しくおそい。20%以下でも6ヵ月のような長時間の後は C_2ASH_4 の生成を認めている。

このような反応は Strätling¹⁵⁾ がカオリナイトの焼成物と $Ca(OH)_2$ の反応で始めて C_2ASH_4 の生成を認めたとき、この反応の特異性より Topochemical 反応としたのであるが、アロファンの場合もこの反応の特異性を十分持っていることを実験的に確かめている。この反応を示すことはアロファンの特徴でもあり、アロファンの構造がこの反応により示されると考えることができる。またこの反応は鉱物の変成作用の一型式とも考えられる。

[3] 収着量と液相の $Ca(OH)_2$ 濃度との関係

アロファンと $Ca(OH)_2$ 溶液との反応では、収着量と液相の濃度との間および生成した結晶性物質と液相濃度の間に平衡関係のあることはすでにのべた。しかしこの関係の量的表現はできなかったのでこの問題について触れてみる。ただ生成した C_2ASH_4 等の結晶性物質の定量方法が見出されないこと、およびアロファン中に存在する SiO_2 の行動が明らかでないで、これらの関係の正確な表現は現在の所不可能である。

実験方法としては鹿沼土より分離したアロファン D_0 を $500 \sim 650^\circ C$ に1時間加熱した試料を用い、種々の濃度の $Ca(OH)_2$ 溶液の一定量にそれぞれ異った量だけ順次加えた1系列の反応を、 $20^\circ C$ で35日間反応の条件下で実施した。反応後溶液の CaO を求めてこの期間内の収着量を求めるとともに、固相はX線回折により反応生成物

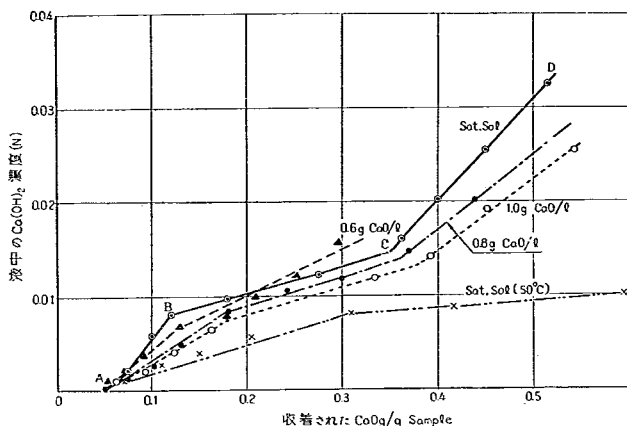


図-30 収容量と平衡濃度（鹿沼土アロファン，20°C，35日）

の種類を決定した。さらに同様な操作を600°Cに1時間加熱した閑白カオリン，それぞれ500°Cに1時間加熱した福パン土よりのコロイド粘土，合成アロファンNo-8，および鹿沼土よりのコロイド粘土について試みた。

ここで加熱処理を試みた試料を用いたのは反応過程で C_4AH_{13} ， C_3AH_6 等が生成しがたいためである。

図-30に鹿沼土よりのアロファンを500~650°Cに約1時間加熱したものを用いた場合の20°C，35日における収着量と，その平衡時における液相中の $Ca(OH)_2$ の濃度を示す。この図より明らかなことは液相濃度と収着量の間に一定の関係のあることであり，この関係を示す線は連続線を与えず，AB，BCおよびCDの3本の線分よりなる。この特性は飽和溶液に試料量を変えて加えた場合に最も明瞭に認められるが，CaO濃度を変えた場合でも同様に認められる。この反応が吸着反応のみであれば，同一の液相濃度に対しては吸着量は始めの濃度に関せず同一でなければならないし，上にのべた不連続線を与えることも考えられない。少くも結晶性物質の生成がX線的には見られないABの間では，これらの関係はそれほど変動のあるものとは考えられない。したがってこの反応は化学的吸着反応に引きつづくTopochemical反応をもふくむ動的反応と考えることが妥当となる。しかし一方では収着量と濃度の間に不連続直線で示される関係が共通して見られることは，この反応を規制する一つの要因の存在することを示すものである。固相のX線回折の方より見れば，ABの間では何等回折線を認めず，BC間で C_2ASH_2 の回折線の強さは順次増加し，CD間では強さの変化はほとんど見られない。したがって液相の濃度が低いABの場合は単なる収着反応であり，濃度が順次増加し，0.013N~0.015Nに達するまでTopochemical反応が進行し，それ以降は固

相中での C_2ASH_2 の結晶化は進行せずCaOのみは何等かの形で固定されるものと考えられる。このCaOがCD間でどのような形で存在するかは現在明らかではないが，アロファン中の過剰の SiO_2 への収着とか，Hydrated GehleniteがTaylor¹⁷⁾の云うCSH(1)と同様な構造を持ちCaOの量によりX線回折図が影響をうけない形を持ちうるか等を想像させる。

さらに飽和領域に達する場合はおそらく C_4AH_{13} が固相として存在するであら

う。これらの点については後でさらにふれることとして，この反応には未知の分野が多いのであるが，液相と固相の間に平衡関係とも云うべき量的関係の存在することは確実である。

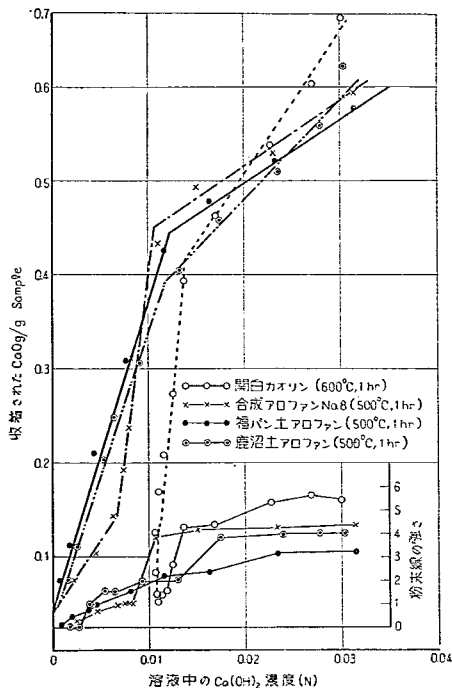


図-31 収容量と平衡濃度および固相の粉末線強度

鹿沼土アロファンのやや高温処理体について上に述べたが、福バン土アロファン、合成アロファン、関白カオリンよりのメタカオリン、500°C処理の鹿沼土アロファンについて同様の実験を試みた結果を図-31に示す。この場合も前の場合とほとんど同形であり、Cに相当する点は同様に0.010N~0.013Nの範囲にあるが、Bに相当する点は合成アロファンの場合のみ明瞭に見られ、ほかの場合には見られない。同じ鹿沼土アロファンでこの相違が見られるのは、加熱温度の影響であろうし、前図でも濃度によっては明瞭さをかく傾向も見られたことより予想できるように、2つの反応が継続して同時に進行するためと考えられる。図の下部には、固相中の C_2ASH_n による粉末線(12.8Å)の強さを便宜的の値で示した。この場合でもC点を境として反応機構の差のあることが十分理解できる。

本実験の結果からアロファンと $Ca(OH)_2$ 溶液の反応では、 $Ca(OH)_2$ 濃度の低い領域でアロファンとCaOを収着したアロファンが共存し、この濃度と0.010~0.015Nの濃度に亘りCaO収着アロファンと C_2ASH_n が共存し、さらに高濃度側では C_2ASH_n とCaO収着体に近い $CaO-SiO_2-H_2O$ 系化合物が共存し、飽和溶液に近い場合はおそらく C_2ASH_n は C_4AH_{13} に変わり結晶性物質としては C_4AH_{13} が見られると推定される。この反応には $CaO-SiO_2-H_2O$ 系に見られるような不変系は認められないのであり、多成分系の反応であることから当然のことであろう。しかし少くも20°Cでは、固相の組成とそれと平衡関係を持つ接する液相の濃度の間には、定性ではあるが一定の関係のあることが明らかにされた。

[4] 反応生成物とその安定性

アロファンと $Ca(OH)_2$ 溶液との反応生成物を種々の条件で求め、結晶性物質として C_2ASH_n 、 C_3AH_6 - C_3ASH_4 系鉱物、 C_4AH_{13} および C_3AH_6 の存在を確かめ、それらの生成条件と安定性について検討したのであるが、さらにこの問題について考えて見る。

アロファン中の SiO_2 がどのように行動するかは不明の点である。勿論 SiO_2 の一部は C_2ASH_n の生成に関与するが、Hydrated Gehleniteの組成を C_2ASH_n と考える限り、一般の天然アロファンでは SiO_2 の過剰が起ることであろう。反応過程では C_3AH_6 や C_4AH_{13} のような $CaO-Al_2O_3-H_2O$ 系の鉱物は見られるが、 $CaO-SiO_2-H_2O$ 系鉱物は生成しないのであろうか、 $CaO-SiO_2-H_2O$ 平衡系ではこの実験の $Ca(OH)_2$ の濃度域内で、TaylorのCa-Silicate Hydrate (I) またはCSH(B)の生成が予想されるのである。この水和物のX線粉末線(Å)は9~14 (10), 3.06 (10), 2.81 (8), 1.83 (8), 1.67 (4), 1.53 (2), 1.40 (4) として知られている。CSH (B) は結晶度が良好でないので3.06

Å線は鋭いピークを与えないのが一般であり、この実験の性質上 $CaCO_3$ の混入を避けることも困難である。また結晶度の低いCalciteでは3.05Åの最強線に対するその他の粉末線の強度は特に小さいので、3.05ÅのみでCalciteは識別困難であり、3.05Åを与える場合はCalciteとCSH (B)の区別も困難の場合が多い。 C_2ASH_n の粉末線は勿論、 C_3AH_6 、 C_3ASH_4 、 C_4AH_{13} の粉末線には3.05Å線は存在しないので、CalciteかCSH (B)の存在を3.05Å線と関連して考えることは可能である。CSH (B)の存在を考えることができる場合は、 SiO_2/Al_2O_3 の高い合成共沈ゲルの反応の場合であり、また関白カオリン焼成体の反応でも同様である。しかし SiO_2/Al_2O_3 の低い合成アロファンとか、鹿沼土、福バン土、味噌土等よりのアロファンの場合にはCSH (B)の存在が確実だとは云えない。DTA曲線からはむしろCSH (B)の存在は疑わしいとも云える。この問題についてはアロファン自体の構造、 C_2ASH_n で略記されるHydrated Gehleniteとされる鉱物の化学的組成と結晶構造、さらに $CaO-Al_2O_3-SiO_2-H_2O$ の4成分平衡系等が明らかでないで、今後の研究によって解明されるであろう。

C_3AH_6 および C_4AH_{13} はCaOの収着と同時に生成される場合と液相中より析出する場合があると考えられるが、これらの安定性と平衡関係は一応 $CaO-Al_2O_3-H_2O$ 系の平衡関係により律せられると考えられる。さらに C_2ASH_n とも平衡関係を持つと考えられ、飽和溶液に近い領域では C_2ASH_n は消失して C_4AH_{13} が生成し、CaOの濃度が低いときは C_4AH_{13} の方が溶解度がより大きいので、 C_2ASH_n の方が存在しうる。 $CaO-Al_2O_3-H_2O$ 系では C_3AH_6 が最も安定相であるので、CaOの濃度が飽和より遠ざかるほど C_3AH_6 が安定相として見られるようになる。アロファンと $Ca(OH)_2$ 溶液の反応で高温型と低温型があり、この型式は温度のみでなく $Ca(OH)_2$ 濃度にも関係するとのべ、種々の条件での安定相について論じた。この関係は複雑であるがその機構は次のように考えれば実験事実を一般的に説明することができる。すなわち $CaO-Al_2O_3-H_2O$ 系で準安定相である C_3AH_6 の存在線をaとし(この線は温度により高濃度側に移動する)、20°Cでの C_3AH_6 の存在線をcとすれば、80°Cでの C_3AH_6 の存在線bはaとcの間にある。一方 C_2ASH_n の80°Cでの溶解度曲線はa、b、c線にL、M、N点で交ると考えれば、Lより高濃度側では C_3AH_6 が安定であり、LMの濃度範囲では C_3AH_6 が安定であり、MNの濃度範囲では C_3AH_6 より C_2ASH_n の方が安定である。bとcの間には各温度に応じた溶解度曲線があり、また C_2ASH_n の温度による溶解度曲線も多数存在するから、これらの曲線群により安定相が定まる。 $Ca(OH)_2$ 濃度を決定する要素は C_2ASH_n

等より供給される CaO と液相よりの収着量の変化である。

[5] $\text{CaO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2-\text{H}_2\text{O}$ 系化合物について

アロファンが常温で $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液と反応すると、その濃度が低い場合は結晶性物質が生成し、この物質は Hydrated Gehlenite (C_2ASH_n) に一致すること [1] で論じた。この物質は Hydrated Gehlenite とよばれるが、その組成または構造等はいまだ明らかにされていない。 C_2ASH_n は $\text{CaO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2-\text{H}_2\text{O}$ 系に見られる化合物であり、 $\text{CaO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{H}_2\text{O}$ 系または $\text{CaO}-\text{SiO}_2-\text{H}_2\text{O}$ 系に見られる既知の化合物でもなければ、また $\text{CaO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2-\text{H}_2\text{O}$ 系に見られる Hydrogarnet 群鉱物、Ettringite 群鉱物、Zeolite 鉱物でもないこともすでに述べた。これらの既知の鉱物群は C_3A と C_3S の水和、 $\text{SiO}_2-\text{Al}_2\text{O}_3$ ゲルまたは meta-Kaolin と $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 等の常温または水熱反応でえられるのであるが、 $\text{CaO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2-\text{H}_2\text{O}$ 系の平衡関係が未だ研究されていないので、 C_2ASH_n がこれらの鉱物群と対比してどのような位置にあるのか明らかにしない。現在までに C_2ASH_n について報告されていることは、Calcium-Aluminate Complex Salts に近い関係のある Hydrated Silicoaluminate 系列に属するか¹⁹⁾、 C_3ASH_n に該当する鉱物とか²⁰⁾ Aluminate と Silicate の Complex double compound とか¹⁹⁾等である。さらに $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液中では結局は最も安定相である C_3AH_6 になることが予想されている。以上のように C_2ASH_n そのものについては不明の点が多いのであるが、アロファンが、メタカオリンと同様に $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液に対しては常温で $\text{CaO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2-\text{H}_2\text{O}$ 系として行動し、 C_2ASH_n を生成する実験的事実は、アロファンの構造に関することは勿論、4成分系の平衡関係、またはこの反応の応用について重要な知見を与えるものである。

常温ではアロファンは C_2ASH_n を生成したのであるが、 80°C のような高温では C_3AH_6 を生成することも重要な実験的事実である。 C_3AH_6 は Hydrogarnet 系鉱物として C_3AS または C_3FH_6 との間に任意に固溶体を生成することが知られており、 C_3AH_6 は $\text{C}_3\text{AS}_{0.33}\text{H}_{5.34}$ と格子常数は変わらないで、さらに $\text{SiO}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ の置換が進行すれば格子常数は減少することが知られ、実験結果からも C_2ASH_n に近い X 線粉末線がえられている。 C_3AH_6 とされる粉末線はやや拡散していることから、一部の SiO_2 が H_2O と置換した $\text{C}_3\text{AS}_{0.33}\text{H}_{5.34}$ の生成が考え

られ、さらに時間の経過と共に C_2ASH_n に近い C_3AH_6 と C_2ASH_n の固溶体の生成が進行すると考えるべきであろう。結局 80°C での反応でも $\text{Ca}(\text{OH})_2$ に対しアロファンは $\text{CaO}-\text{SiO}_2-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{H}_2\text{O}$ 系として行動することを知る。

この反応ではまた C_4AH_{13} および C_3AH_3 の生成も見られ、アロファンを加熱処理した場合にはこれらの生成は僅かに見られるのみである。これらの化合物は CaO のアロファンによる収着の初期にすでに見られ、一部は液相を経過するものであり、また特に $\text{Ca}(\text{OH})_2$ の濃度の高い場合は C_2ASH_n より変ったもの場合もある。これら化合物の生成はアロファン中にある形態の Al_2O_3 の存在を示し、また一部の Al_2O_3 は $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液に易溶性であることを示すものである。さらに $\text{SiO}_2/\text{Al}_2\text{O}_3$ の低くい合成アロファンの場合とか、香港カオリンよりのメタカオリン場合には、 C_2AH_3 の (001) 線にあたと推定される粉末線を示すばかりは、アロファンと $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 溶液との反応では C_2AH_3 は見られない。 C_2AH_3 は $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 濃度の高い領域では C_4AH_{13} または C_3AH_3 より溶解度が高いので、この反応で一般に見られないことは理解しうる所である。 C_3AH_3 と C_4AH_{13} は共存するがそれらは相互に変わることが実験的に認められている。 C_2AH_3 、 C_4AH_{13} および C_3AH_3 は何れも近似した X 線回折線を与え、(001) 線が測定されないときは (hk0) 線が最強線であり、これらは a 軸の長さのみの関数であるから、a が共に $8.8\text{\AA}$ であるこれら 3 種の化合物では何れも (hk0) 線は同じ位置にある。このことは C_3AH_3 が C_2AH_3 と C_4AH_{13} との intimately mixed layer 化合物²¹⁾ とされるので当然のことであり、また C_2AH_3 は再結晶もなく結晶形の変化もなくゲル状の Al_2O_3 を分離して C_4AH_{13} になることが認められているので、 C_3AH_3 および C_4AH_{13} が共存することも予想される所である。 C_3AH_3 と C_4AH_{13} が相互に変るときは、その中間の化合物を経過する場合もしばしば認められるし、 C_4AH_{13} の (001) 線がある値の内に変化することも認められる。

文 献

- 27) 青峰 重範 日土肥 28, 508, 1957
- 28) W. Büssem Symp. (Stockholm) 497, 1938
Büssem

有限振幅波について

— 高次級数解による進行波の砕波限界 —

昭和 36 年 11 月

首 藤 伸 夫 *

目 次

1. 序	(1)
2. 深水波の砕波限界	(2)
2-1 級数解による波形表示	(2)
2-2 波高および水面上昇	(2)
2-3 進行波の有する運動量	(3)
2-4 砕 波 限 界	(3)
3. 浅水波の砕波限界	(5)
3-1 級数解による波形表示	(5)
3-2 波高および水面上昇	(5)
3-3 進行波の有する運動量	(6)
3-4 砕 波 限 界	(6)
4. 級数の収束限界	(7)
5. 結 論	(8)

1. 序

波が砕波する条件としては、

- 1) 波頂での水粒子の水平速度が波速と同じになったとき、
- 2) 波頂で不連続が生じ、接線のなす角が 120 度になったとき、
- 3) 波形の非対称がいちじるしくなって波頭の前面が鉛直に立ち上ったとき、
- 4) 波頂と水底における水粒子の速度に大差を生じ、波頭が進みすぎて波の運動が破壊されるとき、
- 5) 有限振幅の波の表示である無限級数解が収束性を失う限界、
- 6) 波を表示する特性曲線群が交わって包絡線をつくる

るとき、
などが考えられている。

Michell は 2) の考えをつかって、深水波では最大波形コウ配が 0.142 であることを示した。

浜田は有限振幅波級数解の近似式から浅水波の砕波限界を求めたが、その結果があまりにも違いすぎるので、水深無限大の際に、Michell の値になるように若干の修正を行なった半理論式を提案している。

佐藤も近似式を用いて計算した結果、水深無限大で

Michell の値に漸近していく曲線を得た。

また、岸は三次の近似式を用いて砕波条件を求め、深水波の場合には、最大波形コウ配が 0.146 となることを示している。

浜田、佐藤、岸三氏の式は、いずれも 1) の条件を用いて行なった理論解である。

F. Saquet と A. Wallet は実験による曲線を 1953 年に発表している。

以上が砕波限界について得られている主要なものであるが、このうち理論的にとかれたものには、いくつかの難点があった。

すなわち、理論式をうるに際して用いられた波形表示の級数が、ただか三次程度の近似でしかないこと、また波形表示の無限級数の高次項をうるのが非常に困難であるのみならず、その級数の収束性をきわめることが事実上不可能であると云うことであった。

それゆえ、もし級数解を用いて砕波条件をといてみたところで、その結果は理論的にははなはだ大きな疑問を残すものであった。

筆者はさきに明らかにした演算の結果、有限振幅波を無限級数の形に表示し、しかも不十分ではあるが、この級数の収束性を確かめることに成功している。ここではこの結果を用いて、高次級数解を採用した際の砕波条件を求めた。砕波を生ずる条件としては、上にのべた 1) を用いている。

* 河川部 海岸研究室研究員

まず、深水波について次第に次数をますことによって最大波形コウ配がどのように変化していくか、また近似解を採用することによって生ずる誤差がいかに変動していくかをしらべる。ついで、深水波の場合におよそ妥当であると考えられる近似次数と同じ近似度で浅水波の碎波条件を決定する。

2. 深水波の碎波限界¹⁾

2-1 級数解による波形表示

深水波を求めるには、複素ポテンシャル $w = \phi + i\psi$ に對して与えられる式

$$\frac{\partial^2 w}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 w}{\partial y^2} = 0 \quad \dots\dots\dots (1)$$

を、次の条件のもとにとく。

$$z = -\infty \text{ で, } \partial\phi/\partial z = 0 \quad \dots\dots\dots (2)$$

Rayleigh の方法として知られている手段にしたがつて、波の進行方向と逆向きに波速と同じ大きさの流れを付加して系を定常化する。

このとき、(1) 式および (2) 式を満足する ϕ およびそれに共役な ψ の表示が次のように与えられるのは周知のことである。

$$\left. \begin{aligned} \phi/c &= x - \alpha \cdot e^{ikx} \cdot \sin kx \\ \psi/c &= x - \alpha \cdot e^{ikx} \cdot \cos kx \end{aligned} \right\} \quad \dots\dots\dots (3)$$

水表面では流れの関数 $\psi = 0$, $z = \eta$ であるから

$$\begin{aligned} \eta - \alpha \cdot e^{ik\eta} \cdot \cos kx &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(nk)^{n-1}}{n!} \cdot \alpha^n \cdot \cos^n kx \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \quad \dots\dots\dots (4)^2) \end{aligned}$$

ここで、 $A_n = n^n/n!$

深さ $-d$ での $\phi = -cd$ に対応する水中波の波形を η' とすると、

$$\begin{aligned} -d &= -d + \eta' - \alpha \cdot e^{k(-d+\eta')} \cdot \cos kx \\ \eta' &= \alpha \cdot e^{-kd} \cdot e^{k\eta'} \cdot \cos kx \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(nk)^{n-1}}{n!} \cdot \alpha^n \cdot e^{-nkd} \cdot \cos^n kx \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot e^{-nkd} \cdot \cos^n kx \quad \dots\dots\dots (5) \end{aligned}$$

2-2 波高および水面上昇

波高を求めるためには、(4) 式の最大最小の差をとればよい。波高 h は

$$\begin{aligned} h &= \eta_{\max} - \eta_{\min} = \gamma \cos x = 1 - \gamma \cos x = -1 \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n - \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n \cdot \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \\ &= 2 \sum_{n=1,3,5,\dots}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \\ &= 2 \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_{2n-1}}{(2n-1)k} \cdot \alpha^{2n-1} \cdot k^{2n-1} \dots\dots\dots (6) \end{aligned}$$

したがって、

$$kh = 2 \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_{2n-1}}{(2n-1)} \cdot \alpha^{2n-1} \cdot k^{2n-1}$$

$k = 2\pi/L$ であるから波形コウ配は

$$h/L = \frac{1}{\pi} \cdot \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_{2n-1}}{(2n-1)} \cdot \alpha^{2n-1} \cdot k^{2n-1} \dots\dots\dots (7)$$

である。

ついで、水面上昇の値を計算する。静水面からの上昇を δ とすれば、(4) 式を一波長について積分し、波長 L で割れば求められる。

$$\begin{aligned} \delta &= \frac{1}{L} \cdot \int_0^L \eta \cdot dx \\ &= \frac{1}{L} \cdot \int_0^L \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \cdot dx \\ &= \frac{1}{L} \cdot \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot \int_0^L \cos^n kx \cdot dx \dots\dots\dots (8)^3) \end{aligned}$$

したがって $\int_0^L \cos^n kx \cdot dx$ の積分を行なえばよい。

n 乗の余弦関数は次のようになる。

$$\left. \begin{aligned} \cos^{2m} kx &= \frac{1}{2^{2m-1}} \cdot \sum_{r=0}^{m-1} {}_{2m}C_r \cdot \cos 2(m-r)kx \\ &\quad + \frac{{}_{2m}C_m}{2^{2m}} \\ \cos^{2m+1} kx &= \frac{1}{2^{2m}} \cdot \sum_{r=0}^m {}_{2m+1}C_r \cdot \cos (2m-2r+1)kx \end{aligned} \right\} \quad \dots\dots\dots (9)$$

また、余弦関数の n 陪関数の一波長についての積分を考えると

$$\int_0^L \cos nkx \cdot dx = \frac{1}{nk} \cdot \sin nkx \Big|_0^L = 0 \dots\dots\dots (10)$$

1) 2. 深水波の碎波限界および、3. 浅水波の碎波限界において、水粒子の流速を求める手続きは岸が行なったものと同じである。

2) (4) 式の級数展開は、筆者の前著；有限振幅波について、土木研究所報告第107号にある。次の(5)式の誘導も(4)式と同じようにしてもとめられる。

3) ここで行なう積分は $|\alpha \cdot k \cdot e| < 1$ なる領域では正当なものとみとめられる。なぜなら

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \leq \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n$$

収束半径は

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \right| / \left| \frac{A_{n+1}}{(n+1)k} \cdot \alpha^{n+1} \cdot k^{n+1} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{1}{\alpha k} \cdot \left(\frac{n}{n+1} \right)^{n-1} \right| = \frac{1}{\alpha \cdot \alpha \cdot k}$$

したがって、 $1 < \left| \frac{1}{\alpha \cdot \alpha \cdot k} \right|$ つまり $|e \cdot \alpha \cdot k| < 1$ ならば積分可能である。

となるのは、 n が整数であることを考えれば当然であろう。

(9) 式および (10) 式を考慮すれば、(8) 式の表現を次式のようにすることができる。

$$\begin{aligned}\delta &= \sum_{n=2,4,6,\dots} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot \frac{n C_{n/2}}{2^n} \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_{2n}}{2n \cdot k} \cdot \alpha^{2n} \cdot k^{2n} \cdot \frac{2n C_n}{2^{2n}} \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_{2n}}{2n \cdot k} \cdot \alpha^{2n} \cdot k^{2n} \cdot \frac{1}{2^{2n}} \cdot \frac{(2n)!}{n! \cdot n!} \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{2n \cdot k} \cdot \frac{1}{2^{2n}} \cdot \frac{(2n)^{2n}}{(2n)!} \cdot \frac{(2n)!}{n! \cdot n!} \cdot \alpha^{2n} \cdot k^{2n} \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{2n \cdot k} \cdot \frac{n^{2n}}{n! \cdot n!} \cdot \alpha^{2n} \cdot k^{2n} \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{2n \cdot k} \cdot (A_n \cdot \alpha^n \cdot k^n)^2 \dots\dots\dots (11)\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}k\delta &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{2n} \cdot (A_n \cdot \alpha^n \cdot k^n)^2 \\ \therefore \frac{\delta}{L} &= \frac{1}{4\pi} \cdot \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n} (A_n \cdot \alpha^n \cdot k^n)^2 \dots\dots\dots (12)\end{aligned}$$

2-3 進行波の有する運動量

われわれはさきに (3) 式を求める際に、進行波と逆の方向に波速と同じ速さをもつ一般な流れを付加して定常化しておいた。いま、こうしてでき上った波を定常波とよぶこととする。

進行波の水実質部分の有する流速を (U, V)、定常波のそれを (u, v)、付加した一般流のものを、(c, o) とすると、これら三者の間に次のような関係が存在する。

$$\left. \begin{aligned}u &= -(\partial\phi/\partial x) = -c + U \\ v &= -(\partial\phi/\partial y) = V\end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (13)$$

ゆえに、

$$\left. \begin{aligned}U &= c + u \\ V &= v\end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (14)$$

いま、流線にそって単位幅、単位長さあたりの進行波、定常波、一般流の x 方向についての運動量をそれぞれ、 M_U, M_u, M_c であらわすと、運動量についても (14) 式と同様の関係が成立する。

$$M_U = M_u + M_c \dots\dots\dots (15)$$

定常波と一般流の運動量を知れば、進行波の運動量を求められる。

図-1 にしめされているような流線 $\psi=0$ と $\psi=-cd$ とにはさまれた x 方向に単位長さをもっている部分について考えることとする。

まず定常波の運動量 M_u は、

$$M_u = \int_{\psi=-cd}^{\psi=0} \rho \cdot u \cdot dz = -\rho \int_{\psi=-cd}^{\psi=0} \frac{\partial\phi}{\partial x} \frac{\partial\psi}{\partial z} = -\rho cd \dots\dots\dots (16)$$

一般流の運動量 M_c は、

$$M_c = \int_{z=-d+\gamma}^{z=\gamma} \rho \cdot c \cdot dz = \rho c [\eta - \eta' + d] \dots\dots\dots (17)$$

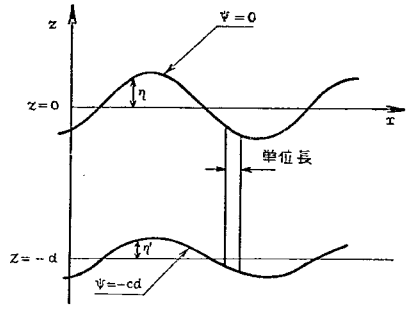


図-1

したがって、進行波の運動量 M_U は、

$$\begin{aligned}M_U &= M_u + M_c = -\rho cd + \rho c [\eta - \eta' + d] \\ &= \rho c [\eta - \eta'] \\ &= \rho c \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot \cos^2 kx \cdot [1 - e^{-nkd}] \dots\dots\dots (18)\end{aligned}$$

進行波一波長あたりの運動量は $x=-\infty$ つまり $d=\infty$ として、 x につき o から L まで積分すればえられる。

この積分は、(8) 式とまったく同じであるから、やはり $|e \cdot \alpha \cdot k| < 1$ の領域で積分可能である。

$$\begin{aligned}M &= \int_0^L M_U \cdot d\infty \cdot dx \\ &= \int_0^L \rho c \cdot \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot \cos^2 kx \cdot dx \\ &= \rho \cdot c \cdot L \cdot \delta \dots\dots\dots (19)\end{aligned}$$

この (19) 式の関係は、有限項のみをとった場合と同じ結果を与える。たとえば二次近似では

$$\delta = \frac{1}{2} ka^2, M = \pi \rho a^2 c, a^2 = \alpha \left(1 + \frac{9}{8} k^2 a^2 \right)$$

であるから、 $M = \rho \cdot c \cdot L \cdot \delta$ と云う結果はすぐ導かれる。

2-4 碎波限界

まず、任意の流線に沿っての x 方向の流速を求める。そのためには、 $\psi=-cd$ と $\psi=-c(d+dd)$ の間にはさまれた x 方向に単位長さを有する部分について考えることとする。

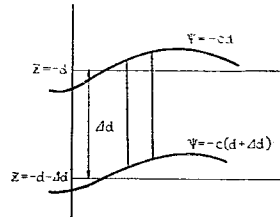


図-2

この微小部分の有する運動量 M_{d-d+dd} は、

$$\begin{aligned}M_{d-d+dd} &= M_U \cdot d\infty \cdot dd - M_U \cdot d\infty \\ &= \rho c \cdot \sum_{n=1}^{\infty} \frac{A_n}{nk} \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot \cos^2 kx\end{aligned}$$

$$\times [e^{-nk} - e^{-nk(d+jd)}] \dots \dots \dots (20)$$

この微小部分の質量は $\rho \cdot dd$ としてよいから、ある流線 $\phi = -cd$ に沿った x 方向への流速 U_d を求めるには次のようにする。

$$U_d = \lim_{dd \rightarrow 0} \frac{M_d - c + dd}{\rho \cdot dd} \\ = c \cdot \sum_{n=1}^{\infty} A_n \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot \cos^2 kx \cdot e^{-nk} \dots \dots \dots (21)^4$$

表面での流体速度を求めるには $d=0$ とする。

$$U_{d=0} = c \cdot \sum_{n=1}^{\infty} A_n \cdot \alpha^n \cdot k^n \cdot \cos^2 kx \dots \dots \dots (22)$$

最大の流体速度 $U_{\max}$ は波頂で生じ、 $\cos kx=1$ とした

$$U_{\max} = c \cdot \sum_{n=1}^{\infty} A_n \cdot \alpha^n \cdot k^n \dots \dots \dots (23)$$

であらわされる。進行波が波として存在しうる限界は、この流体最大速度が波速 c と等しくなったときであるから、 $U_{\max}=c$ において、

$$\sum_{n=1}^{\infty} A_n \cdot \alpha^n \cdot k^n = 1 \dots \dots \dots (24)$$

と云う碎波条件式をうる。

この (24) 式を ak を求め、その結果を (7) 式に入れて最大波形コウ配を計算することができる。波形コウ配を計算する式が ak について $(2n-1)$ 次の項のみを有する形になっているから (24) 式も $(2n-1)$ 項をとったときについてとくことにする。

計算結果は表-1のとおりである。

表-1 深水波の碎波限界

方程式の次数	ak の値	最大波形コウ配 h/L	近似解による h/L の誤差	収束域	収束・非収束の別
1	1.000	0.318		$ak < 0.368$	非収束
3	0.3983	0.157		"	"
5	0.3882	0.166		"	"
7	0.3203	0.126	0.042	"	収束
9	0.3133	0.123	0.018	"	"
11	0.3093	0.121	0.0088	"	"
13	0.3065	0.119	0.0045	"	"
15	0.3052	0.119	0.0025	"	"

この表-1によって知られるとおり、 ak の値は項数をふやしても13項あたりからはほとんど変化しないようになる

ることが期待される。この値を用いて計算した最大波形コウ配の値は有効数字を三ケタに限るならば(四ケタ目を四捨五入する限りにおいては)、変化のないものとなる。だが、この計算はあくまでも近似計算にすぎないのであるから項数をまだ多くとることにによって、 h/L の値も変化していくかも知れない。これ以下には、どのくらいの確かさで $h/L=0.119$ であると云えるかを調べてみることにする。項数を多くとれば ak の値も違ってくるのであるが、有効数字を二ケタにとるものとするとき方程式をとくときに生ずる ak の値の差はそれほど大きくないであろうから、無限級数方程式である (24) 式のかわりに近似多次方程式の根としてえられた ak を用いてもよい。しかも、この後者を用いれば誤差の評価が実際よりも若干大きめに求められるので十分である。

ak を (7) 式に代入して h/L を求めたのであるが、この式で第 h 項、つまり ak の第 $(2h-1)$ 次の項までとったことによる剰余を R_h とすると、

$$R_h = \frac{1}{\pi} \cdot \sum_{n=h+1}^{\infty} \frac{(2n-1)^{2n-2}}{(2n-1)!} \cdot \alpha^{2n-1} \cdot k^{2n-1} \dots \dots \dots (25)$$

これを変形して次の形を導くことができる⁵⁾。

$$R_h = \frac{1}{\pi} \left\{ \frac{(2h+1)^{2h}}{(2h+1)!} \cdot \alpha^{2h+1} \cdot k^{2h+1} \right. \\ \left. + \frac{(2h+3)^{2h+2}}{(2h+3)!} \cdot \alpha^{2h+3} \cdot k^{2h+3} + \dots \right\} \\ < \frac{1}{\pi} \left\{ \frac{1}{2h+1} \cdot e^{2h+1} \cdot \alpha^{2h+1} \cdot k^{2h+1} \right. \\ \left. + \frac{1}{2h+3} \cdot e^{2h+3} \cdot \alpha^{2h+3} \cdot k^{2h+3} + \dots \right\} \\ = \frac{1}{\pi} \cdot \frac{1}{2h+1} \cdot e^{2h+1} \cdot \alpha^{2h+1} \cdot k^{2h+1} \\ \times \left[1 + \frac{2h+1}{2h+3} \cdot e^2 \cdot \alpha^2 \cdot k^2 + \dots \right] \\ < \frac{1}{\pi} \cdot \frac{1}{2h+1} \cdot e^{2h+1} \cdot \alpha^{2h+1} \cdot k^{2h+1} \cdot \frac{1}{1 - e^2 \cdot \alpha^2 \cdot k^2} \dots \dots \dots (26)$$

したがって誤差 E_h が

$$0 < E_h < \frac{1}{\pi} \cdot \frac{1}{2h+1} \cdot e^{2h+1} \cdot \alpha^{2h+1} \cdot k^{2h+1}$$

⁴⁾ U_d は、(18) 式を d で微分し ρ で割ったのと同じことである。この演算は $|e \cdot k \cdot \alpha| < 1$ なら行なってもよい。

(18) 式の収束半径は

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{n^{n-1}}{n!} \cdot \alpha^n \cdot k^{n-1} \cdot (1 - e^{-nk}) \right| / \left| \frac{(n+1)^n}{(n+1)!} \cdot \alpha^{n+1} \cdot k^n \cdot (1 - e^{-(n+1)kd}) \right| \\ = \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \left(\frac{n}{n+1} \right)^{n-1} \cdot \frac{1}{k\alpha} \cdot \frac{1 - e^{-nk}}{1 - e^{-(n+1)kd}} \right| = \frac{1}{e \cdot \alpha \cdot k}$$

(21) 式の収束半径は

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{n^n}{n!} \cdot (\alpha k)^n \cdot e^{-nk} \right| / \left| \frac{(n+1)^{n+1}}{(n+1)!} \cdot (\alpha k)^{n+1} \cdot e^{-(n+1)kd} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \left(\frac{n}{n+1} \right)^n \cdot \frac{1}{\alpha k} \cdot e^{kd} \right| = \frac{e^{kd}}{|e \cdot k \cdot \alpha|}$$

$d \geq 0$ であるから、 $d=0$ のとき $\frac{1}{|e \cdot k \cdot \alpha|}$ となる。したがって $|e \cdot k \cdot \alpha| < 1$ の領域で微分可能である。

⁵⁾ この演算については、筆者の前著【脚註; 2】に同じ】を参照されたい。

$$\times \frac{1}{1 - e^2 \alpha^2 k^2} \dots\dots\dots (27)$$

であらわされるのは当然であろう。

(27) 式を用いて求めた結果は表-1の第4列目にしめしてある。

図-3 は、近似項のとり方によって h/L の変動するありさま、その収束する領域、誤差の大きさなどを示したものである。最大波形コウ配が 0.119 付近に収束していくようすが明らかにうかがわれ、もし違ってもせいぜい 0.116~0.122 程度の範囲であることがわかる。

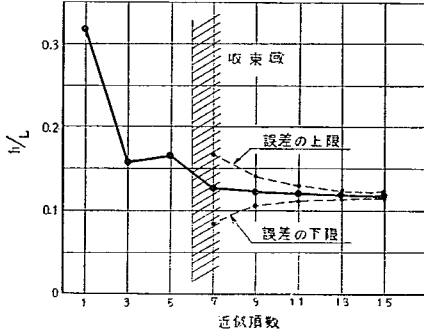


図 - 3 深水波の砕波限界

3. 浅水波の砕波限界

3-1 級数解による波形表示

これから行なう計算は深水波の場合と同じ考えにもとづいているから、説明は簡単にする。

深水波と同様の取扱いによつて、速度ポテンシャル ϕ と流れの関数 ψ をつぎのように与えることができる。

$$\left. \begin{aligned} \phi/c &= x - \beta \cdot \cosh k(d+z) \cdot \sin kx \\ \psi/c &= z - \beta \cdot \sinh k(d+z) \cdot \cos kx \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (28)$$

これは、明らかに

$$\left. \begin{aligned} \frac{\partial^2 w}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 w}{\partial z^2} &= 0, \quad w = \phi + i\psi \\ z &= -d \quad \frac{\partial \phi}{\partial z} = 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (29)$$

をみたしている。

水表面においては、 $\phi=0$ で、 $z=\eta$ であるから

$$\begin{aligned} \eta &= \beta \cdot \sinh k(d+\eta) \cdot \cos kx \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\beta^n \cdot k^{n-1}}{2^{n-1} \cdot n!} \cdot \cos^n kx \\ &\times \left[\sum_{r=0}^n (-1)^r \cdot {}_nC_r \cdot (n-2r)^{n-1} \cdot \sinh \{(n-2r)kd\} \right] \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{B_n}{k} \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \dots\dots\dots (30) \end{aligned}$$

ただし、

$$\begin{aligned} B_n &= \frac{1}{2^{n-1} \cdot n!} \cdot \left[\sum_{r=0}^n (-1)^r \cdot {}_nC_r \cdot (n-2r)^{n-1} \right. \\ &\quad \times \sinh \{(n-2r)kd\} \left. \right] \\ m &= \frac{n}{2} - 1 \dots\dots\dots n \text{ が偶数} \\ &= \frac{n-1}{2} \dots\dots\dots n \text{ が奇数} \end{aligned}$$

つぎに水深 d' に対応する水中波の波形 η' を求める。したがって、 $\psi = -cd'$ 、 $z = -d + \eta'$ とすると、

$$\begin{aligned} \eta' &= \beta \cdot \sinh k(d-d' + \eta') \cdot \cos kx \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\beta^n \cdot k^{n-1}}{2^{n-1} \cdot n!} \cdot \cos^n kx \\ &\times \left[\sum_{r=0}^n (-1)^r \cdot {}_nC_r \cdot (n-2r)^{n-1} \right. \\ &\quad \times \sinh \{(n-2r) \cdot k(d-d')\} \left. \right] \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{B_n'}{k} \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \dots\dots\dots (31)^6 \end{aligned}$$

ただし、

$$\begin{aligned} B_n' &= \frac{1}{2^{n-1} \cdot n!} \cdot \left[\sum_{r=0}^n (-1)^r \cdot {}_nC_r \cdot (n-2r)^{n-1} \right. \\ &\quad \times \sinh \{(n-2r) \cdot k(d-d')\} \left. \right] \\ m &= \frac{n}{2} - 1 \dots\dots\dots n \text{ が偶数} \\ &= \frac{n-1}{2} \dots\dots\dots n \text{ が奇数} \end{aligned}$$

3-2 波高および水面上昇

波高は (30) 式から求められる。

$$\begin{aligned} h &= \eta_{\max} - \eta_{\min} = \eta \cos kx = 1 - \eta \cos kx = 1 \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{B_n}{k} \cdot \alpha^n \cdot k^n - \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n \cdot \frac{B_n}{k} \cdot \alpha^n \cdot k^n \\ &= 2 \cdot \sum_{n=1,3,5,\dots}^{\infty} \frac{B_n}{k} \cdot \alpha^n \cdot k^n \\ &= 2 \sum_{n=1}^{\infty} \frac{B_{2n-1}}{k} \cdot \alpha^{2n-1} \cdot k^{2n-1} \dots\dots\dots (32) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} B_{2n-1} &= \frac{1}{2^{2n-2} \cdot (2n-1)!} \\ &\times \left[\sum_{r=0}^{2n-1} (-1)^r \cdot {}_{2n-1}C_r \cdot (2n-2r-1)^{2n-2} \right. \\ &\quad \times \sinh \{(2n-2r-1) \cdot k(d-d')\} \left. \right] \end{aligned}$$

したがって波形コウ配 h/L は、

$$h/L = \frac{1}{\pi} \sum_{n=1}^{\infty} B_{2n-1} \cdot \alpha^{2n-1} \cdot k^{2n-1} \dots\dots\dots (33)$$

静水面よりの水面上昇値 δ を計算する。

$$\begin{aligned} \delta &= \frac{1}{L} \cdot \int_0^L \eta \cdot dx \\ &= \frac{1}{L} \cdot \int_0^L \sum_{n=1}^{\infty} \frac{B_n}{k} \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \cdot dx \end{aligned}$$

⁶⁾ (30) 式は筆者の前著〔脚註; 2〕でみちびいてある。(31) 式もそれと同じようにして簡単に求める。

$$\begin{aligned}
 &= \frac{1}{L} \cdot \sum_{n=1}^{\infty} \frac{B_n}{k} \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \int_0^L \cos^n kx \cdot dx \\
 &= \sum_{n=2,4,6,\dots} \frac{B_n}{k} \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \frac{n C_{n/2}}{2} \\
 &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{B_{2n}}{k} \cdot \beta^{2n} \cdot k^{2n} \cdot \frac{2n C_n}{2^{2n}} \dots \dots \dots (34)^7)
 \end{aligned}$$

したがって浅水度は

$$\frac{d+\delta}{L} = \frac{d}{L} + \frac{1}{2\pi} \cdot \sum B_{2n} \cdot \frac{2n C_n}{2^{2n}} \cdot \beta^{2n} \cdot k^{2n} \dots \dots \dots (35)$$

で計算される。

3-3 進行波の有する運動量

進行波の運動量は深き波の場合とまったく同じ方法によって求められる。定常波の $\phi=0$ から $\phi=-cd'$ までの運動量 M_u は、

$$\begin{aligned}
 M_u &= \int_{\phi=-cd'}^{\phi=0} \rho \cdot u \cdot dz = -\rho \int_{\phi=-cd'}^{\phi=0} \frac{\partial \phi}{\partial z} \cdot dz \\
 &= -\rho cd' \dots \dots \dots (36)
 \end{aligned}$$

一様流の運動量 M_c は

$$M_c = \int_{z=-d'}^{z=\eta} \rho \cdot c \cdot dz = \rho c \cdot [\eta - \eta' + d'] \dots \dots (37)$$

進行波の運動量 M_v は

$$\begin{aligned}
 M_v &= M_u + M_c = \rho c [\eta - \eta'] \\
 &= \rho c \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{k} \cdot [B_n - B_{n'}] \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \quad (38)
 \end{aligned}$$

進行波が一波長について有する運動量は $d'=d$ として x に関して 0 から L まで積分する。 $B_{n'}$ の方は $d'=d$ とすれば消えるから

$$\begin{aligned}
 M &= \int_0^L M_v \cdot dx \\
 &= \rho c \cdot \int_0^L \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{k} \cdot B_n \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \cdot dx \\
 &= \rho c \sum_{n=1}^{\infty} \frac{B_n}{k} \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \int_0^L \cos^n kx \cdot dx \\
 &= \rho \cdot c \cdot L \cdot \delta \dots \dots \dots (39)
 \end{aligned}$$

この結果も有限項の場合と同じ結果であることはもちろんである。

3-4 碎波限界

任意の流線 $\phi=-cd'$ に沿っての x 方向の流体速度 $U_{d'}$ を求めるためには、(38) 式の M_v を d' で微分して ρ で割る。

$$\begin{aligned}
 U_{d'} &= \frac{1}{\rho} \cdot \frac{\partial M_v}{\partial d'} \\
 &= c \cdot \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{k} \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \cdot \frac{\partial}{\partial d'} [B_n - B_{n'}] \\
 &= c \cdot \sum_{n=1}^{\infty} C_n \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \dots \dots \dots (40)^8)
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 C_n &= \frac{1}{2^{n-1} \cdot n!} \left\{ \sum_{r=0}^n (-1)^r \cdot {}_n C_r \cdot (n-2r)^n \right. \\
 &\quad \times \cosh\{(n-2r)k(d-d')\} \Big\}
 \end{aligned}$$

表面での流速は $d'=0$ とする。

$$U_0 = c \cdot \sum_{n=1}^{\infty} C_n \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \cos^n kx \dots \dots \dots (41)$$

$$\begin{aligned}
 C_n &= \frac{1}{2^{n-1} \cdot n!} \left\{ \sum_{r=0}^n (-1)^r \cdot {}_n C_r \cdot (n-2r)^n \right. \\
 &\quad \times \cosh\{(n-2r)kd\} \Big\}
 \end{aligned}$$

最大流速は波頂で生ずるから $\cos kx=1$ として

$$U_{\max} = c \cdot \sum_{n=1}^{\infty} C_n \cdot \beta^n \cdot k^n \dots \dots \dots (42)$$

碎波条件は

$$U_{\max} = c, \quad \therefore \sum_{n=1}^{\infty} C_n \cdot \beta^n \cdot k^n = 1 \dots \dots \dots (43)$$

波の碎波条件を波形コウ配と浅水度とで表示するためには、

$$\sum_{n=1}^{\infty} C_n \cdot \beta^n \cdot k^n = 1$$

をいって βk の値を求め

$$h/L = -\frac{1}{c} \sum_{n=1}^{\infty} B_{2n-1} \cdot \beta^{2n-1} \cdot k^{2n-1}$$

$$d/L + \delta/L = \frac{d}{L} + \frac{1}{2\pi} \cdot \sum_{n=1}^{\infty} B_{2n} \cdot \frac{2n C_n}{2^{2n}} \cdot \beta^{2n} \cdot k^{2n}$$

から波形コウ配と浅水度を求める。ここで、

7) (34) 式の積分は $|e \cdot k \cdot \beta \cdot \cosh kd| < 1$ の範囲で行なってもよい。 $B_n < (n^{n-1}/n!)(\cosh kd)^n$ であることは前著で証明してある。だから (30) 式の収束半径は

$$\begin{aligned}
 \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{n^{n-1}}{n!} \cdot \beta^n \cdot k^n \cdot \cosh^n kd / \frac{(n+1)^n}{(n+1)!} \cdot \beta^{n+1} \cdot k^{n+1} \cdot \cosh^{n+1} kd \right| &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \left(\frac{n}{n+1} \right)^{n-1} \cdot \frac{1}{\beta \cdot k \cdot \cosh kd} \right| \\
 &= \frac{1}{|e \cdot k \cdot \beta \cdot \cosh kd|}
 \end{aligned}$$

8) (40) 式の演算を行なってもよいことを以下に示す。

$$B_n = \frac{1}{2^{n-1} \cdot n!} \cdot \left\{ \sum_{r=0}^n (-1)^r \cdot {}_n C_r \cdot (n-2r)^{n-1} \cdot \sinh\{(n-2r)kd\} \right\} < \frac{n^{n-1}}{n!} \cdot \cosh^n kd$$

となることは筆者の前著の証明にある。しかも $(n^{n-1}/n!)\cosh^n kd$ を係数とする級数が $|e \cdot k \cdot \beta \cdot \cosh kd| < 1$ で収束し、 B_n を係数とする級数もこの条件内で収束することがわかってゐる。 $B_{n'}$ を係数とするものは、 B_n の kd のかわりに、 $k(d-d')$ となっているだけであるから $|e \cdot k \cdot \beta \cdot \cosh k(d-d')| \leq |e \cdot k \cdot \beta \cdot \cosh kd| < 1$ の範囲で収束する。 d' は $0 \sim d$ の値をとる。したがって (38) 式は $|e \cdot k \cdot \beta \cdot \cosh kd| < 1$ で一様収束、絶対収束である。

つぎに (40) 式の収束性について考える。まず、係数 C_n を書きなおしていく。

$$C_n = \frac{1}{2^{n-1} \cdot n!} \cdot \left[\sum_{r=0}^n (-1)^r \cdot {}_nC_r \cdot (n-2r)^n \right. \\ \left. \times \cosh \{ (n-2r)kd \} \right] \\ B_n = \frac{1}{2^{n-1} \cdot n!} \cdot \left[\sum_{r=0}^n (-1)^r \cdot {}_nC_r \cdot (n-2r)^{n-1} \right. \\ \left. \times \cosh \{ (n-2r)kd \} \right] \\ m = \frac{n}{2} - 1 \dots\dots\dots n \text{ が偶数} \\ = \frac{n-1}{2} \dots\dots\dots n \text{ が奇数}$$

である。

深水波の場合、15次程度の近似を行えば十分満足できる値をうることがわかっているの、浅水波の場合も15次の近似式をとくこととする。浅水波の場合にも深水波のときと同じように近似項数と h/L の値の関係を調べれば最良であるが、浅水度が異なれば各項の係数も異なってきた、非常に多くの労力を要することになる。

普通、浅水度 0.5 くらいが浅水波と深水波の境界となっている。実際ここで行なった計算にもとづいて砕波条件をきめてやると浅水度 0.505 で最大波形コウ配 0.119 となり、深水波の値と合致する。したがって、浅水度の大きなところでは、15次程度の近似で十分であろうと推測される。しかし、浅水度の小さいところでははたしてどうなっているかは判然としない。

表-2 は砕波限界を示したものである。

4. 級数の収束限界

波形をあらわしている級数が収束発散の境界にあるとき、波が砕波するという考えがあることは、すでに述べておいた。もし、この収束限界に達したときには、波形を表現する式がもはや収束しなくなり、波形形成の限界に達したものとするわけである。

しかし、このことがどのような物理的な意味をもっているのかつまびらかでない。このことはただ単に、2. や 3. で行なった計算がはたして妥当な領域で行なわれてい

表-2 浅水波の砕波限界 ($U_{\max}=c$ としたものの)

d/L	$k\beta$	δ/L	$\frac{d+\delta}{L}$	h/L
0.020	4.853×10^{-1}	0.0015	0.022	0.0257
0.040	4.497×10^{-1}	0.0027	0.043	0.0474
0.060	4.064×10^{-1}	0.0041	0.064	0.0641
0.100	3.222×10^{-1}	0.0042	0.104	0.0863
0.150	2.369×10^{-1}	0.005	0.155	0.102
0.200	1.735×10^{-1}	0.005	0.205	0.110
0.250	1.268×10^{-1}	0.005	0.255	0.114
0.300	9.262×10^{-2}	0.005	0.305	0.116
0.350	6.770×10^{-2}	0.005	0.355	0.117
0.400	4.943×10^{-2}	0.005	0.405	0.118
0.500	2.635×10^{-2}	0.005	0.505	0.119
∞				0.119

表-3 収束限界

d/L	$k\beta$	δ/L	$\frac{d+\delta}{L}$	h/L
0.020	3.6503×10^{-1}	0.001	0.021	0.017
0.040	3.5657×10^{-1}	0.002	0.042	0.033
0.060	3.4320×10^{-1}	0.002	0.062	0.050
0.100	3.0557×10^{-1}	0.003	0.103	0.079
0.150	2.4890×10^{-1}	0.005	0.155	0.110
0.200	1.9372×10^{-1}	0.006	0.206	0.133
0.250	1.4661×10^{-1}	0.007	0.257	0.149
0.300	1.0920×10^{-1}	0.008	0.308	0.159
0.350	8.0606×10^{-2}	0.008	0.358	0.165
0.400	5.9207×10^{-2}	0.008	0.408	0.168
0.500	3.1735×10^{-2}	0.008	0.508	0.171
∞	$ka3.6790 \times 10^{-1}$			0.172

るかどうかの判断の根拠になるだけのものと考えるのが適当であろう。もし、収束条件をみたしていない場合にはもっと数多くの項をとる必要があることを示していると考えことにする。

深水波の場合 $|e \cdot \alpha \cdot k| < 1$

浅水波の場合 $|e \cdot \beta \cdot k \cdot \cosh kd| < 1$

というように収束域がきめられている。収束限界は

$$|e \cdot \alpha \cdot k| = 1, |e \cdot \beta \cdot k \cdot \cosh kd| = 1 \dots\dots\dots (44)$$

である。

(44) 式をいって収束限界の h/L や $(d+\delta)/L$ を計算したのが 表-3 である。

$$C_n' = \frac{1}{2^{n-1} \cdot n!} \cdot \left[\sum_{r=0}^n (-1)^r \cdot {}_nC_r \cdot (n-2r)^n \cdot \cosh \{ (n-2r)k(d-d') \} \right]$$

$$< \frac{1}{2^{n-1} \cdot n!} \cdot \left[\sum_{r=0}^n {}_nC_r \cdot n^n \cdot \cosh \{ (n-2r)k(d-d') \} \right] \leq \frac{n^n}{n!} \cdot \left(\frac{e^{k(d-d')} + e^{-k(d-d')}}{2} \right)^n \\ = (n^n/n!) \cdot \cosh^n k(d-d')$$

$(n^n/n!) \cdot \cosh^n k(d-d')$ を係数とする級数が収束する領域では、 C_n' を級数とする級数は絶対収束である。

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left| k^n \cdot \beta^n \cdot \frac{n^n}{n!} \cdot \cosh^n k(d-d') / k^{n+1} \cdot \beta^{n+1} \cdot \frac{(n+1)^{n+1}}{(n+1)!} \cdot \cosh^{n+1} k(d-d') \right| \\ = \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{1}{k\beta} \cdot \left(\frac{n}{n+1} \right)^n \cdot \frac{1}{\cosh k(d-d')} \right| = \frac{1}{|e \cdot k \cdot \beta \cdot \cosh k(d-d')|}$$

したがって

$$|\cos kx| \leq 1 < \frac{1}{|e \cdot k \cdot \beta \cdot \cosh k(d-d')|}$$

の領域で級数は一様収束する。 $d'=0$ のとき、収束半径はいちばん小さいから、そのときを考えると、 $|e \cdot k \cdot \beta \cdot \cosh kd| < 1$ の条件となる。この条件のもとに、(40) 式の微分を行なってもよいことが示されたわけである。

5. 結 論

2~4において若干の計算を試みて有限振幅ポテンシャル波の砕波条件を求めた。まず第一に、計算のもととなった級数が収束しなければ上に行なった計算は意味のないものとなる。それゆえ、ある場合には、まだ項数を多くとることが要求されることとなる。しかし、多くの項数をとって計算するのは多くの労力と時日を要するので、ここではとりあえず、収束条件をみたす値を採用することとする。

次に、収束条件がみたされている場合には、水実質部分の 流速=波速 という条件から得られるものを採用する。こうすると、砕波時の波型コウ配および浅水度は表-4となる。図-4は、この表-4の値をえがいたものである。同図中にある点は、F. Saquet と A. Wallet が行なった実験値を彼等の図表から拾ったものである。

この図から見ると、浅水度の小さいところでは理論曲線と実験値は非常に一致を示している。しかし、浅水度の大きなところでは、理論値よりも大きな波型コウ配の波が存在するようになっていく。深水波で Michell の出した 0.142、岸の求めた 0.146の方が筆者の求めた 0.119 よりも Saquet と Wallet の実験値にはよくあっているように思われる。M. Miche は、深水波の場合には最大波型コウ配は 0.10 から 0.12 程度のようであると述べている。もし、そうだとすると筆者の求めた 0.119 という値とほとんど同じになる。

現実の波は、有限振幅であるし、また、風の影響で早く崩れることなども考えられ、理論的に求めたものと違ってくるのが当然考えられる。また浅水波になれば、反射波の影響なども加わって、図-4 で求めたものと違う現象を呈するであろう。理論解は水深の変化を考慮に入っていないが、現実の海岸では水深はもちろん変化している。このように理論解と現実との間にへだたりはあ

表-4 砕波時の波型コウ配と浅水度

浅 水 度	波型コウ配
0.021	0.017
0.042	0.033
0.062	0.050
0.103	0.079
0.155	0.102
0.205	0.110
0.255	0.114
0.305	0.116
0.355	0.117
0.405	0.118
0.505	0.119
∞	0.119

るが、ここでは一応、有限振幅ポテンシャル波を厳密にといて行なった結果として 図-4 が与えられることを示した。

お わ り に

この小論文をまとめるにあたって、運輸技術研究所浜田徳一博士、東京大学堀川清司助教授、土木研究所細井正延海岸研究室長に数多くの御教示をいただいた。ここにしるして感謝の意にかえる次第です。

参 考 文 献

- 1) 石原・本間編；応用水理学・中Ⅱ
- 2) J. H. Michell; The Highest Waves in Water. Phil. Mag. Vol. 36, 1893.
- 3) 浜田徳一；Breakers and Beach Erosion; Rep. Transp. Tech. Res. Inst. Rep. No.1. 1951
- 4) 佐藤清一；漂砂に関する研究(4)、表面浅水波について；土木研究所報告 第82号, 1952
- 5) 岸 力；海岸堤防に関する研究(4)、進行波の砕波限界；土木研究所報告 第91号, 1955
- 6) 岸 力；The Possible Highest Gravity Waves

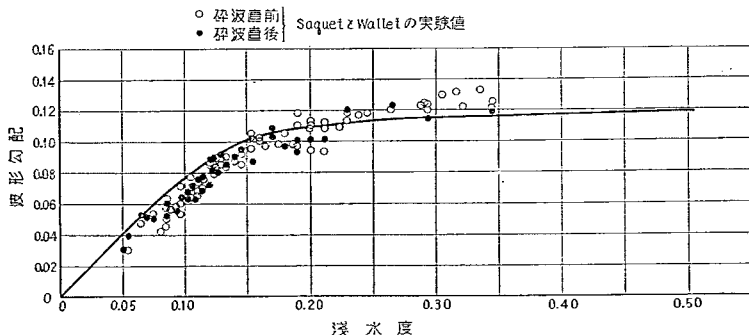


図-4 砕 波 限 界

- in Shallow Water; Coastal Eng. in Japan. Vol. 2. 1959.
- 7) F. Saquet & A. Wallet; Basic Experimental Wave Research; Proc. Minnesota Int. Hyd. Con. Sept. 1953.
- 8) 首藤伸夫; 有限振幅波について, 高次の級数解, その収束性および近似式の誤差について; 土木研究所報告 第107号
- 9) M. Miche; Mouvements Ondulatoires de la Mer en Profondeur Constante ou Décroissante; Annales des Ponts et Chaussées. 1944.

プレストレスト合成ゲタの研究とその設計(3)

——大石橋の模型実験と設計に関する報告

プレストレスト部分合成連続ゲタ橋——

(昭和36年3月)

多 田 安 夫*
中 村 正 平**
青 木 忠 宗***

要 旨

本文はプレストレスト合成ゲタの研究とその設計の第3報であって、先に報告した単純合成ゲタに対するプレストレスト工法を連続ゲタに拡張するために実施した模型実験とその結果を用いて行なった連続ゲタへの発展の第一段階としての部分合成連続ゲタ橋の設計と架設および載荷試験の概要について報告した。

目 次

1 緒 言.....(1)	[4] 実験結果と考察.....(7)
2 プレストレスト部分合成連続ゲタの 設計理論.....(1)	4 大石橋の設計.....(8)
[1] 部分合成ゲタの設計理論.....(1)	[1] 概 要.....(8)
[2] 部分プレストレスト連続ゲタの設計 理論.....(2)	[2] 設 計.....(9)
[3] コンクリート床版のクリープおよび 収縮による影響の計算理論.....(3)	[3] 設 計 図.....(11)
3 模 型 実 験.....(3)	5 大石橋の架設と各種測定の概要.....(11)
[1] 実験の目的.....(3)	[1] 架 設.....(11)
[2] 実験ゲタ.....(3)	[2] 載 荷 試 験.....(11)
[3] 実 験.....(6)	6 結 語.....(13)
	7 文 献.....(16)
	8 付 図

1. 緒 言

著者は、先に単純プレストレスト合成ゲタについて研究し、実橋の設計を実施して既に竣功させた。

今後は引続き、プレストレスト連続合成ゲタの研究に進む予定であるが、今回は、その手がかりとして、鋼ゲタは連続ゲタであるが、床版の合成は部分的に行なわれており、また鋼ゲタに対して部分的にプレストレスを加えた、いわゆる“プレストレスト部分合成連続ゲタ橋”について研究し、実橋の設計を行なった。実橋は東北地方建設局の協力を得て既に竣功している。

プレストレスト合成ゲタは、既に土木研究所報告 103 号¹⁾、109号²⁾において述べたように、鋼ゲタおよび床版コンクリートにプレストレスを加え、材料を一段と有効に使用し、合成ゲタの経済性を高めるものである。

2. プレストレスト部分合成連続ゲタの設計理論

[1] 部分合成ゲタの設計理論

普通のジュベルを有する合成ゲタでは、断面応力度に関して一般に次のような関係が成立する。(図-1参照)

$$\sigma_s = \frac{\sigma_b}{\sigma_{st}} \cdot \frac{\sigma_{st}}{n} \quad \dots\dots\dots (1)$$

ここでは、 σ_b 、 σ_{st} はコンクリートおよび鋼の最大緑応力度、 n は鋼とコンクリートの弾性係数の比である。許容コンクリート応力度は常に $1/n \sigma_{st}$ より小さいから(ここで $\sigma_{st,2}$ は鋼材の許容応力度)、コンクリートと鋼の許容応力度を両方共完全に使用するためには、

$$\frac{\sigma_b}{\sigma_{st}} < 1 \quad \dots\dots\dots (2)$$

でなければならない。すなわち、合成断面重心は鋼ゲタの断面重心より相当に高くなければならない。コンクリート版の断面寸法は車道版としての働きから定まるからこのような条件は小支間で鋼断面の小さい場合において

*道路部 橋梁研究室長 **道路部 橋梁研究室主任研究員
***道路部 橋梁研究室

のみ満足され、大支間においては満たされないことになる。

また、支間が非常に大きくなれば、合成断面の重心も大きく下り、活荷重によってコンクリートの許容応力度が超過されることになる。

更に、連続ゲタの支点上では、コンクリート版は引張力を受けることになり、合成作用を与えることが難しくなる。

従って、これらの場合には、特別な考慮がはらわれなければ連続的に普通の形のジュベルを配置することは、もはや経済的ではなくなる。

これらの欠点を除くためには、コンクリート版と鋼ゲタの間の結合度を緩和すればよい。このようにすれば、両者の接触面におけるせん断力が減り、したがって断面の軸力が減じ、一方モーメント分は増加する。通常、コンクリート版は主として軸力を受けるから、コンクリートの応力は減る。結合度を緩和するには、弾性的なジュベルを使用すること、ジュベルの中断とが考えられる。前者はドイツにおいては Homberg によって既に提案³⁾されている。しかし、実際の施工の面で相当に面倒でありむしろ、ジュベルの中断による方が簡単である。

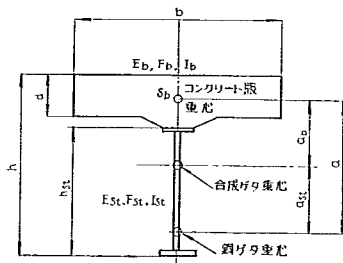
いま、合成ゲタの一部分でジュベルを取除いたとすると、そこでは版とけたの間にせん断力は生じない。すなわち、この範囲で軸力は一定となる。ゆえに、ジュベルのない区間 e では、コンクリート版と鋼ゲタの伸びは一致しなければならないから、伸び Δe について次式が成立つ。

$$\begin{aligned} \Delta l &= -\frac{N}{E_b F_b} \cdot l + \int_0^l \frac{M_b}{E_b I_b} \cdot \frac{d}{2} \cdot dx \\ &= -\frac{N}{E_{st} F_{st}} \cdot l - \int_0^l \frac{M_{st}}{E_{st} I_{st}} \left(d - \frac{d}{2} \right) dx \dots\dots\dots(3) \end{aligned}$$

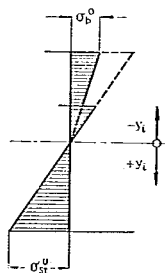
ここで、 l はジュベルのない区間の長さ、

$M = N_a + M_b + M_{st} =$ 合成ゲタに働く曲げモーメント

E_b, F_b, I_b はそれぞれコンクリート版の弾性係数、断面積、断面 2 次モーメント。



(a)



(b)

図-1

E_{st}, F_{st}, I_{st} はそれぞれ鋼ゲタの弾性係数、断面積、断面 2 次モーメント

また両者の曲率も一致しなければならないから、

$$\frac{M_b}{E_b I_b} = \frac{M_{st}}{E_{st} I_{st}} \dots\dots\dots(4)$$

ゆえに

$$\left. \begin{aligned} M_b &= \frac{E_b I_b}{E_b I_b + E_{st} I_{st}} \cdot (M - N_a) \\ M_{st} &= \frac{E_{st} I_{st}}{E_b I_b + E_{st} I_{st}} \cdot (M - N_a) \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(5)$$

(3)と(5)から、

$$\begin{aligned} N &= \frac{1}{\left(\frac{1}{E_b F_b} + \frac{1}{E_{st} F_{st}} + \frac{a^2}{E_b I_b + E_{st} I_{st}} \right)} \\ &= \frac{a}{E_b I_b + E_{st} I_{st}} \int_0^l M_{ax} \dots\dots\dots(6) \end{aligned}$$

更に

$$\begin{aligned} N &= -\frac{a_{st} F_{st}}{I_{st}} \cdot \frac{1}{l} \cdot \int_0^l M \cdot dx \\ &= -\frac{a_{st} F_{st}}{I_{st}} \cdot M_{em} \dots\dots\dots(7) \end{aligned}$$

ここで、 M_{em} は区間 l の間の荷重モーメントの平均値である。 N が求まれば、(5)から合成ゲタの各部応力度が求められる。

[2] 部分プレストレスト連続ゲタの設計理論

図-2 のようなプレストレスト連続ゲタに荷重が載った場合の各部応力を求める。

プレストレスト鋼材の応力を X, Y, Z , 支点反力を R_A, R_B, R_C とすれば、この系は 5 次不静定構造となる。これを解くには、エネルギー法が便利である。

荷重が l_1 の間にあるときの荷重による構造系のエネルギーは、

$$\begin{aligned} W_1 &= \frac{1}{2EI_1} \int_0^a (R_A x + Xh_1)^2 dx + \frac{X^2}{2EA_1} \cdot a \\ &+ \frac{1}{2EI_1} \int_a^{l_1} \left\{ R_A x - P(x-a) + Xh_1 \right\}^2 dx \\ &+ \frac{X^2}{2EA_1} (l_1 - a) + \frac{1}{2EI_2} \int_{l_1}^{l_1+l_2} \left\{ R_A x - P(x-a) \right. \\ &+ R_B(x-l_1) - Yh_2 \left. \right\}^2 dx + \frac{Y^2}{EA_2} l_2 \\ &+ \frac{1}{2EI_1} \int_{l_1+l_2}^{2l_1+l_2} \left\{ R_A x - P(x-a) + R_B(x-l_1) \right. \\ &+ R_C(x-l_1-l_2) + 2h_1 \left. \right\}^2 dx + \frac{Z^2}{2EA_1} \cdot l_1 \dots\dots(8) \end{aligned}$$

同様に l_2 の間に荷重のあるときは、

$$\begin{aligned} W_2 &= \frac{1}{2EI_1} \int_0^{l_1} (R_A x + Xh_1)^2 dx \\ &+ \frac{X^2}{2EA_1} l_1 + \frac{1}{2EI_2} \int_0^{l_1+a} \left\{ R_A x \right. \\ &+ R_B(x-l_1) - Yh_2 \left. \right\}^2 dx \\ &+ \frac{Y^2}{2EA_2} a + \frac{1}{2EI_2} \int_{l_1+a}^{l_1+l_2} \left\{ R_A x \right. \\ &+ R_B(x-l_1) - Yh_2 - P(x-a) \\ &- l_1 \left. \right\}^2 dx + \frac{Y^2}{2EA_2} (l_2 - a) \\ &+ \frac{1}{2EI_1} \int_{l_1+l_2}^{2l_1+l_2} \left\{ R_A x + R_B(x-l_1) + R_C(x-l_1-l_2) + Zh_1 \right. \\ &- P(x-l_1-a) \left. \right\}^2 dx + \frac{Z^2}{2EA_1} l_1 \dots\dots\dots(9) \end{aligned}$$

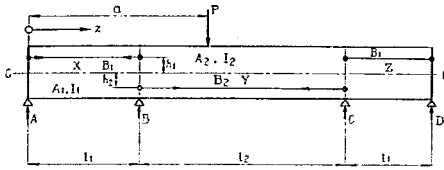


図-2

ここで、 E は鋼のヤング率で、けたとプレストレス材において同一であると仮定した。また I_1, I_2 は l_1, l_2 支間の断面2次モーメント、 R_A, R_B, R_C は A, B, C 支点の反力、 a は集中荷重 P から直ぐ近くの左支点までの距離、 h_1, h_2 はけたの重心から支間 l_1, l_2 のプレストレス鋼材までの距離、 X, Y, Z はプレストレス鋼材に働く力である。ここで、プレストレス鋼材のヒズミエネルギーは無視した。支点変位が0であることと、プレストレス鋼材の伸びおよび支点反力を考慮して、

$$\begin{aligned} \frac{dW}{dR_A} &= 0, \quad \frac{dW}{dR_B} = 0, \quad \frac{dW}{dR_C} = 0, \\ \frac{dW}{dX} &= -\frac{X}{EB_1} l_1, \\ \frac{dW}{dY} &= -\frac{Y}{EB_2} l_2, \\ \frac{dW}{dZ} &= -\frac{Z}{EB_1} l_1 \end{aligned} \quad \dots\dots(10)$$

から、各部応力が求められる。計算は一見面倒に見えるが、実際の数値を代入すれば、極めて容易に解ける。

プレストレスの定着に伴った局部応力の問題は、次に述べる実験的研究によって解決した。

[3] コンクリート床版のクリープおよび収縮による影響の計算理論

連続合成ゲタのような不静定構造物は、鋼ゲタと結合されたコンクリート床版のクリープ、収縮の影響で不静定力に複雑な変化をうける。すなわち、床版に加わる応力はコンクリートのクリープによって次第に鋼ゲタに転移する。その時間的変化の状況は Dischinger の仮定⁴⁾に基いて、Sattler が精密に解説している⁵⁾。しかし、われわれが、ここで問題にしている程度の部分合成活荷重合成ゲタに適用するにはこの精密解は余りに面倒にすぎると、またコンクリートに対する仮定が実際と常に相当の隔りがあることを考えれば、計算手間が惜しまれる。

コンクリートのクリープと収縮は結局において、その弾性係数の変化という形で扱えられる。この考えに基づくのが Fritz の簡易計算法⁶⁾である。これは、床版が薄く鋼ゲタの割な普通の断面には良い結果を与えるといわれる。すなわち、クリープを考えた最終状態における合成ゲタの断面応力度は、コンクリートの“仮想弾性係数” E_{b1} を用いて、普通の方法で得られる。

$$E_{b1} = \frac{E_{b0}}{(1 + \varphi_D + \varphi)} \quad \dots\dots(11)$$

ここで、 $E_{b0} : t = 0$ のときのコンクリートの弾性係数、 φ_E : 最終クリープ量、 $\varphi_D = \frac{e^{\alpha \cdot \varphi_E} - 1}{\alpha \cdot \varphi_E}$ 、また、 α はゲタの断面から定まる常数であり、図-1を参照して次の式から求まる：

$$\alpha = \left[\frac{S_e + S_{bD}}{a^2 + (S_e + S_{b0}) \left(\frac{1}{K_e} + \frac{1}{K_{bD}} \right)} \right] K_{bD} \quad \dots\dots(12)$$

ここで、 $S_e = E_{st} \cdot I_{st}$, $S_{b0} = E_{b0} \cdot I_{b1}$, $K_e = E_{st}$, F_{st} , $K_{b0} = E_{b0} \cdot F_{b1}$ である。

また、クリープを考慮したときのコンクリートの収縮によって生ずる合成ゲタの応力度は、次の“仮想弾性係数” E_{b2} を用いて得られる。

$$E_{b2} = \frac{E_{b0}}{1 + \varphi_s + \varphi_E} \quad \dots\dots(13)$$

ここで

$$\varphi_s = \frac{e^{\alpha \cdot \varphi_E} - 1}{\alpha \cdot \varphi_E} - \frac{1}{\alpha \cdot \varphi_E}$$

φ_0, φ_s は決定常数と呼ばれるものであって、次の図-3のような値になる。

3. 模型実験

[1] 実験の目的

プレストレスト合成連続ゲタの実際の挙動を調べ、あわせてプレストレス導入工法およびその際の局部応力状態を実験的に研究し、実験を設計するための資料を得る目的で、模型ゲタを作成し、実橋のような施工を行なった後、載荷試験を行ない所要の測定を行なった。

[2] 実験ゲタ

1) 材料と製作

実験ゲタは図-4に示すような模型ゲタであって、支間 6.144m 2 経間連続ゲタであり、全長は 12,560m、主ゲタ 2 本の間には対傾構および横構によって、結合されている。主ゲタの両側には、支点付近には上フランジに近く、支間では下フランジに近く、2-φ5 高張力鋼線が断続的に直線上に配置されている。鋼線定着部はゲタ端支点補剛材と中間支点付近の補剛材とを利用して設けられている。模型ゲタの寸法は、載荷試験を実施したオリエンタルコンクリート株式会社多摩工場の載荷試験機の容量に合わせて、最大に選定した。鋼材には SS 41 を使い、ウェブ、フランジ、補剛材の接合はアーク溶接により、主ゲタ、対傾構および横構間の接合はすべて直径 3/8 吋の高張力ボルトを用いた。鋼ゲタはすべて株式会社宮地鉄工所において製作し、試験場に運搬して据付けられた。

鋼ゲタに合成されるコンクリート床版は、厚さ 65mm、全幅 1m であって、鋼桁とはブロックジュベルと輪型筋で結合されている。負の曲げモーメントを生ずる中間支点上付近の長さ 1.980m の部分には、床版の厚さの中央に 9 コの直径 15mm のシースが挿入されており、この孔に直径 5mm の高張力鋼線 2 本を挿入してプレストレス

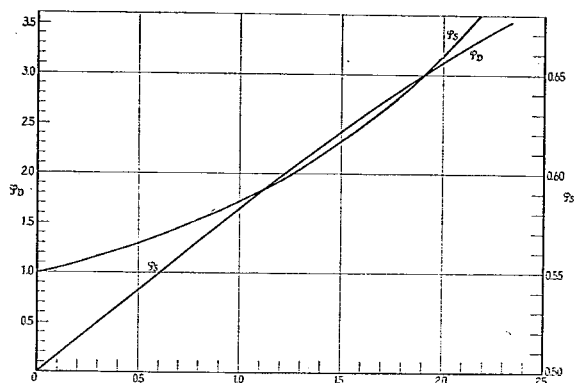


図-3

表-1 骨材試験結果

		砂		利	
		多摩川		多摩川	
産地	骨材寸法	25m/m			
比重		2.60		2.63	
単位重量		1.795kg/m ³		1.718kg/m ³	
吸水率		1.90		0.96	
有機不純物		合格			
粗粒率		3.02		7.12	

篩分析試験

篩目 (mm)	通過量	
	砂	利
25		96
20		68
10		18
5	100	
2.5	96	
1.2	82	
0.6	64	
0.3	40	
0.15	13	
	3	

表-2 コンクリートの配合(1m³当り)

粗骨材の 寸法	スラン の範囲	単位 重量	単位 重量	セメント (比)	絶対 粗骨材率	全骨 材量	単位 粗骨材量	単位 粗骨材量
mm	cm	kg	kg	%	%	kg	kg	kg
20	1~4	168	400	42	38.5	1845	710	1135

注：グラウト配合(セメント100kg当り)

セメント 量	フライアッシュ	水	アルミ 粉末	ポリス No. 5	フロ 砂
kg	kg	kg	g	g	kg
100	40	56	10	350	16

表-3 コンクリートの強度

採取月日	圧縮強度			備考
	7日	14日	28日	
4-23	411	468	555	中央床版 部
	385	452	488	
	418	470	530	
5-7	436	456	549	両端床版 部
	412	448	527	
	392	474	490	

を与える。

床版に用いたコンクリートの材料の品質とコンクリートの強度は表-1~3に示すとおりである。セメントは早強セメント(小野田セメント藤

原工場製)を用いた。

2) 設計計算

2.の理論を用いて次のような設計計算を行ない、同時に測定値の解析のための理論値を得た。

a) 断面常数の計算

	r	F_r
U, F	$5 \times 60 = 300$	2.5
L, F	$5 \times 80 = 400$	367.5
Web	$5 \times 360 = 11.52$	18.50
	18.52	360.870

U, F	$300 \times$	$192.4^2 =$	11105.328
L, F	$400 \times$	$172.6^2 =$	11916.304
Web	$11.52 \times$	$\left(\frac{360^3}{12} + 9.9^2\right) =$	12554.508

$$y = \frac{360.870}{18.52} = 19.5 \text{ cm}$$

$$I = 3557.61 \text{ cm}^4$$

合成断面(I)

$$A_s' = 18.52 \times 7 = 129.64$$

$$A_c = 65 \times 50.0 = \frac{325.00}{454.64}$$

$$y = \frac{32.500 \times 32.5 + 12.964 \times 2749}{45.464} = 101.6 \text{ cm}$$

$$I_c = 32.500 \left(\frac{65^3}{12} + 69.1^2 \right) + 7 + 35576.140 + 12.964 \times 173.3^2 = 80500.3 \text{ cm}^4$$

$$S = 32.500 \times 69.1 = 2245.7 \text{ cm}$$

$$Web \quad 32 \times 360 = 1.152 \quad 187.5 \quad 216.000$$

$$UF \quad 5 \times 60 = 300 \quad 2.5 \quad 750$$

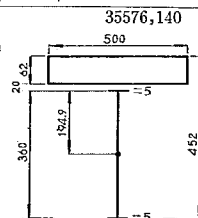
$$LF \quad 10 \times 100 = 1.000 \quad 3700 \quad 370.000$$

$$Web \quad 1152 \left(\frac{360^3}{12} + 51.8^2 \right) = 15532.692$$

$$UF \quad 300 \times 236.8^2 = 16822.272$$

$$LF \quad 1000 \times 130.7^2 = 17082.490$$

$$49437.454$$



$$y = \frac{586.750}{2.452} = 23.9 \text{ cm}$$

$$I = 4943.7 \text{ cm}^4$$

合成断面(2)

$$A' = 2.452 \times 7 = 171.64$$

$$A_c = 6.5 \times 50 + 0.39275 \times 4 \times 7 = 336.00$$

$$y = \frac{336 \times 3.25 \times 171.64 \times 31.93}{507.64} = 12.95 \text{ cm}$$

$$I = 336 \times \left(\frac{6.5^2}{12} + 9.7^2 \right) + 7 \times 4943.7 + 171.64 \times 18.98^2 = 32.797 + 34.606 + 61.832 = 129.235 \text{ cm}^4$$

6) 不静定力の計算

図-5 のような系について行なう。

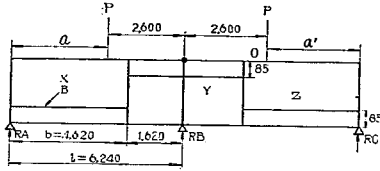


図-5

モーメント

$$0 \sim a \quad R_A \cdot x + Xh_1$$

$$a \sim b \quad R_A \cdot x - P(x-a) + Xh_2$$

$$b \sim l \quad R_A \cdot x - P(x-a) - Yh_2 - Y'h_2'$$

$$l \sim 2l-b \quad R_A \cdot x - P(x-a) + R_B(x-l) - Yh_2 - Y'h_2'$$

$$2-b \sim 2l-a' \quad R_A \cdot x - P(x-a) + R_B(x-l) + Zh_1$$

$$2l-a' \sim 2l \quad R_A \cdot x - P(x-a) + R_B(x-l) - P\{x-(2l-a)\} + Zh_1$$

$$W_1 = \frac{1}{2EI_1} \int_0^a (R_A x + Xh_1)^2 dx + \frac{X^2}{2EA} a$$

$$W_2 = \frac{1}{2EI_1} \int_a^b (R_A x - P(x-a) + Xh_1)^2 dx + \frac{X^2}{2EA_1} (b-a)$$

$$W_3 = \frac{1}{2EI_1} \int_b^{2l-b} \{R_A x - P(x-a) - Yh_2 - Y'h_2'\}^2 dx + \frac{Y^2}{2EA_2} (l-b) + \frac{Y^2}{2EA_2} (l-b)$$

$$W_4 = \frac{1}{2EI_2} \int_l^{2l-b} \{R_A x - P(x-a) + R_B(x-l) - Yh_2 - Y'h_2'\} dx + \frac{Y^2}{2EA_2} (l-b) + \frac{Y^2}{2EA_2} (l-b)$$

$$W_5 = \frac{1}{2EI_1} \int_{2l-b}^{2l-a'} \{R_A x - P(x-a) + R_B(x-l) + Zh_1\}^2 dx + \frac{Z^2}{2EA_1} (b-a)$$

$$W_6 = \frac{1}{2EI_1} \int_{2l-a'}^{2l} \{R_A x - P(x-a) + R_B(x-l) - P\{x-(2l-a)\} + Zh_1\}^2 dx + \frac{Z^2}{2EA_1} a$$

a=339 の場合

$$1561.339566R_A + 34.90658121x + 5.513402715 Y - 13.20493920Y' + 34.90658121Z = 362.3166350P$$

$$34.90658121R_A + 122.6270158 x = 2.474193060P$$

$$5.513402715R_A + 83.67459561 Y - 0.098489883Y' = 2.071333617P$$

$$13.20493980R_A + 0.098489883 Y - 42.12174992Y' = 4.960971870P$$

$$34.90658121R_A + 122.6270158Z = 2.474193060P$$

$$Z = -0.046352P, X = -0.046352P, Y' = -0.044485P, Y = 0.009358P, R_A = 0.233718P$$

然るに

$$R_A 2l - P(2l-a) + R_B l - P \cdot a = 0$$

$$\therefore R_B = \frac{1}{l} (P \cdot 2l - R_A \cdot 2l) = 2(P - R_A)$$

$$\begin{aligned} \frac{dW}{dR_A} &= R_A \left[\frac{1}{EI_1} \frac{2}{3} b^3 + \frac{1}{EI_2} \frac{2}{3} (l^3 - b^3) \right] \\ &\quad - P \left[\frac{1}{EI_1} \left\{ \frac{2}{3} (b^3 - a^3) - a(b^2 - a^2) \right\} \right. \\ &\quad \left. + \frac{1}{EI_2} \left\{ \frac{2}{3} (l^3 - b^3) - a(l^2 - b^2) \right\} \right] \\ &\quad + X \left[\frac{1}{EI_1} h_1 \frac{b^2}{2} \right] - Y \left[\frac{1}{EI_2} h_2 (l^2 - b^2) \right] \\ &\quad - Y' \left[\frac{1}{EI_1} h_2 (l^2 - b^2) \right] + Z \left[\frac{1}{EI_1} h_1 \frac{b^2}{2} \right] = 0 \end{aligned}$$

$$\frac{dW}{dX} R_A = \left[\frac{1}{EI_1} h_1 \frac{b^2}{2} \right] - P \left[\frac{1}{EI_1} h_1 \frac{(b-a)^2}{2} \right]$$

$$+ X \left[\frac{1}{EI_1} h_1^2 b \right] + \frac{X}{EA_1} b = -\frac{X}{EB} b$$

$$-\frac{dW}{dY} R_A = \left[\frac{1}{EI_2} h_2 (l^2 - b^2) \right]$$

$$- P \left[\frac{1}{EI_2} h_2 \{ (l-a)^2 - (b-a)^2 \} \right]$$

$$- Y \left[\frac{1}{EI_2} h_2^2 (2l-2b) \right] - Y' \left[\frac{1}{EA_2} h_2 h_2' \right]$$

$$(2l-2b) - \frac{Y}{EA_2} (2l-2b) = -\frac{Y}{EB_2} 2(l-b)$$

$$\frac{dW}{dZ} R_A = \left[\frac{1}{EI_1} h_1 \frac{b^2}{2} \right] - P \left[\frac{1}{EI_1} h_1 \frac{(h-a)^2}{2} \right]$$

$$+ Z \left[\frac{1}{EI_1} h_1^2 b \right] + \frac{Z}{EA_1} b = -\frac{Z}{EB_1} b$$

$$-\frac{dW}{dY'} R_A = \left[\frac{1}{EI_2} h_2' (l^2 - b^2) \right] - P \left[\frac{1}{EI_2} h_2' \right]$$

$$\{ (l-a)^2 - (b-a)^2 \} - Y \left[\frac{1}{EI_2} h_2 h_2' (2l-2b) \right]$$

$$- Y' \left[\frac{1}{EI_2} h_2' (2l-2b) \right] - \frac{Y'}{EA_2} (2l-2b)$$

$$= \frac{Y'}{EB_2'} 2(l-b)$$

Pが載荷された場合、次の連立方程式が成り立つ。

ここで、

$$I_1 = 80500.3$$

$$I_2 = 129.235$$

$$h_1 = 26.33$$

$$h_2 = 12.95 - 8.5 - 8.5 = -4.05$$

$$h_2' = 12.95 - 3.25 = 9.7$$

$$b = 462$$

$$l = 624$$

$$A_1 = 454.64$$

$$A_2 = 507.64$$

$$B_1 = B_2 = 54.985$$

$$B_2' = 15.71$$

$a=389$ の場合

$$\begin{aligned}
 1561.339566 R_A + 34.90658121 \times + 5.513402715 Y - 13.20493980 Y' + 34.90658121 Z &= 362.3166350 P \\
 34.90658121 R_A + 122.6270158 \times &= 2.474193060 P \\
 5.513402715 R_A &+ 83.17459561 Y - 0.098489883 Y' &= 2.071333617 P \\
 13.20493980 R_A &+ 0.098489883 Y - 42.12174992 Y' &= 4.960971870 P \\
 34.90658121 R_A &+ 122.6270158 Z &= 2.474193060 P \\
 Z &= -0.037773 P, X = -0.037773 P, Y' = -0.039462 P, Y = 0.008301 P, R_A = 0.157666 P,
 \end{aligned}$$

c) 曲げモーメントの計算

反力

$$R_A = 0.1956926 P$$

$$R_B = 1.6086148 P$$

$$X = -0.0420634 P$$

$$Y = 0.0088299 P$$

$$Y' = -0.0419743 P$$

$$Z = -0.0420634 P$$

曲げモーメント

$$0 \sim 339 \quad 0.1956926 P \cdot x - 0.0420634 P \times 26.33$$

$$339 \sim 389 \quad 0.1956926 P \cdot x - \frac{P}{2}(x-339)$$

$$-0.0420634 P \times 26.33$$

$$389 \sim 462 \quad 0.1956926 P \cdot x - \frac{P}{2}(x-339)$$

$$-\frac{P}{2}(x-389) - 0.0420634 P \times 26.33$$

$$462 \sim 624 \quad 0.1956926 P \cdot x - \frac{P}{2}(x-339)$$

$$-\frac{P}{2}(x-389) - 0.0088299 P \times 4.05 + 0.0419743 P \times 9.7$$

$$M_x = 0 = -1.107529 P$$

$$M_x = 339 = 66.339791 P - 1.107529 P$$

$$= 65.232262 R$$

$$M_x = 389 = 76.124421 P - 25 P - 1.107529 P$$

$$= 50.016892 P$$

$$M_x = 462 \cdot A \text{側} = 90.410120 P - 61.5 P - 36.5 P$$

$$- 1.107529 P = -8.697409 P$$

$$M_x = 462 \cdot B \text{側} = 90.410120 P - 61.5 P - 36.5 P$$

$$- 0.0357611 P + 0.4071507 P = -7.218490 P$$

$$M_x = 624 = 122.112432 P - 142.5 P - 117.5 P$$

$$- 0.0357611 P + 0.4071507 P = -137.516178 P$$

この値を用いて、各部の応力度を求めることが出来る。

〔3〕実 験

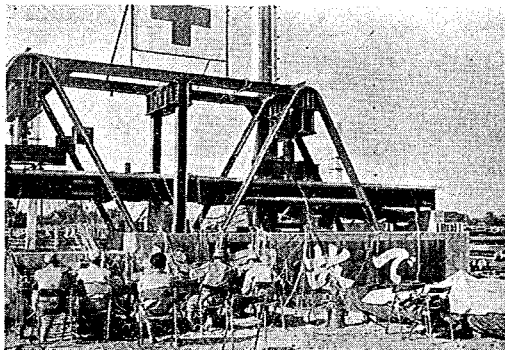
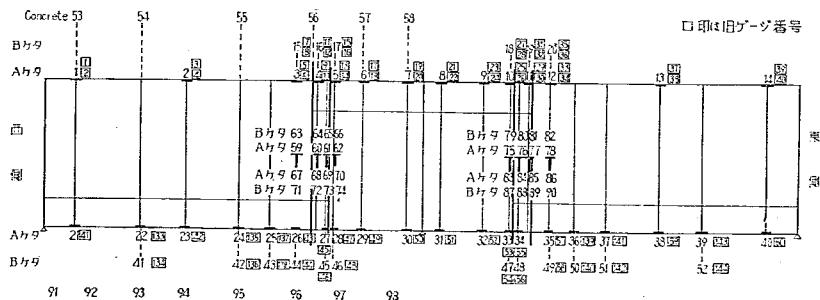


写真-1



注 載荷試験時の測定値の関係上 76, 80, 81, 82, 84, 88, 89, 90 番ゲージ表裏 計 16 枚を取外す。

尚 ラテラル 96 番はジャッキングの関係上取外す。

コンクリート床版のゲージは各々の断面に 3 枚接着しており、ゲージ番号を特に必要とする場合は、例に於て 55-1, 55-2, 55-3 のごとくする。Aケタ側よりケタ間中央に番号をつける。

なお測定用ダイヤルゲージ位置は各断面 各ケタ中央断面 計 4 点。

図-6 電気抵抗線ヒズミ計接着位置並びゲージ番号 (各点左右平均)

鋼ゲタを載荷試験機の台の上に据付けてから、ジャッキによってプレストレスを加え、この時の各部応力度および変形とタワミを電気抵抗線ヒズミ計とダイヤルゲージを用いて計測した。次に支点付近のコンクリートを打設し、7日間養生の後、床版中のシーズに鋼線を通して緊張し、プレストレスを導入した。この際に、鋼ゲタのプレストレス導入のときと同様な計測を行なった。次に残った部分の床版コンクリートを打設した。

7日間養生の後に、100 トンジャッキ2台を用いて、2点載荷をし、試験を実施した。その状況は 写真-1 のとおりである。

試験ゲタに設けられた計測点は 図-6 に示すとおりで

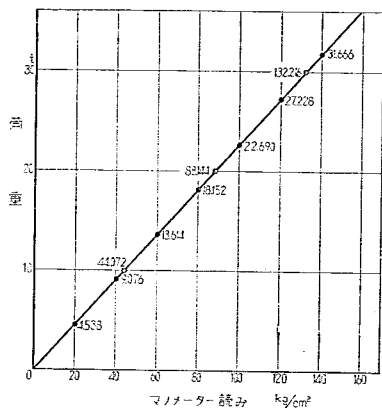


图-7

ある。また、載荷試験に用いたジャッキの検定曲線は図-7 に示すとおりである。

〔4〕 実験結果と考察

1) プレストレス導入時の測定結果について

プレストレス導入時の各測点のヒズミの測定値と理論値を図-8に示す。この結果から明らかなように、測定値と理論値は、大体において良く一致している。しかし中間支点付近では、鋼ゲタに導入されるプレストレス量が、支点による拘束のため減少すると考えられる。したがって、支点上で鋼ゲタにこのような型式で、十分のプレストレスを導入することは、かなり難しいと考えられる。今後の研究が必要と思われる。しかし、コンクリート床版に鋼線を埋込んで行うプレストレスは、ほぼ計算値どおりに導入されており、支間が短く、負モーメントの小さい場合には、このような方法によるプレストレスが有効であることが判る。また、支間において、ウェブにプレストレス材を定着することによって、定着部付近のウェブの局部応力に対する余裕が十分ならば全く危険のないことが判った。しかし、定着端からはほぼゲタ高の距離を隔れなければプレストレス力の分布が有効な影響を生じないことも、既に知られているとおりであることが確認された。したがって、プレストレス定着部の配置は、プレストレスの不要となる点から、ほぼゲタ高だけ、余長をとる必要がある。

タワミの計測結果は、図-9 に示す。理論値と良く一致していることが判る。

2) 載荷試験時の測定結果について

荷重を 20 トンから 80 トンまで増大させたときの、各

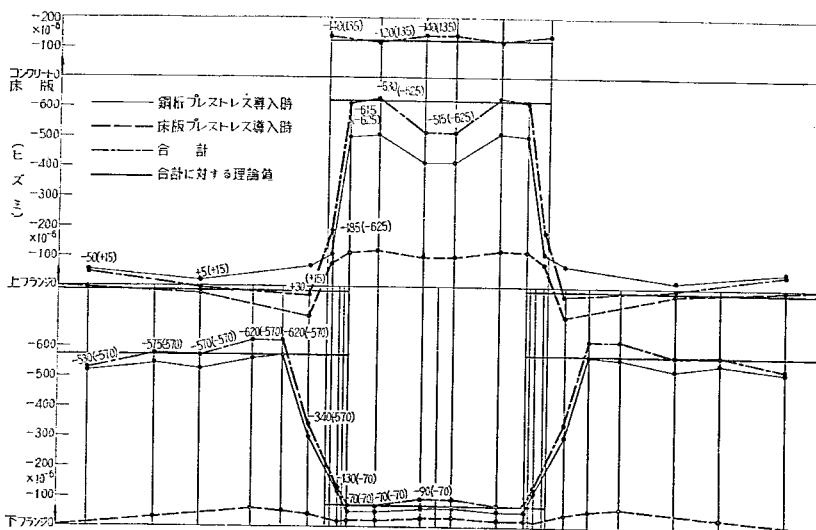


图-8

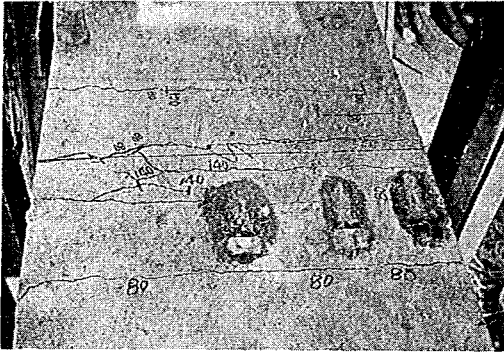


写真-2

莊線(107号)は、和賀川に建設される湯田ダムのたん水のため延長13kmにわたり水没することになる。このため、同工事事務所においては、昭和32年度から、その付替工事に着手し、昭和34年度中に予定の約60%を終了した。付替工事に含まれる橋梁は五橋あり、大石橋はその1つであって、幅員5.5m、支間14+36+14m、全橋長64.5mの鋼ゲタにプレストレスを与えた連続活荷重部分合成ゲタであり、橋格は一等橋である。大石橋を架設すべき大石沢は、北上川右支川和賀川に流入するもので、常時流量はわずかであるが、谷の形がV字形をして、計画路面と谷底の間の距離が30mもあり、計画路面の下15mにある旧道はここを鉄筋コンクリートアーチで渡っている。

最初、本橋は先の実験によって研究した型式の活荷重合成連続ゲタとして考えられたが、コンクリート床版の許容応力度の点などから不経済なことが明らかになったので、部分合成ゲタに変更されたものである。竣功後に載荷試験を実施し、本橋の静的動的特性を調査したが測定結果は後述のように理論とよく一致していた。

〔2〕設計

1) 概要

前述のような谷の形を考慮して、径間割を付図-1のように決定した。中央径間を大きくとって、橋脚を短くし側径間に生ずるおそれのある負反力に対しては、橋台部のゲタ端にコンクリート対壁梁を設けてカウンターウェイトとした。主ゲタの構造は、中央支間の大部分を活荷重合成ゲタとした部分合成ゲタであり中央支間の鋼ゲタには高張力鋼棒を用いてプレストレスを与えた。

合成ゲタの全径間にわたりプレストレスを導入する方法は、現在の許容応力度から考えて不経済であるので取り止めた。主ゲタの設計は、先に実施した模型実験の結果を考慮して行なった。

本橋の鋼重は主ゲタ、対傾構、横構、プレストレス用鋼棒、くつ、アンカーボルトを含めて、53.5t(152kg/m²)である。

2) 床版の設計

本橋は二主ゲタであって、床版は主ゲタの上で単純支持の状態にあると考えられる。現在の道路橋示方書に示してある片持版の曲げモーメントを与える式は片持版を一边固定の無限長の版として解いた近似式であり、もちろん安全側であるが、片持支間がそうとう大になると実情に沿わないことになる。図-11に示す本橋の床版について考えると、主ゲタの上で床版が固定されているとすると、単一集中荷重 $P=1$ による固定曲げモーメントは、版の曲げモーメント表を参照して、図の実線および表-4の値となる。ここで片持長が2m以下であれば、トラック前輪による影響は後輪の近辺では非常

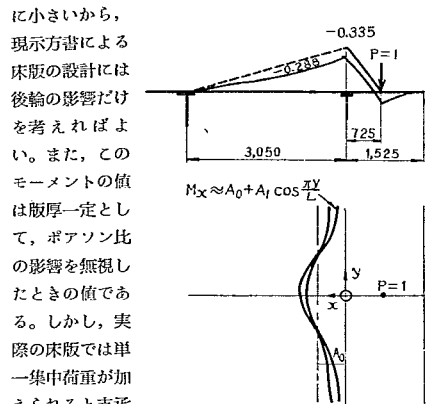


図-11

に小さいから、現示方書による床版の設計には後輪の影響だけを考慮すべき。また、このモーメントの値は版厚一定として、ポアソン比の影響を無視したときの値である。しかし、実際の床版では単一集中荷重が加えられと支承線に沿って床版

表-4 片持版固定曲げモーメント影響係数

載荷点からの距離	0	15	30	46	61	76	92
固定曲げモーメント	0.355	0.344	0.332	0.258	0.212	0.178	0.146

上に求めた支承線上に分布する版の固定モーメント M_{xE} をフーリエ級数に展開し、その各項について分配を考える。図-11の場合については、

$$M_{xE} = -0.2115 - 0.1342 \cos \pi \frac{Y}{L} \dots \dots \dots (1)$$

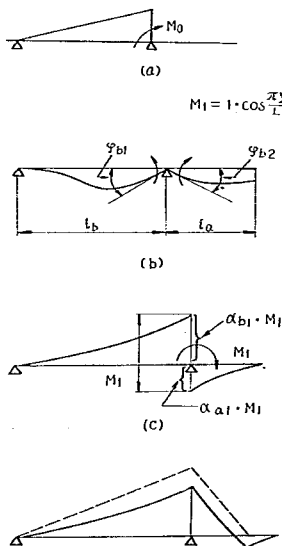
をうる。ここで Y は図-11の原点からの距離、 $L=1.37m$ である。この(1)式は当然 $Y=0$ で最大値となる。すなわち、

$$M_{xE} = -0.3457$$

表-1の値と比べて1%の誤差があるだけである。こ

こで、より高次の項を考慮しても大して精度は上らないし、通常3%の差までは許されると考えられる。

版の支承線上における固定モーメントは、フーリエ級数に展開して(1)のように与えられたが、一般には次のように示すことができる(図-12)。



(d) = (a) + (c)

図 - 12

$$M_{xE} = M_{x0} + \sum M_{xn} \dots \dots \dots (2)$$

ここで

$$M_{x0} = A_0, \quad M_{xn} = A_n \cos n\pi Y/L$$

である。

1. $\cos n\pi Y/L$ は図-3(b)において、版

帯の縁にかかって、そのタワミ角に比例して分配されることになるから、片持版帯(a)は $M_{xa} \cdot n = a n n \cdot M_{xn}$ 、を受けもち、両辺支持の版帯(b)は $M_{xb} \cdot n = a b n \cdot M_{xn}$ 、を受け持つことになる。

ここで、

$$\alpha_{an} = \frac{\varphi_{an}}{\varphi_{an} + \varphi_{bn}} \cdot \alpha_{1n} = \frac{\varphi_{an}}{\varphi_{an} + \varphi_{bn}} \dots \dots \dots (3)$$

が求める分配係数である。 φ はタワミ角を示す値である。図-11 の場合について計算すると、

$$\varphi_a \cdot 1 = 0.51$$

$$\varphi_b \cdot 1 = 0.5$$

$$(3) \text{式から } \alpha_3 \cdot 1 = 0.5, \quad \alpha_{a1} = 0.5$$

ゆえに、片持部の最大曲げモーメントは

$$\begin{aligned} -ma \times M_{xa} &= M_{xE} - \alpha_{a1} M_{x, a1} \\ &= 0.355 - 0.5 \times 0.1342 = 0.288 \end{aligned}$$

鋼道路橋示方書18条の 表-7 によると

$$-M_{xa}' = \frac{L}{2L+0.4} = \frac{0.752}{2 \times 0.752 + 0.4} = 0.395$$

$$\text{比} = \frac{0.395}{0.288} = 1.37$$

となって、示方書の表を用いた場合よりもかなり、経済的な設計ができることになる7)。

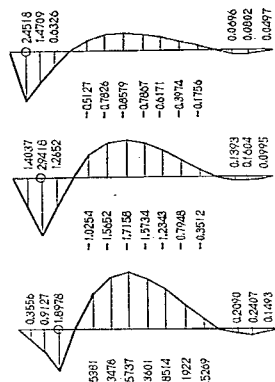


図 - 13

表-5 曲げモーメント表 (kg-m)

断面	鋼 重	床 版	小 計	鋼 重	分 布	集 中	小 計
				高 度	活 荷 重	活 荷 重	
1	-1.278	-2.560	-3.839	+	503	20.068	64.021
				+		17.822	28.945
2	-4.762	-21.266	-26.029	-	5.928	24.640	68.973
				-		35.643	64.822
3	-10.451	-56.118	-66.570	+		13.738	24.869
				+		53.465	107.625
4	-18.345	-107.115	-125.461	+		3.259	30.988
				+		87.251	173.355
5	-4.360	-26.830	-31.191	+		19.113	58.808
				+	893	21.687	44.035
6	-9.159	50.652	59.811	+		64.393	163.764
				+		10.656	1.416
7	16.143	90.668	106.812	+		100.546	240.049
				+	43.052	10.656	19.716
8	18.472	104.014	122.486	+		112.590	265.882
				+	48.783	10.656	29.389

3) 主ゲタの設計

主ゲタは三径間連続ゲタであり、中央支間にプレストレス鋼棒を有しているから、三次不静定構造である。

プレストレスの導入点は、中間支点の内側とし、死荷重によって正曲げモーメントを受ける領域からはばゲタ高だけ離れた位置とした。合成断面の始点はもっとも危険な死荷重と活荷重によって正曲げモーメントを受ける領域の内側にはば、ゲタ高だけ入った位置とした。

鋼ゲタの曲げモーメントの影響線図の一例、曲げモーメント表、をそれぞれ図-13、表-5に示す。

断面応力度の計算のための数値については、道路協会制定の指針に従って決定した。すなわち、鋼の弾性係数 $E_s = 2.1 \times 10^5 \text{ kg/cm}^2$ 、コンクリートの弾性係数との比 $n=7$ 、最終クリープ係数 $\varphi_{\infty} = 3.0$ 、最小収縮量 $\epsilon_s = 15 \times 10^{-3}$ とした。鋼ゲタの一部には高張力鋼 SM-50B を用いたが、その曲げ許容応力度は引張り側 $\sigma_t = 1800 \text{ kg/cm}^2$ 、

表-6 タ ワ ミ (cm)

断面	鋼 重 η_s	プレスト レス η_0	床 版 η_0	舗装高欄 η_p	等分布 荷 重 η_l	集中荷重 η_l'	合 計 η
1	-0.037	0.194	-0.184	-0.054	-0.255	-0.162	-0.500
2	-0.060	0.275	-0.311	-0.097	-0.364	-0.229	-0.787
3	-0.053	0.220	-0.293	-0.094	-0.301	-0.133	-0.705
4	0	0	0	0	0	0	0
5	0.211	-0.642	1.178	0.233	0.642	0.725	2.349
6	0.409	-1.140	2.285	0.442	1.122	1.227	4.340
7	0.528	-1.430	3.010	0.582	1.448	1.526	5.661
8	0.597	-1.565	3.263	0.630	1.658	1.630	6.215

圧縮側 $\sigma = 1700 \text{ kg/cm}^2$ とした。主ゲタプレストレスに用いた鋼棒は抗張力 80 kg/mm^2 以上とし、使用応力度を 45 kg/mm^2 と定め、プレストレス量は試算によって最適値に定めた。

また、各荷重状態におけるタワミの計算値は表-6に示すとおりである。すなわち、鋼道路橋示方書の規定による剛比を求めると $I : 1120$ になり、規定値に対して十分に剛であることが判る。

〔3〕設 計 図

主ゲタ断面の諸元は表-7のとおりであり、その設計図は巻末に付図として示した。

5. 大石橋の架設と各種測定の概要

〔1〕架 設

本橋の製作架設は東北地方建設局において競争入札の

表 - 7

断 面	鋼ゲタ (mm)	床 版	断 面 積 (cm^2)		断面二次モーメント (cm^4)		区 間 長 (mm)
			鋼ゲタ $n=7$	合 成 ゲタ $n=7$	鋼ゲタ $n=7$	合 成 ゲタ $n=7$	
1	200×10 1800×9 200×14		210		829.013		4.750
2	200×20 1800×9 300×20		262		1252.858		4.900
3	260×20 1800×9 800×20		270		1480.921		650
4	(S M50) 260×20 1800×14 380×20		380		1728.411		2.000
5	260×20 1800×14 380×20		380		1728.411		4.480
6	260×20 1800×9 380×20		290		1480.921		3.030
7	260×20 1800×9 260×22	6435×80	271.2	1006.6	1342.005	3664.332	2.140
8	340×22 1800×9 260×22	6435×80	294	1029.4	1525.806	3654.399	5.400
9	400×22 1800×9 460×22	6435×80	351.2	1086.6	1984.230	4848.857	4.650

結果、川田工業株式会社が受注した。同社の野崎工場において製作仮組検査の後現場に運搬し架設した。

鋼ゲタの架設に当っては、まずケーブルによって側径間を吊り出して架設し、次に中央径間部分をケーブルで支持した状態で鉋築した。鋼ゲタの架設が終了してからプレストレスを導入した。プレストレス導入にはシンプレックス型ジャッキを用いて約半日で作業を終了した。

次に、コンクリート床版を打設した。その配合設計は次のとおりである。

コンクリートの設計強度は、 $\sigma_{28} = 350 \text{ kg/cm}^2$ であって、粗骨材最大寸法 25 mm、スランプ 5 cm 以下、水セメント比 45%、ポゾリス No.5 0.5%の組成を有するものである。

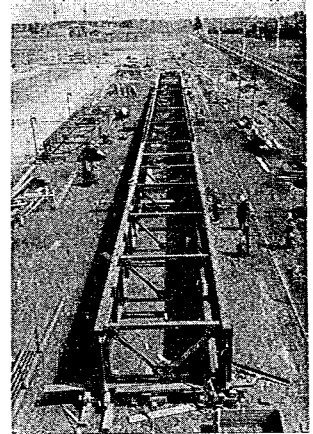


写真 - 3 工場仮組立の状況

コンクリート打設に際しては、死荷重曲げモーメントによってコンクリート床版に生ずるヒビワレを防ぐため、図-14に示すようなコンクリート打設順序を定め、また、橋脚上には図-15に示す目地を、中央支間において曲げモーメントが負に変化する位置に盲目地を挿入した。その結果、動的および静的載荷試験によっても、コンクリート床版に全くヒビワレは生じなかった。

〔2〕載荷試験

1) 概 要

本橋の架設中のプレストレス導入応力の測定、および竣工後の動的および静的

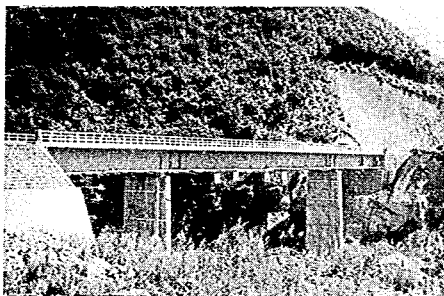


写真-4 架設工事終了時の状況

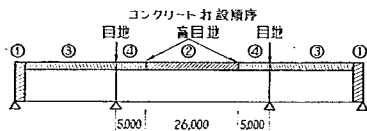
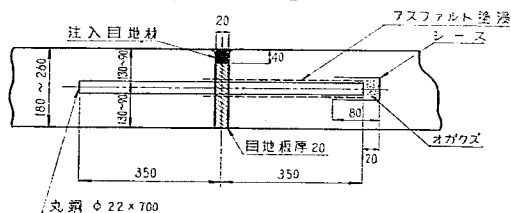


図-14

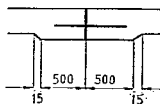
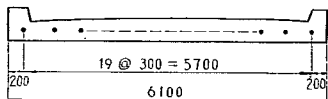
載荷試験は経費の都合で東北大学土木教室にその実施を依頼した。従って、載荷試験の結果については別途に発表される予定であるから、ここでは、大石橋の設計の妥当性を立証するための資料のみについて述べる。

測定は、鋼ゲタ架設のときのプレストレス導入による各部の応力度、および架設竣工後における載荷試験における応力度について、2回に分けて行なわれた。

[目地詳細図]



[スリッパ配置図]



[目地詳細図]

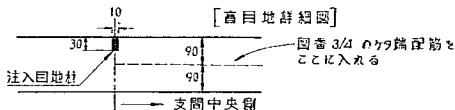


図-15

最初のプレストレスを加えたときのゲタ応力の実測は、上流側ゲタの6断面および3鋼棒について行なわれ、完成後の載荷試験は、4トン積トラックにセメントを積んで全重量8.89トンとして載荷し、7断面について床版および鋼ゲタ応力を測定した静的実験と、この車を走行速度10~40km/hで走らせた時の動的効果を側径間中央、橋脚上、中央径間中央の下フランジ応力によって測定した動的試験とに分けられる。

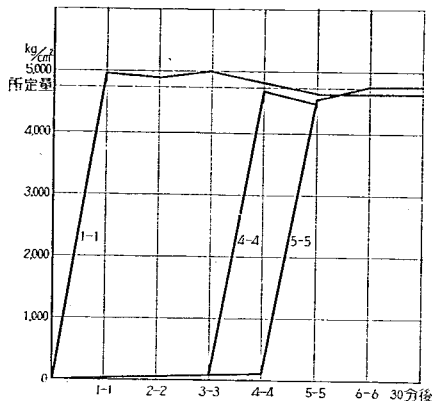


図-17

2) プレストレス導入時の応力測定結果

電気抵抗線ヒズミ計とダイヤルゲージを用いて測定した。測定点は図-16に示すとおりである。

鋼棒に導入された応力は、断面の対称位置に貼られたゲージの平均値によって計算すると図-17のようになる。大体、予定通りに導入されていることが判る。また、このときに鋼ゲタに導入されたプレストレスおよび、これによる鋼ゲタ曲げモーメント、軸力を図-18~20に示す計算値(設計値)と良く一致していることが判る。

鋼棒定着部付近に貼付けられた直角ロゼットゲージおよび水平補剛材の一軸ゲージから、定着部付近の局部応力を求めた。その結果を図-21~24に示す。これから明らかなように、定着部付近に大きな応力の乱れは見られないが、鋼棒定着板とウェブの結合部付近には、応力の集中が存在することが判る。また、プレストレス力は、水平補剛材の全長を通して主ゲタウェブに一樣に導入されるのではなく、この支承板付近から直ちにウェブ

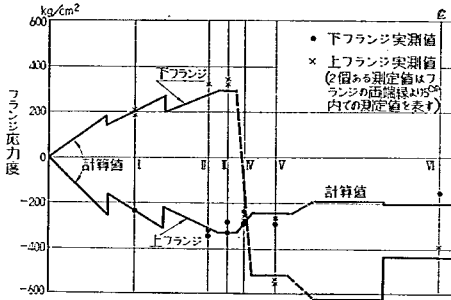


図-18

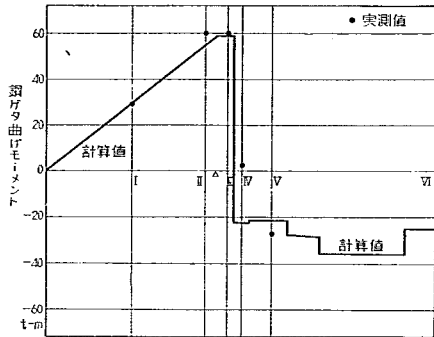


図-19

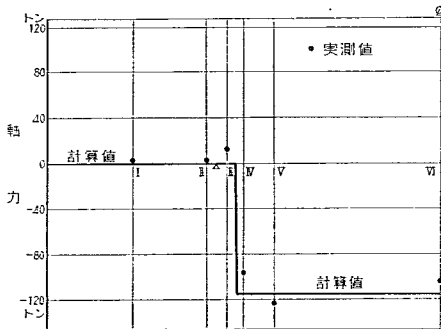


図-20

に導入されるらしいことが判る。

3) 載荷試験の結果

トラックの全重量は 1) に述べたように 8.89 トンであって、前輪に 2.89 トン、後輪に 6.50 トンの割合に分配される。

載荷点は側径間の中央、中央径間の 1/4, 1/2, 3/4 点、両端支点、中間支点、合成非合成区間の境界線上の合計 12 点である。測定断面を 図-25 に示す。

試験は橋の中央と計測ゲタ側に出来るだけよせて偏載させた場合とに分けて行なった。一般に測定値が小さいので、誤差が大きいような結果となった。その実測値を図-26~29 に示す。一般に計算値と良く一致していることが判る。

設計計算によって得られた値(計算値)が、実測値よりも小さく出ているのは、この程度の荷重では、非合成区間にあるコンクリート床版も合成されているように働くためと思われる。したがって全断面がゲタ全長に亘って有効に働くとして仮定した計算値(×印)の方が良く実測値と合う場合が多い。

床版コンクリートの弾性係数は、実測によれば断面Ⅵにおいて $n=6.0$ 、断面Ⅶにおいて $n=6.3$ となった。これを用いると、実際の断面係数がそれぞれ 1.20, 1.14 倍であったことになる。

また、中間支点上におけるウェブのヒズミは図-30 のとおりであり、目地によって床版コンクリートと鋼ゲタが完全に分離絶縁されていることが判る。

4) 動的載荷試験の結果

測定はオシログラフを用い、橋軸方向、これに直角方向、および上下方向の 3 方向の加速度について行なった。荷重車の速度は、記録より逆算した。

橋の各部の載荷位置における静的応力度 (σ_{st}) と動的応力度の最大値 (σ_{max}) の比の測定結果を図-31 に示す。これから、走行速度 20km/h, 40 km/h 付近が最大となることが判る。また、実測によれば、本橋の固有振動数は 0.270 秒であり、対称一次振動であるが、減衰率は測定値が小さいので求められなかった。PC 鋼棒も荷重によって僅かに振動するが、その周期は 0.18~0.28 秒であった。垂直方向の最大加速度と車の走行速度との関係は 図-32 に示すとおりであって、20 km/h 付近に最大値があらわれることが判る。

6. 結 語

プレストレスト合成ゲタの研究とその設計の第 3 報としてプレストレスト部分合成連続ゲタ橋について、理論的に検討し、模型実験によって設計法を研究した。その結果を用いて、実橋の大石橋を設計することが出来た。

著者は、経済的な合成ゲタ橋の設計には、プレストレス工法の採用が必要条件と考えている。これまで、既に鋼線、鋼棒を用いるプレストレス工法を完成することが出来たので、今後は鋼ケーブルを用いてプレストレスを加えた合成ゲタ橋の研究を行ない、実橋に応用したい

主 應 力 圖

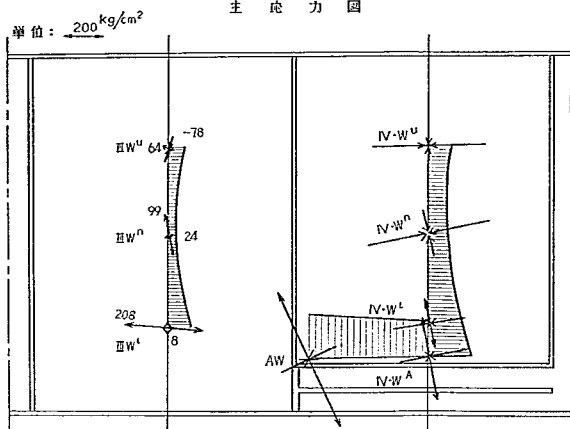


圖-21

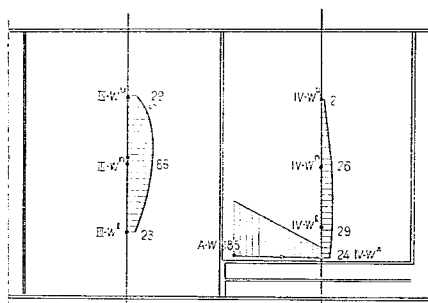


圖-22 最大剪斷應力圖

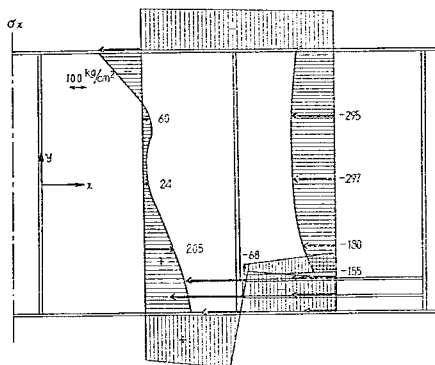


圖-23 定着部應力分布圖 (1)

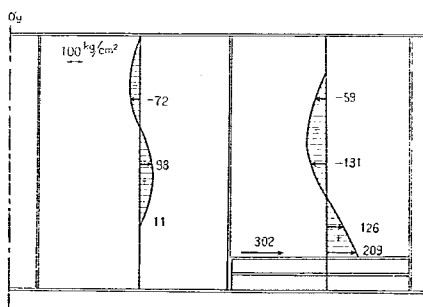


圖-24 定着部應力分布圖 (2)

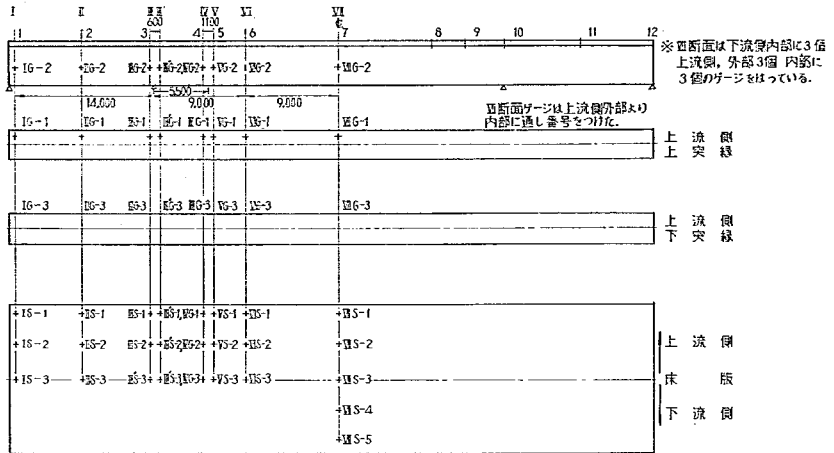


図-25 測定点，測定点記号

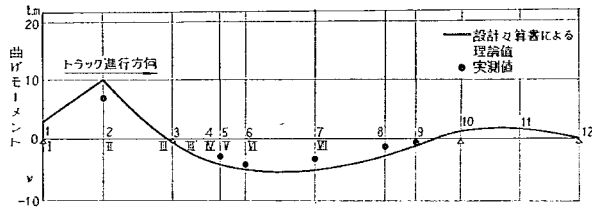


図-26 断面IIの曲げモーメント影響線図 (トラック荷重)

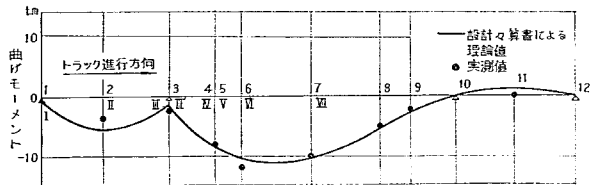


図-27 断面IIIの曲げモーメント影響線図 (トラック荷重)

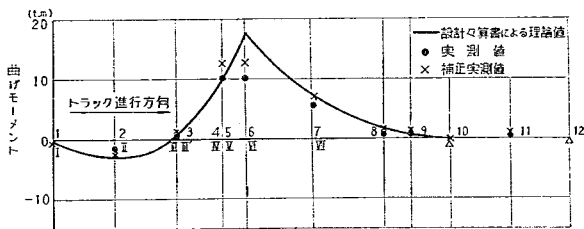


図-28 断面VIの曲げモーメント影響線図 (トラック荷重)

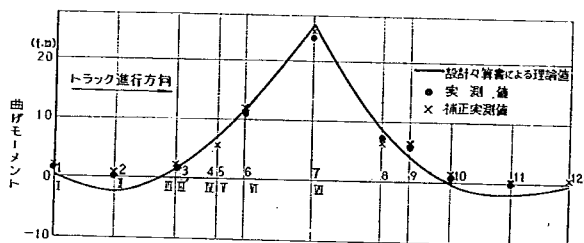


図-29 断面Ⅶの曲げモーメント影響線図(トラック荷重)

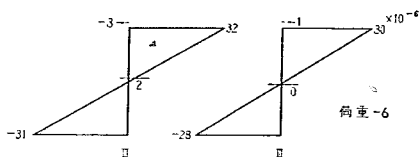


図-30

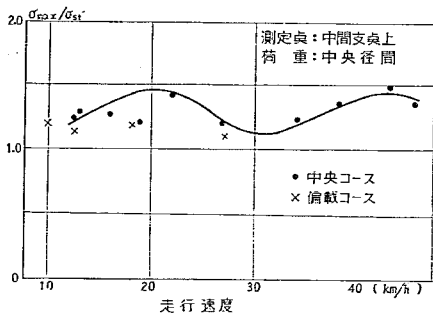


図-31

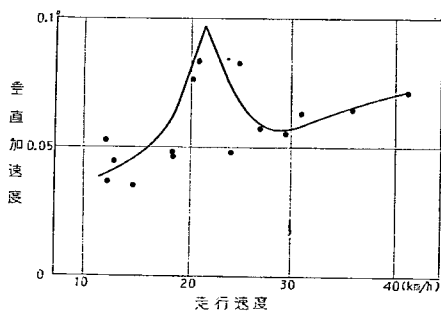


図-32

と考えている。

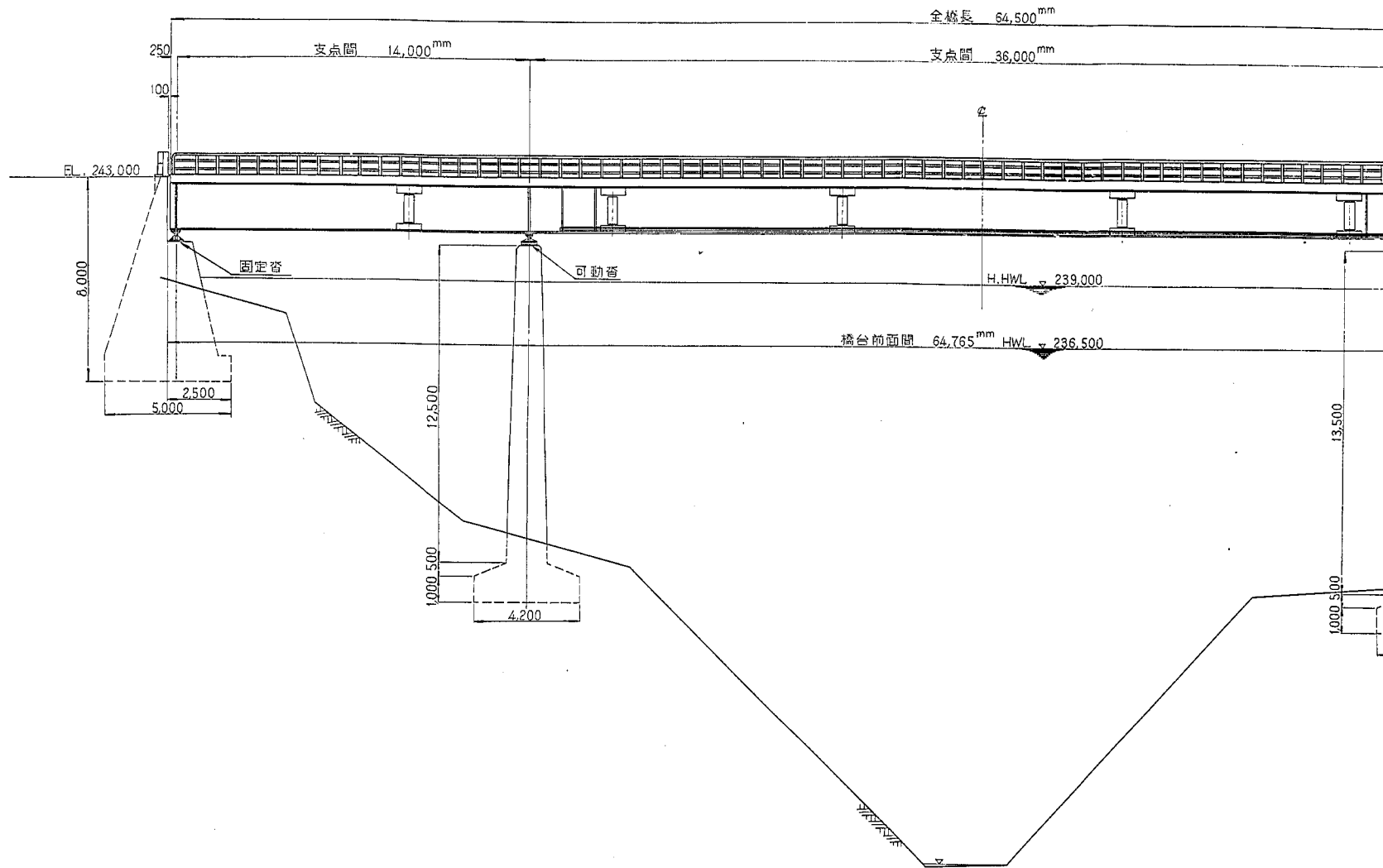
終りに、この研究の最初から御指導をいただいた田原保二氏に感謝し、また実橋の実現のために御協力をいただいた東北地方建設局の各位、特に現場において御援助を戴いた井沢調査設計課長に厚く御礼申し上げる次第である。

文 献

- 1) プレストレスト合成ゲタの研究とその設計
 - (1) 模型実験に関する報告。土木研究所報告103号
 - 2) プレストレスト合成ゲタの研究とその設計
 - (2) 新尾形橋の設計に関する報告。土木研究所報告109号
- 3) H. Homberg: Brücke mit elastischem Verbund zwischen den stahl-hauptträgern und der Beton-fahrbahntafel. Bauingenieur Bd. 27 (1952) S. 186.
- 4) F. Dischinger: Untersuchungen über die Knicksicherheit, die elastische Verformung und das Kriechen des Betons bei Bogenbrücken. Bauingenieur Bd. 18 (1937)
- 5) K. Sattler: Theorie der Verbundkonstruktionen 1954.
- 6) B. Fritz: Vereinfachtes Berechnungsverfahren für Stählträger mit einer Betondruckplatte bei Berücksichtigung der Kriechens und Schwindes. Bautechnik Bd 27 (1950)
- 7) G. Dehnkamp u. H. Krosse: Biegemomente in auskragenden Fahrbahnplatten. Bauing. 1957, H-2

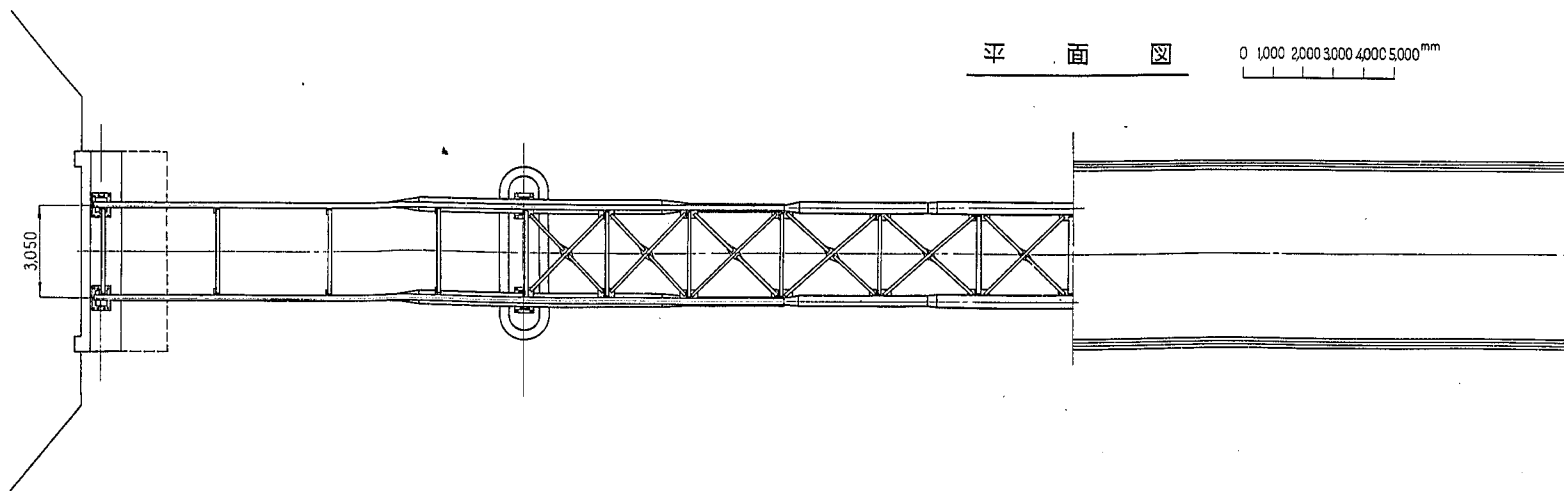
側 面 図

0 1000 2000 3000 4000 5000 mm



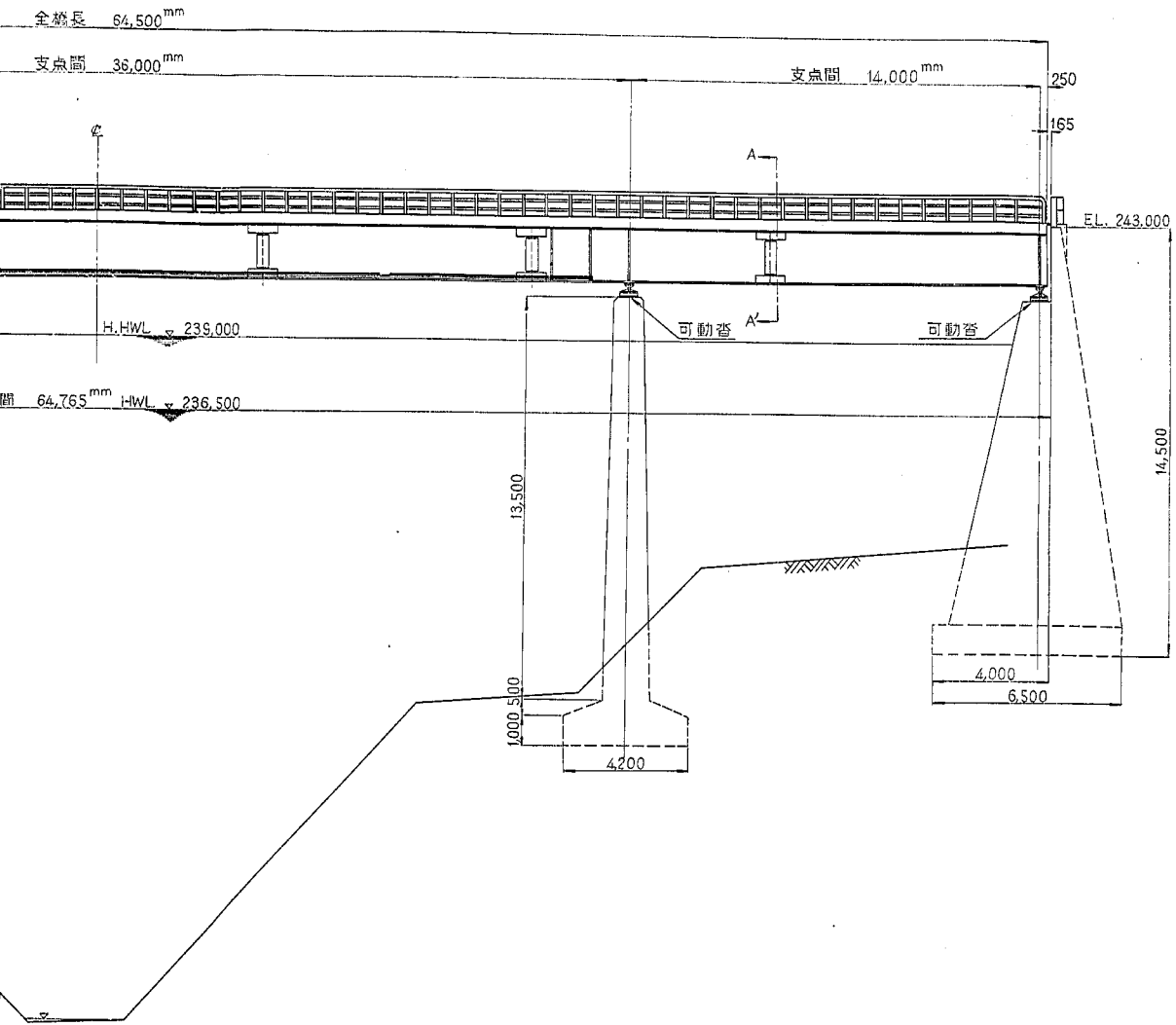
平 面 図

0 1000 2000 3000 4000 5000 mm

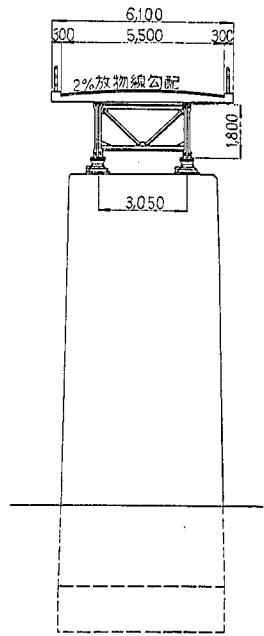


側面図

0 1000 2000 3000 4000 5000 mm

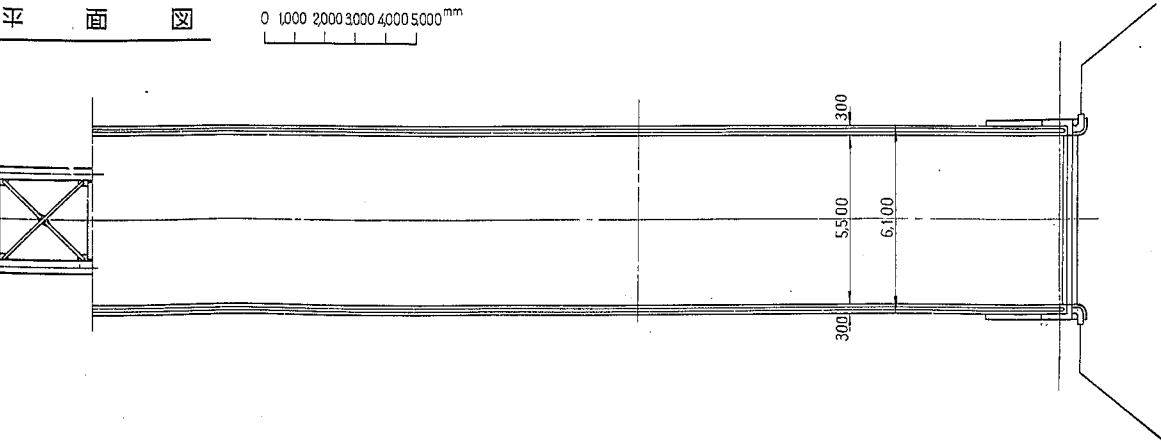


A~A'断面

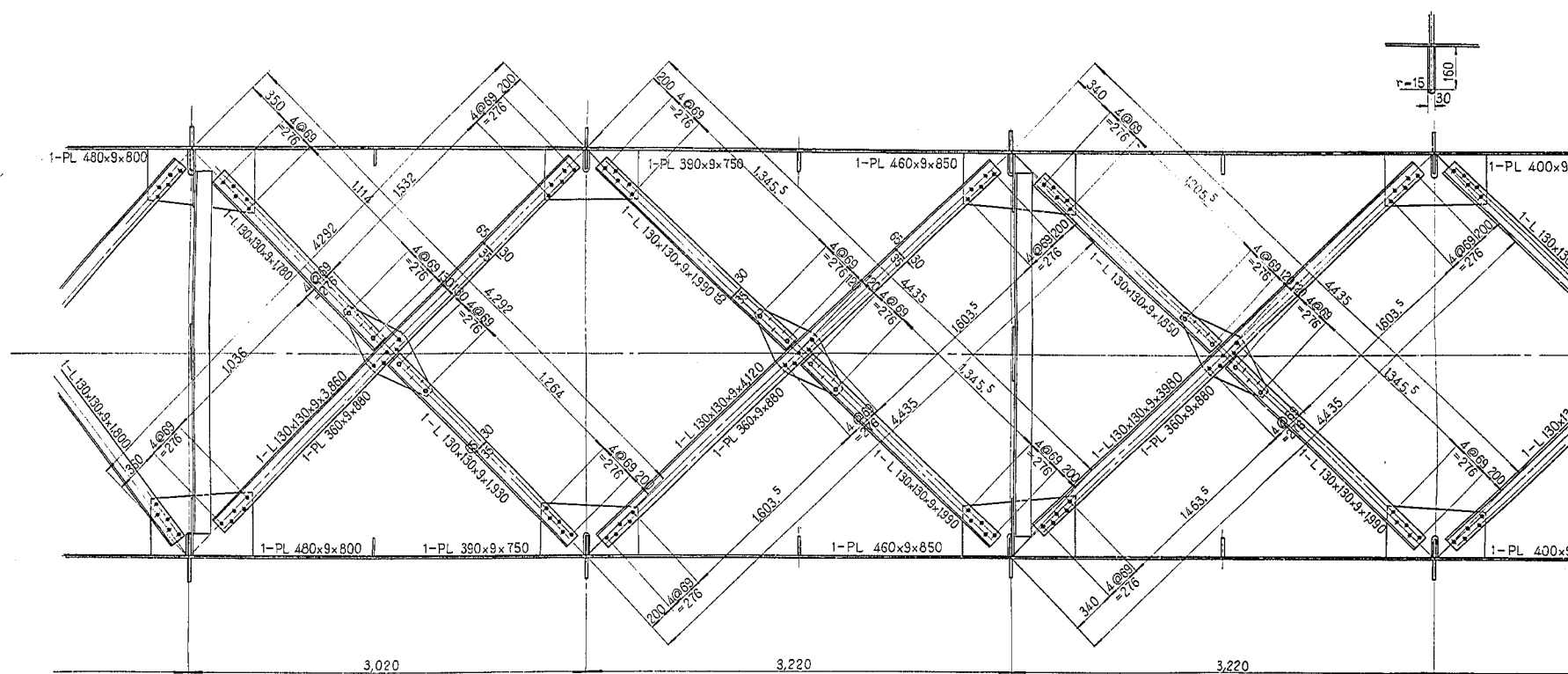
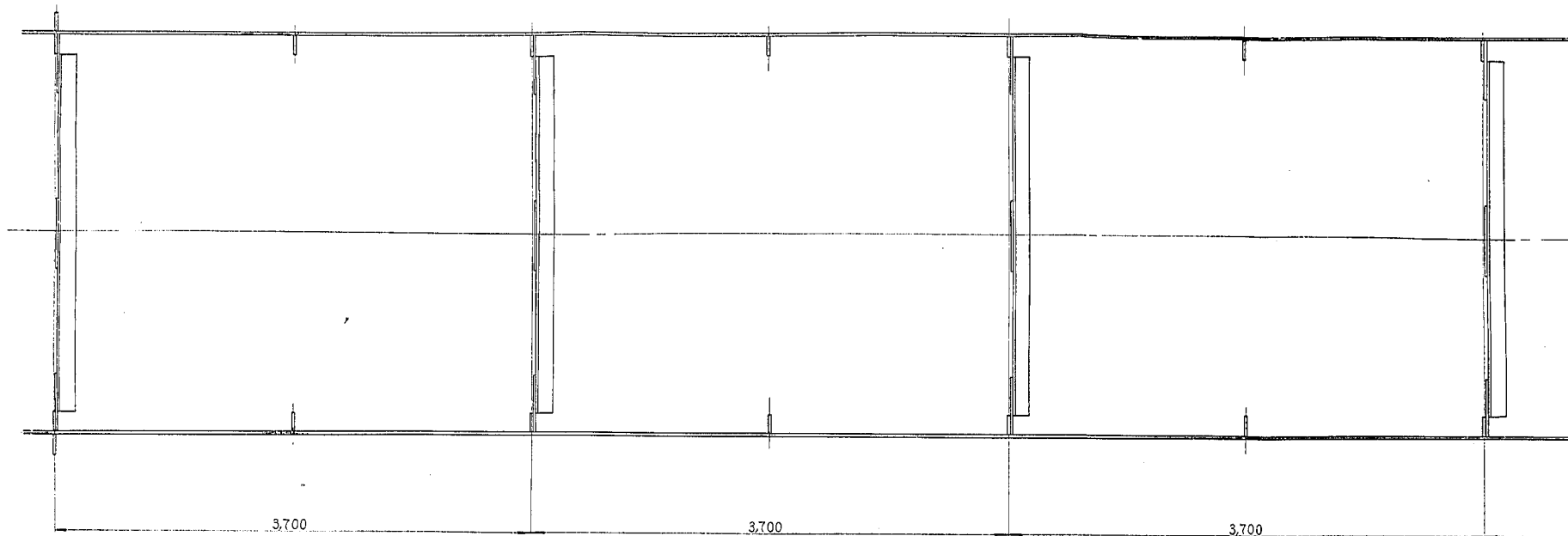


平面図

0 1000 2000 3000 4000 5000 mm



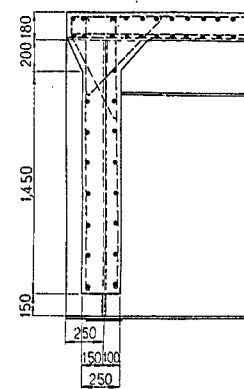
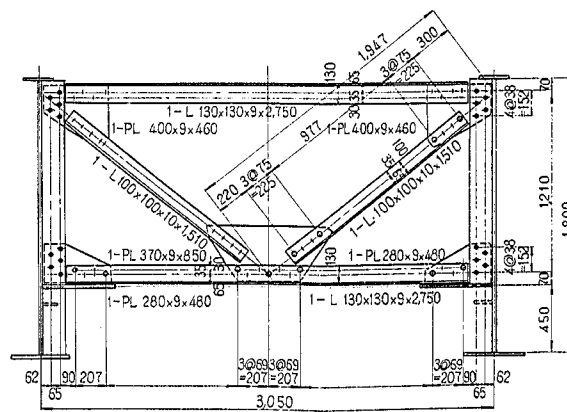
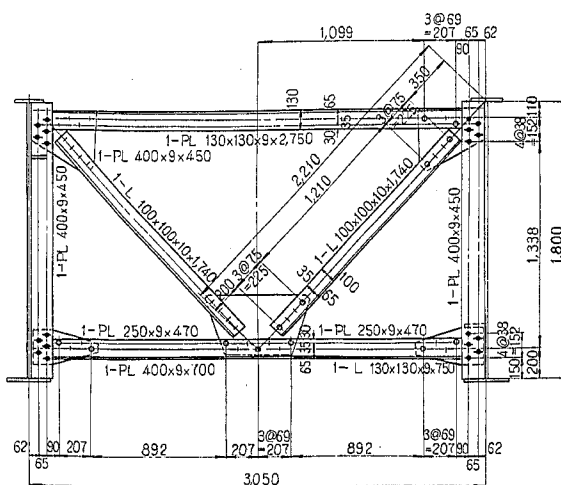
大石橋			
図名	一般図		
備考	附図	図番	1/4
建設省土木研究所			



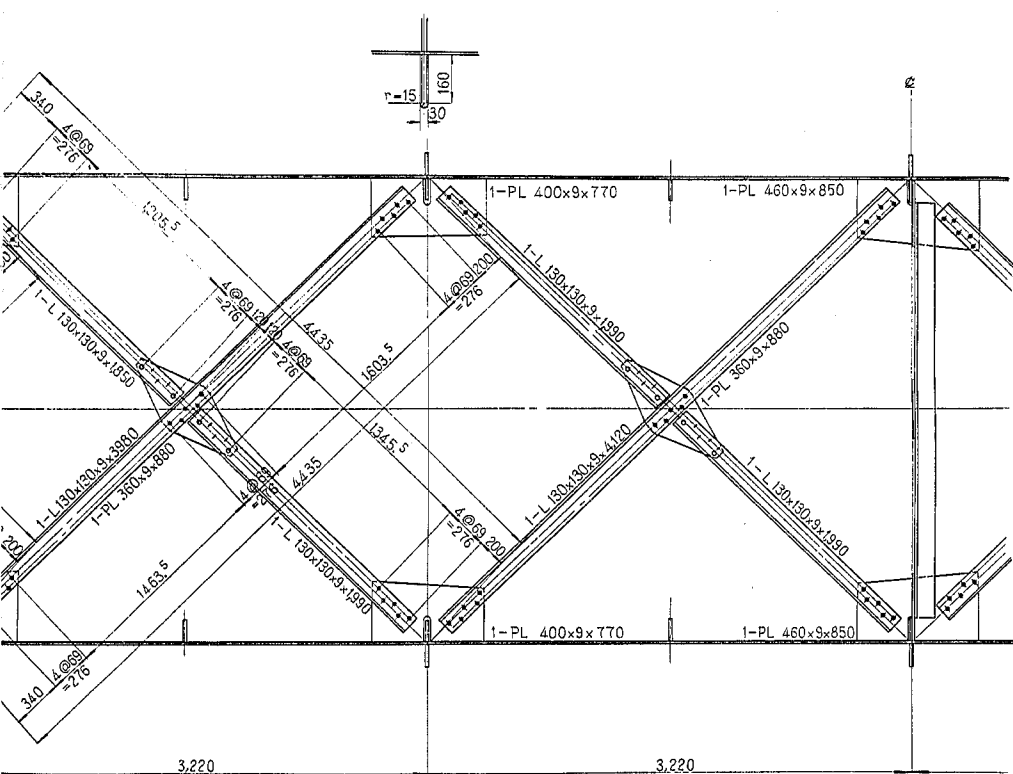
側径間対傾構

中央径間対傾構

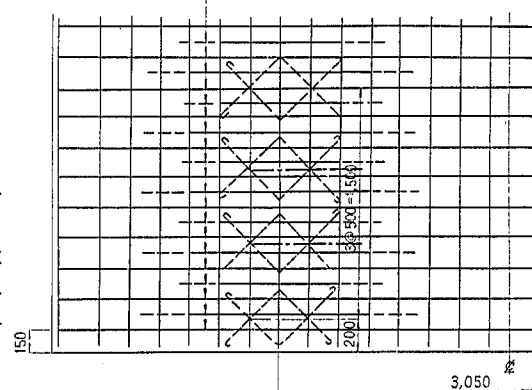
橋脚



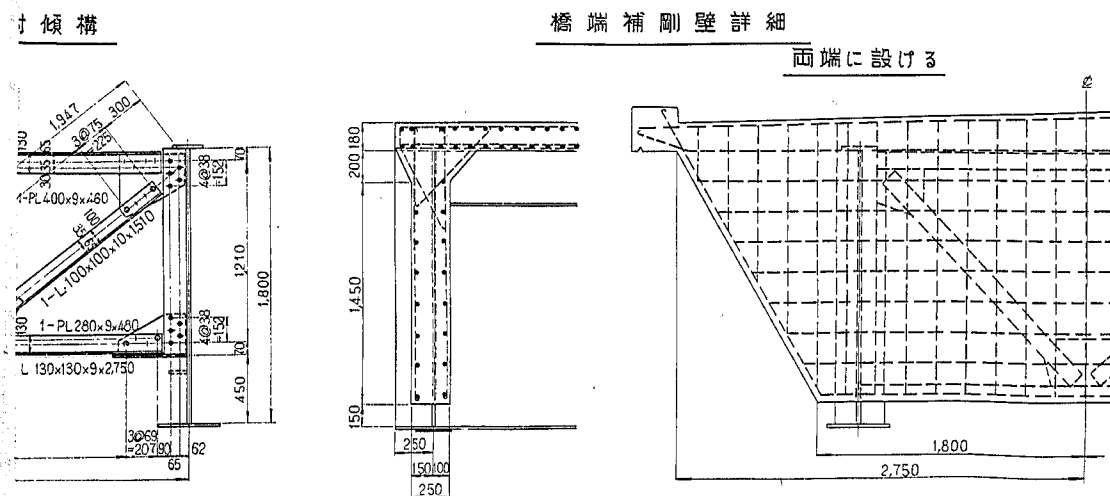
鉄



etc 100



両端に設ける

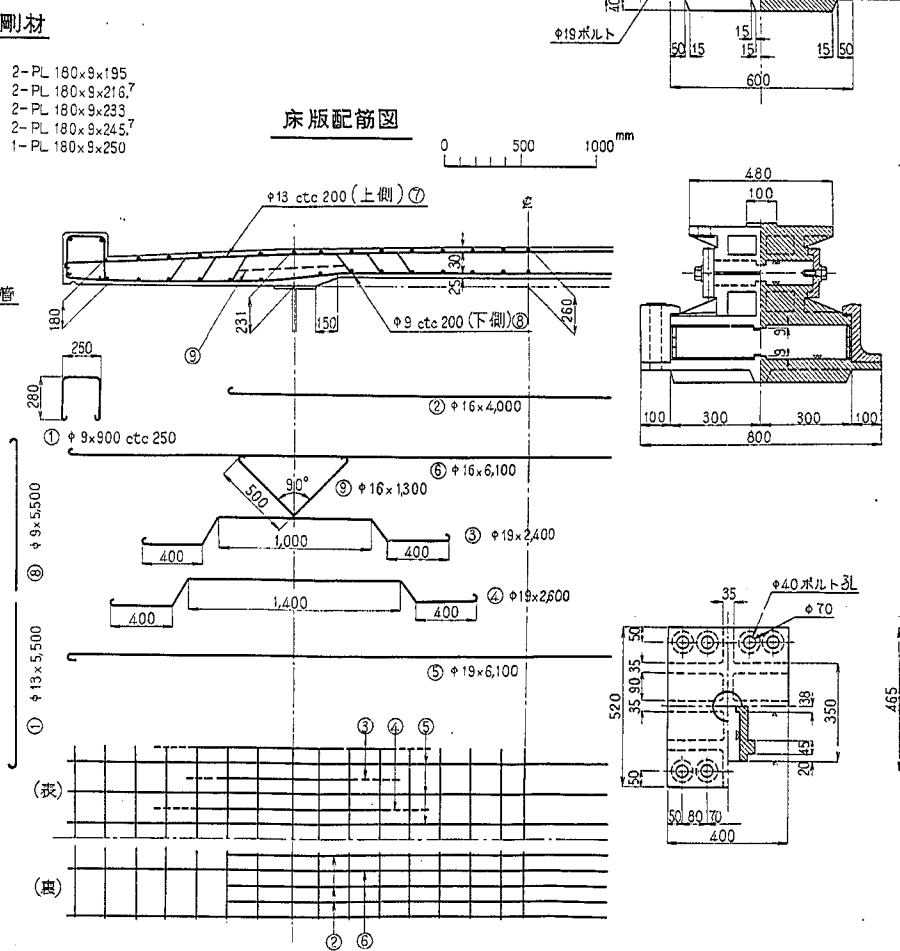
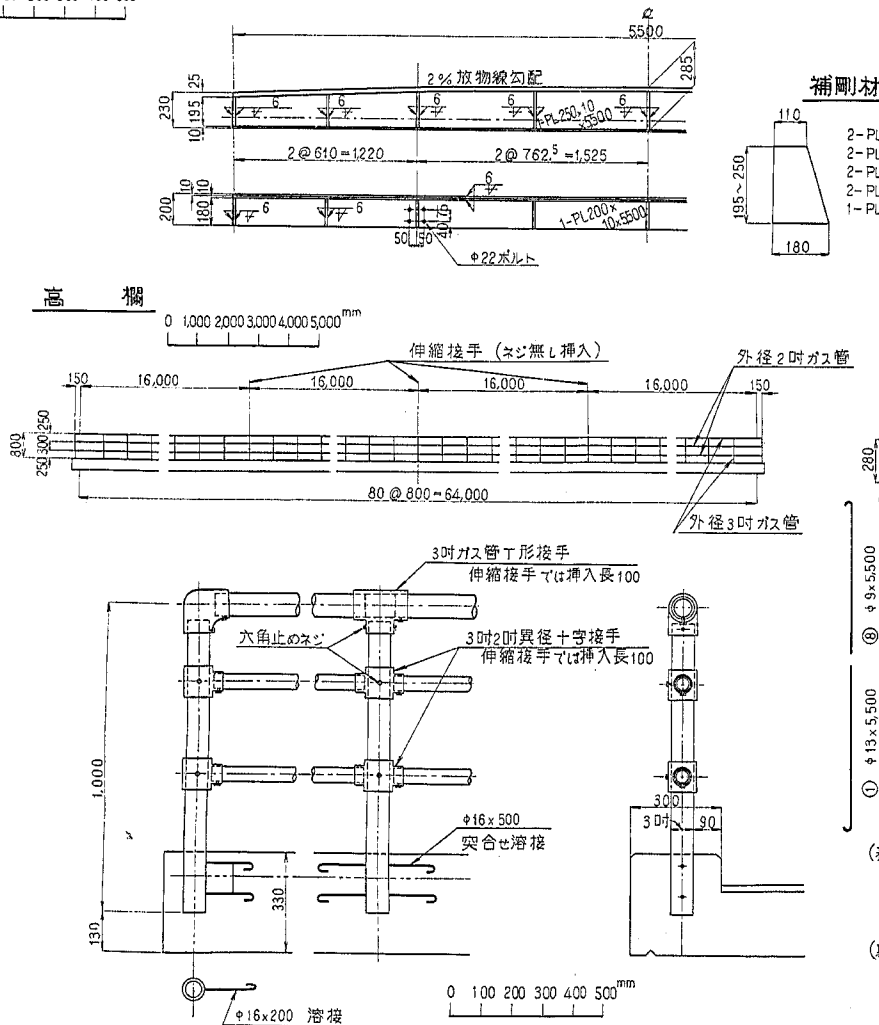
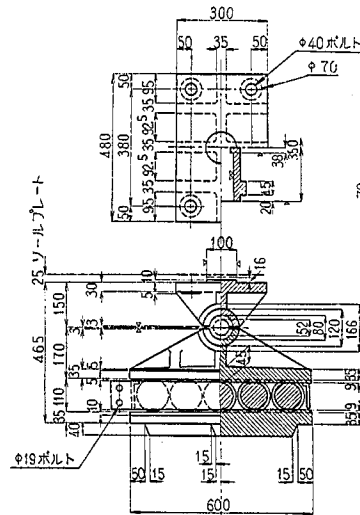
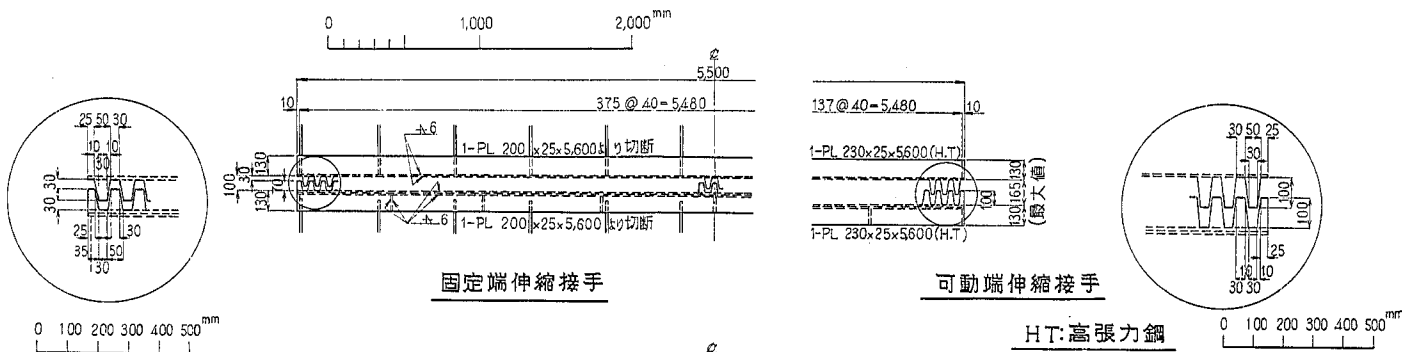
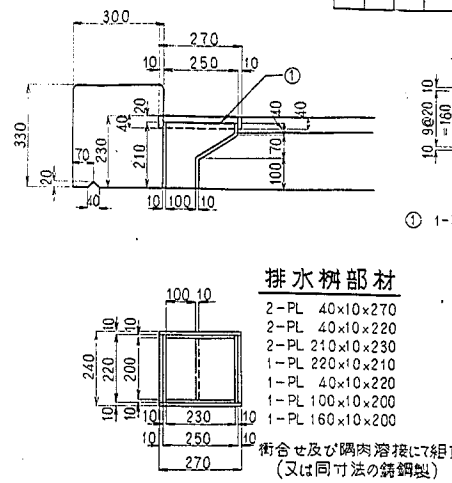
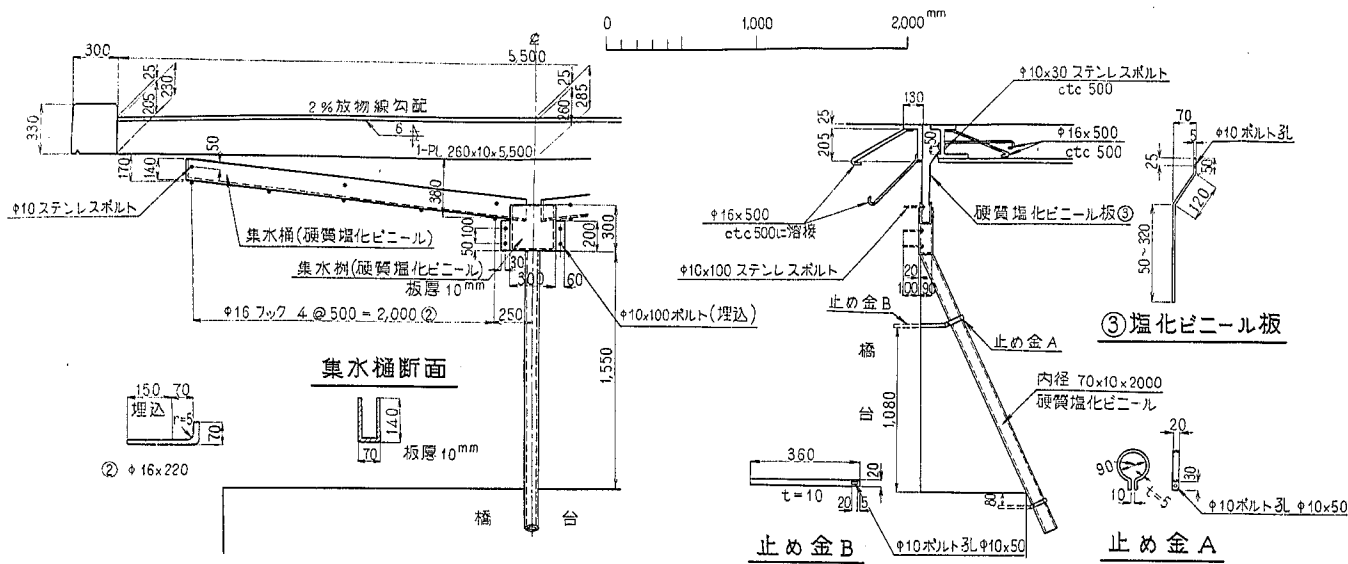


鉄径はφ22

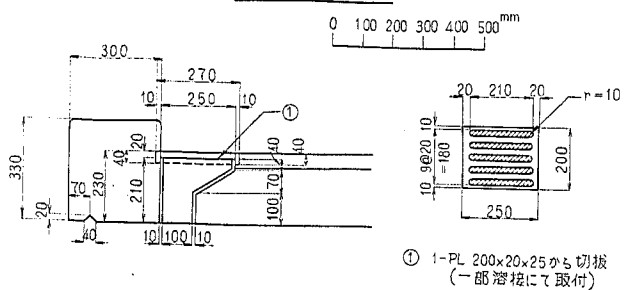
大 石 橋				
図 名	対傾構、横構、橋端補剛壁詳細、 床版プレストレス配置、桁端部配筋			
備考	附 図	図 番	3	4
建設省土木研究所				

伸縮接手および橋端排水設備

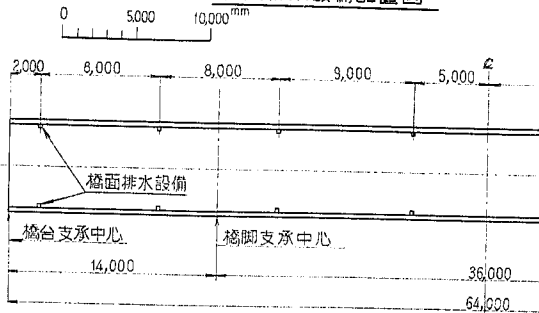
排水柵詳細図



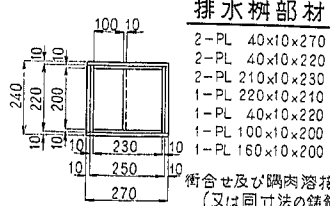
排水樹詳細図



橋面排水設備配置図

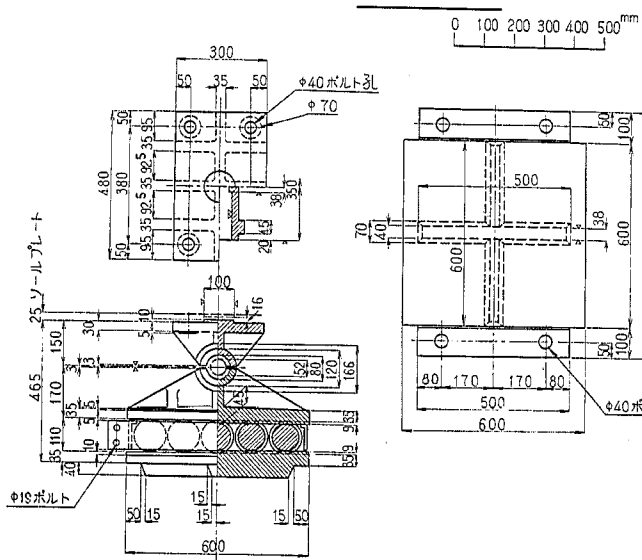


排水枋部材

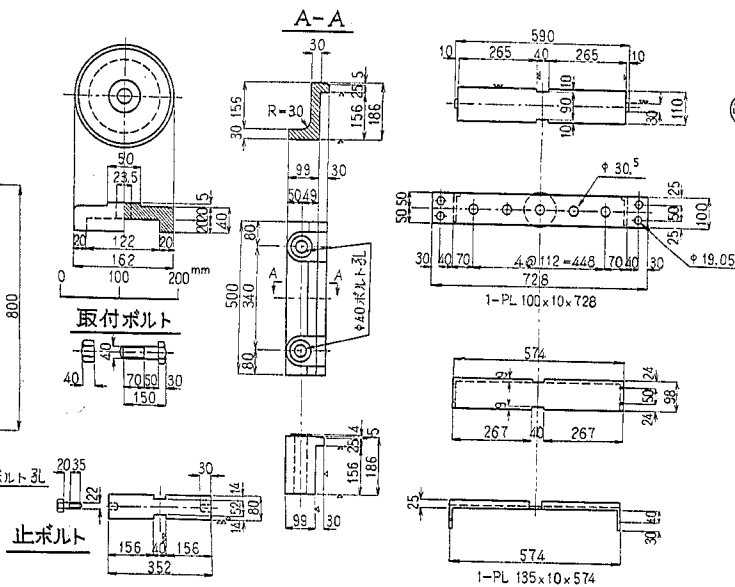


銜合せ及び隅肉溶接にて組立
(又は同寸法の鋳鋼製)

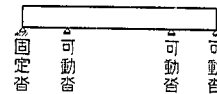
中間可動沓



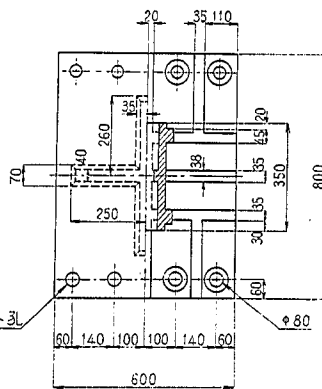
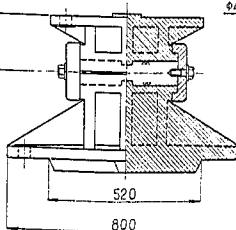
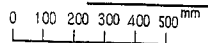
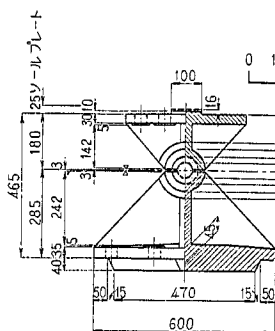
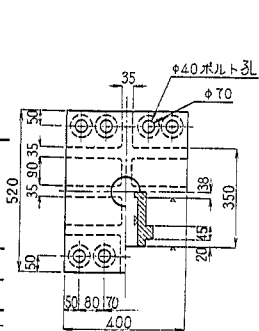
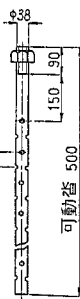
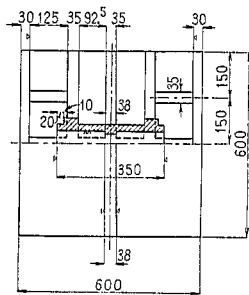
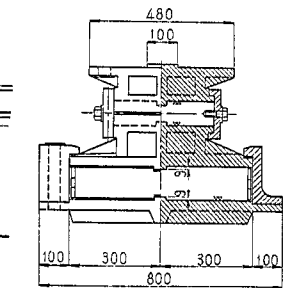
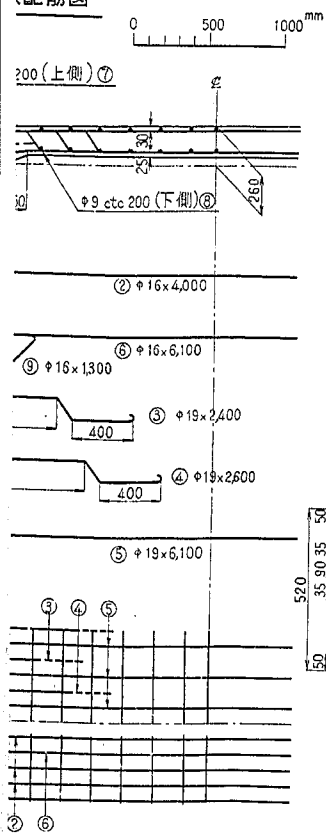
止ボルト



鋼材の材質は SS-50
鋳鋼の材質は SC-46

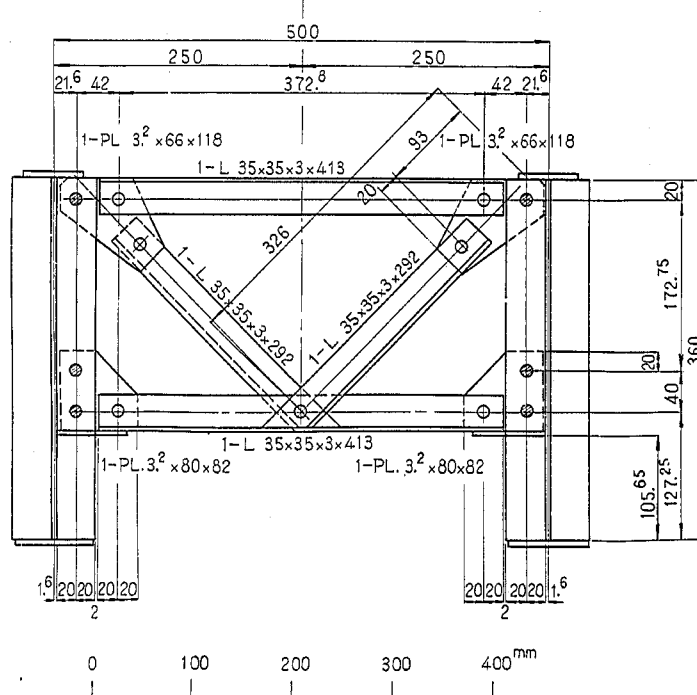
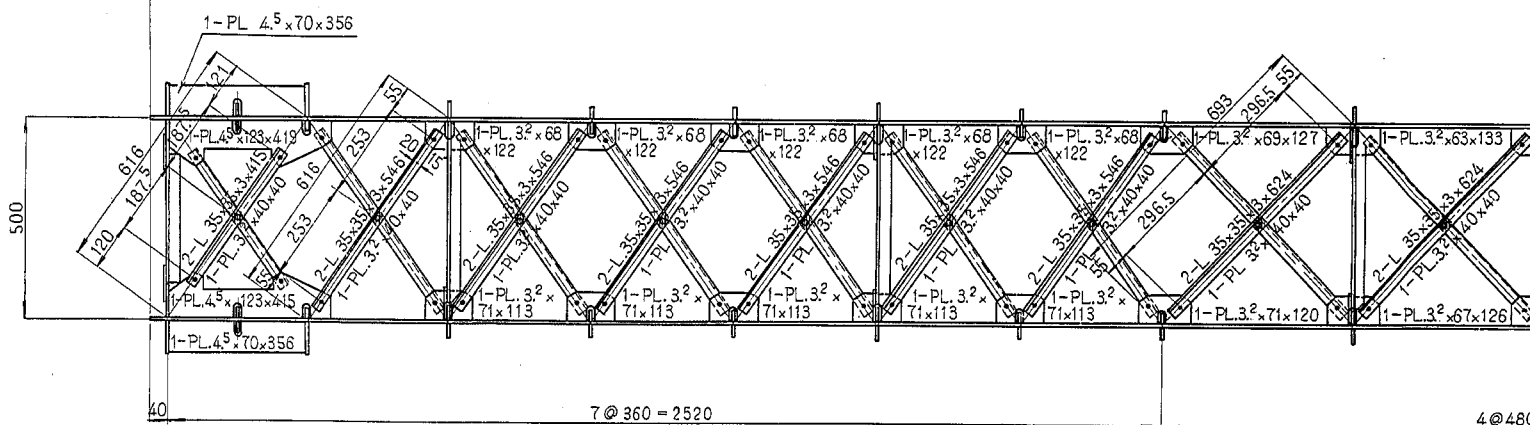
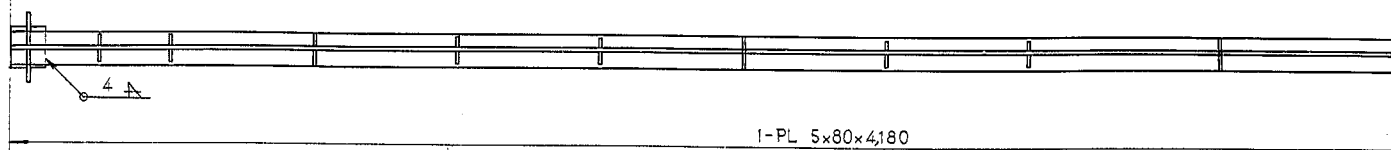


固定沓

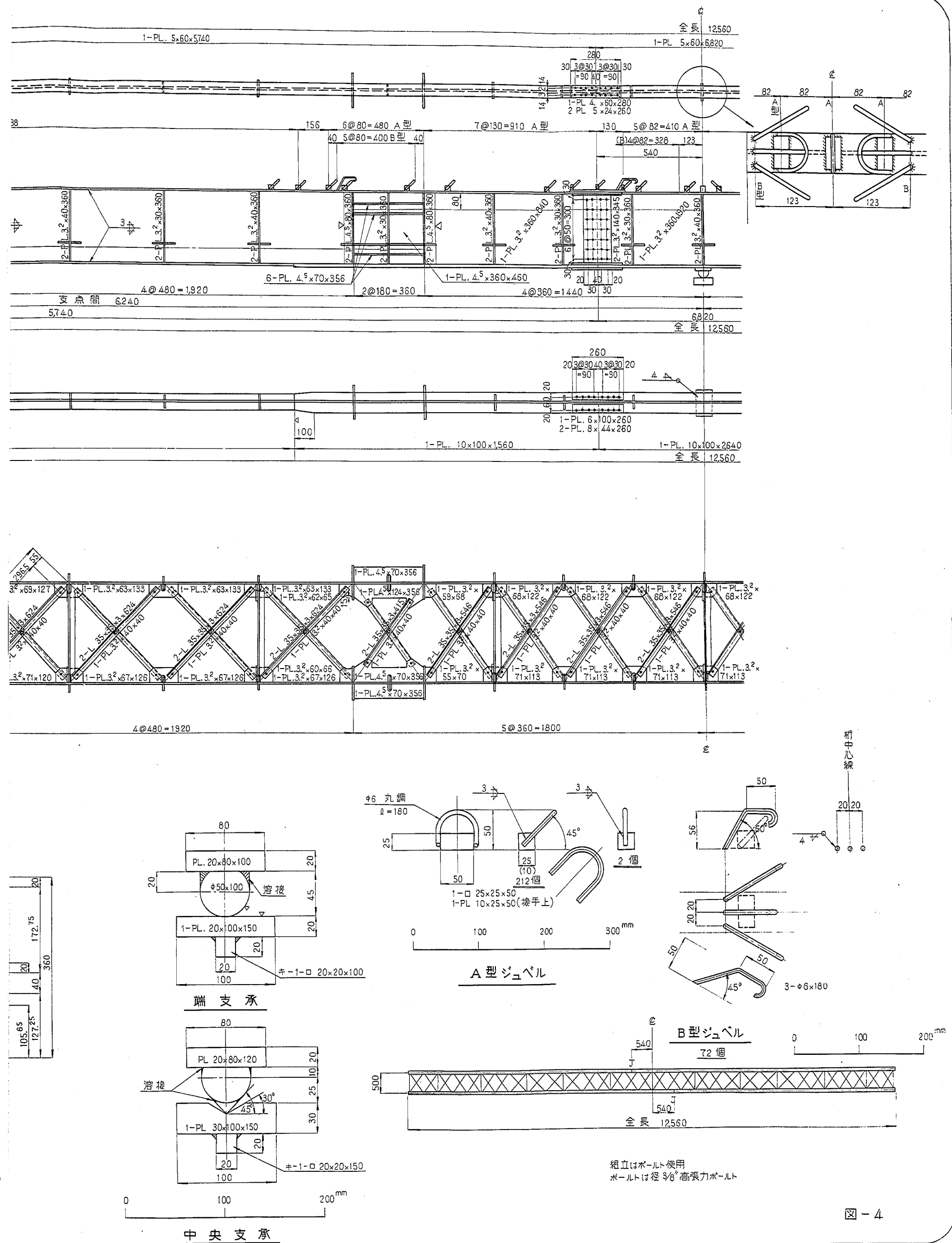


特記しないものは可動脊に同じ。

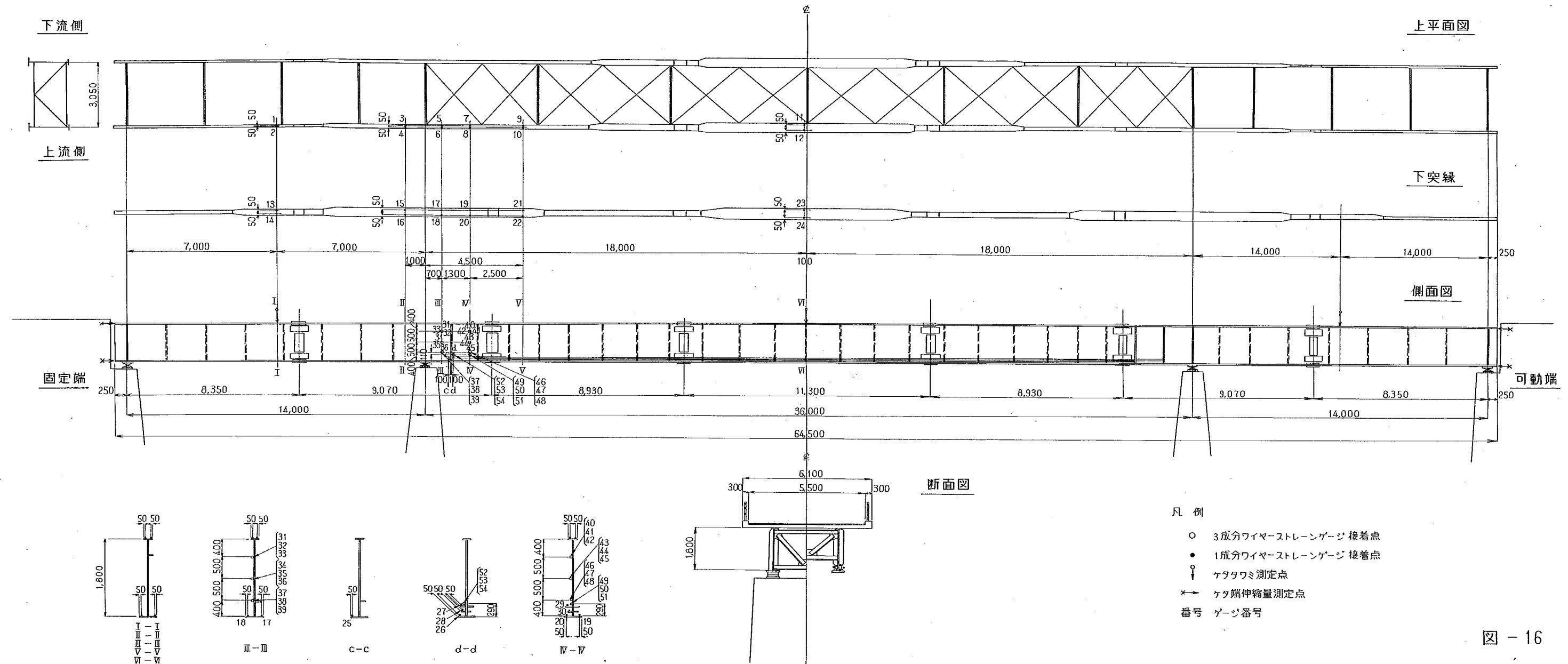
大 石 橋				
図名	伸縮接手、排水設備、高欄、床版配筋、可動柵及び固定柵			
備考	附 図	図 番	4	4
建設省土木研究所				



Section (Int)



大石橋応力試験計測点図



Report
of
The Public Works Research Institute
Ministry of Construction

Vol. 111, September 1962

CONTENTS

1. U. Mura, T. Nagata, T. Fujisaki and M. Yamamoto
Experimental Study on Spillway of Arch Dam
—Hydraulic Model Test for the Yuda Dam— (1)
2. A. Ariizumi and S. Wada
Stabilization of Allophane Soils by Lime and Gypsum (3)
—Reaction of Coprecipitated $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ gel with Lime
Solution — (95)
3. A. Ariizumi
Stabilization of Allophane Soils by Lime and Gypsum (4)
—General Discussion on the Reaction of Allophane with
Lime Solution — (105)
4. N. Shuto
On Waves of Finite Height
—Condition of Breaking for Progressive Waves Represented
in Infinite Power-Series— (111)
5. Y. Tada and S. Nakamura
Study on the Prestressed Composite Girder and the Design of it (3)
—Experimental Study by Model Test and Design of Oishi-bashi
Prestressed Partial Composite Continuous Girder Bridge — (121)